

Kechaukar imi

アイヌ英雄叙事詩
鳥の羽毛の衣
金成マツ

高橋靖以 訳

目次

例言	i
原テキスト	i
表題	i
編集要綱	i
原テキスト「鳥の羽毛の衣」最終ページ（影印と翻刻）	ii
分担	ii
参考文献	iii
物語 鳥の羽毛の衣	1
第1章 神の住まい	1
1.1 養育と成長	1
1.2 親族と酒宴	2
第2章 戦闘	4
2.1 妹たちの受難	4
2.2 敵との戦い	6
第3章 ニソルンサンタ	8
3.1 敵の館	8
3.2 敵方の伯母	9
3.3 敵方の妹	11
3.4 婚姻	12
第4章 帰還	14
4.1 巫術	14
4.2 悪戯	15
第1章 神の住まい	19
1.1 養育と成長	19
1.2 親族と酒宴	24
第2章 戦闘	41
2.1 妹たちの受難	41
2.2 敵との戦い	50
第3章 ニソルンサンタ	63

3.1 敵の館	63
3.2 敵方の伯母	71
3.3 敵方の妹	82
3.4 婚姻	87
第4章 帰還	103
4.1 巫術	103
4.2 悪戯	107

例言

1. 原テキスト

本書に収録されているアイヌ語テキストは、金成マツ（1875-1961）によって記された叙事詩のテキストである。テキストの末尾には、昭和9年4月9日に筆録が終了したことを示す記載がある。また、この叙事詩はカタイソウクという男性が語ったものを筆録したものであることも記されている。このテキストが収録されている手帳は、萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）によって所蔵されている。ただし、本編集者は影印によって編集・翻訳をおこない、手帳は直接閲覧していない。

2. 表題

物語の表題は次のように書かれている。

Kechaukar imi

『アイヌ叙事詩ユーカラ集』第1巻において、金田一京助はこの表題を次のように訳している。

鳥の羽毛の衣

本書では金田一の翻訳に従い、次のような表題とした。

アイヌ語表題 *Kechaukar imi*

日本語表題 『鳥の羽毛の衣』

3. 編集要綱

原テキストの最終ページを複写して以下に掲載した（影印）。この部分を忠実に再現すると、右側のようになる（翻刻）。本書では原テキストを以下の要領で編集し、対訳をおこなった。

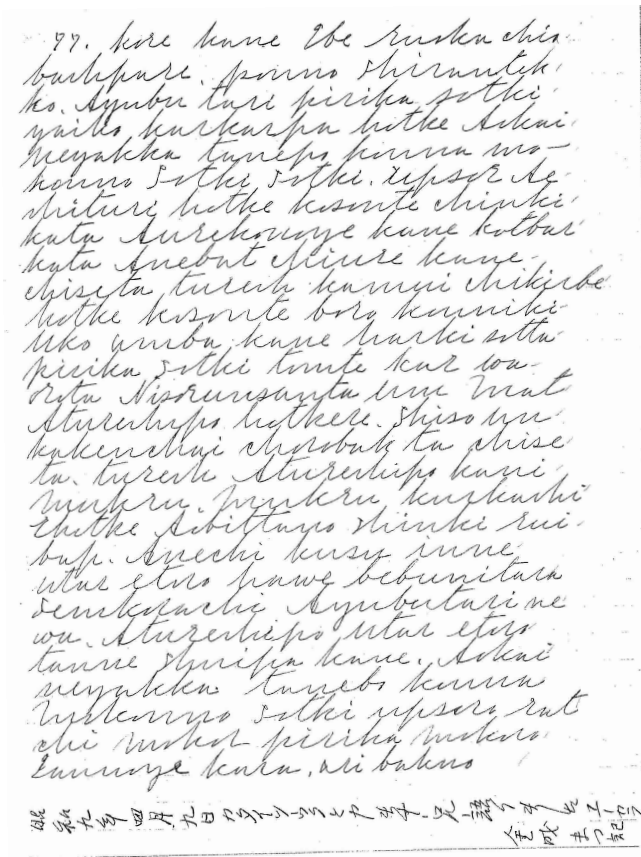
本書ではこれを以下の要領で編集し、対訳をおこなった。

- (a) 叙事詩の詩句を再現することを意図し、1行が4音節ないし5音節に収まるように改行をおこなった。しかしながら、例外も多く、6音節以上になることがある。また、詩句の再現が困難であり、恣意的にならざるをえなかった場合がある。
- (b) 文の先頭と固有名詞については大文字を使用した。そのほかの大文字はすべて小文字に置き換えた。
- (c) ピリオド、コンマ、コロンのダッシュなどを適宜補った。また、引用符を加えた。
- (d) 語の切れ目に従い、原テキストの分かち書きを変更した。また、原テキストにおいて、改行により分断されて表記されている語は、もとの形を再現して示した。
- (e) 2行の詩句にまたがる動詞については、1行目の末尾にハイフンを補った。
- (f) 人称接辞と人称語幹の境界にハイフンを挿入した。
- (g) 各行（詩句）に通し番号をつけた。また、手帳のページ番号も示した。
- (h) 物語の内容に従い全体を6つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。また、それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (i) 原テキストはローマ字表記であるが、片仮名によるアイヌ語表記を新たに加えた。
- (j) 各行にアイヌ語の逐語訳を加えた。逐語訳は極めて便宜的な性格のものである。アイヌ語の文法を学んでから利用されたい。

(k) 脚注は最少限にとどめた。

(l) 「物語 鳥の羽毛の衣」を本文の前に加えた。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示すものである。

4. 原テキスト「鳥の羽毛の衣」最終ページ（影印と翻刻）



kore kane Ibe rushka chio
 bashpare ponno Shirantek
 ko Ayubu tari pirika sotki
 yaiko karkarpa hotke Aokai
 neyakka tanepo konna mo-
 konno Sotki Sotki upsor Ae
 shituri hotke kosonte chinki
 kata Aurekonoye kane kotbar
 kata Anebat chiure kane
 chiseta turesh kamui chikirbe
 hotke kosonte boro konniki
 uko amba kane harki sotta
 pirika Sotki tomte kar wa
 orota Nisorunsanta um mat
 Atureshipo hotkere Shiso un
 kakenchai chorobok ta chise
 ta turesh Atureshipo kani
 mukru mukru kurkashi
 ehotke Aobittano Shinki rui
 bap Anechi kusu inne
 utar etoro hawe bebunitara
 Semkorachi Ayubutari ne
 wa Atureshipo utar etoro
 tanne Shuipa kane Aokai
 neyakka tanebo konna
 mokonno Sotki upsoro rat
 chi mokor pirika mokoro
 Iannoye kara ari bakno

鳥の羽毛の衣の最終ページ
 高橋靖以

5. 分担

編集に当たっての分担を示す。

(a) 編集全般

高橋靖以

(b) 原テキストの解読・翻訳

高橋靖以

(c) 片仮名アイヌ語表記

切替英雄

(d) 逐語訳

切替英雄・高橋靖以

(e) 物語 鳥の羽毛の衣

高橋靖以

(f) 組版 (フォントの選定、p_LTEX 2_ε)

山下浩一・切替英雄

6. 参考文献

テキストの翻訳にあたって参考にした文献を以下に示す。

- (a) 金成まつ (筆録)・金田一京助 (訳注) 『アイヌ叙事詩ユーカラ集』 I-VII . 三省堂 . 1959-1966 年.
- (b) 金田一京助 『アイヌ叙事詩ユーカラの研究』 II. 東洋文庫. 1931 年.
- (c) 久保寺逸彦 『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』 岩波書店 . 1977 年.
- (d) 田村すず子 『アイヌ語沙流方言辞典』 草風館 . 1996 年.
- (e) 服部四郎 (編) 『アイヌ語方言辞典』 岩波書店. 1964 年.
- (f) ジョン・バチラー 『アイヌ・英・和辞典 (第 4 版)』 岩波書店 . 1938 年.

物語 鳥の羽毛の衣

第1章 神の住まい

1.1 養育と成長

- 1 我が伯父と我が伯母が比類なき養育、神の如き養育を我に施して、いつも変わりなく我らは暮らしていた。
- 9 大きな家の梁の下は隙間なく神宝で輝いている。上座の上には宝物の列があり、金の行器、並の行器と金の箱、並の箱が入り混じっている。それらは低い崖のように伸びている。その周囲は神光で輝いている。
- 26 それらの上の方には長者の帯びる刀があり、二つの房、三つの房が付いている。その垂れた房はゆらゆら揺れている。我はそれを好ましく思った。
- 35 宝列の手前に仕切られた寝台、金の寝台が伸びている。寝台の周囲には幅広の平金が巻き付けてある。平金の表面は二つの渦巻き模様、三つの渦巻き模様で輝いている。その周囲は神光で輝いている。その寝台の上で我は育てられた。
- 51 金の床の表面はなめらかに広がっている。奥の座の上は低くなり、手前の座の上は明るく輝いている。金の炉縁木が伸びる様子は照り輝いている。
- 60 右座の傍らにある宝列の端から、金の女持ちの手箱の大きな列が下座の隅まで届いている。その手前には金の枕が置かれている。その上には、如何なる生まれの者、如何なる育ちの者が拵えたものであろうか。金の刺繍衣、神の如き刺繍衣があり、上方の衣桁下方の衣桁が撓んでいる。その周囲は二つの神光、三つの神光で輝いている。我はそれを好ましく思った。
- 85 右座にいる我が伯父と我が伯母は、神の如き美しい様子であり、お互いに輝いた表情をして、上手に座っている。
- 94 囲炉裏の手前にはカムイオトプシとポンヤイエピリカ、我が兄たちがおり、どちらも容貌において、衣装において、優劣があるものであろうか。いずれも金の小袖を身に着けており、袖口の上にも裾の上にも、幅広の平金が巻き付けてあるものを無造作に着ている。留め金の

ある帯を胸に巻き、神受の刀で腕の下がきらびやかである。金の小さな兜、その兜の下げ紐で顔が引き締まっている。兜の端から神の如き顔が見え、両者とも明るく輝いている。何と我が兄たちは美しい様子であることが。我は嬉しく思った。

左座には我が妹がおり、幼い少女は毎日、上座へ下座へと灰を跳ね飛ばし、灰をまき散らしている。灰の中で波を起すかのようにして、みずから遊んでいる。可笑しげな様子ではあるが、「良くないことだ」ということを我が兄たちも我が伯父も、我が伯母も言うこともせず、毎日、我が伯母は良い煮炊きをかいがいしくおこなった。

先に高盛りの飯をつくると、育ての兄はみずからの上に乗せて、我に差し出した。我が妹と我はうなずき合いながら、妹は食事をした。夜になると、妹は灰の中から跳び出して、我が伯母の懐へ駆け込んだ。

我も、まだ幼かったが、まさしく美しい様子であるらしく、我が周囲は神光で輝いている。濃い靄、その靄の中に我は包まれている。

我が兄たちは宝刀の鞘を彫ること、宝器を彫ることに集中している。何と上手であることか。兄たちは二つの神の形象、三つの神の形象を連ねている。我はそれを好ましく思った。

我は二つの若さ、三つの若さを競わせるように成長した。その間に、我が妹も、何と成長したことであろうか。しばらくすると、大きく成長した。そして、今はすっかり女性の姿になった。肌着の結び紐を締め上げるようになった。妹はまさしく、靄のために、光のために、見ることさえもできない。また、何と器用であることか。妹が作ったものは二つの神雲となって、三つの神雲となって立ち昇る。我はそれを好ましく思った。

我も、兄たちのすることを真似て、宝器を彫ること、宝刀の鞘を彫ることに集中した。まことに我は器用であり、二つの神の形象、三つの神の形象を連ねた。みずから作ったものではあるが、我はまことに嬉しく思った。

130

157

173

183

195

224

我が兄たちは手を高くかざし、低くかざし、我が作った物の表面を見回した。兄たちはあたりまえに感心するものであるならばさもあるうが、密かに鼻を押さえ、口を押さえて我の手前へ視線を落とした。

1.2 親族と酒宴

255 毎日そのように私たちは暮らしていたが、ある日、我が伯父の喉の傍らが響き、伯父が言うことはこのようであった。

263 「さてさて、神の如き我が姪よ、我が話すから聞きなさい。今まで、我が甥達も汝も育てて、神の意向により、このように健やかな成長を汝らは遂げた。まことに我は嬉しく思う。

278 そこで今は、我と汝らはどのようにお互いに祖先を持つ者であるのであろうか。そこで、少しの酒を醸して、我が一族の人々、遠くにいる者も、近くにいる者も一人残らず招待しよう。そして、良い飲酒、美味しい食事、その食事の最中に、我は先祖を継ぐ者、祖先を継ぐ者であるから、何か言い伝えを我は語り、我が一族の人々と共に、汝らに語り伝えるつもりだ。

305 外に出て、我が一族の人々を招き、食物の残りでもあるならば降ろして出し、煮炊きをしてくれないか。」

313 伯父がこのように言うと、何と我が妹は言い付けを聞くことであろうか。良い言葉、その言葉を聞いてすぐにまことに喜びながら起き上がった。妹は外へ出て、外にある櫓、その櫓の上に立った。

327 妹はみずからの村の上手、みずからの村の下手へ向って、このような次第であることを叫んだ。何と我が一族の人々は言うことを聞くことであろうか。

337 しばらくすると村の間で、穏やかに人間の話す声が入り混じって聞こえた。選りすぐりの長者、選りすぐりの婦人方が家の中へ入ってきた。我が伯母も、喜びながら立ち上がり、外へ出た。

350 六つの箍付きの樽を倉から出し、我が妹と共に人々の前へ並べた。酒を醸す者、臼でつく者、水を汲む者がぶつかり合う。我が兄たちはまさしく喜び、口元に笑みを浮かべて顔を見合わせている。我も、まさしく嬉しく思った。

368 我は如何なる生まれの者であるのか、我が伯父が話すというので、早く酒も美味しくして、如何なる生まれの者であろう、我が一族の人々、遠くにいる者、近くにいる者に我は会いたい。そして、お互いに我らの出自を理解して、共に喜びたいものだと思はれた。

如何なるものに我が手が触れるというのか。大勢の者たちがぶつかり合う。木幣にする木を切る者もぶつかり合う。しばらくすると、六つの行器が上座に据えられた。二日、三日と時が流れると、神が飲みたいと願うもの、神が食べたいと願うものであるから、神の如き酒、良い酒の良い香りが家の中に充満した。

それからまた、選りすぐりの男性、選りすぐりの女性たちが家の中に入ってきた。木幣を削る者は木幣を削り、酒を漉す者はお互いに箆を走らせた。木幣を削る音、酒を漉す音が響き渡った。我はそれを好ましく思った。

今は始めて、我らが木幣を削る様子も見た。何と我が伯父も我が兄たちも我が一族の人々も木幣削りが上手であることが。削った木幣は二つの神雲となって、三つの神雲となって立ち昇った。その周囲は白光で輝いている。まさしく我は好ましく思い、感嘆しながら見ていた。

大勢の人々は家の中を清め、古い木幣を外に出し、幣柵の東へ運んだ。新しい木幣は家の中に飾られた。驚いたことに、家の中には白い靄が充満した。その中で、神光が輝いている。我らは酒宴ができるように準備をおこなった。

養育に疲れた様子である我が伯父、我が伯母は、今はまことに安心したようであり、まことに喜んでいる。

我が伯父は神の如き宝壇、その宝壇の上から金の唐櫃を引き出した。そして、六重に結ばれた紐をほどき、六列に並んだ箱の覆いを取り払った。どうしたことであろうか、大きな家の中は明るく輝いた。何かの神光がきらりと光り、ぴかりと光った。

我が見ると、我が目の前は真っ白になった。驚いたことに、金の小袖があり、袖口の上にも裾の上にも幅広の平金が巻き付けてある。小袖の肩口から垂れ下がった木鈴が、着物の中ほどで切り揃えられている。着物の中程から垂れ下がった木鈴が、着物の裾まで連なっている。その周囲は二つの神光、三つの神光で輝いている。我はそれを好ましく思った。

留め金のある帯も、神受の刀も、黄金の中から出てきたものようであり、刀の鞘は長く反っている。鞘の表面には、小さな雷神、夫婦の神がからまり合っている。男性の神の鐔の縁の上は角が高く持ち上がっている。女性の神はそれに顎を載せて、生ける神として居座っている。金の鱗の周囲はぴかりと光り、きらりと光って

- いる。
- 540 刀の鞘の中央には金の小さな狼があり、金の体毛の表面が光っている。そして、尾を遠く伸ばしている。生ける神として居座っている。
- 549 刀の鞘の端には夏毛の狐があり、毛の抜けた皮を身体の上に二つの皺の波、三つの皺の波として、二つの横木のように、三つの横木のように伸ばしている。下の歯茎と上の歯茎は交差している。上顎は下の歯茎と交差している。毛の抜けた耳、その耳の先には毛の束が付いている。目の中央はクナイベの色をなしている。尾の付け根にも毛の束が付いているものが、生ける神として居座っている。
- 576 薄造りの小さな兜、その兜の表面には連なった木鈴、連なった鎖の輪が付けられている。その上で美しい音が鳴っているものが縛られていた。
- 585 我が伯父は我に手を伸ばし、その上で言うことはこのようであった。
- 590 「さてさて、神の如き我が甥、我が育てた神よ、話すからよく聞きなさい。ここにある神宝や神の如き装束は、昔に天空から、神々からトミサンベチ、シヌタブカの頂きの上に降ろされたものなのだ。
- 606 汝は最も幼い者であったが、残された言葉、先祖の言葉はそのようであったので、神に次ぐ者が汝であって、このように汝を育てて、今まで我は神宝を預かってきたのだ。これからは、汝が身に着けるべきものであるぞ。」
- 622 そのように言われると、我は心が躍った。喜んで我は受け取り、高くかざし、低くかざして拝礼した。
- 630 我はいつも着ている小袖を脱ぎ、木鈴の付いた着物をみずからの上に広げて羽織った。そして、留め金の付いた帯を身体に巻き付けた。我は神受の刀を帯に差し、薄造りの兜を頭上に載せ、兜の下げ紐を顔の上で締めた。
- 646 驚いたことに、我は全く人間の姿ではないようである。我は自身に感嘆した。たちこめた靄、その靄の中に我は身体を入れた。
- 656 我が伯父は金の小袖をたくさん取り出し、我が兄たちと共に酒宴の礼装を整えた。ますます神の如き様子であり、美しさが勝っている。
- 665 我が伯母は先祖伝来の編み袋に手を通した。狼の毛の無い皮、金の皮が取り出された。襟の上にも裾の上にも幅広の平金が巻き付けてある平金の上には散らばった木鈴が付いている。金の円盤、その円盤の上は二つの神の形象、三つの神の形象で輝いている。金の首飾りは六十の列となって積み重なる。銀の耳飾り、金の耳飾りが付いている。神の如き鉢巻、金の鉢巻も付いている。
- 伯母はそれを取り出して我が妹に身に着けさせた。ますます、我が妹は神の如き様子である。我が伯母も、酒宴の礼装を身に着けた。まことに神の如き様子である。
- それから、我が伯父はまことの雄弁家をあちらこちらへと使い立てした。サンプトゥンクルは妹と共に、クシナパウンクルは妹と共に、モイサムンクルは妹と共に、シリペナウンクルは妹と共に、トゥニポウンクルは妹と共にやって来た。
- 「このような次第であるから、今は先祖の家で僅かな酒を我らは醸して今晚はそれで神に祈ろう。近くにお出で頂いて、神への祈りをしてくれないか。」
- そのようにずっと、あちらこちらへと知らせると、人々は言葉を聞いてすぐに起き上がり、外へ出た。そして、天空へ昇り、その音が鳴り響いた。我は親族を持つものであると言われたが、まだもっと少ないものだと思っていたが、これほど多く親族がいるのだと我は聞いて、まことに我が心は強くなった。本当に心の底から我は嬉しく思った。
- 寝台の上に我はいた。しばらくすると、徐々に天空から神々がやって来る音が鳴り響いた。それに伴う神風、柵に当たる風はばたばたと鳴り、地面に当たる風は鳴り響いた。徐々に外にある檜、その檜の上へ神々が降りる音が鳴り渡った。
- 家の側の上で、大勢の神々が歩く音が速く鳴った。男の方は刀の鏗の音が鳴り響き、女の方は懐中の宝物が鳴り響いた。そして、玄関の納屋に回ってきた。徐々に咳払いの声、若々しい喉の音が奥まで聞こえ、金の音が響くかのようなのである。
- 垂れ下がった簾戸をゆっくりと開け、土間の上に何者かが次々と入ってきた。光のために、靄のために我は見ることもできない。大勢の人々を覆う靄を一斉に、二つの靄の中心、三つの靄の中心を我は目で散らした。二度、三度そうしたが、全く人間の姿を見定めることができない。驚いたことに、まだもっと成長した人々のことを言っているのだと思っていたが、今年あたりに我が兄たちと同じ程度に成長した少年たちである。我が兄たちと共に、同じ装束や同じ佩刀をしており、肩を並べ合っている。
- 先に入ってきた者は、みずからの考えではあるが、いわゆるサンプトゥンクルのようである。後から入ってき

た者はクシナパウンクルのようである。後からまた頭領ばかり、勇者ばかりが大勢で中へ入ってきた。いずれの人々も容貌において、衣装において、勇敢さにおいて優劣があろうか。一人残らず同じように、勇者の顔色が異彩を放っている。左座に次々と、威勢よく股を伸ばして入ってきた。

859 その間に、少女たちは霧のために、霧のために見ることのできない様子である。酒宴の礼装をした者はますます、どのように賞賛することもできないほど美しい。そして、金の小さな行器をみずからの陰に持っている者の集団が、徐々に敷居を跨いで入ってきた。とても畏まっているものであるから、一斉に土間の上で両手をついて這いながら入ってきた。

886 その間に、大勢の人々がいる中で、一人一人が名乗った。それと同じように、女性たちも一人一人が名乗った。それから、我が兄たちは大勢で互いに並び、両腕の上を撫でさすった。そのお返しに、今あらたに再会の言葉を、お返しに彼らが言うのを我が聞くと、何と人々すべてが雄弁であることか。我は驚きの気持ちを抱いた。

913 我が兄たちは並大抵に畏まるものであるならばもあるが、列の手前で顔を上げることも出来かねる様子である。そして、頸の上から頭を折り曲げ、手を高く伸ばした。そして、二十の拝礼、三十の拝礼を繰り返した。そうするのを見て、我は親愛の気持ちを抱いた。

931 何かの神であるかのように、我は寝台の上で立ち上がり、上座の上へと痺れた足を伸ばした。我が鏝の音が鳴り響いた。我は兄たちの手前に座った。我が兄たちの一人一人の腕の中へ我は頭を差し出した。すると、兄たちは一人残らず、喜びの表情を浮かべた。まさしく二度、三度、兜の下にある私の頭上に手を伸ばすことさえ出来かねる様子である。そうではあるが、一人ずつ私の頭上に手を伸ばし、我は撫でられた。そのお返しに、我は彼らの腕の表面を撫でさすった。

966 女性たちも、大勢である。我が伯母、家の妹と、他の大勢の婦人たちが、共に挨拶を交わす声がにぎやかである。大勢の人々が上座の上に両手をついて這いながらやって来て、我が兄たちと共に、私の裾の端を掴んだ。

984 そして、兄さんよ、と言いながら私の腕や膝頭を撫でさすった。そのお返しに、妹よ、と我は言いながら、大勢の少女たちの頭上を撫でさすった。親族の再会をお互いに我らは行き、安心した。

1000 長い酒宴の座が延べられた。酒宴の座の上手、酒宴の

座の下手は霞んで見えないほどである。勇者ばかりを我らは並んで座らせた。行器の背後にサンプトウンクル、年少の我が兄を我は丁重に座らせた。クシナパウンクル、年少の我が兄は対座した。大勢の人々が我が兄たちであるから、お互いに対座している。勇者ばかり、頭領ばかりが肩を並べている。我は驚きの心を抱いた。いずれの者も、美しさに優劣はないが、クシナパウンクル、年少の我が兄は容貌において、衣装において、勇敢さにおいて最も優れているように思われた。

同じように、大勢の女性たちも、いずれの者たちも、優劣は一人としてないのだが、クシナパウンマツと家の妹、我が妹こそは、二人揃って並び立つ容貌であると我は思った。そして、異なる鳥として、異なる小鳥として、女性たちの中に混ざっている。我はそれを喜ばしく思った。

我が伯父は、今や、そのように神に祈ることを指示している。そして、我らの酒宴の礼装を身に着けている。女性たちは酒を注ぐ器を小脇に抱え、酒宴の座を歩き来している。今まさに神への祈りが始まるところである。

第2章 戦闘

2.1 妹たちの受難

その間に、家の妹とクシナパウンマツは二人で、どうしたことであろうか、笑い合っている。そして、手を取り合って外へ出ていく様子を大勢の人々の上から我はよく見ていた。

それから、今や飲酒が始まり、神への祈りがおこなわれたが、暫くしても、我が妹たちは入って来る様子がない。まさしく、我は不思議に思いながらいた。大勢の人々は、男性でも女性たちでも、一人も我が妹たちが外へ出た様子を見た者がいないので、一人も不思議に思う者がいない。ただ、我一人だけが、知っているものであるから、我は一人で不思議に思いながらいたが、その最中に、トミサンペチの遙か源流で轟音が鳴った。

そして、神々が降りてくる音が鳴り響いた。驚いたことに、並みの勇者が歩き回る音であるならば、さもあるが、まことの勇者が歩き回る音であるから、それに伴う神風が、暫くすると我らの住まいに当たり始めた。柵に当たる風はばたばたと鳴り、地面に当たる風は鳴り響いた。我が住まいの中心へみずから入って来るもののように吹き下ろしてきた。

その最中に、外にある櫓、その櫓の上へ神が降りる音

が鳴り響いた。家の側の上で何者かが歩く音が速く聞こえた。男性であるならばさもあるうが、女性であるらしく、懐中の宝物が鳴る音がした。

1151 玄関の納屋の中へ回り、何者たちかが簾戸を肩の上に跳ね上げた。土間の上で何者たちかがひどい血の霽を垂らし、息も絶え絶えになっている者たちが入ってきた。酒宴の座は静まり返った。何の声も何の音もしない。周囲はひっそりと静かになった。

1171 大勢の人々と共に、一斉に戸口の上へ振り向くこと、向きを変えることを、我はおこなった。我が見ると、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、家の妹とクシナパウンマツが二人でおり、どうしたことであろうか。着ている刺繍衣は裂けて破られている。二つの裂けた昆布、三つの裂けた昆布のようである。その身の回りは、二つの罨輪、三つの罨輪のようである。その身の回りは、揺らされ、ぶら下がったようになっている。切り刻まれた身体、削りとられた身体に血の霽、ひどい血の虹がかかっている。

1204 そして、死相を浮かべており、家の妹は、右座の火の側へ身体を投げ出し、横たわった。クシナパウンマツは左座へ身を投げ出し、火の側へ横たわった。このような様子であるのに、一体どこに心臓が付いているというのであろうか。一斉に同じ言葉を半ば口を揃えて、力の無い言葉で言うことはこのようであった。

1227 「さてさて、妾らの兄たち、その一族が集まっても、その列の側で、年少の兄、神である者の腕の中へ、恐るべき知らせを持って来て、今は死ぬ間に伝言を持って来たのです。飲酒と神への祈りが今まさに始まるうとするときに、よもやそのような気持ちになるとは思いませんでしたが、突然、妾らは外へ出たくなりました。

1252 そこで、黙って物も言わずに、トミサンペチのずつと奥の源流に行きました。そして、妾らが見ると、神の造った崖があり、その崖の斜面の串のような石は、投げられた槍のように、ものを突くように、ものを切るように突き立っていました。ただ、見るだけでも恐ろしく思いました。崖の下には丸い淵、底無しの縁があります。その淵の底から、混ざった、まことに波だった渦巻きが逆立つかのような様子です。神の造った激しい流れが波を飛ばしています。その波を打ち上げる音が神の造った崖の底で鳴り響くかのように、崖の上で鳴り渡っています。妾らはその崖の上にたどり着きました。

1293 半ばは感嘆しつつ、半ばは恐ろしく思いました。畏ま

りながら、神の造った崖も丸い淵も、その上を見回して、妾らはか細い声で話しました。

『どうしてここへ来たのでしょうか。畏まりもせずに神の造った崖の上に妾らは足を運んだのでしょうか。どこかで二回、どこかで三回あるものが飲酒でしょうか。今晚はお互いに喜び、飲酒の最中に伯父が神の言い伝え、先祖の言い伝えをするのだから、それを聞きましょう。』

妾らはそう言いながら、今はもう下ろうと向きを変えました。それと同時に、何も気づかなかったのですが、突然、土の上からであるのか、空からであるのか、何者かが来ました。その身体も少しも見えず、妾らは二人で一斉に、神の造った崖、その崖の上に引つ繰り返されました。

そして、先ほど妾らが考えていたものを突き、ものを切るように突き立っている険しい岩の間で、このように突き刺され、切り刻まれ、衣装を破られたのです。そして、激しい神風の先に転がされ、落ちて行き、丸い淵、底無しの淵、その淵の上に叩きつけられました。

さらに、何者かが妾らに切りかかってきました。あまり良くはない並みの憑き神を持つものが妾らですから、もう少しのところ、あの世に追いやられるところでした。しかし、波の中で二つのさざ波、三つのさざ波に代わる代わる巻き込まれながら眼の骨で見たところ、波の中に小さな霽の小山がありました。霽の中には金の小袖の裾の端がよく見えました。そして、鳥の羽毛の衣が見え、その表面では神光が輝いている様子が少し見えました。鳥の羽毛の鞘に神受の刀があり、その鞘の端が少しだけ見えました。そして、その者はずっと崖の上へ跳び上がったように思われました。

そこで、霊能力を競った者は女性ではなく、男性であることがわかったのです。このような次第ですから、妾らは貧しい女、取るに足らぬ女ですから、皆さまが心を悩ませることは無いであろうと思います。年少の兄、神である者よ、余所者が挑戦してきて、このような振る舞いをしたのでは無いでしょう。

長い間、妾らはそのようにしており、波の中からこのように逃げきて、まことに恥ずかしいのですが、このような次第を年少の兄に知らせることをするのです。どうかして、妾らの亡くなった後に、刀で成敗してくださいませ。」

妹たちはこのように言った。それから一斉に、強張った身体を横たえた。一斉に我は聞いただけ、見ただけで

はあるが、今日一日中、天地が揺らされているような気がした。

1453 今日に限って、今まさしく、何かの言い伝えを我は聞くことを望み、穏やかな神への祈りをおこなって安心し、その後で世間話をする事、それを我は強く望み喜んでいたのである。どこの村の者、どこの土地の者が如何なる理由があるのか。

1471 怒るにしてもここへ来て言うこともせず、とんでもないところへ我が妹たちを呼び寄せて、容姿を傷つけるにしてもただならぬことをしたのかと、我は怒りの心と憐れみの心を抱いた。

1486 本当のことであろうか。我が妹たちは憑き神を持つものであるから、このように傷つけられるにしてもただならぬ様子であるのに、一体どこに心臓があって、生命を失わずに降りて来たのか。ただならぬことであると、我は驚きの気持ちを抱いた。今は、我が妹たちが美しい様子を嫉まれるにしても、尋常ではないことをされたのだと、我は息をする穴も塞がれたような気持になり、心の中で涙を流した。

1516 我が兄たちも、我と変わらない気持ちであるならば、さもあるが、一人残らず、我と同じように考えているものであるから、一斉に怒りの表情を顔にみなぎらせた。そして、腕の表面が盛り上がった。しかし、一人残らず、我の言うことを聞くつもりであるので、息をつくことも息を漏らすこともせずいた。我が伯父は、驚きの声を発した。

1544 「何ということか。もしかして、我が一族は勇者ばかり、頭領ばかり、大勢いるのに、死にたくて、あの世へ行きたくて神の住まいにこのように挑戦して、驕り高ぶっているのだから。」

1559 伯父は二言、三言を口にして、激しく罵り、怒った。我が叔母と我が一族の人々の泣く声が周囲に響いた。何ということか、何としたことか。クシナパウンクル、年少の我が兄は、並大抵に妹を惜しむものであるならば、さもあるが、比類なき勇者がみずからの陰へ向きを変えて、二つの僅かな涙、三つの僅かな涙を流している様子である。

2.2 敵との戦い

1581 我はそれを見て、なお一層、気が狂ったように激しい怒りにとらわれた。寝台の上で我が跳ね起きる音がさつと鳴った。星の光のように、我は天窓へ向い、天空へ飛び出した。

1594 我は今始めて、我が住まいの周囲を見知った。低地でも育てられたものであると思っていたが、盛り上がった小山があり、天空を揺らすかのようなものである。小山の上に大きな家、大きな館が並んで建っている。その中で我は育てられたのであった。盛り上がった小山の真中まで、黒い霧がたなびいている。我が住まいの周囲のどこかしこにも我は歓喜した。

1622 夜中であり、暗い中ではあるが、我は慌てている者、慌てさせられている者であるから、外にある櫓、その櫓から天空へ飛び上がった。その間に、戸口を回って、クシナパウンクル、年少の我が兄が外へ飛び出して来た。そして我の背の上へ寄り添った。驚いたことに、如何なる神が我に憑いているというのか。我の背中の上で爆音が鳴り、二柱の尊い神、三柱の尊い神が轟音を発した。

1648 トミサンベチの川の源流に我が到着して見ると、まことに、そのように我が妹たちが言っていた通りであった。我は驚きの気持ちを抱いた。神の造った崖、その崖の上に我は立った。月の神の光は真昼の陽光のようである。トミサンベチの山奥、その山奥の一角はどこまでも明るく輝いている。何と、我が村、神の造った奥地はどこまでも明るく美しいことであろうか。高い柏の林、低い柏の林がどこまでも周囲に広がり、輝いている。我はそれを好ましく思った。我らは二人で周囲を眺め回し、天空を眺め回した。しかし、どこにも、何の鳥も、雲も、少しも、不審に思われるものは一つもなかった。木原の一角、木原の間も我らは眺め回したが、同じように、少しも何も、不審なものは少しも見つからなかった。我らが周囲を見る様子は、二つの小さな星が並んでいるようである。

1711 我らは二人で立っていたが、突然、何も気付くこと無しに、我らは二人とも、同時に、足の下部を引っ繰り返された。そして、神が造った険しい岩の上に転がされた。我らはひどく慌てたものであるから、転がる途中でももの刺す石、その串の上で澄んだ風となって身かわし、丸い淵、その淵の上へ叩きつけられた。湧き上がる泡、淵の波に我らは混ざった。滴の中で我らを見ると、丸い淵の上で神の造った崖、その崖の斜面が跳ね上がり、波と共に跳ねている。その飛沫が吹雪のように、二つの強固な霧、三つの強固な霧となって、天空に充滿している。

1751 その霧の中から、何者かが二つの強固な濃い霧に混じって、我らに斬りつけて来た。そうではあるが、我は波に混ざっており、ねらいを外した。我は激しい狂気に

- とらわれた。丸い淵、その淵の上から我らは天空へ飛び上がった。
- 1766 すると、何者かはひどく慌てたものであるから、神の造った崖、その崖の上に降りようとしたが、我らは敵を攻撃した。すると、敵は天空へ飛び上がった。我らは逃してはなるものかと思い、二つの道の先、三つの道の先へ立ち回った。
- 1783 驚いたことに、我の憑き神が二つの重々しい音、三つの重々しい音を我の上で鳴らした。尾の付いたような風が二つの旋風、三つの旋風となって山奥に吹き荒れた。林に当たる風は激しく鳴り、地面に当たる風は轟音を発した。折れそうな樹木が折れる音が鳴った。折れそうにない樹木は柔らかい枝のように、柔らかい蔓のように地表へ折れ曲がり、跳ね上がる音が鳴った。地表は裂けつつあり、激しい土煙、激しい草のごみが黒雲のように天空に舞い上がった。
- 1814 その中で、何者かが、翼のある鳥のように、羽毛のある鳥のように逃げていく。我らは二つの道の先、三つの道の先へと立ち回り、斬りつけた。しかし、少しも身体に当たる音がしない。しばらくすると敵は林の上に降り、林の間を走り回った。そうではあるが、我らはその身体を、少しも目で追うことができない。ただ、小さな霧の小山、その霧の中が光り輝いている。そして、逃げてばかりいる。
- 1843 クシナパウンクル、年少の我が兄は着ている小袖が裂けた様子である。そして、自身も敵の背後を追いかけている。如何なる化け物であるのか。我らが追いかけても、捕まえることができない。そして、化け物はトミサンペチの川に沿って流れる風を伴い、下っていく音が響いた。我らはその背後を追いかけた。二つの旋風、三つの旋風を我らは巻き起こした。風の先に粒のある霰、粒のある雨が降り落ちた。悪者の二つの道の先、三つの道の先へ我らは先回りした。シヌタブカが霞んで見える。
- 1877 敵の霧に我は刀を向けて、激しい太刀影を浴びせた。何者かが我の激しい太刀筋、鋭い刃を、澄んだ風となつてすり抜けていった。そして、刃の表面を美しい橋のように、我に浴びせてきた。我より速く走り、我的手前で対抗してきた。我は激しい怒りにとらわれた。
- 1894 下を通る太刀影は燃え盛る火のように、上を通る太刀影は燃え跳ねる火のように、我は素早く太刀を浴びせた。今は化け物に、向きを変える隙も、振り向く隙も我らは与えていないように思われた。再びまた、霞んだ影に我は刀を向けた。鳥のように素早い太刀で、我の腕がさっと光った。
- すると、神が知るように、物を斬る音が鳴った。その途中で、館の側で、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、如何なる生まれの者が着ていた物であろうか。鳥の羽毛、金の小袖の片側と、何者かの片側の肩とが、落ちてきた。そこから離れたところで、何者かが、白い霧の筋となって、天空へ立ち去る様子を我らは見た。
- その間に、我が兄たちは大勢で、妹と共に、人々と共に、我らの背後を支えるために幣棚の上手、幣棚の下手で悪魔祓いの行進をしている。男性の声、女性の声が混じる様子が賑やかである。そして、跳躍しながら、我の喉元が響き、我が話すことは次のようであった。
- 「さてさて、我が伯父、我が伯母、我が兄たち、我が妹たちも我が一族の人々も一齐に家の中へ入って、醸された酒を全員で飲み、家を片付けてほしい。それから、別々に、汝らが住むところへ帰り、神に伝えてほしい。我を支えてほしい。いつまでも、そのように汝らが外にいて、支えてくれても、如何なることか。試みるにしてもただならぬ仕打ちをされたのであるから、これから、敵の背後を追いかけて、敵方の村のことで、先祖のことで探って、少しばかりの返礼をするつもりだ。それから我は戻るつもりだ。
- ただ、カムイオトプシ、ポンヤイエピリカ、我が兄たちよ、二人で人々が去った後で、家の妹とクシナパウンマツ、我が妹たちをどうにか救い、命を助けてくれないか。」
- 我はそのように言い、天空へ飛び上がった。跳躍しながら見ると、何と我が一族の人々は言うことを聞くものであろうか。ずっと、それぞれの家へ戻る様子を我は見て、天空をよく見まわした。我は手を高く上げて、二つの拝礼、三つの拝礼を繰り返した。その上で、我が言うことは次のようであった。
- 「さてさて、我が憑き神たちよ、話すからよく聞いてくれないか。遊び事さえも我は知らない者であるのに、どこの村の者であるのか、どこの土地の者であるか。理由なしに、道理なしに、我は挑戦されたのだ。そこで、我が追いかけたのだが、我が太刀をかわした。そこで、これから、このような次第であるから、遠い足跡、近い足跡を我は追いかけるのだ。
- しばらくの間のことだ。音を沈めてくれないだろう

か。何かに我が驚き、攻撃された時に、その場所でこのように音を強めてくれないだろうか。」

2079 このように我が言ったところ、人間であるから、言うことを聞くのであろうか。我が憑き神たちの音が消えた。何の音もしなくなった。遙か遠くて、クシナパウンクル、年少の我が兄が我を追って来たように思われた。

2096 我の行く先をじっくりと見定めてみると、天空の上に白い糸筋まで、白い糸筋が伸びている様子が分かった。それを我は追いかけた。弱い風、その風の上に我は軽く持ち上げられた。我の耳元で風が鳴った。我は進んで行き、如何なる村であろうか。大きな村があり、その村の影が暗闇の中で、暗夜の中ではあるが、我に高々とせまってきた。

第3章 ニソルンサンタ

3.1 敵の館

2123 今や近くまで我は進んで行って見たところ、大きな川があり、その流れ下る様子は明るく輝いている。川のほとりに我は降ろされた。見ると、驚いたことに、川の守り神がいるのであろうか。遠くから流れ下る川であるから、川の源流は彼方に低く沈んで見える。川口は海面の上で波立っている。二つの川のもう一方は、黒い磯の岩、白い磯の岩で塞がれている。我はそれを好ましく思った。

2152 我が見ると、多くの村、その村の一带は滑らかに広がっている。村の上手と村の下手が霞んでいる。何と村は美しいことか。まことに静かな村、穏やかな村であるらしいことが我にはよく分かった。村の一带を我は見渡した。

2170 村の中央に盛り上がった小山が聳えている。そして、我は磯の岩の上から鳥が飛び立つかのようにした。そして、音を立てずに、頭の折れた岩山の頂きへ鳥が止まるかのようにした。頭の折れた岩山に大きな家、大きな館が並んでいる。外にある檜、その檜の上に我は静かに降ろされた。

2189 よもや、そこで火が燃えているとは思わなかったが、焚かれた火が外で燃えさかるかのようである。窓から、戸口から、火の光が輝いている。そうではあるが、何の声も、何の音も全くしない。そこで、館の側で音をたてるように、二度、三度と我は脚を上げ、緩やかな歩みで足を運んだ。

2213 見ると、全く、身分の低い者の住まいではないようで

あり、家の周囲、館の周囲のどこもかしこにも我は感嘆した。どのように賞賛することもできないほど美しい。跳躍しながら、慌てながらではあるが、我が住まいの周囲も美しい様子であったが、それと並び立つものであろうか。まことに神の住まいにふさわしい。我は好ましく思った。

神窓に我は急ぎ、垂れ下がった窓、その窓の端を膝で突いた。我は窓の表面に顔を付けた。簾の間に目を通して見ると、焚かれた火、その火は燃えさかっている。大きな家の内部は明るく輝いている。驚いたことに、道理で、家の外が美しい様子、輝いている様子であったのか。

どこに村を持つ者、どこに土地を持つ者がただならぬ有様で住んでいるのか。大きな家の梁の下は、隙間なく神宝で飾られている。宝物壇、上座の上の大きな列は、屋根裏で明るく輝いている。その列の手前に金の寝台が延べられている。その寝台の上に、如何なる生まれの者、如何なる育ちの者が寝るものであろうか。夜着、だたの小袖ではあるが、その周囲で神光が輝いている。そして、空の寝床が延べられている。

燃えさかる火、その火の側の右座に、小さな霧の小山がある。下座にも小さな霧の小山がある。どうしたことであろうか。火の側にいる者の周囲はひどい血の霧が虹の曲がるように取り囲んでいる。そして、苦し気な息をしている。

左座に絹の部屋が立つ様子は、明るく輝いている。部屋の上部に濃い霧がたなびいている。左座の火の側に小さな霧の小山がある。家の内部の全てのものを我は調べて見終えた。

まさしく、我は感嘆し、右座にいる者を、先に、霧を散らして見ると、驚いたことに、立派に成長した婦人であろうか。我が伯母を美しいものと言っていたが、それに並び立つ様子、それを凌ぐ様子であろうか。金の小袖、金の刺繍衣が混ざっており、それを着ている。片方の肩には日光の虹、片方の肩には頭の折れた虹がある。それが頭上で交差している。神髪は絹のように頭上を覆っている。その下には神々しい顔が陽光のように輝いている。二つの悲しみの表情、三つの悲しみの表情を顔に浮かべている。そして、火の表面を見つめている。

火の側にいる者を我は霧を散らして見た。二回、三回と人間の姿を見定めることができなかった。霧の中に、驚いたことに、どこの二つの村に、どこの三つの村に、このような者がいて、噂にもならないのであろうか。幼

2239

2261

2293

2309

2324

2364

- い少年、今年あたりに少し我を越えて成長したように思われる者である。美しく育てられた者、立派に育てられた者であるらしく、金の小袖を無造作に着ている。
- 2391 着物の表面には鳥の羽毛の小袖がある。その周囲で二つの神光、三つの神光が輝いているものを着ているが、片方の肩と小袖の半分が裂かれている。留め金付きの帯を胴に巻いている。鳥の羽毛の鞘に神受の刀が納まり、それで腕の下が美しい。刀を帯に差し、その周囲で神光が輝いている。鳥の羽毛の兜、その兜の下げ紐を顔の上で締めている。兜の表面で神光が輝いている。兜の端で幼い少年の神のごとき顔が立ち昇る陽光のように我に照り返す。勇者であるらしく、勇者の顔色で表情が異彩を放っている。
- 2428 そうではあるが、ひどく疲れているものであるから、疲労で顔色が沈んでいる。そして、涙を浮かべている。ますます、神の如き表情であり、どうにも賞賛しようがないほど美しい。今さっき、我より少し前に到着したものであるらしく、鳥のような息、鳥のような呼吸をしているかのようである。そして、傷付いた顔色で、表情に元気がなく、息をしている。そして、一点を見つめている。
- 2454 左座にいる者の二つの靄の中心、三つの靄の中心を我は目で散らして見た。そのようにしたが、二回、三回と人間の姿を見定めることができなかった。長い間そのようにしていると、驚いたことに我の目の前がさっと暗くなった。
- 2469 家の妹とクシナパウンマツ、我が妹たちを美しいものと言っていたが、如何なる者であろうか。幼い少女であり、今年あたりに家の妹ほどに成長したように思われる者である。美しく育てられた者、立派に育てられた者であるらしく、神の如き刺繍衣、金の刺繍衣を着ている。
- 2488 着物の表面に狼の毛の無い皮、金の獣皮がある。その袖口の上も、裾の上も、幅広の平金で取り巻かれている。幅広の平金の表面には、連なった木鈴が取り付けられている。その周囲で美しい音が響く。そして、片方の肩には陽光の虹、片方の肩には頭の折れた虹がある。それが頭上で交差している。神髪は絹の糸のように頭を覆っている。その下で、神々しい顔が立ち昇る陽光のように我に照り返す。
- 2515 霊能力に優れた者であるらしく、霊能力を身体の中に隠している。姿を現している憑き神は蝙蝠の群れのように、背後で交差している。姿を隠している憑き神は星のきらめきのように、背後で光っている。このような者が人間であろうか。土の上を踏む者であろうか。そうではないようだ。上座にいる者も成長した婦人も、共に眉や目付きがそっくりである。我が尋ねなくとも、親族であるように思われる。
- 3.2 敵方の伯母
- 暫くすると、成長した婦人は火の側にいる者に目をやって、その喉元が響いた。そして、話すことは次のようであった。
- 「さてさて、妾の悪い息子、下らない者よ、どこに行って何をして帰って来たのですか。汝がどこへ行っても、神々でも人間でも、理由なしに爪傷さえ負うこと、傷付けられることはないと思っていましたが、どうしたのですか。このようにただならぬ、傷付けられるにしても並大抵ではなく、神の装束も、どうしたことが、全く半分が欠けているようです。汝の片腕も、どこに落としてきたのですか。恐ろしいことです。どのように言い、どのようにしたら、妾は安堵するのでしょうか。
- まことに、妾は夫婦として心臓の前に汝らのことを思い、二つの良いこと、三つの良いことを幼少から汝らに伝えて来たのですが、まことに良い心、神々の立てた掟を汝は守っていたのですが、驚いたことに、神々の側で姿を傷めつけられるにしても、ただならぬことを汝はしたのですか。全く妾は不審に思います。まだ汝らは幼い者たちです。そこで、汝らは如何なる先祖を持つ者たちであるのか、まだ伝えていませんでした。
- 明日にでも、明後日にでも、僅かな酒を醸して、立派な酒宴をおこない、神へ祈り、先祖供養もして、何か言い伝えを話して聞かせようとばかり妾は思っていたのですが。その間に、汝はどこへ行って、このような有様になったのですか。今はもう、汝が言わずとも、汝が向出して傷つけられ、ひどく痛めつけられた場所は、はっきりと分かっています。
- そこで、今は汝らに言い伝えをしても、何の意味もないように思います。妾はまことに怒っているのですが、いつも言おうとしていたことですから、話します。今は、汝の悪い心により、神の罰、激しい罰を汝は受けました。そこで、神々のところに汝が行ったとしても、その集団に加わることはできないでしょう。ひどい死に方を汝はするのでしようが、その前に、言い伝えを話しますからよく聞きなさい。妾の娘もよく聞きなさい。
- 我らの村の名はニソルンサンタというのです。古い時

代に、ニソルンサントウクルは、兄弟がおらず、一人の妹がいました。男性の方は、その勇気、その容貌において、神々のところにも、人間の世界にも匹敵する者が誰一人もおりませんでした。女性の方も、その容貌、その器用さには国土の中で敵うものがおりませんでした。二人とも、神々の噂になりました。そして、村を持ち、暮らすようになりました。

2701 その次にまた、遠くにあるヤウクルの国土、その国土の真中で名のある村がトミサンベチ、シヌタブカです。そして、シヌタブカでは年少の妾の兄がおり、兄弟はおらず、一人の妹がいました。その女が妾であるのです。妾は神の子孫ですから、年少の兄も人間ではありませんが、その容貌、その勇気、その弁舌は、神々のところでも、人間のところでも、強固な神々のところでも匹敵する者がおりません。二つの国土を越えて、三つの国土を越えて、神々の噂が立ちました。我もまた、何でも、女性のすることは、人間以上にこなします。そこで、我の良い噂が神の噂となりました。

2741 それで、我と同じ人間である者たち、遠くにいる者たち、近くにいる者たちが妾らを嫉み憎むことをしました。トミサンベチシヌタブカへ激しい戦い、激しい戦闘を巻き起こそうとしました。そして、妾らが治めるものが先祖の村、母方の村ですから、村を守りました。そこで、年少の兄と共に、まだまだ妾らは幼いの一族も大勢、一人残らずその戦いに立ち向かいました。二つの海を巡って、三つの海を巡って戦いばかり、戦闘ばかりでした。

2773 激しい戦いの中でお互いに苦勞の絶えない成長をして、年少の兄の戦いが、このニソルンサントウクルにやって来たときに、ニソルンサントウクルは、幼少の頃から殿の定め、神の定めで村を守って来た比類なき雄弁家でした。そして、理由の正しくないことに加担することを拒絶しました。そこで、戦いを拒み、戦闘を拒みました。

2795 それで、妹と共に、一族と共に、年少の兄の戦い、その戦いに加わり、成長の過程で、同じ戦い、同じ戦闘に辛酸を舐めました。そして、戦いの間の休戦の時に戦いの協力を感謝し、戦闘の協力を感謝しました。そこで、ニソルンサントウマツは神宝を頸の上に飾って、トミサンベチ、シヌタブカへ嫁いだのです。

2820 その次に、古い話ですが、天空から神である妾の母と妾の父が一緒になるためにトミサンベチに降りて来たときに、頸の上を飾って降りて来たものですが、木鈴の付

いた着物も、太刀も、兜も揃っていました。それからまた、鳥の羽毛の小袖の太刀も、帯も、兜も、狼の毛の無い皮も二つ、三つ、女性の宝物と共に他の物も、神宝をたくさん持って降りてきたのです。

年少の兄は、親族として妾一人だけがいるのですから、まさしく、息の只中、心臓の只中に妾を入れるようにして、可愛がりました。それで、遠くの長者の国土、勇者の国土に、理由があるものですから、妾を嫁がせました。そして、妾の後ろ楯が脆弱になることを良くないと考えたので、これらの神宝で妾の頸の上を美しく飾り、ニソルンサントウの中へ妾は嫁ぎました。そして、汝らの父親、比類なき勇者に連れ添い、まさしく、良い暮らしをしたのです。汝と汝の妹と共に汝らただ二人を産んだのです。まことに、喜びと共に、比類なき養育、神の如き養育を妾は汝らに施しました。神宝もそれぞれに、妾はそれで汝らを育て、今まで、汝らは健やかな成長、立派な成長をしたのです。

その次に、天空には狼の神がおり、兄弟はおらず、二人の妹がおりました。その最も若い少女がトミサンベチ、シヌタブカの年少の兄を気に入りました。年少の兄の容貌に惚れ込みました。そこで、神々のところでした承され、尊い神である女性は神宝と共に、家と共に、トミサンベチ、シヌタブカに降りてきて、年少の兄のところ

で妻となったのです。ニセトクンマツ、汝らの伯母は先に嫁入りしていたものですから、カムイオトプシとポンヤイェピリカ、妾の甥たちを産みました。神である女性からも、神の如き妾の甥とその妹が産まれました。

まだ一人残らず、お互いに幼いときに、年少の兄とその妻たちはあまりにも嫉まれました。そこで、暫く人間の世界で安心して暮らすことができず、恐ればかり、心配ばかりをしていました。

それを我慢して、神々のところに立ち去り、まことの結婚、真の結婚をして安心したいと、言い、チャシパウクル、年上の兄に言い残しました。そして、神の住まいに入れました。そして、妾の甥、妾の姪は美しく育てられ、神の如き養育をされている様子が二つの国土を越えて、三つの国土を越えて神々の噂となっていることを妾は聞いて、まさしく、妾は喜び、手を高くかざしていました。

その次に、残された言葉はこのようでした。最も幼い妾の甥は神に次ぐ者であるから、妾の娘と赤子の布、そ

2847

2895

2923

2936

2951

2980

の布を分け合って育てて、成長したら結婚させて、トミサンペチ、シヌタブカの神の住まいの上流を治め、下流を治めさせなさいというのです。そこで、なお一層、妾の娘、神である妾の甥の陰を清潔に保ち、美しい養育、立派な養育を施したのです。

3009 汝らの父も、理由があって、先に神々のところへ立ち去りました。その後で、まだまだ、汝らは幼いものであり、妾は憐れに思いました。まだまだ、汝らと共にいるのが長かったのです。親族の再会、穏やかな再会、良い再会を汝らはするものとばかり、毎日いつも期待していました。まだ暫くしたらと考えていました。

3035 その間に、汝はどこへ行ったのですか。早く言いなさい。何か戦いの理由、争いの理由があって、穏やかならぬ傷を負ったのですか。」

3045 このように、成長した婦人は怒りの言葉を口の中で発し、言い終えた。

3050 火の側にいる者はそれを聞いて、あたりまえに驚くものであるならば、さもあろうが、前額がふるえている。今は、まことに死にそうな顔色である。すると、成長した婦人は再び、このように言った。

3065 「まことに、妾の悪い息子、下らぬ者よ、乱心したのですか。まさか、トミサンペチ、シヌタブカの、このように名の知れた者たちを、何かの余所者、何かの他人であると考えたのですか。悪戯する心、強引な心を持って、ヤウンクルの村に汝は上陸し、如何なる挑戦をしたのですか。

3087 まことに、そのように汝がしたのなら、妾が見ずとも、その振る舞いは手が付けられないもの、恐ろしいものです。神である妾の甥なのでしょう。どのような悪戯、挑戦を汝がして、このような有様で、神である甥が遠からず追ってくると思わないのですか。

3105 古い時代から、神から守護されていた村、大切にされていた村、汝の父が守護していたものが、ニソルンサンタなのです。しかし、汝の悪い見のために、神である甥がニソルンサンタの村の中へ攻撃に来たら、村と共に、お互いに如何なる延命、如何なる蘇生を妾らはするのでしょうか。」

3125 婦人はこのように言ったが、鳥の羽毛の衣を持つ者は、息をすることも、呼吸をすることもみずから塞ぐ様子である。

3.3 敵方の妹

3130 その間に、左座で一点を見つめており、長い間話を

聞いていた少女は、火の側にいる者に顔を向けた。そして、顔は美しいのに、怒りの表情を顔にみながら、痛罵の言葉で喉が響き、次のように言った。

「なんと汚らわしい、嫌なことを。年少の妾の兄、下らぬ者、恥ずかしくないのですか。如何なる傷を負い、このような振る舞いをするのでしょうか。さて、妾の母よ、話しますからよく聞いてくださいませ。」 3148

幼少の頃から、下らぬ巫術、つまらない巫術で妾はみずからを守ってきたのですが、どうにも、遠くを見ることもできません。我が母が言うように、幼少の頃から、ヤウンクルの国土、その国土の真中のトミサンペチ、シヌタブカの神の如き者の良い噂は、二つの国土を越えて、三つの国土を越えて聞こえてきました。そして、如何なる余所者であっても、まことに、妾は嬉しく思い、感嘆しながら成長してきたのです。 3163

年少の妾の兄ばかり、その様子、その振る舞いを少し妾は不審に思いながら成長してきたのですが、どのよう思うこともありませんでした。今まで妾は成長してきたのですが、妾の悪い兄はどこへ行ったのでしょうか。妾には分からないのですが、このように死んだような様子で帰ってきました。 3191

その間に、今まさしく、妾の母が言い伝えを話し、妾はよく聞きました。妾はしっかりと、先祖のことを理解しました。何の余所者、何の他人の噂がたつのかと思っていました、これは驚きました。妾が感嘆していた人々は、驚いたことに、まさしく、妾の親族の人々であったのです。 3210

まさしく、心で見通すと、よもや、年少の妾の兄、下らぬ者よ、幼少の頃から、トミサンペチ、シヌタブカにいる兄たち、神の如き者の噂がたつと、まさしく、心の底から怒りを覚えていたのですか。 3232

汝はそのように噂も無く、如何なる生まれの者、如何なる育ちの者が、あまりにも、名の高いことに妬みを覚えていたのですか。さあ早く、一人前の男性にまで汝が成長したら、トミサンペチ、シヌタブカに上陸して、少しの悪戯、少しの挑戦をして、ポイヤウンペが怒ったら、立ち合いをして、度胸試しをして、どちらが最も勇敢であるのか、我こそ勇敢であるのだ、という下らぬ考えを持ちながら成長したのですか。 3248

今まさに、チャシパウンクル、妾の伯父が今や育てた甥たちやその親族の人々を一人残らず集めて、先祖の言い伝えを話すために、酒を醸して、今は、それで神への 3284

祈りをするために、人々は着座しています。

3299 その間に、このように、年少の妾の悪い兄がこのように考えたのですから、このように、神々が立ち寄ることも、人間が立ち寄ることもできません。神の造った崖、丸い淵のところへ行って、神のふりをして悪戯、挑戦をしたあげく、そのようにしたくて、このような振る舞いをしたのですから、年少の妾の兄は神の如き者から、ひどく追いかけられました。遠くつかまれ、近くつかまれたあげく、このように、酷い目にあったのです。

3325 どのようにすることもできずに、物も言わずに隠れて、ここへ逃げて来たのです。このように汝がここへ逃げて来たとしても、汝の後には年少の兄がいるのではないですか。ずっと、先程から、年少の兄は神窓の下に来て、長い間、妾らを見つめています。このような次第をすべて聞いてしまったのです。

3352 何ということでしょうか、何としたことでしょうか。妾らが治めていたものがニソルンサンタ、尊い村であったのですが、汝の悪い了見があったために、今は、年少の兄が村の中へ攻撃をかけてきたならば、まったく、揃って、如何なる蘇生、如何なる延命をするのでしょうか。

3370 汝も、汝がしたくておこなったことですから、このように、汝の片方の腕は失われました。汝が生きていても、何の意味があるでしょうか。まさしく、汝は倒れる者となります。そこで、刀の刃の上に汝が斬らたならば、それだけでも、死んでから良い死霊となって、満足しなさい。」

3393 少女はそのように言ったように思われた。少女が懐中の刀を伸ばす音がさっと鳴った。その途中で、鳥の羽毛を着た者は汁の実が散らばるかのようになった。切れた残骸が散らばった。神霊が立ち昇る音が鳴り響いた。国土が崩れ、村が崩れ、村が崩れるかのような音で、そのような音がして、死人が西の方へ音を低く響かせながら去ったその後で、周囲は静まり返った。

3.4 婚姻

3419 ここでようやく、成長した婦人と少女が一斉に泣く声が響いた。聞いただけ、見ただけではあるが、我は驚きの気持ち、恐ろしい気持ちを抱いた。余所者であって、挑戦をするにしても、ただならぬ仕打ちをすることを我は怒っていたのだが、よもや、そのように、同じ先祖を持つ者であったのだ。

3443 この場所に来たおかげで、これまでの次第をすべて我

はよく理解した。如何なる余所者、如何なる他人がいるのであっても、このように我は感嘆したものであるが、驚いたことに、まさしく、我が伯母で、近い親族、一族であったのだ。そして、鳥の羽毛を着た者、年少の悪い兄、そのような神、そのような者が如何なる神に惑わされて我を余所者と混同し、そのために、なるほど、そうしたくて、そのような振る舞いをしたのであるから、斬られるにしもただならぬことをされたのか。

その上に、今は、比類なき勇者は無残に殺されたのであるから、片腕で可哀想ではあるが、今はどのように言うことも、どのようにすることもできない。

その次に、ニソルンサンタ、幼い少女は憑き神のためか、何ということであろうか。今は、この場所に我がいることも、言い解いたことに驚きの気持ち、恥ずかしい気持ちを我は抱いた。このような神、このような貴人が一体何故女性であるのか。驚いたことに、ゆりかごの上で我は育てられたのだ。まさしく、我は喜んだ。

その次に、如何なる生まれの者、如何なる育ちの者が我が父、我が母たちであるのか。ただの人間から嫉まれて、暫くの間は人間の国土で仕事をすることが出来ず、少しも我は思い出さずに、神々のところへ立ち去ったというので、我は心の中で涙を流した。

その間に、我が伯母は二つの泣きの涙、三つの泣きの涙を流した。いまは、泣き倒れてしまいそうである。憐れみの心、親愛の心を我は抱いた。

我は今さっき来た者であるかのように、窓の下から魚が向きを変えるかのようにした。家の側の上で、我は激しい足取りを遠く伸ばした。我の鏝の音が美しく響いた。我は玄関の納屋へ回った。驚いたことに、神々の匂い、神宝の匂いが激しい風となって、我を背後へ押しやった。咳払い、若々しい咳払いを我は奥に響かせた。金の音が響くようである。金の簾戸が垂れ下がる様子は光り輝いている。我はそれに手を伸ばし、ゆっくりと開けた。土間の上に、光と共に、靄と共に我は押し入った。

左座の我が妹の背後に我は足を通そうと、ゆったりと足を遠く伸ばすと、妹は背後へ戻った。そこで、妹の前へ我は足を通し、火の側へ我が座る音が響いた。

我が座るとすぐに、我が伯母は、二つの靄の根元、三つの靄の根元を我に対して散らした。二回、三回と、人間の姿として我を見定めることができない。長い間そのようにしており、今は私の横顔の上を目撃した。そして、顔色が蒼ざめた。このような神、このような貴人が、

- みずからを差し置いて、如何なる神、如何なる貴人に感嘆するものであろう。隅々まで我を眺め回し、我の手前へ視線を落とした。
- 3620 それと同じように、我が妹も二つの靄の根元、三つの靄の根元を我に対して散らした。並大抵に我を賞賛するもの、我に感嘆するものであるならば、さもあろうが、同じように、顔色が蒼ざめた。そして、我の手前へ視線を低く落とした。
- 3636 我が伯母は、甥よ、心臓よ、と泣きながら言った。そして、我の方へ這いよってきた。すると、我も、心臓の中で、心の中で涙を流した。息をする穴も塞がれたようである。伯母よ、と我は言い、我が伯母の腕の中へ頭を伸ばした。我がそうすると、並大抵に喜ぶものであるならば、さもあろうが、伯母は歓喜した。そして、兜の下の我の頭上に手を伸ばし、我を抱きしめた。そして、私の腕や膝を撫でさすった。その上で、泣きながら話すことは次のようであった。
- 3672 「よもや、今晚、汝に会うとは思いませんでしたが、ようやく会えたのですね。まさか本当だとは。汝がいると妾は思っていたので、汝は霊能力に優れた者であるから、古い時代に、年少の妾の兄がいたときのように、どこもかしこにも汝が立ち去った様子は全くありませんでした。
- 3690 汝は年少の妾の兄を半分に裂き、半ば小さくしたような姿なのですね。このようなものが人間なのでしょう。土の上を踏む者なのでしょう。まさしく、祀られる神が地面に降りてきたら、このような姿なのでしょうか。」
- 3704 伯母はこのように言い、二度、三度と我を抱きしめた。頸の上も無くなるほど、二つのうなずき、三つのうなずきを我におこなった。幼い赤子のように、子供のよう、我をあやすようにした。
- 3716 「何ということでしょうか、何としたことでしょうか。遅かれ早かれ、ではあります、お互いに、穏やかな再会、良い再会を妾らはすることを望んでいましたが、妾の悪い息子、下らぬ者の悪い了見があったために、今は、会わせる顔もないのです。そして、妾はどこに目が付き、どこに口が付く者でしょうか。トミサンベチ、シヌタブカに他の親族の人々、甥たち、姪たちが集まっていると言われても、全く会うことはできないでしょう。」
- 3746 我の伯母はこのように言い、二つの泣きの涙、三つの泣きの涙をみずから流した。伯母がそう言うと、私の喉元が響き、我が言うことは次のようであった。
- 「さてさて、我が伯母よ、話すからよく聞いてくれませんか。鳥の羽毛を着た者、年少の我が兄が、まだ早くに、幼少の頃からでも、このように、我らはお互いに先祖をもつ者であることを理解していたならば、よもやこのような悪行はおこなわなかったであろうと思う。そして、片方の腕で、我は憐れみを覚えているのだ。
- 我もまた、霊能力のない者、巫術の力のない者であるから、どこの余所者、どこの他人がこのように振る舞いをしたのかとばかり思っていた。我がここに来てから、はじめて、このように我は親族を持つものであることを、一つ残らず理解したのだ。
- 鳥の羽毛を着た者、年少の我が兄、そのような神、そのような貴人が決してあのような悪行をおこなわなければ、我は勇者を抱えて心強く思うことであつたに違いない。鳥の羽毛を着た者、我が年少の悪兄がただ一人で抱いた乱心であり、我が伯母も、我が妹も、少しも知らずにいたのだ。そのことを、我が伯母よ、決してそのように、みずからを責めないでほしい。決して、心配しないでほしい。これから、我はこのように、よき孝行を母のように、汝にするつもりだ。」
- 我がこのように二つの良い言葉、三つの良い言葉をかけると、我が伯母はそれを聞いて、再び我を抱きしめた。そして、泣く声が響いた。
- 「何ということでしょう。汝は勇者ですね。汝は頭領ですから、神の意志、頭領の意志を示すことができるのです。感嘆しました。汝の言うことを妾は好ましく思います。良い心を汝は持っているのですから、神々のところまで、汝は噂がたつのです。感謝します。今は、ニソルンサンタ、妾らが治めていた村を地表ごと、汝は引っ繰り返すものとばかり腹の中で身も細る思いで心配していたのですが、まことのことなのですか、本当のことなのですか。神である妾の甥よ、穏やかな意志を汝が持つことに、まことに我は感謝し、礼を述べます。まことに、妾は嬉しく思います。」
- 伯母はこう言って、我を撫でさすった。我が妹も、まさしく、喜ぶものであるから、我慢することが全く出来ないようであり、我の方へ這いよってきた。そして、泣きながら、兄よ、と言い、畏まりながら、私の裾の端をつかんだ。そして、私の腕や膝頭を撫でさすった。すると、我は歓喜した。妹よ、と言い、心臓よ、と我は言いながら、妹の頭上へ手を伸ばし、抱きしめた。そして、

側で妹を見たところ、ますます、帰天する神のように、どのように賞賛することも出来ないほど美しい。二つの良い言葉、三つの良い言葉を我がかけると、まさしく、妹が喜ぶ様子が我にもよく分かった。

3919 我らは挨拶を済ませて、我が伯母は、まことに、喜びながら、次のように言った。

3925 「さあ早く、妾の娘よ、年少の兄の食事の用意をなさい。妾らが食事を済ませたら、一刻も早く、トミサンペチ、シヌタブカへ一緒に行きますよ。これからは、汝らは共に暮らすのです。そこで今、汝らが出会ったときに、すぐに、汝らが一緒に上陸しても、問題ありません。妾の甥も、如何なる国土、如何なる村へ追いかけてきたのか、親族の人々も一人残らず、まことに心配しているでしょう。妾が心配している者も、生きていられると言われても、どのようであるのでしょうか。家の妹、神である妾の姪とクシナバウンマツ、妾の姪とが、生きていないのであれば、一刻も早く、汝が蘇生させてください。」

3972 伯母がこのように言うと、何と、我は嬉しく思うことか。我が妹に、このように、我は想いを寄せ、恋慕の情を抱いたのだ。その者と離れて、我は一人で我の村へ帰り、一日も二日も会うことなしに過ごすのかと、我は思っていた。しかし、良い具合に、我が伯母の意向が良いので、まさしく、心の底から、心底から、我は嬉しく思い、喜んだ。

4000 我が妹も、並大抵に喜ぶもの、歡喜するものであるならば、さもあろうが、陰で笑みを浮かべている。妹は言葉を聞いてすぐに立ち上がり、下座へ行った。そうでなくても美しいのに、また、二つの水滴、三つの水滴を用いて、美しい小鍋の弦をかけるところから水を通した。そして、中に水を入れ、火にかけた。二つの抱えた木、三つの抱えた木を運び、鍋の下で立ち回って火を燃やした。鍋が煮え、よく煮立った。妹は精白した穀物を鍋の中へ注ぎ入れた。

4035 鍋から離れて、我が伯母は、淀みなく、昔のことから、成長した身の上を、そのように、様々な話があることを、良いことも悪いことも、一つ残らず我に話して聞かせた。そして、何と我は感嘆し、嬉しく思うことであろうか。われは相槌を打ちながら聞いた。

4055 我が妹は、何と煮炊きが上手であることか。良い飯を籠で混ぜた。それと同時に、良い飯は籠の上で、湯気が分かれ、湯気がたなびいた。妹は蓋をして、火の上にかけた。暫くすると、鍋を下ろした。妹は薄造りの御膳、

薄造りの御椀を取り出し、積み重ねた。高盛りの飯は、下の方へ盛ったものは小さく、上の方へ盛ったものは大きくなっている。

妹は先に、頭上へ高くかかげ、我に御膳を差し出した。 4080

我は受け取って高くかざし、低くかざし、拝礼した。我は空腹で倒れそうに思っていたので、良い食物に箸を向けた。我はゆったりとした食事をおこなった。我が伯母にも、高盛りの飯が差し出された。良い食物で我は心臓の上手から、心臓の下手まで伸び伸びした気持ちになった。まさしく、暫くして、我はまことに落ち着き、元気になった。我が心は力強くなった。食事の最中ではあるが、我が伯母と共に我は話をした。

我は御馳走の半分を妹に差し出した。すると、妹は腰の真中を折り曲げるようにして、畏まりながら受け取り、高くかざし、低くかざして拝礼した。そして、ゆったりとした食事をおこなった。食事は終了した。 4115

それから、今や、上陸しようと我は言った。様々なことに我が安心したときに、一刻も早く、我が伯母が訪問してくれるようにと、我は言い残した。我が伯母も、二つの良いこと、三つの良いことを我に教えた。我らは別れた。 4131

第4章 帰還

4.1 巫術

我が妹は、私の背中の上に寄り添った。我らは外に出ると、我が伯母は我ら二人の方へ目を向け、口元に笑みを浮かべた。我らは外へ出て、外にある櫓、その櫓の上から天空へ飛び上がった。すると、なんとなく妙に、我の目の側に寄って来るものがある。 4148

そこで、神の如き頭の折れた岩山の麓で、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、何ということか、何としたことか。クシナバウンクル、年少の我が兄があり、その表面にはひどい血の霧がある。苦しい氣息をしており、その上に、着ている小袖も破れ、裂けており、垂れ下がっている。 4167

そして、岩山に沿って登ろうとすると、岩山の頂きから激しい神風が吹き降りてくる。そして、それと同時に、岩山の中腹は何度も窪んだようになる。それ越えて、神々が降りて来る。あるときには、兄は神風の先で滑り、岩山の下に叩きつけられている。 4185

このような者が、一体どこに心臓があるというのか。 4201
兄はまだ再び、跳ね起きた。そして、再び登り、這って

- いる。その顔色は曇れており、汗で湿っている。我は見ただけではあるが、憐れに思った。年少の我が兄の力の無い様子、苦しむ様子、我の後から来る音を聞いていたのだが、戦いの狂気、戦闘の狂気にとらわれていたものであるから、全く忘れていた。そして、長い間、今まで、このように、ただ悩むこと、疲労することのみをしていた様子を我は見、まさしく、我は焦りを覚えた。
- 4236 我は一人だけ良い食事をして、元気になった。しかし、その間にこのような事態があったのを見て、我は勇者の端くれ、頭領の端くれであるが、再び息をする穴も塞がれたようになった。我の目の端に涙が浮かんだ。
- 4251 我が妹も、それを見て、まさしく驚き慌て、目を見開いている。比類な霊能力を持つ女性であるから、早々と心の中で、如何なることも、その原因を理解したようであり、天空からその口先が響いた。それと同時に、裃い声が激しい神風となって降りて来る音が鳴った。
- 4273 裃い声の先で、年少の我が兄は転がり回った。暫くすると、年少の我が兄は、どこに傷があるのか。以前あった肉も元通りであり、装束も、着る物も、新しくなっている。兄は岩山の下に立った。驚き慌て、不審に思うものであるから、周囲を見回し、みずからの身体を調べている。
- 4295 我は見ただけではあるが、まことに驚いた。幼い少女のように思っていたニソルンサウンマツ、我が妹は、憑き神のためか、驚くべきことをする様子である。そこで、まさしく、我は驚きの気持ちを抱いた。我は口元で笑みを浮かべた。天空から我の喉元が響き、言うことは次のようであった。
- 4316 「さてさて、クシナパウンクル、年少の我が兄、話すからよく聞きなさい。このような次第で、余所者にもでも悩み苦しめられたのだと思っていたが、驚いたことに、このように、我らは先祖を共有するものであることも、一つ残らず、理解した。今、汝を蘇生させた者はニソルンサウンマツ、我が妹なのだ。今は早く、トミサンペチ、シヌタブカへ、我は心配するものであるから、急いで上陸するのだ。年少の我が兄、汝はこれからまっすぐに、汝の村へ帰ってもよいのだ。その後でまた、新たに、トミサンペチ、シヌタブカで僅かな酒を醸そうではないか。どこかで、また我らは皆、再会するものであるのだ。」
- 4367 我がこのように言うと、年少の我が兄は、再び、まことに驚き慌て、天空へ、我ら二人に顔を向けた。ただ、
- 我らの靄ばかりをよく見ているように思われた。兄は天空へ飛び上がった。
- 4.2 悪戯
- その直前に我らは向きを変え、疾走する神風、その神風の先に我らは軽々と持ち上げられた。我らの耳で風が鳴った。我らが上陸する音が鳴り響いた。
- 我らは上陸して、今は、ヤウンモシリが我らに対して高まってきた。我らの後から、クシナパウンクル、年少の我が兄がやって来る音が響き、ずっと、クシナパの村、その村の上で音を鳴らした。その音の後で、周囲は静かになった。
- 我が見ると、我が住まいの神の如き頭の折れた岩山が天空へ、その頂きを伸ばしている。その中腹まで、黒い靄、濃い靄がたなびいている。我が妹は、我の背中の上に寄り添っている。
- その間に、今は真昼を過ぎて、我が住まいの外にある櫓、その櫓の上に我らは降ろされた。今こそは、我が住まいの周囲を、明るいときに、昼の間に我は見た。何と、どこもかしこもひどく輝いていることであろうか。大きな家上の段葺き屋根、下の段葺き屋根は幅広の平金で取り巻かれている。平金の表面には、連なった木鈴、連なった木房が付いている。木鈴が鳴る音は奥方の声のように美しく響く。木房が鳴る音は主人の声のように響く。我はそれを好ましく思った。
- 大きな館の長い柵木は天空へ反り返るように伸びている。短い柵木は、柵木の列の中で隠れている。長い横木は柵木にそって曲がり、短い横木はひどく曲がっている。柵木の上の横穴、下の横穴は、鳥の巣穴となって向かい合っている。横穴に当たる風が鳴り響く。館に当たる風はばたばたと鳴る。地面に当たる風は鳴り響く。我は驚きの気持ちを抱いた。如何なるただの人間が住む場所であって、感心なことに、ひどく美しく飾られているのか。まさしく、神の住まいを凌いでいる。
- 立てられた幣柵、その幣柵の上には熊の頭骨、鹿の頭骨が木々が並ぶかのように置かれている。幣柵の上手から、頭の折れた岩山から浜へ下る道は、二つのつづら折りの道、三つのつづら折りの道として折れ曲がっている。幣柵の下手から、山へ向かう踏み跡は黒々としている。
- トミサンペチが流れる様子は明るく輝いている。河口は海面の上で幅広い波を立てている。神の造った海、その海の表面は明るく輝いている。海の東から海の西

- までは滑らかに伸びている。海の東は霞んでおり、海の西も霞んでいる。良い風、その風は滑らかに広がっている。風を持つ鳥海の鳥が餌をあさる声、その声が響いている。我はそれを好ましく思った。
- 4530 なるほど、如何なる生まれの者、如何なる育ちの者がこのように、我が父と我が母であり、嫉まれたというのか。周囲の美しい様子を見て、まさしく、我は大いに感嘆した。
- 4544 ニソルンサンタ、我が妹は、並大抵に大いに感嘆するものであるならば、さもあろうが、庭の上に座り、髪の毛を地面に付けて、畏まっている。
- 4555 その間に、神の住まいの中から、何かの音が響いたかのように思われた。そこで、まさしく、我は家の妹とクシナパウンマツを思い出した。我が住まいのひどく美しいこと、大いに飾られていることを我は喜び過ぎ、感嘆しすぎた。そこで、見ることに夢中になりすぎて、まったく忘れていた。まさしく、我は気の毒に思い、急いで慌てて駆けつけた。ニソルンサンタウンマツ、我が妹も、我に寄り添い、畏まって、表情が硬くなった。
- 4587 家の側の上で、我の鏢の音が響いた。我は激しい足取りを遠く伸ばした。我は玄関の納屋へ回った。いつものように、神々の匂い、神宝の匂いが激しい風となって我を背後へ押しやった。刀の鏢の縁がぶつかる音が鳴った。垂れ下がった戸に我は手を伸ばし、ゆっくりと開けた。土間の上に霧と共に、光と共に、我は押し入った。
- 4611 我が見ると、何ということか、何としたことか。まさに、家の妹は右座で伸びている。その表面はひどい血の霧で覆われている。左座ではクシナパウンマツの死んだ骸が伸びている。そして、同じように身体の表面にはひどい血の霧がたなびいている。カムイオトブシとポンヤイェピリカ、我が兄たちは、二柱の神の出自、三柱の神の出自を何度も引っ繰り返しながら、神に祈っている様子である。まさしく、驚いた。
- 4640 上座の上に我は立ち、我が妹たちの表面を見回した。我の心臓の上、心臓の下は溢れそうな気持である。我の目の端から涙が出た。本当のことであろうか。暫くの間、我が兄たちが神の如き救助をしても、一柱の神も振り向くことは無く、今は、我が妹たちは美しい様子を嫉まれたのか。そこで、二つの暗い心、三つの暗い心で、我は心の中で涙を流した。
- 4667 その間に、よもやそのようなことがあるとは思わなかったが、我が悪妹たちは、まことに、同時に跳び起きた。そして美しく笑い、手を叩き、同じ言葉を半ば口を揃えて言った。
- 「これはこれは、我が兄たちよ、何故、妾らが死んだというのですか。妾らは良い眠りをしようとする、夜も昼も、悩まされていたのですか。」 4683
- 妹たちはこう言った。我が見ると、一体どうしたとか。傷があり、着る物も破れていたように見えたが、まったく、以前と変わらぬ美しさであり、なお一層、今の美しさは物凄い。神の如き様子であり、二人とも外へ出た。その途中で、館の側で、ニソルンサンタ、我が妹と一緒に泣く声が響いた。
- 4694
- 我は見ただけ、聞いただけではあるが、驚きの気持ち、悔しい気持ちを抱いた。驚いたことに、我が悪妹たちは、比類なき霊能力を持つ女性であるから、如何なることでも、その理由を理解しているのだ。そこで、集まって、暫くの間、このように、我が兄たちも、我も、からかわれたのであることを、我はよく理解した。我はひどく悔しく、とても悔しく思った。我が兄たちも、まことに驚き慌て、一斉に目を見開いて眺めた。そして、同じ言葉を半ば口を揃えて言った。
- 4717
- 「何と何と、我らが悪妹たちよ、不孝をするにしても並大抵ではないことをしたのか。何故、このように、下らぬ女、悪い女たちに悩み苦しめられたのか。忌々しい。我らがひどく殺すこともできるのであれば、ひどく殺してやりたいものだ。」 4753
- 兄たちは怒り、我の周囲で足を踏み鳴らした。兄たちは我に対して槍を反らし、我に対して刀を反らし、我の無事を祝った。
- 4776
- 「どこの村の者、どこの国土の者が、挑戦するにしても、ただならぬことを我らにしてきたのか。どのようであったのか。」 4782
- 兄たちはこのように言った。そこで、そのような次第であったことを、我は一つ残らず言い聞かせた。ニソルンサンタ、我が妹を連れて来たことを言うと、我が兄たちは、みずから鼻を押さえ、口を押さえた。まさしく、一緒に驚いた。そして、火の側に神の如く、膝を並べて座った。
- 4792
- クシナパウンマツはずっと外から、天空へ飛び上がった。そして、クシナパの村へ音を立てて去ったようである。家の妹はニソルンサンタウンマツ、我が妹の手を取り、中へ入ってきた。そして、左座へ座らせた。並大抵に畏まるものであるならば、さもあろうが、顔を上げる 4811

- ことも出来ず、髪の裾を床に着けており、表情が硬くなっている。
- 4837 我が兄たちは一斉に立ち上がり、我が妹と挨拶を交わし、お互いに撫でさすった。我が妹は、まさしく、気後れし、畏まっている。そして、我が兄たちの裾の端を涙と共につかんだ。その間に、我は寝台の上へ上り、着替えた。我は寝台の上にいる。
- 4858 家の妹、我が悪妹は喜びながら、二つの水滴、三つの水滴を用い、良い煮炊きを懸命におこなった。暫くすると、鍋が煮え、それを下ろした。そして、高盛りの飯を我に差し出した。我が兄たちは、まことに怒っているようではあるが、空腹であるものであるから、御馳走を受け取って食べている。ニソルンサンタ、我が妹も、高盛りの飯が差し出されると、まことに喜びの表情を浮かべ、食べている。家の妹、我が悪妹も、まことに、空腹であるものであるから、大きな高盛りの飯をみずから用意した。
- 4895 食事の合間に、悪戯をしたことを思い出して、笑いをこらえているようであり、陰へ向きを変えて、微かな笑い、忍び笑いをしているように思われた。我も、長い間、我が兄たちが心を悩ませて、無駄な神への祈りをし、列の端でひどく怒り、激しく怒ったことを思い出すと、密かな笑い、密かな笑みを浮かべたが、我もまた、我が悪妹たちの振る舞いが本当のことであると思ひ、涙と共に憐れんだことを思い返すと、ひどく悔しく、大いに悔しく思った。
- 4932 どのように、今では、クシナパウンマツ、我が妹も、悪戯を思い返しているだろうか。そして、家の妹の振る舞いとどのように、笑いをこらえているに違いないと思うと、我も笑いそうになった。我らは美味しい食物を食べた。
- 4950 我が伯父、我が伯母は長い間、この館の上手の館を留守にしていた。そこで、今は煙を立たせるために、この館の上手の館の神の中に入ったように思われた。
- 4964 食事の最中に、様々なことを二つ、三つと我は思い返した。一刻も早く、再び僅かな酒を醸して、新しい獲物でも、捕えて、再び、我が親族の人々を集め、人間のおこない、神のおこないは、このようにあるものであるから、結婚しようとする者たちは早く結婚させたい。我も、ニソルンサンタウンマツ、我が妹と早く一緒になって、神の住まいで暮らし、ニソルンサンタの我が伯母に孝行したいと、心の中で決意した。我は陰で笑みを浮かべた。
- 鳥の羽毛を着た者、年少の我が兄が、決してあのような悪行をしなければ、今こそは、我が兄のように思い、勇者で心強く、頭領で心強く思うのであろうが、と我は思い、二つの暗い心、三つの暗い心を抱いた。
- 4998
- 食事が終了し、暫くすると、我が兄たちは良い寝床を用意して、横になった。我も、今は、寝床、その寝床の中へ身体を伸ばした。我は夜着の小袖の裾の上を足でねじり、袖口の上を頭にかぶせた。家の妹は、神の如き刺繍衣、夜着の小袖の豊んであるものを取り出した。そして、左座に良い寝床を美しく用意して、そこに、ニソルンサンタウンマツ、我が妹を寝かせた。右座の掛け竿の下で、家の妹、我が妹は金の枕、その枕を用意して横になった。
- 5013
- 我らは一人残らずひどく疲れているものであるから、大勢で、鼾をかく声が響くかのようなのである。我が兄たちと我が妹たちは、鼾を長く続けている。我も、今こそは、寝床の中で、穏やかな眠り、良い眠りに包まれた。ここまで。
- 5050

第1章 神の住まい

1.1 養育と成長

p. 1

- 1 a-keusutu
ア・ケウストゥ
我・伯父
我が伯父と
- 2 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母が
- 3 shisak^{*1} chiresu
シサ燐 チレス
またとない 育てられる
比類なき養育、
- 4 kamui chiresu
カムイ チレス
神 育てられる
神の如き養育を
- 5 i-y-ekarkar wa
イ・イエカ燐カ燐 ワ
我・する (接続)
我に施して、
- 6 ramma kane
ラ燐マ カネ
いつも (程度)
いつも
- 7 katkor kane
カ燐コ燐 カネ
振舞う (程度)
変わりなく
- 8 okai-an
オカイ・アン
いる・我ら
我らは暮らしていた。
- 9 tam boro chise
タ燐 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 10 aman emboki
アマン エ燐ボキ
梁 下
梁の下は
- 11 chiibiyere
チイビイエレ
すきまなく
隙間なく
- 12 kamui kor be
カムイ コ燐 ベ
神 持つ もの
神宝で
- 13 a-etomtekar
ア・エト燐テカ燐
飾り立てられる
輝いている。
- 14 rorunso ba ta
ロルンソ バ タ
上座 上 (場所)
上座の上には
- 15 taban iyoikir
タバ ン イヨイキ燐
この 宝列
宝物の列があり、
- 16 kani shintoko
カニ シントコ
黄金 ほかい
金の行器、
- 17 yayan shintoko
ヤヤン シントコ
普通の ほかい
並の行器と
- 18 kani shuyop
カニ シュヨ燐
黄金 箱
金の箱、
- 19 yayan shuyop
ヤヤン シュヨ燐
普通の 箱
並の箱が
- 20 urutkoboye
ウル燐コボイエ
入り交じる
入り混じっている。
- 21 ram besh kunne
ラ燐 ベ燐 クンネ
低い 崖 ように
それらは低い崖のように
- 22 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
伸びている。
- 23 kurkashike
ク燐カシケ
表面
その周囲は
- 24 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 25 eshimaka
エシマカ
輝く
輝いている。
- 26 enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 (場所)
それらの上の方には
- 27 nishpa mut be
ニ燐パ ム燐 ベ
長者 差す もの
長者の帯びる刀があり、
- 28 otu san atu
オトゥ サン アトゥ
二つの くだる 紐
二つの房、
- 29 ore san atu
オレ サン アトゥ
三つの くだる 紐
三つの房が
- 30 chieunruke
チエウンルケ
整列する
付いている。
- 31 tusa ran busa
トゥサ ラン ブサ
(不明) 下がる 房
その垂れた房は
- 32 suipa kane
スイパ カネ
揺する (程度)
ゆらゆら揺れている。
- 33 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 34 a-uwesuye kane
ア・ウウエスイエ カネ
我・思う (程度)
好ましく思った。
- 35 ikit tukari
イキ燐 トゥカリ
列 手前
宝列の手前に
- 36 chituye amset
チトゥイエ ア燐セ燐
切れた 寝台
仕切られた寝台、
- 37 kani amset
カニ ア燐セ燐
黄金 寝台
金の寝台が
- 38 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
伸びている。
- 39 amset okari
ア燐セ燐 オカリ
寝台 まわりに
寝台の周囲には
- 40 sep pirankani
セ燐 ピランカニ
幅広い 平金
幅広の平金が
- 41 chiekarpare
チエカ燐バレ
巻かれる
巻き付けてある。
- 42 pirankani kurka
ピランカニ ク燐カ
平金 上
平金の表面は
- 43 tu kani moreu
トゥ カニ モレウ
二つの 黄金 モレウ紋
二つの渦巻き模様、
- 44 re kani moreu
レ カニ モレウ
三つの 黄金 モレウ紋
三つの渦巻き模様で
- 45 chietomte
チエト燐テ
輝いている
輝いている。
- 46 kurkashike
ク燐カシケ
表面
その周囲は

^{*1} shisak の a は後から書き加えられている。

- 47 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 48 eshimaka kane
エシマカ カネ
輝く (程度)
輝いている。
- 49 nei amset kurka
ネイ ア營セ爛 ク爨カ
(繫辞類) 寝台 上
その寝台の上で
- 50 a-i-y-eresu
ア・イ・イエレス
我・育てられる
我は育てられた。
- 51 kani so kurka
カニ ソ ク爨カ
黄金 平面 上
金の床の表面は
- 52 kotesnataru
コテ燕ナタラ
平らになっている
なめらかに広がっている。
- 53 makun sopa
マクン ソバ
奥にある 座の上
奥の座の上は
- 54 horabaye
ホラバイエ
低くなる
低くなり、
- 55 sanke soba
サンケ ソバ
出す 上座
手前の座の上は
- 56 komaknataru
コマ燗ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 57 kani inumbe
カニ イヌ營ベ
黄金 炉縁
金の炉縁木が
- 58 baye ruwe konna
バイエ ルウェ コンナ
行く 様子 こそ
伸びる様子は
- 59 tonnataru
トンナタラ
光っている
照り輝いている。
- 60 shiso sam ta
シソ サ營 タ
右座 側 (場所)
右座の傍らにある
- 61 iyoikir kesh wa
イヨイキ燗 ケ燕 ワ
宝列 末端 (接続)
宝列の端から、
- 62 kani matchuyop
カニ マ燗チュヨ
黄金 女持ちの手箱
金の女持ちの手箱の
- 63 boro ikiri
ボロ イキリ
大きい 列
大きな列が
- 64 uturun shikkeu
ウトゥルン シ燗ケウ
火尻座 隅
下座の隅まで
- 65 chieushi
チエウシ
とどく
届いている。
- 66 nei kotchake
ネイ コ燗チャケ
(繫辞類) 前
その手前には
- 67 kani mukru
カニ ム燗ル
黄金 枕
金の枕が
- 68 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
置かれている。
- 69 enkashike ta
エンカシケ タ
離れた上 (場所)
その上には、
- 70 nekona shiko p
ネコナ シコ 灘
どのように 生まれる もの
如何なる 生まれの者、
- 71 nekona baro p
ネコナ バロ 灘
どのように 口がついている もの
如何なる 育ちの者が
- 72 tekekar kuni p
テケカ煖 クニ 灘
手ずからに作る すべき もの
拵えたもの
- 73 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だろ う か
であるうか、
- 74 kani chikirbe
カニ チキ燗ベ
黄金 刺繡衣
金の刺繡衣、
- 75 kamui chikirbe
カムイ チキ燗ベ
神 刺繡衣
神の如き刺繡衣があり、
- 76 rikun kakenchai
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
上方の衣桁
- 77 ram kakenchai
ラ營 カケンチャイ
心 掛け竿
下方の衣桁が
- p. 2
78 eereweuse
エエレウエウセ
しなる
撓んでいる。
- 79 kurkashike
ク燗カシケ
表面
その周囲は
- 80 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュ燗キ
二つの 神 光
二つの神光、
- 81 re kamui chupki
レ カムイ チュ燗キ
三つの 神 光
三つの神光で
- 82 uweshimaka
ウウエシマカ
盛んに光る
輝いている。
- 83 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 84 a-uwesuye
ア・ウウエスイエ
我・思う
好ましく思った。
- 85 oshisoun
オシソウン
右座へ
右座にいる
- 86 a-keusutu
ア・ケウストゥ
我・伯父
我が伯父と
- 87 a-kor unarbe
ア・コ燗 ウナ煖ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 88 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き
- 89 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 様子
美しい様子
- 90 okai wa
オカイ ワ
ある (接続)
であり、
- 91 unankurka-
ウナク燗カ・
互いの顔の上
お互いに輝いた表情を
- 92 otom kane
オト營 カネ
輝く (程度)
して、
- 93 urorewak
ウロレワ燗
並ぶ
上手に座っている。
- 94 hoka etok ta
ホカ エト燗 タ
炉 前方 (場所)
囲炉裏の手前には
- 95 kamuiotobush newa
カムイオトブ燗 ネワ
(人名) と
カムイオトブシと
- 96 ponyayepirika
ボンヤイエピリカ
(人名)
ボンヤイエピリカ、
- 97 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちがおり、
- 98 inkinebe
インキネベ
どちら
どちらも
- 99 shiretok ot ta
シレット燗 オ燗 タ
美貌 所 (場所)
容貌において、

- 100 shibopke ot ta
シボ織ケ オ爛 タ
着る物 所 (場所)
衣装において、
- 101 urabokkari wa
ウラボ織カリ ワ
優劣がある (接続)
優劣がある
- 102 okai nankor a
オカイ ナンコラ ア
ある だろう か
ものであろうか。
- 103 arobittano
アロビ爛タノ
すべて
いづれも
- 104 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金 小袖
金の小袖を身に着けており、
- 105 kotbar ka ta
コ爛バ燻 カ タ
襟元 上 (場所)
袖口の上にも
- 106 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 (場所)
裾の上にも、
- 107 sep pirankani^{*2}
セ織 ピランカニ
幅広い 平金
幅広の平金が
- 108 chiekarpare p
チエカ燻バレ 織
巻かれる もの
巻き付けてあるものを
- 109 nena imi ne
ネナ イミ ネ
(不明) 着物 (繫辞類)
無造作に
- 110 arutomechiupa
アルトメチウパ
身に着ける
着ている。
- 111 uwok kani kut
ウウォ燻 カニ クト
引っかけりあう 黄金 帯
留め金のある帯を
- 112 tumamkosaipa
トゥマ燻コサイバ
胴に巻く
胴に巻き、
- 113 kamui ranke tam
カムイ ランケ タ燻
神 下ろす 刀
神受の刀で
- 114 etembokkonna-
エテ燻ボ織コンナ・
脇の下
腕の下が
- 115 chashnatarpa
チャ燻ナタ燻バ
清い
きらびやかである。
- 116 kani pon kasa
カニ ボン カサ
黄金 小さい 笠
金の小さな兜、
- 117 kasa rantubep
カサ ラントゥベ織
笠 垂れた紐
その兜の下げ紐で
- 118 eyaisannankashi-
エヤイサンナンカシ・
自らの顔の上
顔が
- 119 yuppa kane
ユヅパ カネ
締める (程度)
引き締まっている。
- 120 kasa kepsam ta
カサ ケ織サ燻 タ
笠 端 (場所)
兜の端から
- 121 kamui sannanuhu
カムイ サンナヌフ
神 顔
神の如き顔が見え、
- 122 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
両者とも
- 123 komaknatara
コマ燻ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 124 inerokbe kusu
イネロ燻ベ クス
何と (理由・目的)
何と
- 125 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 126 pirika kashpa ruwe
ピリカ カ燻バ ルウェ
よい 甚だしい 様子
美しい様子
- 127 okai nankor a
オカイ ナンコラ ア
ある だろう か
であることが。
- 128 a-eyaikiror-
ア・エヤイキロ燻・
我・自ら嬉しく
我は嬉しく
- 129 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (程度)
思った。
- 130 oharkisoun
オハ燻キソウン
左座から
左座には
- 131 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹がおり、
- 132 pon matkachi
ボン マ燻カチ
小さい 少女
幼い少女は
- 133 keshto an ko
ケ燻ト アン コ
毎日 ある (条件)
毎日、
- 134 erorun euturun wa
エロルン エウトウルン ワ
上座の方へ 下座の方へ (起点)
上座へ下座へと
- 135 yayuinako-
ヤユイナコ・
自ら灰を
灰を
- 136 batu kane
バトウ カネ
跳ね飛ばす (程度)
跳ね飛ばし、
- 137 yayuinako-
ヤユイナコ・
自ら灰を
灰を
- 138 chari kane
チャリ カネ
散らす (程度)
まき散らしている。
- 139 uina tum beka
ウイナ トゥ燻 ベカ
灰 中 で
灰の中で
- 140 koi kor
コイ コ燻
波 持つ
波を起こす
- 141 apkor kane
ア燻コ燻 カネ
かのように (程度)
かのようにして、
- p. 3*
- 142 yaiturashinot
ヤイトウラシノ爛
自ら遊ぶ
みずから遊んでいる。
- 143 eyayomina-
エヤヨミナ・
自ら笑う
可笑しげな
- 144 ushi kane yakka
ウシ カネ ヤ燻カ
する (程度) (譲歩)
様子ではあるが、
- 145 wen ruwe ne
ウェン ルウェ ネ
悪い 様子 (繫辞類)
「良くないことだ」
- 146 ari hene
アリ ヘネ
(引用) も
ということ
- 147 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
我が兄たちも
- 148 a-keusutu hene
ア・ケウストウ ヘネ
我・伯父 も
我が伯父も、
- 149 a-kor unarbe hene
ア・コ燻 ウナ燻ベ ヘネ
我・持つ 伯母 も
我が伯母も

*2 この語の前に shi と書かれているが線で抹消されている。

- 150 haweokai ka
ハウエオカイ カ
言う も
言うことも
- 151 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
せずに、
- 152 keshto
ケ燕ト
毎日
毎日、
- 153 a-kor unarbe
ア・コ燗 ウナ燗ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 154 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
良い煮炊きを
- 155 koyairikta-
コヤイリ燗タ・
おのれより高く
かいいいしく
- 156 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (程度)
おこなった。
- 157 hoshkiruino
ホシキルイノ
先に
先に
- 158 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
高盛りの飯を
- 159 kar ko
カ燗 コ
作る (条件)
つくると、
- 160 ireshu yubi
イレシュ ユビ
養育する 兄
育ての兄は
- 161 shikankitai-
シカンキタイ・
自らの頭の上
みずからの上に
- 162 eimek ani
エイメ燗 アニ
食事を出す 手に持つ
載せて、
- 163 i-koibuni
イ・コイブニ
我・食事を出す
我に差し出した。
- 164 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹と
- 165 a-ukohenkotpa kor
ア・ウコヘンコ燗バ コ燗
我ら・互いにならず (同時)
我はうなずき合いながら、
- 166 ibe
イベ
食事する
妹は食事をした。
- 167 kunne an ko
クンネ アン コ
夜 ある (条件)
夜になると、
- 168 uina tum wa
ウイナ トゥ管 ワ
灰 中 (起点)
妹は灰の中から
- 169 matkosanu wa
マ燗コサヌ ワ
さっと立ち上がる (接続)
跳び出して、
- 170 a-kor unarbe
ア・コ燗 ウナ燗ベ
我・持つ 伯母
我が伯母の
- 171 upsoroho
ウ燗ソロホ
内部
懐へ
- 172 korauoshma ranke
コラウオ燗マ ランケ
下方へ入る (反復)
駆け込んだ。
- 173 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燗カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 174 naa oar pon-an
ナア オア燗 ボン・アン
まだ 全く 小さい・我
まだ幼かったが、
- 175 eashka
エア燗カ
ほんとうに
まさしく
- 176 pirika-an kotom ne
ピリカ・アン コト管 ネ
美しくある ようである (繫辞類)
美しい様子であるらしく、
- 177 i-pishkanike
イ・ピ燗カニケ
我・周囲
我が周囲は
- 178 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光で
- 179 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
輝いている。
- 180 okutchi urar
オク燗チ ウラ燗
たちこめる 霧
濃い霧、
- 181 urar tumu
ウラ燗 トゥム
霧 中
その霧の中に
- 182 a-yayomare kane
ア・ヤヨマレ カネ
我・自ら入れる (程度)
我は包まれている。
- 183 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 184 shirika nuye
シリカ ヌイエ
表面 彫り刻む
宝刀の鞘を彫ること、
- 185 kebushe nuye
ケブ燗ベ ヌイエ
鞘 彫り刻む
宝器を彫ることに
- 186 kokipshiriechiupa
コキ燗シリエチウバ
集中する
集中している。
- 187 ineap kusu
イネア燗 クス
何と (理由・目的)
何と
- 188 ashkai wa
ア燗カイ ワ
上手である (接続)
上手で
- 189 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ ア
する だろう か
あることか。
- 190 tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神 形
兄たちは二つの神の形象、
- 191 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神 形
三つの神の形象を
- 192 uwatorepa
ウワトレバ
連ねる
連ねている。
- 193 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 194 a-uwesuye kane
ア・ウエスイエ カネ
我・思う (程度)
好ましく思った。
- 195 tu shukup ram kuru
トゥ シュク燗 ラ管 クル
二つの 成長する 心 影
我は二つの若さ、
- 196 re shukup ram kuru
レ シュク燗 ラ管 クル
三つの 成長する 心 影
三つの若さを
- 197 a-unoshpare
ア・ウノ燗バレ
我・追いかけあう
競わせるように成長した。
- 198 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 199 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹
- 200 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燗カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 201 ineap kusu
イネア燗 クス
何と (理由・目的)
何と
- 202 shukubashnu wa
シュクバ燗ヌ ワ
よく成長する (接続)
成長した

- 203 iki nankor a
イキ ナンコラ
する だろう か
ことであろうか。
- 204 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
しばらくすると、
- 205 boro boro kane
ボロ ボロ カネ
大きい 大きい (程度)
大きく成長した。
- 206 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 (繫辞類) (理由・目的)
そして、今は
- 207 menoko shiripo
メノコ シリポ
女 容姿
すっかり女性の
- 208 aruwoshmare
アルウォオマレ
備える
姿になった。
- 209 shinot numatpo
シノ爛 ヌマ爛ポ
遊び 胸紐
肌着の結び紐を
- 210 rikoraye kane
リコライエ カネ
高く押しやる (程度)
締め上げるようになった。
- 211 eashka
エアアカ
ほんとうに
妹はまさしく、
- p. 4*
- 212 urar kusu
ウラ燐 クス
霧 (理由・目的)
霧のために、
- 213 imeru kusu
イメル クス
光 (理由・目的)
光のために、
- 214 a-nukar poka
ア・ヌカ燐 ポカ
我・見る さえ
見ることさえも
- 215 ewen kane
エウエン カネ
よくない (程度)
できない。
- 216 usa ashkai wa
ウサ アスカイ ワ
(譲歩) 上手である (接続)
また、何と器用で
- 217 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ
する だろう か
あることか。
- 218 karkar kuni p
カ燐カ燐 クニ 瀧
作る するべきもの
妹が作ったものは
- 219 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ ネ
二つの 神 雲 (繫辞類)
二つの神雲となって、
- 220 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ ネ
三つの 神 雲 (繫辞類)
三つの神雲となって
- 221 yayebumpa
ヤイエフ管バ
立ちのぼる
立ち昇る。
- 222 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 223 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
好ましく思った。
- 224 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 225 ene shiriki i
エネ シリキ イ
このように そのような有様である こと
兄たちのすることを
- 226 a-ikoisampa
ア・イコイサ管バ
我・真似る
真似て、
- 227 kebushbe nuye
ケブ燐ベ ヌイエ
鞘 彫り刻む
宝器を彫ること、
- 228 shirika nuye
シリカ ヌイエ
表面 彫り刻む
宝刀の鞘を彫ることに
- 229 a-kokipshiriechui
ア・コキシシリエチウ
我・集中する
集中した。
- 230 shino ashkai-an
シノ アスカイ・アン
まことに 上手である・我
まことに我は器用であり、
- 231 tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神 形
二つの神の形象、
- 232 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神 形
三つの神の形象を
- 233 a-uwatore
ア・ウワトレ
我・連ねる
連ねた。
- 234 yaikota
ヤイコタ
自分で
みずから
- 235 a-kar be ne koroka
ア・カ燐 ベ ネ コロカ
我・作る もの (繫辞類) (逆接)
作ったものではあるが、
- 236 eashka
エアアカ
ほんとうに
我はまことに
- 237 a-ekirooran
ア・エキロロアン
我・喜ぶ
嬉しく思った。
- 238 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 239 tekkakipo
テ燐カキポ
かざした手
手を
- 240 rikunruke
リクンルケ
高くかざす
高くかざし、
- 241 raunrukepa
ラウンルケパ
低くかざす
低くかざし、
- 242 a-kar be
ア・カ燐 ベ
我・作る もの
我が作った物の
- 243 kurkashike
クルクシケ
表面
表面を
- 244 uwampare
ウワ管バレ
見て調べる
見回した。
- 245 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
兄たちはあたりまえに
- 246 erayap kuni p
エラヤ燐 クニ 瀧
感心する するべき もの
感心するもの
- 247 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燐ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば
- 248 kotom korkaiki
コト管 コ燐カキキ
ようである (逆接)
さであろうが、
- 249 arorkeshne
アロ燐ケ燐ネ
ひそかに
密かに
- 250 shietuina
シエトゥウイナ
自らの鼻を押さえる
鼻を押さえ、
- 251 shibaruina kane
シバルイナ カネ
自らの口を抑える (程度)
口を押さえ
- 252 i-tukarikepo
イ・トゥカリケポ
我・手前へ
我的手前へ
- 253 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を
- 254 attepa kane
ア燐テパ カネ
立てる (程度)
落とした。

1.2 親族と酒宴

- 255 keshto ramma
ケ燕ト ラ誓マ
毎日 いつも
毎日そのように
- 256 okai-an awa
オカイ・アン アワ
いる・我 (展開)
私たちは暮らしていたが、
- 257 shinean to ta
シネアン ト タ
とある 日 (場所)
ある日、
- 258 a-keusutu
ア・ケウストゥ
我・伯父
我が伯父の
- 259 kutsamkonna-
ク爛サ誓コンナ・
喉の側
喉の傍らが
- 260 uwetunuisse^{*3}
ウエトゥヌイセ
美しく響く
響き、
- 261 itak hawe
イタ燐 ハウエ
言う 声
伯父が言うことは
- 262 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このようであった。
- 263 koninkar kusu
コニンカ燐 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 264 kamui a-matkarku
カムイ ア・マ爛カ燐ク
神 我・姪
神の如き我が姪よ、
- 265 itak-an chiki
イタ燐・アン チキ
言う・我 (条件)
我が話すから
- 266 nu yan
ヌ ヤン
聞く (命令)
聞きなさい。
- 267 tane bakno
タネ バ燐ノ
今 まで
今まで、
- 268 a-karku utari hene
ア・カ燐ク ウタリ ヘネ
我・甥 人々 も
我が甥達も
- 269 eani hene
エアニ ヘネ
汝 も
汝も
- 270 a-reshpa wa
ア・レ燐バ ワ
我・育てる (接続)
育てて、
- 271 kamui renka i ne
カムイ レンカ イ ネ
神 意向 こと (繫辞類)
神の意向により、
- 272 tap korachi
タ燐 コラチ
これ ように
このように
- 273 nisashnu shikup
ニサ燐ヌ シク燐
元気である 成長する
健やかな成長を
- 274 echi-ki ruwe
エチ・キ ルウエ
汝ら・する 様子
汝らは遂げた。
- p. 5
- 275 shino
シノ
まことに
まことに
- 276 a-enubetne
ア・エヌベ燐ネ
我・喜ぶ
我は嬉しく
- 277 ruwe ne
ルウエ ネ
様子 (繫辞類)
思う。
- 278 tam be kusu
タ誓 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで
- 279 tanepo konna^{*4}
タネポ コンナ
たった今 こそ
今は、
- 280 nekona tapne
ネコナ タ燐ネ
どのように これである
我と汝らはどのように
- 281 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
お互いに
- 282 shinrit kor be
シンリ燐 コ燐 ベ
出自 持つ もの
祖先を持つ者
- 283 a-ne ruwe
ア・ネ ルウエ
我・(繫辞類) 様子
である
- 284 echi-ne ruwe
エチ・ネ ルウエ
汝ら・である 様子
のであろう
- 285 okai ya
オカイ ヤ
ある (疑問)
か。
- 286 pon tonotopo
ボン トノトポ
小さい 酒
そこで、少しの酒を
- 287 a-shikupka wa
ア・シク燐カ ワ
我・醸す (接続)
醸して、
- 288 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燐
我・人々 人々
我が一族の人々、
- 289 tuima okai ike hene
トゥイマ オカイ イケ ヘネ
遠い ある こと も
遠くにいる者も、
- 290 hanke okai ike hene
ハンケ オカイ イケ ヘネ
近い ある こと も
近くにいる者も
- 291 arobittano
アロビ爛タノ
すべて
一人残らず
- 292 a-tak wa
ア・タ燐 ワ
我・招く (接続)
招待しよう。そして、
- 293 pirika iku
ピリカ イク
よい 酒を飲む
良い飲酒、
- 294 keran ibe
ケラン イベ
おいしい 食事する
美味しい食事、
- 295 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
その食事の最中に、
- 296 shinrit tutanu p
シンリ燐 トウタヌ 燐
出自 継ぐ もの
我は先祖を継ぐ者、
- 297 ekash tutanu p
エカ燐 トウタヌ 燐
先祖 継ぐ もの
祖先を継ぐ者
- 298 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 299 nep ubashkuma
ネ燐 ウバ燐クマ
何 言い伝え
何か言い伝えを
- 300 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
我は語り、
- 301 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燐
我・人々 人々
我が一族の人々と
- 302 turanno
トゥランノ
ともに
共に、
- 303 echi-bashkuma-an
エチ・バ燐クマ・アン
汝ら・言い伝える・我
汝らに語り伝える

^{*3} tunuisu と書かれているが tunuise と解釈する。

^{*4} konno と書かれているが konna と解釈する。

- 304 kusu ne na
クス ネ ナ
(理由・目的) (繋辞類) ぞ
つもりだ。
- 305 soi ta soine wa
ソイ タ ソイネ ワ
家の外 (場所) 外出する (接続)
外に出て、
- 306 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燵
我・人々 人々
我が一族の人々を
- 307 nishuk wa
ニシュ燵 ワ
頼る (接続)
招き、
- 308 haru kesh boka
ハル ケ燵 ボカ
食物 末端 さえ
食物の残りでも
- 309 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
あるならば
- 310 rapte wa sanke
ラプテ ワ サンケ
下ろす (接続) 出す
降ろして出し、
- 311 shuiba kunak
シュイバ クナ燵
醸す (引用)
煮炊きをして
- 312 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
くれないか。」
- 313 ari hawash chiki
アリ ハワ燵 チキ
(引用) 言われる (条件)
伯父がこのように言うと、
- 314 ineap kusu
イネア燵 クス
何と (理由・目的)
何と
- 315 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は
- 316 itaknu wa
イタ燵ヌ ワ
言葉を聞く (接続)
言い付けを聞く
- 317 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ ア
する だろう か
ことであろうか。
- 318 pirika itak
ピリカ イタ燵
よい 言う
良い言葉、
- 319 itak etoko
イタ燵 エトコ
言う 前方
その言葉を聞いてすぐに
- 320 shino
シノ
まことに
まことに
- 321 nubetne tura
ヌベ燵ネ トウラ
喜ぶ とともに
喜びながら
- 322 ehobuni
エホブニ
起き上がる
起き上がった。
- 323 chisoinaraiiba
チソイナライバ
外へ出る
妹は外へ出て、
- 324 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外にある櫓、
- 325 yakura kurka
ヤクラ ク燵カ
櫓 上
その櫓の上に
- 326 chieashi
チエアシ
立つ
立った。
- 327 yaikotanpake
ヤイコタンパケ
自らの村の上
妹はみずからの村の上手、
- 328 yaikotankesh
ヤイコタンケ燵
自らの村の下手
みずからの村の下手へ
- 329 eshikiru
エシキル
向きを変える
向って、
- 330 tapne tapne
タプネ タプネ
これである これである
このような
- 331 nei katu
ネイ カトゥ
(繋辞類) かたち
次第であることを
- 332 ehotuiba
エホトゥイバ
叫ぶ
叫んだ。
- 333 ineap kusu
イネア燵 クス
何と (理由・目的)
何と
- 334 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燵
我・人々 人々
我が一族の人々は
- 335 uitaknu wa
ウイタ燵ヌ ワ
言うことを聞く (接続)
言うことを聞く
- 336 hawash nankor a
ハワ燵 ナンコラ ア
言われる だろう か
ことであろうか。
- 337 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繋辞類) (条件)
しばらくすると
- 338 kotan*⁵ utur
コタン ウトゥ燵
村 間
村の間で、
- 339 ratchi
ラ燵チ
穏やかな
穏やかに
- 340 ainu itak hau
アイヌ イタ燵 ハウ
人間 言う 声
人間の話す声が
- 341 chiutasare
チウタサレ
入り乱れる
入り混じって聞こえた。
- 342 moyotek nishpa
モヨテ燵 ニ燵パ
少ない 長者
選りすぐりの長者、
- 343 moyotek katkemat utar
モヨテ燵 カ燵ケマ燵 ウタ燵
少ない 婦人 人々
選りすぐりの婦人方が
- p. 6*
- 344 shiaworaipa*⁶
シアウォライパ
家の中に入る
家の中へ入ってきた。
- 345 a-kor unarbe
ア・コ燵 ウナ燵ベ
我・持つ 伯母
我が伯母
- 346 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤカカ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (譲歩)
も、
- 347 nubetne tura
ヌベ燵ネ トウラ
喜ぶ とともに
喜びながら
- 348 chirikibuni
チリキブニ
起き上がる
立ち上がり、
- 349 chisoinaraiiba
チソイナライバ
外へ出る
外へ出た。
- 350 iwan kutomap
イワン クトマ燵
六つの 縄のかかったかます
六つの縄付きの樽を
- 351 ebuikare
エブイカレ
倉から出す
倉から出し、
- 352 a-tureshi tura
ア・トゥレシ トウラ
我・妹 とともに
我が妹と共に
- 353 utar kotcha
ウタ燵 コ燵チャ
人々 前
人々の前へ

*⁵ この語の後に un と書かれているが線で抹消されている。

*⁶ shiaoraipa と書かれているがこのように解釈する。

- 354 ehobumpa
エホブ管バ
立ち上がる
並べた。
- 355 sake shuiba p
サケ シュイバ 瀧
酒 醸す もの
酒を醸す者、
- 356 iyuta kuni p
イユタ クニ 瀧
白をつく するべき もの
白でつく者、
- 357 wakka ta kuni p
ワ燐カ タ クニ 瀧
水 (場所) するべき もの
水を汲む者が
- 358 utomtaterke
ウト管タ燐ケ
ぶつかり合う
ぶつかり合う。
- 359 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 360 eashka
エア燐カ
ほんとうに
まさしく
- 361 nubetne kuni p
ヌベ燐ネ クニ 瀧
喜ぶ するべき もの
喜び、
- 362 kosanchaotta-
コサンチャオ燐タ・
口元で
口元に
- 363 minaba kane
ミナバ カネ
笑う (程度)
笑みを浮かべて
- 364 utomohosarpa
ウトモホサ燐バ
顔を見合わせる
顔を見合わせている。
- 365 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 366 eashka
エア燐カ
ほんとうに
まさしく
- 367 nubetne-an
ヌベ燐ネ・アン
喜ぶ・我
嬉しく思った。
- 368 nekona shiko p
ネコナ シコ 瀧
どのように 生まれる もの
我は如何なる生まれの者
- 369 a-ne
ア・ネ
我・(繫辞類)
である
- 370 ruwe ne wa
ルウェ ネ ワ
様子 (繫辞類) (接続)
のか、
- 371 a-keusutu
ア・ケウストウ
我・伯父
我が伯父が
- 372 haweokai chiki
ハウエオカイ チキ
言う (条件)
話すというので、
- 373 hetak ta
ヘタ燐 タ
さあ (強調)
早く
- 374 usa sake pirika wa
ウサ サケ ビリカ ワ
(譲歩) 酒 よい (接続)
酒も美味しくして、
- 375 nekona shiko p
ネコナ シコ 瀧
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者であろう、
- 376 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燐
我・人々 人々
我が一族の人々、
- 377 tuima okai ike
トゥイマ オカイ イケ
遠い ある こと
遠くにいる者、
- 378 hanke okai ike
ハンケ オカイ イケ
近い ある こと
近くにいる者に
- 379 a-nukar hemem ki
ア・ヌカ燐 ヘメ管 キ
我・見る も する
我は会いたい。
- 380 utashpa kane
ウタ燐バ カネ
互いに (程度)
そして、お互いに
- 381 a-shinrichi
ア・シンリチ
我・先祖
我らの出自を
- 382 a-eraman wa
ア・エラマン ワ
我・知る (接続)
理解して、
- 383 uwenubetne-an
ウウェヌベ燐ネ・アン
喜ぶ・我
共に喜びたい
- 384 okai ari
オカイ アリ
ある (引用)
ものだと
- 385 yainu-an kane
ヤイヌ・アン カネ
考える・我 (程度)
我は考えた。
- 386 konep tap
コネ燐 タ燐
何 これ
如何なるものに
- 387 a-tekehe
ア・テケヘ
我・手
我が手が
- 388 kere wa
ケレ ワ
触れる (接続)
触れるというのが、
- 389 inne utar
インネ ウタ燐
大勢である 人々
大勢の者たちが
- 390 utomtaterke
ウト管タ燐ケ
ぶつかり合う
ぶつかり合う。
- 391 inauni tuiba p hene
イナウニ トウイバ 瀧 ヘネ
木幣にする木 切る もの も
木幣にする木を切る者も
- 392 utomtaterke
ウト管タ燐ケ
ぶつかり合う
ぶつかり合う。
- 393 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
しばらくすると、
- 394 iwan shintoko
イワン シントコ
六つの ほかい
六つの行器が
- 395 ror a-oraipa
ロ燐 ア・オライバ
上座 移動させられる
上座に据えられた。
- 396 tutko kane
トゥツコ カネ
二日 (程度)
二日、
- 397 rerko kane
レ燐コ カネ
三日 (程度)
三日と
- 398 shiran ko
シラン コ
有様である (条件)
時が流れると、
- 399 kamui ku rusui be
カムイ ク ルスイ ベ
神 飲む (欲求) もの
神が飲みたいと願うもの、
- 400 kamui e rusui be
カムイ エ ルスイ ベ
神 食べる (欲求) もの
神が食べたいと願うもの
- 401 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 402 kamui tonoto
カムイ トノト
神 酒
神の如き酒、
- 403 pirika tonoto
ビリカ トノト
よい 酒
良い酒の
- 404 pirika hura mawehe
ビリカ フラ マウェヘ
よい 匂い 風
良い香りが
- 405 chise upsoroho
チセ ウ燐ソロホ
家 内部
家の中に
- 406 eetushnatki
エエトゥ燐ナ燐キ
満ちる
充滿した。

- 407 orowano sui
オロワノ スイ
(始点) 再び
それからまた、
- p. 7
- 408 moyo okkayo
モヨ オ燻カヨ
わずかの 男
選りすぐりの男性、
- 409 moyotek menoko utar
モヨテ燻 メノコ ウタ燻
少ない 女 人々
選りすぐりの女性たちが
- 410 shiaworaipa
シアウオライパ
家の中に入る
家の中に入ってきた。
- 411 inauke kuni p
イナウケ クニ 燻
木幣を削る するべき もの
木幣を削る者は
- 412 inauke
イナウケ
木幣を削る
木幣を削り、
- 413 inumpa kuni p
イヌンパ クニ 燻
絞る するべき もの
酒を漉す者は
- 414 ukoichari-
ウコイチアリ・
共に苳
お互いに苳を
- 415 bashte kane
バシテ カネ
走らせる (程度)
走らせた。
- 416 inauke sash hum
イナウケ サシ フ燻
木幣を削る 喉音を立てる 音
木幣を削る音、
- 417 inumpa sash hum
イヌンパ サシ フ燻
絞る 喉音を立てる 音
酒を漉す音が
- 418 uwobuk humi
ウウォブ燻 フミ
混じり合う 音
響き
- 419 kosashnatara
コサシナタラ
響く
渡った。
- 420 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 421 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
好ましく思った。
- 422 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今こそ
今は始めて、
- 423 inauke-an shiri hene
イナウケ・アン シリ ヘネ
木幣を削る・我 様子 も
我らが木幣を削る様子も
- 424 a-nukara
ア・ヌカラ
我・見る
見た。
- 425 ineap kusu
イネア燻 クス
何と (理由・目的)
何と
- 426 a-keusutu hene
ア・ケウストウ ヘネ
我・伯父 も
我が伯父も
- 427 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
我が兄たちも
- 428 a-utari utar hene
ア・ウタリ ウタ燻 ヘネ
我・人々 人々 も
我が一族の人々も
- 429 inauke eashkai wa
イナウケ エアシカイ ワ
木幣を削る できる (接続)
木幣削りが上手で
- 430 shiriki nankor a
シリキ ナンコラ ア
そのような有様である だろう か
あることか。
- 431 kepa inau
ケパ イナウ
削る 木幣
削った木幣は
- 432 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ ネ
二つの 神 雲 (繫辞類)
二つの神雲となって、
- 433 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ ネ
三つの 神 雲 (繫辞類)
三つの神雲となって
- 434 yayebumpa
ヤイエブンパ
立ちのぼる
立ち昇った。
- 435 kurkashike
クカシケ
表面
その周囲は
- 436 retar imeru
レタ燻 イメル
白い 光
白光で
- 437 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
輝いている。
- 438 eashka
エアシカ
ほんとうに
まさしく
- 439 a-erasasu
ア・エラマス
我・好ましく思う
我は好ましく思い、
- 440 a-erayap kane
ア・エラヤ燻 カネ
我・感心する (程度)
感嘆しながら
- 441 iyoroinkar-an
イヨロインカ燻・アン
見物する・我
見ていた。
- 442 inne utar
インネ ウタ燻
大勢である 人々
大勢の人々は
- 443 chise oshke
チセ オシケ
家 中
家の中を
- 444 chashnurepa
チャシヌレパ
片付ける
清め、
- 445 hushko inau
フシコ イナウ
以前 木幣
古い木幣を
- 446 soi a-o
ソイ ア・オ
家の外 我・入れる
外に出し、
- 447 nusa pake
ヌサ パケ
幣柵 上手
幣柵の束へ
- 448 a-orura
ア・オルラ
我・運ぶ
運んだ。
- 449 ashiri inau
アシリ イナウ
新しい 木幣
新しい木幣は
- 450 chise upsoroho
チセ ウシロホ
家 内部
家の中に
- 451 a-etomtekara
ア・エトテカラ
美しく飾られる
飾られた。
- 452 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 453 chise upsoro
チセ ウシロ
家 内部
家の中には
- 454 retar urar
レタ燻 ウラ燻
白い 霧
白い霧が
- 455 eetushnatki
エエトゥシナトキ
満ちる
充滿した。
- 456 tumuke
トゥムケ
中
その中で、
- 457 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 458 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
輝いている。
- 459 iku-an kuni
イク・アン クニ
酒を飲む・我 するべき
我らは酒宴ができる

- 460 korachi
コラチ
ように
ように
- 461 etoko a-oiki
エトコ ア・オイキ
前方 我・炊事する
準備をおこなった。
- 462 ireshpa eshinki
イレ燕バ エシンキ
育てる 疲れる
養育に疲れた
- 463 shiri okai
シリ オカイ
様子 ある
様子である
- 464 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父、
- 465 a-kor unarbe
ア・コ燗 ウナ燗ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は、
- 466 tane anakne
タネ アナ燗ネ
今 は
今は
- 467 shino
シノ
まことに
まことに
- 468 ramushinne
ラムシンネ
安心する
安心した
- 469 korachi
コラチ
ように
ようであり、
- 470 shino
シノ
まことに
まことに
- 471 nubetnepa
ヌベ燗ネバ
喜ぶ
喜んでいる。
- 472 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父は
- 473 kamui imoma
カムイ イモマ
神 宝壇
神の如き宝壇、
- 474 imoma ka wa
イモマ カワ
宝壇 上 (起点)
その宝壇の上から
- 475 kani karauto
カニ カラウト
黄金 唐櫃
金の唐櫃を
- 476 shikoetaye
シコエタイエ
自ら引き寄せる
引き出した。
- 477 iwan ikin ne
イワン イキン ネ
六つの 列 (繫辞類)
そして、六重に
- 478 chishina atuhu
チシナ アトゥフ
縛られる 紐
結ばれた紐を
- 479 ukaebita
ウカエビタ
解きほくす
ほどき、
- p. 8
- 480 iwan ikin ne
イワン イキン ネ
六つの 列 (繫辞類)
六列に
- 481 uworush shuyop
ウウォル燕 シュヨ瀧
重なる 箱
並んだ箱の
- 482 kankamubi
カンカムビ
覆い
覆いを
- 483 koetursere
コエトゥスセレ
落とす
取り払った。
- 484 nekon ne shiri
ネコン ネ シリ
どのように (繫辞類) 様子
どうしたこと
- 485 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だらう か
であろうか、
- 486 boro chise
ボロ チセ
大きい 家
大きな家の
- 487 upsoroho
ウソロホ
内部
中は
- 488 makkosampa
マ燗コサ燗バ
輝く
明るく輝いた。
- 489 kanak okai be
カナ燗 オカイ ベ
何 ある もの
何かの
- 490 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 光
神光が
- 491 mike mike
ミケ ミケ
輝く 輝く
きらりと光り、
- 492 shikayekaye
シカイエカイエ
何度も光る
ぴかりと光った。
- 493 inkar-an ko
インカ燗・アン コ
見る・我 (条件)
我が見ると、
- 494 a-shiketoko
ア・シケトコ
我・目先
我が目の前は
- 495 koraikosampa
コライコサ燗バ
蒼ざめる
真っ白になった。
- 496 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 497 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金 小袖
金の小袖があり、
- 498 kotbar ka ta
コ燗バ燗 カ タ
襟元 上 (場所)
袖口の上にも
- 499 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 (場所)
裾の上にも
- 500 sep birankani
セ瀧 ビランカニ
幅広い 平金
幅広の平金が
- 501 chiekarpare
チエカ燗パレ
巻かれる
巻き付けてある。
- 502 tabup ka wa
タブ瀧 カ ワ
肩 上 (接続)
小袖の肩口から
- 503 ratki etor
ラ燗キ エト燗
垂れ下がる 木鈴
垂れ下がった木鈴が、
- 504 imi noshkike
イミ ノ燕キケ
着物 真中
着物の中ほどで
- 505 chikoetuipa
チコエツイバ
切られる
切り揃えられている。
- 506 imi noshki wa
イミ ノ燕キ ワ
着物 真中 (起点)
着物の中程から
- 507 ratki etor
ラ燗キ エト燗
垂れ下がる 木鈴
垂れ下がった木鈴が、
- 508 imi chinki
イミ チンキ
着物 裾
着物の裾まで
- 509 chikoesaipa kane
チコエサイバ カネ
連なる (程度)
連なっている。
- 510 kurkashike
ク燗カシケ
表面
その周囲は
- 511 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュ瀧キ
二つの 神 光
二つの神光、

- 512 re kamui chupki
レ カムイ チュヰキ
三つの神光
三つの神光で
- 513 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
輝いている。
- 514 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 515 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
好ましく思った。
- 516 uwok kani kut hene
ウウオ燐 カニ ク燐 ヘネ
引っかかりあう 黄金 帯 も
留め金のある帯も、
- 517 kamui ranke tam
カムイ ランケ タ燐
神 下ろす 刀
神受の刀も、
- 518 kani tum wa
カニ トゥ燐 ワ
黄金 中 (起点)
黄金の中から
- 519 a-busu
ア・ブス
押し出される
出てきたものの
- 520 apkor kane
ア燐コ燐 カネ
かのように (程度)
よう
- 521 okai be
オカイ ベ
ある もの
であり、
- 522 shirika tanne-
シリカ タンネ・
表面 長く
刀の鞘は長く
- 523 teshpa kane
テ燐バ カネ
反らせる (程度)
反っている。
- 524 shirika ka ta
シリカ カ タ
表面 上 (場所)
鞘の表面には、
- 525 pon kanna kamui
ボン カンナ カムイ
小さい 上方の 神
小さな雷神、
- 526 umurek kamui
ウムレ燐 カムイ
夫婦 神
夫婦の神が
- 527 usaikonoiba
ウサイコノイバ
縮み合う
からまり合っている。
- 528 binne kamui
ビンネ カムイ
雄 神
男性の神の
- 529 seppa rar kan
セ燐バ ラ燐 カン
鍔 縁 上
鍔の縁の上は
- 530 kokiraurikikur-
コキラウリキク燐・
角を高く
角が高く
- 531 bumpa kane
プ燐バ カネ
上げる (程度)
持ち上がっている。
- 532 matne kamui
マ燐ネ カムイ
雌の 神
女性の神は
- 533 konotomare kane
コノトマレ カネ
顎を差し交わす (程度)
それに顎を載せて、
- 534 shiknu kamui ne
シ燐ヌ カムイ ネ
生きている 神 (繫辞類)
生ける神として
- 535 yayewaktepa kane
ヤイエウ燐テパ カネ
自ら居る (程度)
居座っている。
- 536 kani ramrami
カニ ラ燐ラミ
黄金 鱗
金の鱗の
- 537 kurkashike
ク燐カシケ
表面
周囲は
- 538 herkai kane
ヘ燐カイ カネ
光る (程度)
びかりと光り、
- 539 merkot kane
メ燐コ燐 カネ
光る (程度)
きらりと光っている。
- 540 shirika noshki ta
シリカ ノ燐キ タ
表面 真中 (場所)
刀の鞘の中央には
- p. 9*
- 541 kani pon horkeu
カニ ボン ホ燐ケウ
黄金 小さい 狼
金の小さな狼があり、
- 542 kani kishki
カニ キ燐キ
黄金 毛
金の体毛の
- 543 kurkashike
ク燐カシケ
表面
表面が
- 544 komeritanke
コメリタンケ
光る
光っている。
- 545 kosarotuiima-
コサロトゥイマ・
尾を遠く
そして、尾を遠く
- 546 anu kane
アヌ カネ
置く (程度)
伸ばしている。
- 547 shiknu kamui ne
シ燐ヌ カムイ ネ
生きている 神 (繫辞類)
生ける神として
- 548 yayewakte kane
ヤイエウ燐テ カネ
居座る (程度)
居座っている。
- 549 shirika kesh ta
シリカ ケ燐 タ
表面 末端 (場所)
刀の鞘の端には
- 550 satkimotbe
サ燐キモ燐ベ
夏の狐
夏毛の狐がおり、
- 551 kep tontone p
ケ燐 トントネ プ
裸毛 毛の無い もの
毛の抜けた皮を
- 552 tumam kashi ta
トゥマ燐 カシ タ
胴体 上 (場所)
身体の上
- 553 tu kap koiriri
トゥ カ燐 コイリリ
二つの 皮 波
二つの皺の波、
- 554 re kap koiriri
レ カ燐 コイリリ
三つの 皮 波
三つの皺の波として、
- 555 tu sakma kunne
トゥ サ燐マ クンネ
二つの 横木 黒い
二つの横木のように、
- 556 re sakma kunne
レ サ燐マ クンネ
三つの 横木 黒い
三つの横木のように
- 557 chishiturple
チシトゥ燐バレ
自らを伸ばす
伸ばしている。
- 558 bokna nimaki
ボ燐ナ ニマキ
下方の 歯
下の歯茎と
- 559 kanna nirushi
カンナ ニルシ
上方の 歯茎
上の歯茎は
- 560 chiekasure
チエカスレ
凌ぐ
交差している。
- 561 kanna notkewe
カンナ ノ燐ケウエ
上方の 顎
上顎は
- 562 bokna nirushi
ボ燐ナ ニルシ
下方の 歯茎
下の歯茎と
- 563 chiekasure kane
チエカスレ カネ
凌ぐ (程度)
交差している。
- 564 kep ne kisara
ケ燐 ネ キサラ
裸毛 (繫辞類) 耳
毛の抜けた耳、

- 565 kisar etupshi
キサ燠 エトウ濺シ
耳 先端
その耳の先には
- 566 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 567 chiekotpakar
チエコ爛バカ燠
付き垂れている
付いている。
- 568 shik tum konna
シ燠 トウ營 konna
目 中 こそ
目の中央は
- 569 kunaibe etomne
クナイベ エト營ネ
クナイベ色 輝く
クナイベの色をなしている。
- 570 sar motochi
サ燠 モトチ
尾 脊髄
尾の付け根にも
- 571 numa takusa
ヌマ タクサ
毛 束
毛の束が
- 572 chiekote kane
チエコテ カネ
結びついている (程度)
付いている
- 573 am be
ア營 ベ
ある もの
ものが、
- 574 shiknu kamui ne
シ燠ヌ カムイ ネ
生きている 神 (繫辞類)
生ける神として
- 575 yayewakte
ヤイエワ燠テ
居座る
居座っている。
- 576 kabarbe pon kasa
カバ燠ベ ボン カサ
薄造りの物 小さい 笠
薄造りの小さな兜、
- 577 kasa so kashi
カサ ソ カシ
笠 平面 上
その兜の表面には
- 578 ubushne etor
ウブ燠ネ エト燠
群をなす 木鈴
連なった木鈴、
- 579 ubushne tumshi
ウブ燠ネ トウ營シ
群をなす 鎖環
連なった鎖の輪が
- 580 chiekotpakara
チエコ爛バカラ
付けられる
付けられている。
- 581 kurkashike
ク奥カシケ
表面
その上で
- 582 tununitara kane
トゥヌニタラ カネ
美しい音が響く (程度)
美しい音が鳴って
- 583 okai be
オカイ ベ
ある もの
いるものが
- 584 chiukoshina
チウコシナ
互いに縛られる
縛られていた。
- 585 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父は
- 586 i-koturiri kane
イ・コトゥリリ カネ
我・差し出す (程度)
我に手を伸ばし、
- 587 kurkashike
ク奥カシケ
表面
その上で
- 588 itak omare hawe
イタ燠 オマレ ハウエ
言う 入れる 声
言うことは
- 589 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このようであった。
- 590 koninkar kusu
コンニカ燠 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 591 kamui a-karku
カムイ ア・カ燠ク
神 我・甥
神の如き我が甥、
- 592 a-reshu kamui
ア・レシュ カムイ
我・育てる 神
我が育てた神よ、
- 593 itak-an chiki
イタ燠・アン チキ
言う・我 (条件)
話すから
- 594 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く (命令)
よく聞きなさい。
- 595 tap okai
タ濺 オカイ
これ ある
ここにある
- 596 kamui kor be
カムイ コ燠 ベ
神 持つ もの
神宝や
- 597 kamui shibopke p anakne
カムイ シボ燠ケ p アナ燠ネ
神 着る物 もの は
神の如き装束は、
- 598 teeta kane
テエタ カネ
以前 (程度)
昔に
- 599 kanto orowano
カント オロワノ
天 (始点)
天空から、
- 600 kamui orowano
カムイ オロワノ
神 (始点)
神々から
- 601 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 602 shinutapka
シヌタ濺カ
(地名)
シヌタプカの
- 603 bentapkashi
ベンタ濺カシ
頂き
頂きの上に
- 604 a-orapte p ne
ア・オラ濺テ 濺 ネ
降るされる もの (繫辞類)
降るされたもの
- p. 10*
- 605 ruwe tap an
ルウェ タ濺 アン
様子 これ ある
なのだ。
- 606 iyotta pon kuru
イヨ爛タ ボン クル
最も 小さい 人
汝は最も幼い者
- 607 e-ne a yakka
エ・ネ ア ヤカカ
汝・(繫辞類) (完了) (讓歩)
であったが、
- 608 chihoppa itak
チホ濺バ イタ燠
残される 言う
残された言葉、
- 609 shinrit itak
シンリ爛 イタ燠
出自 言う
先祖の言葉は
- 610 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
そのようで
- 611 kone p ne kusu
コネ 濺 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
あったので、
- 612 kamui tutanu kuni p
カムイ トウタヌ クニ 濺 もの
神 継ぐ するべき
神に次ぐ者が
- 613 e-ne wa
エ・ネ ワ
汝・(繫辞類) (接続)
汝であって、
- 614 tap okai be
タ濺 オカイ ベ
これ ある もの
このように
- 615 e-ereshu-an wa
エ・エレシュ・アン ワ
汝・育てる・我 (接続)
汝を育てて、
- 616 tane bakno
タネ バ燠ノ
今 まで
今まで
- 617 a-shikkashima wa
ア・シ燠カシマ ワ
我・見守る (接続)
我は神宝を預かって

- 618 an-an ruwe ne
アナン ルウェ ネ
いる・我 様子 (繫辞類)
きたのだ。
- 619 taban tewano
タブン テワノ
この これから
これからは、
- 620 e-eshibopke kuni p
エ・エシボ激ケ クニ 激
汝・身に着ける するべき もの
汝が身に着けるべきもの
- 621 ne ruwe tab an na
ネ ルウェ タバン ナ あるぞ
(繫辞類) 様子 これ あるぞ
であるぞ。」
- 622 ari hawash chiki
アリ ハワ燕 チキ
(引用) 言われる (条件)
そのように言われると、
- 623 a-konramkonna-
ア・コンラ替コンナ・
我・抱く気持ち
我は心が
- 624 bashkosanu
バシコサヌ
バツと走る
躍った。
- 625 yairenkane
ヤイレンカネ
喜ぶ
喜んで
- 626 a-uk wa
ア・ウ燭 ワ
我・取る (接続)
我は受け取り、
- 627 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高くさしあげる
高くかざし、
- 628 a-raunruke
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
低くかざして
- 629 a-koonkami
ア・コオンカミ
我・拝礼する
拝礼した。
- 630 tata
タタ
ここ
我はいつも
- 631 a-mi kosonte
ア・ミ コソント
我・着る 小袖
着ている小袖を
- 632 a-yaikoare wa
ア・ヤイコアレ ワ
我・脱ぐ (接続)
脱ぎ、
- 633 etor kot imi
エト燭 コ燭 イミ
木鈴 持つ 着物
木鈴の付いた着物を
- 634 a-shikurkasam-
ア・シクカササ替・
我・自らの上
みずからの上に
- 635 obirasa
オピラサ
裾を広げる
広げて
- 636 a-mi
ア・ミ
我・着る
羽織った。
- 637 uwok kani kut
ウウォ燭 カニ ク燭
引っかかりあう 黄金 帯
そして、留め金の付いた帯を
- 638 a-tumamkosaye
ア・トゥマ替コサイエ
我・胸に巻く
身体に巻き付けた。
- 639 kamui ranke tam
カムイ ランケ タ替
神 下ろす 刀
我は神受の刀を
- 640 a-kutbokechiu
ア・ク燭ボケチウ
我・帯に差す
帯に差し、
- 641 kabarbe kasa
カバ燭ベ カサ
薄造りの物 笠
薄造りの物 笠を
- 642 a-kimuirarire
ア・キムイラリレ
我・頭上を押さえる
頭上に載せ、
- 643 kasa rantubep
カサ ラントゥベ替
笠 垂れた紐
兜の下げ紐を
- 644 a-eyaisannanka-
ア・エイヤサンナンカ・
我・自らの顔
顔の上で
- 645 yuppa kane
ユッパ カネ
縮める (程度)
締めた。
- 646 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 647 oar anakne
オア燭 アナ燭ネ
全く は
我は全く
- 648 ainu kat ne
アイヌ カ燭 ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿
- 649 an-an anak
アナン アナ燭
いる・我 は
では
- 650 somo ki noine
ソモ キ ノイネ
(否定) する らしく
ないようである。
- 651 yaikota ne yakka
ヤイコタ ネ ヤ燭カ
自分で (繫辞類) (譲歩)
我は自身に
- 652 yaireka-an
ヤイレカ・アン
自画自賛する・我
感嘆した。
- 653 okutchi urar
オク燭チ ウラ燭
たちこめる 霧
たちこめた霧、
- 654 urar tumu
ウラ燭 トゥム
霧 中
その霧の中に
- 655 a-yayomare kane
ア・ヤヨマレ カネ
我・自ら入れる (程度)
我は身体を入れた。
- 656 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父は
- 657 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖を
- 658 boronno
ボロンノ
たくさん
たくさん
- 659 sanasapte hine
サナサ燭テ ヒネ
取り出す (接続)
取り出し、
- 660 a-yubutari tura
ア・ユブタリ トゥラ
我・兄たち とともに
我が兄たちと共に
- 661 ikueshiyukba
イクエシコ燭バ
酒宴の礼装をする
酒宴の礼装を整えた。
- 662 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
ますます
- 663 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き様子であり、
- 664 pirka kashpa
ピ燭カ カ燭バ
よい 甚だしい
美しさが勝っている。
- 665 a-kor unarbe
ア・コ燭 ウナ燭ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 666 shut ketushi
シュ燭 ケトゥシ
根元 長持ち
先祖伝来の編み袋に

p. 11

- 667 tekkushpare
テ燭ク燭バレ
手を伸ばす
手を通した。
- 668 horkeu kebur
ホ燭ケウ ケブ燭
狼 毛の無い皮
狼の毛の無い皮、
- 669 kani kebur
カニ ケブ燭
黄金 毛の無い皮
金の皮が取り出された。
- 670 kotbar ka ta
コ燭バ燭 カ タ
襟元 上 (場所)
襟の上にも

- 671 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 (場所)
裾の上にも
- 672 sep birankani
セ織 ビランカニ
幅広い 平金
幅広いの平金が
- 673 chiekarpare
チエカ燻バレ
巻かれる
巻き付けてある
- 674 birankani kashi
ビランカニ カシ
平金 上
平金の上には
- 675 chichari etor
チチャリ エト燻
散らばる 木鈴
散らばった木鈴が
- 676 chiekotpa kane
チエコ燻バ カネ
結びついている (程度)
付いている。
- 677 kani shitoki
カニ シトキ
黄金 胸飾り
金の円盤、
- 678 shitoki kurka
シトキ ク燻カ
胸飾り 上
その円盤の上は
- 679 tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神 形
二つの神の形象、
- 680 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神 形
三つの神の形象で
- 681 chietomte
チエト燻テ
輝いている
輝いている。
- 682 kani tamasai
カニ タマサイ
黄金 胸飾り
金の首飾りは
- 683 iwan ikin ne
イワン イキン ネ
六つの 列 (繫辞類)
六十の列となって
- 684 chierikinte
チエリキンテ
上げられる
積み重なる。
- 685 shirokani ninkari
シロカニ ニンカリ
白銀 耳飾り
銀の耳飾り、
- 686 konkani ninkari
コンカニ ニンカリ
黄金 耳飾り
金の耳飾りが
- 687 chiekote kane
チエコテ カネ
結びついている (程度)
付いている。
- 688 kamui chibanup
カムイ チバヌ織
神 冠り物
神の如き鉢巻、
- 689 kani chibanup
カニ チバヌ織
黄金 冠り物
金の鉢巻も
- 690 koeun kane
コエウン カネ
存在する (程度)
付いている。
- 691 sanasapte
サナサ燻テ
取り出す
伯母はそれを取り出して
- 692 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹に
- 693 etomtekar
エト燻テカ燻
輝かせる
身に着けさせた。
- 694 mashkin teta
マッシュキン テタ
ますます ここで
ますます、
- 695 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は
- 696 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き様子
- 697 okai
オカイ
ある
である。
- 698 a-kor unarbe
ア・コ燻 ウナ燻ベ
我・持つ 伯母
我が伯母
- 699 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤカカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 700 chikup shiyuk
チク燻 シユ燻
酒宴 装う
酒宴の礼装を
- 701 uwechiure
ウエチウレ
重なり合う
身に着けた。
- 702 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 703 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き様子
- 704 okai
オカイ
ある
である。
- 705 tap orowa
タプ オロワ
これ (始点)
それから、
- 706 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父は
- 707 shino bawetok
シノ バウエト燻
まことに 雄弁
まことの雄弁家を
- 708 ekeshne uitek
エケッシュネ ウイテ燻
あちらこちら 使う
あちらこちらへと使い立てした。
- 709 sambutunkuru
サンプトゥンクル
(人名)
サンプトゥンクルは
- 710 turesh turanno
トゥレッシュ トゥランノ
妹 ともに
妹と共に、
- 711 kushnabaunkuru
クッシュナバウンクル
(人名)
クシナバウンクルは
- 712 turesh turanno
トゥレッシュ トゥランノ
妹 ともに
妹と共に、
- 713 moisamunkuru
モイスアムンクル
(人名)
モイスアムンクルは
- 714 turesh turanno
トゥレッシュ トゥランノ
妹 ともに
妹と共に、
- 715 shiribenaunkuru
シリベナウンクル
(人名)
シリベナウンクルは
- 716 turesh turanno
トゥレッシュ トゥランノ
妹 ともに
妹と共に、
- 717 tunibokunkuru
トゥニボクンクル
(人名)
トゥニボクンクルは
- 718 turesh turanno
トゥレッシュ トゥランノ
妹 ともに
妹と共にやって来た。
- 719 tapne tapne
タプネ タプネ
これである これである
「このような次第
- 720 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 721 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 こそ
今は
- 722 shinrit⁷ chise ta
シンリツ チセ タ
出自 家 (場所)
先祖の家で

- 723 pon tonotopo
ボン トノトボ
小さい 酒
僅かな酒を
- 724 a-shikupka wa
ア・シク瀧カ ワ
我・醸す (接続)
我らは醸して
- 725 tanekuran
タネクラン
今夜
今晚は
- 726 a-ekamuinomi na
ア・エカムイノミ ナ
我・神に祈る ぞ
それで神に祈ろう。
- 727 nohankeno
ノハンケノ
近くに
近くに
- 728 chikoshirepa
チコシレパ
到着する
お出で
- p. 12*
- 729 i-y-ekarkar wa
イ・イエカ煖カ煖 ワ
我・する (接続)
頂いて、
- 730 kamuinomi wa
カムイノミ ワ
神へ祈る (接続)
神への祈りをして
- 731 i-kore kunak
イ・コレ クナ燐
我・与える (引用)
くれ
- 732 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ないか。」
- 733 ari toop
アリ トオ瀧
(引用) ずっと遠く
そのようにずっと、
- 734 ekeshne
エケ燕ネ
あちらこちらへ
あちらこちらへと
- 735 yutar sonko kor be
ユタ煖 ソンコ コ燐 ベ
知らせる 伝言 持つ もの
知らせると、
- 736 itak etokoho
イタ燐 エトコホ
言う 前方
人々は言葉を聞いてすぐに
- 737 ehobuni
エホブニ
起き上がる
起き上がり、
- 738 chisoinaraiipa
チソイナライパ
外へ出る
外へ出た。
- 739 kamui nishka
カムイ ニスカ
神 上空
そして、天空へ
- 740 korikoshma
コリコ燕マ
飛び上がる
昇り、
- 741 oman hum konna
オマン フ營 コンナ
行く 音 こそ
その音が
- 742 keurototke
ケウロト燐ケ
響く
鳴り響いた。
- 743 utar kor kuni p
ウタ煖 コ燐 クニ 瀧
人々 持つ するべき もの
我は親族を持つもの
- 744 a-ne ari
ア・ネ アリ
我・(繫辞類) (引用)
であると
- 745 hawash koroka
ハワシ コロカ
言われる (逆接)
言われたが、
- 746 naa moyo p hene
ナア モヨ 瀧 ヘネ
まだ わずかの もの も
まだもっと少ないもの
- 747 ne kuni
ネ クニ
(繫辞類) するべき
だと
- 748 a-ramu rokwa
ア・ラム ロ燐ワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 749 aponko
アポンコ
たくさん
これほど多く
- 750 utarkor-an hawe
ウタ煖コ燐・アン ハウエ
親族を持つ・我 声
親族がいるのだと
- 751 a-nu chiki
ア・ヌ チキ
我・聞く (条件)
我は聞いて、
- 752 eashka
エア燐カ
ほんとうに
まことに
- 753 a-kon ram konna
ア・コン ラ營 コンナ
我・持つ 心 こそ
我が心は
- 754 yuknatara
ユ燐ナタラ
強固になる
強くなった。
- 755 sonno ne wa
ソンノ ネ ワ
真に (繫辞類) (接続)
本当に
- 756 ramoshi wano
ラモシ ワノ
心の底 から
心の底から
- 757 nubetne-an kane
ヌベ燐ネ・アン カネ
喜ぶ・我 (程度)
我は嬉しく思った。
- 758 amset kurka
ア營セ燐 ク燐カ
寝台 上
寝台の上に
- 759 an-ehorari
アネホラリ
我・居る
我はいた。
- 760 ponno
ボンノ
少し
しばらく
- 761 shiran tek ko
シラン テ燐 コ
時がたつ ちよっとする (条件)
すると、
- 762 uweomanno
ウエオマンノ
次々と
徐々に
- 763 kamui nishka ta
カムイ ニスカ タ
神 上空 (場所)
天空から
- 764 kamui arki hum
カムイ ア煖キ フ營
神 来る 音
神々がやって来る音が
- 765 keurototke
ケウロト燐ケ
響く
鳴り響いた。
- 766 tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
ともに 神 風
それに伴う神風、
- 767 chashi kar be
チャシ カ煖 ベ
チャシ 当たる もの
柵に当たる風は
- 768 kosebepatki*⁸
コセバ燐キ
ばたばたと鳴る
ばたばたと鳴り、
- 769 toyan kar be
トヤン カ煖 ベ
地面 当たる もの
地面に当たる風は
- 770 koturimimse
コトゥリミ營セ
響き渡る
鳴り響いた。
- 771 uweomanno
ウエオマンノ
次々と
徐々に
- 772 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外にある櫓、

*⁷ shinrit の n は後から書き加えられている。*⁸ kosebepatke と書かれているがこのように解釈する。

- 773 yakura ka un
ヤクラ カ ウン
櫓 上 (方向)
その櫓の上へ
- 774 kamui rap humi
カムイ ラ瀧 フミ
神 降りる 音
神々が降りる音が
- 775 rimnatara
リ響ナタラ
ドスンと響く
鳴り渡った。
- 776 chise sam ka ta
チセ サ響 カ タ
家 側 上 (場所)
家の側の上で、
- 777 senne moyono
センネ モヨノ
(否定) 少なく
大勢の
- 778 kanak okai be
カナ燐 オカイ ベ
誰 ある もの
神々が
- 779 apkash humi
ア瀧カ燕 フミ
歩く 音
歩く音が
- 780 tunash kane
トゥナ燕 カネ
早い (程度)
速く鳴った。
- 781 okkayo sama
オ燐カヨ サマ
男 そば
男の方は
- 782 tumpa maikan
トゥ響バ マイカン
鐸 音
刀の鐸の音が
- 783 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
鳴り響き、
- 784 menoko sama
メノコ サマ
女 そば
女の方は
- 785 upsor ikor
ウ瀧ソ燐 イコ燐
内部 宝物
懐中の宝物が
- 786 kotununatki
コトゥヌナ燐キ
鳴る さえ
鳴り響いた。
- 787 mosem tuyor
モセ響 トウヨ燐
玄関納屋 中
そして、玄関の納屋に
- 788 eshikirpa
エシキ燐バ
回す
回ってきた。
- p. 13
789 uweomanno
ウウェオマンノ
次々と
徐々に
- 790 taban chikutkesh
タバ ン チク燐ケ燕
この 咳払い
咳払いの声、
- 791 beure⁸⁹ chikutkesh
ベウレ チク燐ケ燕
若い 咳払い
若々しい喉の音が
- 792 chimaknaraipa
チマ燐ナライバ
奥へ押しやる
奥まで聞こえ、
- 793 chiokanimai-
チオカニマイ・
金属の響き
金の音が
- 794 kotpa kane
コ燐バ カネ
付く (程度)
響くかのである。
- 795 ratki aba
ラ燐キ アバ
垂れ下がる 簾戸
垂れ下がった簾戸を
- 796 chimoirechaka
チモイレチャカ
遅く開ける
ゆっくりと開け、
- 797 mintar ka ta
ミンタ燐 カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に
- 798 kanak okai be
カナ燐 オカイ ベ
誰 ある もの
何者かが
- 799 uoshi uoshi
ウオシ ウオシ
順に 順に
次々と
- 800 rutkosampa
ル燐コサ響バ
押し入る
入ってきた。
- 801 imeru kusu
イメル クス
光 (理由・目的)
光のために、
- 802 urar kusu
ウラ燐 クス
霧 (理由・目的)
霧のために
- 803 a-nukar poka
ア・ヌカ燐 ボカ
我・見る さえ
我は見ることも
- 804 ewen kane
エウエン カネ
よくない (程度)
できない。
- 805 tan inne kuni p
タン インネ クニ 瀧
この 大勢である するべき もの
大勢の人々を覆う霧を
- 806 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に、
- 807 tu urar ikkeu
トゥ ウラ燐 イ燐ケウ
二つの 霧 元
二つの霧の中心、
- 808 re urar ikkeu
レ ウラ燐 イ燐ケウ
三つの 霧 元
三つの霧の中心を
- 809 a-kocharpa
ア・コチャ燐バ
我・散らす
我は目で散らした。
- 810 naani tu sui
ナアニ トウ スイ
まさに 二つの 回
二度、
- 811 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三度そうしたが、
- 812 obittano
オビ燐タノ
皆
全く
- 813 ainu kat ne
アイヌ カ燐 ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿を
- 814 a-kar eaikap kane
ア・カ燐 エアイカ瀧 カネ
我・する できない (程度)
見定めることができない。
- 815 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 816 naa rupne utar hene
ナア ル瀧ネ ウタ燐 ヘネ
まだ 大きい 人々 も
まだまだと成長した人々のことを
- 817 a-ye hawe
ア・イエ ハウエ
言われる 声
言っているの
- 818 ne kuni
ネ クニ
(繫辞類) するべき
だと
- 819 a-ramu rokwa
ア・ラム ロ燐ワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 820 tam pa teta
タ響 バ テタ
この 年 ここで
今年あたりに
- 821 a-yubutari bakno
ア・ユブタリ バ燐ノ
我・兄たち まで
我が兄たちと同じ程度に
- 822 shikup okkaipo utar
シク瀧 オ燐カイボ ウタ燐
成長する 男の子 人々
成長した少年たちである。
- 823 a-yubutari tura
ア・ユブタリ トウラ
我・兄たち とともに
我が兄たちと共に、

⁸⁹ beire と書かれているがこのように解釈する。

- 824 shine shine
シネ シネ
一つの 一つの
同じ
- 825 shibopke
シボ激ケ
着る物
装束や
- 826 shine imut
シネ イム爛
一つの 腰に差す
同じ佩刀を
- 827 ukoturpa kane
ウコトウ燧バ カネ
長く伸ばし合う (程度)
しており、
- 828 utapkurka-
ウタ激ケ燧カ・
互いの肩
肩を並べ
- 829 rarpa kane
ラ燧バ カネ
おさえる (程度)
合っている。
- 830 hoshkino ahum be
ホシキノ アフ管 ベ
先に 入る もの
先に入ってきた者は
- 831 yairamu
ヤイラム
自ら思う
みずからの考え
- 832 iki a yakka
イキ ア ヤ燧カ
する (完了) (譲歩)
ではあるが、
- 833 a-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
いわゆる
- 834 sambutunkuru
サ管プトゥンクル
(人名)
サンプトゥンクル
- 835 an-ekotomka p
アネコト管カ 灘
似つかわしい もの
のようである。
- 836 oshi ahum be
オシ アフ管 ベ
後から 入る もの
後から入ってきた者は
- 837 kushnabaunkuru
ク燧ナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル
- 838 an-ekotomka p
アネコト管カ 灘
似つかわしい もの
のようである。
- 839 oshi sui
オシ スイ
後から 再び
後からまた
- 840 utarpa batek
ウタ燧バ バテ燧
首領 のみ
頭領ばかり、
- 841 rametok batek
ラメト燧 バテ燧
勇者 のみ
勇者ばかりが
- 842 senne moyono
センネ モヨノ
(否定) 少なく
大勢で
- 843 shiaworaipa
シアウォライパ
家の中に入る
中へ入ってきた。
- 844 inkinebe
インキネベ
どちら
いずれの人々も
- 845 shiretok ot ta
シレト燧 オ爛 タ
美貌 所 (場所)
容貌において、
- 846 shibopke ot ta
シボ激ケ オ爛 タ
着る物 所 (場所)
衣装において、
- 847 rametok ot ta
ラメト燧 オ爛 タ
勇者 所 (場所)
勇敢さにおいて
- 848 urabokkari wa
ウラボ燧カリ ワ
優劣がある (接続)
優劣が
- p. 14*
- 849 shiran nankor a
シラン ナンコラ ア
有様である だろう か
- 850 arobittano
アロビ爛タノ
すべて
一人残らず
- 851 uneno korachi
ウネノ コラチ
同じ ように
同じように、
- 852 rametok ibor
ラメト燧 イボ燧
勇者 顔色
勇者の顔色が
- 853 eibottumu-
エイボ爛トゥム・
顔色
異彩を
- 854 shinnai kane
シンナイ カネ
違う (程度)
放っている。
- 855 harkiso ne
ハ燧キノ ネ
左座 (繫辞類)
左座に
- 856 uoshiohi
ウオシオシ
次々と
次々と、
- 857 niwen chinikan-
ニウェン チニカン・
猛々しい 脚の上
威勢よく股を
- 858 turpa kane
トゥ燧バ カネ
伸ばす (程度)
伸ばして入ってきた。
- 859 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 860 pom menoko utar orke
ポ管 メノコ ウタ燧 オ燧ケ
小さい 女 人々 所
少女たちは
- 861 urar kusu
ウラ燧 クス
霧 (理由・目的)
霧のために、
- 862 imeru kusu
イメル クス
光 (理由・目的)
霧のために
- 863 a-nukar boka
ア・ヌカ燧 ボカ
我・見る さえ
見ることも
- 864 ewen kane
エウェン カネ
よくない (程度)
できない様子
- 865 okai be
オカイ ベ
ある もの
である。
- 866 iku eshiyukba p
イク エシユ燧バ 灘
酒を飲む 身につける もの
酒宴の礼装をした者は
- 867 mashkin teta
マ燧キン テタ
ますます ここで
ますます、
- 868 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どのように
- 869 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる こと も
賞賛することも
- 870 oarar isamba p
オアラ燧 イサ管バ 灘
全く 無い もの
できないほど美しい。
- 871 kani boshtoko
カニ ボ燧トコ
黄金 小さな行器
そして、金の小さな行器を
- 872 eshisembir-
エシセ管ビ燧・
自らの陰
みずからの陰に
- 873 ampa kane
ア管バ カネ
持つ (程度)
持って
- 874 okai be
オカイ ベ
ある もの
いる者の
- 875 tobaha
トバハ
群れ
集団が
- 876 uweomanno
ウウェオマンノ
次々と
徐々に

- 877 tonchikamani
トンチカマニ
入り口の敷居
敷居を
- 878 yayoikarbare
ヤヨイカ燠バレ
自ら跨ぐ
跨いで入ってきた。
- 879 oribak ruiba p
オリバ燠 ルイバ 灘
畏まる 激しい もの
とても畏まっているもの
- 880 kone p ne kusu
コネ 灘 ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 881 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繋辞類)
一斉に
- 882 mintar ka ta
ミンタ燠 カ タ
土間 上 (場所)
土間の上で
- 883 shinu kane
シヌ カネ
膝行する (程度)
両手をついて
- 884 reye kane
レイエ カイエ
這う (程度)
這いながら
- 885 ahup
アフ灘
入る
入ってきた。
- 886 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 887 inne utar
インネ ウタ燠
大勢である 人々
大勢の人々が
- 888 okai ot ta
オカイ オ燠 タ
ある 所 (場所)
いる中で、
- 889 shinen shinen
シネン シネン
一人 一人
一人一人が
- 890 yayeibakashnu
ヤイエイバカ燠ヌ
自ら教え諭す
名乗った。
- 891 arukorachi
アルコラチ
同じく
それと同じように、
- 892 mat utar ot ta
マ燠 ウタ燠 オ燠 タ
女 人々 所 (場所)
女性たちも
- 893 shinen shinen
シネン シネン
一人 一人
一人一人が
- 894 yayeibakashnu
ヤイエイバカ燠ヌ
自ら教え諭す
名乗った。
- 895 orowano
オロワノ
(始点)
それから、
- 896 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 897 inneno
インネノ
たくさん
大勢で
- 898 ukirsamerok
ウキ燠サメ口燠
膝を並べて座る
互いに並び、
- 899 arusantek kashi
アルサンテ燠 カシ
両腕 上
両腕の上を
- 900 ukoruiruipa
ウコルイルイパ
共に撫でる
撫でさすった。
- 901 utashpa bakno
ウタ燠バ バ燠ノ
互いに まで
そのお返しに、
- 902 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今 こそ
今あらたに
- 903 unukar itak
ウヌカ燠 イタ燠
会见 言う
再会の言葉を、
- 904 utashpa bakno
ウタ燠バ バ燠ノ
互いに まで
お返しに
- 905 yeba wa
イエバ ワ
言う (接続)
彼らが言うのを
- 906 inu-an chiki
イヌ・アン チキ
聞く・我 (条件)
我が聞くと、
- 907 ineap kusu
イネア灘 クス
何と (理由・目的)
何と
- 908 arobittano
アロビ燠タノ
すべて
人々すべてが
- 909 bawetokkor wa
バウエット燠コ燠 ワ
雄弁を持つ (接続)
雄弁で
- 910 hawash nankor a
ハワ燠 ナンコラ
言われる だろう か
あることが。
- 911 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ燠
驚く 心
我は驚きの気持ちを
- 912 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 913 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 914 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繋辞類) (程度)
並大抵に
- 915 ieoribakpa kuni p
イエオリバ燠バ クニ 灘
それを敬う すべき もの
畏まるもの
- p. 15
- 916 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (条件)
であるならば
- 917 kotom korkaiki
コト燠 コクカイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 918 ikit tukari un
イキ燠 トウカリ ウン
列 手前 (方向)
列の手前で
- 919 ikohebumpa poka
イコヘブ燠バ ボカ
頭を上げる さえ
顔を上げることも
- 920 niukeshpa kane
ニウケ燠バ カネ
しかねる (程度)
出来かねる様子である。
- 921 okkeu ka wa
オクケウ カ ワ
首 上 (接続)
そして、頸の上から
- 922 chininarpare kane
チニナ燠バレ カネ
うつむく (程度)
頭を折り曲げ、
- 923 tekrikikur-
テクリキク燠
手を高く
手を高く
- 924 bumpa kane
ブ燠バ カネ
上げる (程度)
伸ばした。
- 925 tu wan onkami
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 礼拝
そして、二十の拝礼、
- 926 re wan onkami
レ ワン オンカミ
三つの 十の 礼拝
三十の拝礼を
- 927 arukakushpare
アルカク燠バレ
繰り返す
繰り返した。
- 928 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
そうするのを見て、

- 929 ibashte rampo
イハ燕テ ラ營ボ
氣付く 心
我は親愛の気持ちを
- 930 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 931 konep kamuye
コネ灘 カムイェ
何 神
何かの神
- 932 a-ne p korachi
ア・ネ 灘 コラチ
我・(繫辞類) もの ように
である
- 933 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
かのように、
- 934 amset ka ta
ア營セ爛 カ タ
寝台 上 (場所)
我は寝台の上で
- 935 chirikibuni-an
チリキブニ・アン
起き上がる・我
立ち上がり、
- 936 rorunso ka ta
ロルンソ カ タ
上座 上 (場所)
上座の上へと
- 937 renne kema
レンネ ケマ
だるい 足
痺れた足を
- 938 a-turi kane
ア・トゥリ カネ
我・伸ばす (程度)
伸ばした。
- 939 a-tumpa maikan
ア・トゥ營バ マイカン
我・鐸 音
我が鐸の音が
- 940 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
鳴り響いた。
- 941 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我は兄たちの
- 942 kotchake ta
コチチャケ タ
前 (場所)
手前に
- 943 a-an
ア・アン
座る・我
座った。
- 944 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちの
- 945 shinen shinen
シネン シネン
一人 一人
一人一人の
- 946 temkoro
テ營コロ
腕で抱える
腕の中へ
- 947 a-osabaturiri
ア・オサバトゥリリ
我・頭を伸ばす
我は頭を差し出した。
- 948 iki-an chiki
イキ・アン チキ
する・我 (条件)
すると、
- 949 arobittano
アロビ爛タノ
すべて
兄たちは一人残らず、
- 950 kon ram konna
コン ラ營 コンナ
持つ 心 こそ
喜びの
- 951 bashkosampa
バ燕コサ營バ
さっと走る
表情を浮かべた。
- 952 naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
まさに 二つの 回
まさしく二度、
- 953 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三度、
- 954 kasa reubok un
カサ レウボ燐 ウン
笠 下 ある
兜の下にある
- 955 a-kimuikashi
ア・キムイカシ
我・頭上
私の頭上に
- 956 kotekturpa poka
コテ燐トゥ燐バ ボカ
手を伸ばす さえ
手を伸ばすことさえ
- 957 yaikoniukeshpa kane
ヤイコニウケ燕バ カネ
自らしかねる (程度)
出来かねる様子である。
- 958 ikichi koroka
イキチ コロカ
する (逆接)
そうではあるが、
- 959 shinen ranke
シネン ランケ
一人 (反復)
一人ずつ
- 960 a-kimuikashi
ア・キムイカシ
我・頭上
私の頭上に
- 961 kotekturpa
コテ燐トゥ燐バ
手を伸ばす
手を伸ばし、
- 962 i-ruiruye-an
イ・ルイルイェ・アン
我・撫でられる
我は撫でられた。
- 963 utashpa bakno
ウタ燕バ バ燐ノ
互いに まで
そのお返しに、
- 964 arusantekashi
アルサンテ燐カシ
両腕の上
我は彼らの腕の表面を
- 965 a-ukoruiruiba
ア・ウコイルイバ
我・互いに撫でる
撫でさすった。
- 966 mat utar ka ta
マ爛 ウタ燐 カ タ
女 人々 上 (場所)
女性たちも
- 967 inne kuni p
インネ クニ 灘
大勢である するべき もの
大勢である。
- 968 a-kor unarbe
ア・コ爛 ウナ燐バ
我・持つ 伯母
我が伯母、
- 969 chiseta turesh tura
チセタ トゥレ燕 トゥラ
家の 妹 トともに
家の妹と、
- 970 moshma use
モ燕マ ウセ
ほか 並の
他の大勢の
- 971 katkemat utar hene
カチケマ爛 ウタ燐 ヘネ
婦人 人々 も
婦人たちが、
- 972 turanno
トゥランノ
ともに
共に
- 973 uwekap hawe
ウウェカ灘 ハウエ
互いに挨拶する 声
挨拶を交わす声
- 974 roise kane
ロイセ カネ
騒ぐ (程度)
にぎやかである。
- 975 inne tobaha
インネ トバハ
大勢である 群れ
大勢の人々が
- 976 rorunso ka ta
ロルンソ カ タ
上座 上 (場所)
上座の上に
- 977 reye kane
レイエ カネ
這う (程度)
両手をついて
- 978 shinu kane
シヌ カネ
膝行する (程度)
這いながら
- 979 arki hine
ア燐キ ヒネ
来る (接続)
やって来て、
- 980 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちと
- 981 turanno
トゥランノ
ともに
共に、

- 982 a-chinki kese
ア・チンキ ケセ
我・着物の裾 末端
私の裾の端を
- 983 oukoraipa
オウコライバ
掴む
掴んだ。
- 984 yuppo ari
ユポポ アリ
兄 (引用)
そして、兄さんよ、と
- 985 hawe okai koro
ハウエ オカイ コロ
声 ある 持つ
言いながら
- 986 a-santeke
ア・サンテケ
我・前腕
私の腕や
- 987 a-sankokkasapa^{*10}
ア・サンコカサバ
我・膝頭
膝頭を
- p. 16*
- 988 a-i-koruiruipa
ア・イ・コルイルイバ
我・撫でられる
撫でさすった。
- 989 itasa bakno
イタサ バクノ
返す まで
そのお返しに、
- 990 tureshpo ari
トゥレショポ アリ
妹 (引用)
妹よ、と
- 991 haweokai-an kane
ハウエオカイ・アン カネ
言う・我 (程度)
私は言いながら、
- 992 inne
インネ
大勢である
大勢の
- 993 pon menoko utar
ボン メノコ ウタ燐
小さい 女 人々
少女たちの
- 994 kimuikashike
キムイカシケ
頭上
頭上を
- 995 a-koruiruipa
ア・コルイルイバ
我・撫でる
撫でさすった。
- 996 irkur unukar
イルクウ ウンカ燐
親族 会見
親族の再会を
- 997 utashpa kane
ウタシパ カネ
互いに (程度)
お互いに
- 998 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
我らは行い、
- 999 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
安心した。
- 1000 tanne chikupso
タンネ チクシソ
長い 酒宴の座
長い酒宴の座が
- 1001 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
延べられた。
- 1002 chikup so pake
チクシソ ソ パケ
酒宴 平面 上手
酒宴の座の上手、
- 1003 chikupso kese
チクシソ ケセ
酒宴の座 末端
酒宴の座の下手は
- 1004 homar kane
ホマ燐 カネ
かすんでいる (程度)
霞んで見えないほどである。
- 1005 rametok batek
ラメト燐 バテ燐
勇者 のみ
勇者ばかりを
- 1006 a-ubekarokte
ア・ウベカコ燐テ
我・列座させる
我らは並んで座らせた。
- 1007 shintoko oshmake
シントコ オシマケ
ほかい その背後
行器の背後に
- 1008 sambutunkuru
サンプトゥンクル
(人名)
サンプトンクル、
- 1009 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄を
- 1010 a-eainukor
ア・エアイヌコ燐
我・大切に
我は丁寧に
- 1011 a-eare
ア・エアレ
我・座らせる
座らせた。
- 1012 kushnabaunkuru
クシナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 1013 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は
- 1014 yaibekare
ヤイベカレ
向かってくる
対座した。
- 1015 inne kuni p
インネ クニ 燐
大勢である するべき もの
大勢の人々が
- 1016 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たち
- 1017 kone p ne kusu
コネ 燐 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1018 uyaibekare
ウヤイベカレ
自ら寄り添う
お互いに対座している。
- 1019 rametok batek
ラメト燐 バテ燐
勇者 のみ
勇者ばかり、
- 1020 utarpa batek
ウタ燐バ バテ燐
首領 のみ
頭領ばかりが
- 1021 utaberari
ウタバエリ
肩を並べる
肩を並べている。
- 1022 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ燐
驚く 心
我は驚きの心を
- 1023 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 1024 inkinebe
インキネベ
どちら
いずれの者も、
- 1025 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 様子
美しさに
- 1026 urabokkari
ウラボクカリ
優劣がある
優劣は
- 1027 somo ki koroka
ソモ キ コロカ
(否定) する (逆接)
ないが、
- 1028 kushnabaunkuru
クシナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 1029 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は
- 1030 shiretok ot ta
シレット燐 オ燐 タ
美貌 所 (場所)
容貌において、
- 1031 shibopke ot ta
シボシケ オ燐 タ
着る物 所 (場所)
衣装において、

^{*10} asankokkasapa と書かれているが asankokkasapa と解釈する。

- 1032 rametok ot ta
ラメト燧 オ燧 タ
勇者 所 (場所)
勇敢さにおいて
- 1033 areikaun noine
アレイカウン ノイネ
全く勝る らしく
最も優れているように
- 1034 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われた。
- 1035 neino sui
ネイノ スイ
ように 再び
同じように、
- 1036 inne mat utar ot ta
インネ マ燧 ウタ燧 オ燧 タ
大勢である 女 人々 所 (場所)
大勢の女性たちも、
- 1037 inan okai be
イナン オカイ ベ
どの ある もの
いずれの者たちも、
- 1038 urabokkari ruwe
ウラボ燧カリ ルウエ
優劣がある 様子
優劣は
- 1039 shinen ka isam koroka
シネン カ イサ燧 コロカ
一人 も 無い (逆接)
一人としてないのだが、
- 1040 kushnabaummat newa
クシナバウ燧マ燧 ネワ
(人名) と
クシナバウンマツと
- 1041 chiseta turesh
チセタ トウレ燧
家の 妹
家の妹、
- 1042 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹
- 1043 tap eashiri
タ燧 エアシリ
これ それこそ
こそは、
- 1044 tumbish ne wa
トゥ燧ビ燧 ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人揃って
- 1045 ubak shiretok ne
ウバ燧 シレト燧 ネ
対等の 美貌 (繫辞類)
並び立つ容貌であると
- 1046 a-ramu
ア・ラム
我・思う
我は思った。
- 1047 shinnai chikap ne
シンナイ チカ燧 ネ
違う 鳥 (繫辞類)
そして、異なる鳥として、
- 1048 shinnai tori ne
シンナイ トリ ネ
違う 鳥 (繫辞類)
異なる小鳥として、
- 1049 mat utar ka ta
マ燧 ウタ燧 カ タ
女 人々 上 (場所)
女性たちの中に
- 1050 iyeutanne
イイエウタンネ
混じる
混ざっている。
- 1051 an-eyaikiror-
アネヤイキロ燧・
我・自らの力
我はそれを喜ばしく
- 1052 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (程度)
思った。
- 1053 a-keusutu
ア・ケウストゥ
我・伯父
我が伯父は、
- 1054 tane
タネ
今
今や、
- 1055 ene ene
エネ エネ
このように このように
そのように
- 1056 kamuinomi-an
カムイノミ・アン
神に祈る・我
神に祈る
- 1057 kuni i
クニ イ
するべき こと
ことを
- 1058 eikashpaotte kane
エイカ燧バオ燧テ カネ
言い論ず (程度)
指示している。
- p. 17*
- 1059 a-kor chikup shiyuk
ア・コ燧 チク燧 シユ燧
我ら・もつ 酒宴 装う
そして、我らの酒宴の礼装を
- 1060 uwechiure
ウウェチウレ
重なり合う
身に着けている。
- 1061 anipontari
アニボンタリ
酒を注ぐ器
女性たちは酒を注ぐ器を
- 1062 eshiyarbok-
エシヤ燧ボ燧・
自らの脇
小脇に
- 1063 ampa kane
ア燧バ カネ
持つ (程度)
抱え、
- 1064 chikupso utur
チク燧ソ ウトゥ燧
酒宴の座 間
酒宴の座を
- 1065 erututke
エルトゥ燧ケ
行き来する
行き来している。
- 1066 tanepo
タネボ
たった今
今まさに
- 1067 kamuinomi-an
カムイノミ・アン
神に祈る・我
神への祈りが
- 1068 kusu shiriki
クス シリキ
(理由・目的) そのような有様である
始まるころである。

第2章 戦闘

2.1 妹たちの受難

- 1069 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 1070 chiseta turesh newa
チセタ トゥレシ ネワ
家の妹 と
家の妹と
- 1071 kushnabaummat
クシュナバウマツマ
(人名)
クシナバウンマツは
- 1072 tun ne kane
トゥン ネ カネ
二人 (繫辞類) (程度)
二人で、
- 1073 orhem kusu
オラヘム クス
(否定) (理由・目的)
どうした
- 1074 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ ア
する だろう か
ことであろうか、
- 1075 uwemina
ウエミナ
互いに笑う
笑い合って
- 1076 ushi kane
ウシ カネ
する (程度)
いる。
- 1077 utekampa kane
ウテカンプ カネ
互いに手を取る (程度)
そして、手を取り合って
- 1078 chisoinaraipa shiri
チソイナライバ シリ
外へ出る 様子
外へ出ていく様子を
- 1079 inne utar
インネ ウタ煥
大勢である 人々
大勢の人々の
- 1080 enka beka
エンカ ベカ
離れた上 で
上から
- 1081 a-wennukar tek
ア・ウェンヌカ煥 テク
我・よく見る ちよつとする
我はよく見ていた。
- 1082 orowano
オロワノ
(始点)
それから、
- 1083 tane iku heashi
タネ イク ヘアシ
今 酒を飲む 頭を上げる
今や飲酒が始まり、
- 1084 kamuinomi-an yakka
カムイノミ・アン ヤカカ
神に祈る・我 (譲歩)
神への祈りがおこなわれたが、
- 1085 ohonno ohonno
オホンノ オホンノ
しばらく しばらく
暫く
- 1086 shiran yakka
シラン ヤカカ
有様である (譲歩)
しても、
- 1087 nerok a-tureshi utar
ネロク ア・トゥレシ ウタ煥
その 我・妹 人々
我が妹たちは
- 1088 ahup ruwe ka isam
アフヰ ルウェ カ イサ營
入る 様子 も 無い
入って来る様子がない。
- 1089 eashka
エアシャ
ほんとうに
まさしく、
- 1090 wen iyoyamokte
ウェン イヨヤマオクテ
悪い 不思議に思う
我は不思議に
- 1091 a-ki kane
ア・キ カネ
我・する (程度)
思いながら
- 1092 an-an yakka
アナン ヤカカ
いる・我 (譲歩)
いた。
- 1093 inne utar
インネ ウタ煥
大勢である 人々
大勢の人々は
- 1094 okkayo hene
オカカヨ ヘネ
男 も
男性でも
- 1095 menoko utar hene
メノコ ウタ煥 ヘネ
女 人々 も
女性たちでも、
- 1096 shinen ka
シネン カ
一人 も
一人も
- 1097 a-tureshi utar
ア・トゥレシ ウタ煥
我・妹 人々
我が妹たちが
- 1098 soyumpa i
ソヨンプバ イ
外に出る こと
外へ出た様子を
- 1099 nukar be isam be
ヌカ煥 ベ イサ營 ベ
見る もの 無い もの
見た者がいない
- 1100 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ので、
- 1101 shinen ka
シネン カ
一人 も
一人も
- 1102 oyamokte p ka
オヤマオクテ プ カ
オヤモ燐テ 灘 カ
不思議に思う もの も
不思議に思う者が
- 1103 isam
イサ營
無い
いない。
- 1104 ouse aokai
オウセ アオカイ
ただ 我
ただ、我
- 1105 shinen ne batek
シネン ネ バテ燐
一人 (繫辞類) のみ
一人だけが、
- 1106 a-eramam be
ア・エラム營 ベ
我・理解する もの
知っているもの
- 1107 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1108 shinen ne batek
シネン ネ バテ燐
一人 (繫辞類) のみ
我は一人で
- 1109 a-oyamokte kane
ア・オヤマオクテ カネ
我・不思議に思う (程度)
不思議に思いながら
- 1110 an-an awa
アナン アワ
いる・我 (展開)
いたが、
- 1111 hontomo ta
ホントモ タ
途中 (場所)
その最中に、
- 1112 tomisambechi
トミサンベチ
(地名)
トミサンベチの
- 1113 too shi bet etoko
トオ シ ベ燐 エトコ
ずっと遠くへ まことの 川 前方
遥か源流で
- 1114 bushkosanu
ブシュコサヌ
爆音が鳴る
轟音が鳴った。
- 1115 kamui sap humi
カムイ サプ フミ
神 下る 音
そして、神々が降りてくる音が
- 1116 keurototke
ケウロトクテ
響く
鳴り響いた。
- 1117 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、

- 1118 saure rametok
サウレ ラメト燾
たやすい 勇者
並みの勇者が
- 1119 bayekai humi
バイエカイ フミ
行き来する 音
歩き回る音
- 1120 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燾ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 1121 kotom korkaiki
コト管 コ燾カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 1122 shino rametok
シノ ラメト燾
まことに 勇者
まことの勇者が
- 1123 bayekai humi
バイエカイ フミ
行き来する 音
歩き回る音
- 1124 kone p ne kusu
コネ 燾 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1125 tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
ともに 神 風
それに伴う神風が、
- 1126 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
暫くすると
- 1127 an-ewak shiror
アネワ燾 シロ燾
我・住む 場所
我らの住まいに当たり始めた。
- 1128 chashi kar be
チャシ カ燾 ベ
チャシ 当たる もの
柵に当たる風は
- 1129 kosebebatki
コセバ燾キ
鳴る
ばたばたと鳴り、
- p. 18*
- 1130 toyan kar be
トヤン カ燾 ベ
地面 当たる もの
地面に当たる風は
- 1131 koturimimse
コトゥリミ燾セ
響き渡る
鳴り響いた。
- 1132 an-ewak shiror
アネワ燾 シロ燾
我・住む 場所
我が住まいの
- 1133 attom sama
ア燾ト燾 サマ
中 そば
中心へ
- 1134 yayomare p
ヤヨマレ 燾
自らを入れる もの
みずから入って来るもの
- 1135 ne kotom no
ネ コト管 ノ
(繫辞類) ようである (接続)
であるように
- 1136 sap humi okai
サ燾 フミ オカイ
下る 音 ある
吹き下ろしてきた。
- 1137 hontomo ta
ホントモ タ
途中 (場所)
その最中に、
- 1138 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外にある櫓、
- 1139 yakura ka un
ヤクラ カ ウン
櫓 上 (方向)
その櫓の上へ
- 1140 kamui rap humi
カムイ ラ燾 フミ
神 降りる 音
神が降りる音が
- 1141 naikosampa
ナイコサ燾パ
鳴る
鳴り響いた。
- 1142 chise sam ka ta
チセ サ燾 カ タ
家 側 上 (場所)
家の側の上で
- 1143 kanak okai be
カナ燾 オカイ ベ
誰 ある もの
何者かが
- 1144 apkash humi
ア燾カ燾 フミ
歩く 音
歩く音が
- 1145 tunash tunash
トゥナ燾 トゥナ燾
早い 早い
速く聞こえた。
- 1146 okkayo ne yak
オ燾カヨ ネ ヤ燾
男 (繫辞類) (条件)
男性であるならば
- 1147 kotom korkaiki
コト管 コ燾カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 1148 menoko sone
メノコ ソネ
女 らしく
女性であるらしく、
- 1149 upsor ikor
ウ燾ソ燾 イコ燾
内部 宝物
懐中の宝物が
- 1150 kotununatkiba kane
コトゥヌナ燾キバ カネ
響く (程度)
鳴る音がした。
- 1151 mossem tuyor
モセ燾 トウヨ燾
玄関納屋 中
玄関の納屋の中へ
- 1152 eshikirpa
エシキ燾パ
回す
回り、
- 1153 kanak okai be
カナ燾 オカイ ベ
誰 ある もの
何者たちが
- 1154 ratki aba
ラ燾キ アバ
垂れ下がる 簾戸
簾戸を
- 1155 shikantapkurka-
シカンタ燾ク燾カ・
自らの肩の上
肩の上に
- 1156 eshitaiki
エシタイキ
叩きつける
跳ね上げた。
- 1157 mintar ka ta
ミンタ燾 カ タ
土間 上 (場所)
土間の上で
- 1158 kanak okai be
カナ燾 オカイ ベ
誰 ある もの
何者たちが
- 1159 wen kem urar
ウェン ケ燾 ウラ燾
悪い 血 霧
ひどい血の霧を
- 1160 koerachitke
コエラチ燾ケ
垂れ下がる
垂らし、
- 1161 koekomomse
コエコモ燾セ
息を詰まらせる
息も絶え絶えに
- 1162 kane okai be
カネ オカイ ベ
(程度) ある もの
なっている者たちが
- 1163 rutkosampa
ル燾コサ燾パ
押し入る
入ってきた。
- 1164 chikupso kurka
チク燾ソ ク燾カ
酒宴の座 上
酒宴の座は
- 1165 rapkosampa
ラ燾コサ燾パ
沈黙する
静まり返った。
- 1166 nep hawe ka
ネ燾 ハウエ カ
何 声 も
何の声も
- 1167 nep humi ka
ネ燾 フミ カ
何 音 も
何の音も
- 1168 isam
イサ燾
無い
しない。
- 1169 shittoyakan
シ燾トヤ燾カン
地上一帯
周囲は

- 1170 kokishnatara
コキ燕ナタラ
静まる
ひっそりと静かになった。
- 1171 inne utar
インネ ウタ燠
大勢である 人々
大勢の人々
- 1172 turanno
トゥランノ
ともに
と共に、
- 1173 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に
- 1174 aba tuika un
アバ トウイカ ウン
簾戸 上 (方向)
戸口の上へ
- 1175 shine hosarpa
シネ ホサ燠バ
一つの 振り向く
振り向くこと、
- 1176 shine shikirpa
シネ シキ燠バ
一つの 向きを変える
向きを変えることを、
- 1177 a-utapkurka-
ア・ウタ濼ク燠カ・
我・両肩の上
我は
- 1178 eshikirpa
エシキ燠バ
回す
おこなった。
- 1179 inkar-an awa
インカ燠・アン アワ
見る・我 (展開)
我が見ると、
- 1180 seenne nak sui
セエンネ ナ燠 スイ
(否定) (不明) (不明)
よもや
- 1181 shiran kuni
シラン クニ
有様である するべき
そのようなことがあるとは
- 1182 a-ramu rok i
ア・ラム ロ燠 イ
我・思う (完了) こと
思わなかったが、
- 1183 chiseta turesh newa
チセタ トウレ燕 ネワ
家の 妹
家の妹と
- 1184 kushnabaummat
ク燕ナバウ營マ燠
(人名)
クシナパウンマツが
- 1185 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人であり、
- 1186 nekon ne ruwe
ネコン ネ ルウエ
どのように (繫辞類) 様子
どうしたこと
- 1187 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だろう か
であろうか。
- 1188 mi chikirbe
ミ チキ燠ベ
着る 刺繍衣
着ている刺繍衣は
- 1189 a-kobetpabetpa
ア・コベ燠バベ燠バ
幾重にも裂かれる
裂けて
- 1190 a-koyashpayashpa*11
ア・コヤ燕バヤ燕バ
幾重にも破られる
破られている。
- 1191 otu sash bechi
オトゥ サ燠 ベチ
二つの 昆布 裂けた布
二つの裂けた昆布、
- 1192 ore sash bechi
オレ サ燠 ベチ
三つの 昆布 裂けた布
三つの裂けた昆布のようである。
- 1193 bishkanike ta
ビ燠カニケ タ
周囲 (場所)
その身の回りは、
- 1194 otu bepsai ne
オトゥ ベ濼サイ ネ
二つの 毘輪 (繫辞類)
二つの毘輪、
- 1195 ore bepsai ne
オレ ベ濼サイ ネ
三つの 毘輪 (繫辞類)
三つの毘輪のようである。
- 1196 bishkanike
ビ燠カニケ
周囲
その身の回りは、
- 1197 chieshisuipa
チエシスイバ
自ら揺らされる
揺らされ、
- 1198 chierabiprabip kane
チエラビ濼ラビ濼 カネ
幾重にも垂れ下がる (程度)
ぶら下がったようになっている。
- 1199 chitata kewe
チタタ ケウエ
切り刻まれる 身体
切り刻まれた身体、
- p. 19
- 1200 chikeure kewehe
チケウレ ケウエヘ
削られる 身体
削りとられた身体に
- 1201 kem urar
ケ營 ウラ燠
血 霧
血の霧、
- 1202 wen kem rayochi
ウェン ケ營 ラヨチ
悪い 血 虹
ひどい血の虹が
- 1203 koerachitke kane
コエラチ燠ケ カネ
垂れ下がる (程度)
かかっている。
- 1204 rayibor omaba
ライボ燠 オマバ
死相 存在する
そして、死相を浮かべ
- 1205 kane okai wa
カネ オカイ ワ
(程度) ある (接続)
ており、
- 1206 chiseta turesh
チセタ トウレ燕
家の 妹
家の妹は、
- 1207 oshisoun
オシソウン
右座へ
右座の
- 1208 abe teksama
アベ テ燠サマ
火 すくそば
火の側へ
- 1209 koyayosura
コヤヨスラ
身を横たえる
身体を投げ出し、
- 1210 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
横たわった。
- 1211 kushnabaummat
ク燕ナバウ營マ燠
(人名)
クシナパウンマツは
- 1212 oharkisoun wa
オハ燠キシウン ワ
左座から (起点)
左座へ
- 1213 yayosura
ヤヨスラ
自らを投げ出す
身を投げ出し、
- 1214 abe teksam
アベ テ燠サマ
火 すくそば
火の側へ
- 1215 chieshiturikar
チエシトゥリカ燠
自ら伸ばされる
横たわった。
- 1216 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような様子であるのに、
- 1217 koneike tapne
コネイケ タ濼ネ
どこ これである
一体どこに
- 1218 sambe o wa
サ燠ベ オ ワ
心臓 ある (接続)
心臓が付いている
- 1219 haweokai nankor a
ハウエオカイ ナンコラ ア
言う だろう か
というのであろうか。
- 1220 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に

*11 始め akosashpayashpa と書かれたが akoyashpayashpa に訂正されている。

- 1221 shine itak
シネ イタ燧
一つの 言う
同じ言葉を
- 1222 eubaemko-
エウバエ營コ・
口の半分
半ば口を
- 1223 uina kane
ウイナ カネ
取る (程度)
揃えて、
- 1224 nise itak ari
ニセ イタ燧 アリ
力が無い 言う (引用)
力の無い言葉で
- 1225 itak hawe
イタ燧 ハウエ
言う 声
言うことは
- 1226 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このようであった。
- 1227 koninkar kusu
コニンカ燧 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 1228 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
妾らの兄たち、
- 1229 utar orkehe
ウタ燧 オ燧ケヘ
人々 所
その一族が
- 1230 uatte yakka
ウア燧テ ヤ燧カ
大勢集まる (讓歩)
集まって、
- 1231 ikir teksam ta
イキ燧 テ燧サ營 タ
列 すくそば (場所)
その列の側で、
- 1232 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燧 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄、
- 1233 kamui ne am be
カムイ ネ ア營 ベ
神 (繫辞類) ある もの
神である者の
- 1234 eattemkoro
エア燧テ營コロ
一抱えにする
腕の中へ、
- 1235 yupke p sonko
ユヅケ 瀧 ソンコ
強い もの 伝言
恐るべき知らせを
- 1236 a-kor wa
ア・コ燧 ワ
我・持つ (接続)
持って来て、
- 1237 tane
タネ
今
今は
- 1238 rai kotbok ta
ライ コ燧ボ燧 タ
死ぬ 前 (場所)
死ぬ間際に
- 1239 chikoasurbashte
チコアス燧バ燧テ
知らせる
伝言を
- 1240 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
持って
- 1241 arki-an katu
ア燧キ・アン カトゥ
来る・我 かたち
来た
- 1242 ene okai i tab an
エネ オカイ イ タバン アン
このように ある こと これ ある
のです。
- 1243 iku kamuinomi
イク カムイノミ
酒を飲む 神へ祈る
飲酒と神への祈りが
- 1244 tanepo
タネボ
たった今
今まさに
- 1245 heashi
ヘアシ
頭を上げる
始まるうと
- 1246 kusu ne i ta
クス ネ イ タ
(理由・目的) (繫辞類) とき (場所)
するときに、
- 1247 somo ka un sui
ソモ カ ウン スイ
(否定) も (不明) (不明)
よもや
- 1248 yainu-an kuni
ヤイヌ・アン クニ
考える・我 するべき
そのような気持ちになるとは
- 1249 a-ramu rok i
ア・ラム ロ燧 イ
我・思う (完了) こと
思いませんでした、
- 1250 arekushkonna
アレク燧コンナ
突然
突然、
- 1251 soyumpa-an rusui
ソユンパ・アン ルスイ
外に出る・我ら (欲求)
妾らは外へ出たくなりました。
- 1252 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 1253 ohabesakno
オハベサ燧ノ
物も言わずに
黙って
- 1254 ohumsaknopu
オフ營サ燧ノボ
音を立てずに
物も言わずに、
- 1255 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチの
- 1256 toop
トオ燧
ずっと速く
ずっと奥の
- 1257 betkur etok ta
ベ燧ク燧 エト燧 タ
川 前方 (場所)
源流に
- 1258 baye-an wa
バイエ・アン ワ
行く・我 (接続)
行きました。そして、
- 1259 inkar-an ko
インカ燧・アン コ
見る・我 (条件)
妾らが見ると、
- 1260 kamui kar nisei
カムイ カ燧 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖が
- 1261 an wa
アン ワ
ある (接続)
あり、
- 1262 nei nisei kotoro
ネイ ニセイ コトロ
(繫辞類) 崖 斜面
その崖の斜面の
- 1263 chiyai shuma
チヤイ シュマ
串 石
串のような石は、
- 1264 a-chiu op kunne
ア・チウ オ燧 クンネ
突かれる 槍 ように
投げられた槍のように、
- 1265 iotke kuni
イオ燧ケ クニ
人を刺す するべき
ものを突くように、
- 1266 ituye kuni
イトウエイェ クニ
人を斬る するべき
ものを切るように
- 1267 koenchararke kane
コエンチャラ燧ケ カネ
角立つ (程度)
突き立っていました。
- 1268 ouse
オウセ
ただ
ただ、
- 1269 a-nukar poka
ア・ヌカ燧 ボカ
我・見る さえ
見るだけでも
- 1270 a-eramuka-
ア・エラムカ・
我・心の上
恐ろしく
- 1271 kittararke kane
キ燧タラ燧ケ カネ
怖れる (程度)
思いました。
- 1272 kut chorobokey
ク燧 チョロボケ
帯 下
崖の下には
- 1273 shikari hattar
シカリ ハ燧タ燧
丸い 淵
丸い淵、

- 1274 asam sak hattar
アサ營 サ燐 八爛夕燐
底 欠く 淵
底無しの縁が
- 1275 chieomare
チエオマレ
入る
あります。
- 1276 taban hattar
タバ 八爛夕燐
この 淵
その淵の
- p. 20*
- 1277 asam wano
アサ營 ワノ
底 から
底から、
- 1278 chiukoboye
チウコボイエ
混ざっている
混ざった、
- 1279 sonno
ソノノ
真に
まことに
- 1280 bop birbiri
ボ燐 ビ燐ビリ
煮立つ 渦
波だった渦巻きが
- 1281 chihokushpare
チホク燐バシ
引っ繰り返される
逆立つ
- 1282 apkor shiriki
ア燐コ燐 シリキ
かのように そのような有様である
かのような様子です。
- 1283 kamui kar wen ikir
カムイ カ燐 ウェン イキ燐
神 作る 悪い 列
神の造った激しい流れが
- 1284 koikoterke
コイコテ燐ケ
波と共に跳ねる
波を飛ばしています。
- 1285 koikorikin humi
コイコリキン フミ
波と共に上がる 音
その波を打ち上げる音が
- 1286 kamui kar nisei
カムイ カ燐 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖の
- 1287 asam koturimimse
アサ營 コトゥリミ營セ
底 響き渡る
底で鳴り響く
- 1288 semkorachi
セ營コラチ
かのである
かのように、
- 1289 nisei tapka
ニセイ タ燐カ
崖 頂き
崖の上で
- 1290 koshiushiwatki kane
コシウシワ燐キ カネ
うなる (程度)
鳴り渡っています。
- 1291 nei nisei tapka
ネイ ニセイ タ燐カ
(繫辞類) 崖 頂き
妾らはその崖の上に
- 1292 a-koshirepa
ア・コシレパ
我・到着する
たどり着きました。
- 1293 arkehe ta
ア燐ケヘ タ
半分 (場所)
半ばは
- 1294 a-erayap kane
ア・エラヤ燐 カネ
我・感心する (程度)
感嘆しつつ、
- 1295 arkehe ta
ア燐ケヘ タ
半分 (場所)
半ばは
- 1296 ishitoma-an
イシトマ・アン
恐れる・我
恐ろしく思いました。
- 1297 oribak tura
オリバ燐 トウラ
畏まる ともに
畏まりながら、
- 1298 kamui kar nisei hene
カムイ カ燐 ニセイ ヘネ
神 作る 崖 も
神の造った崖も
- 1299 shikari hattar hene
シカリ ハ爛夕燐 ヘネ
丸い 淵 も
丸い淵も、
- 1300 kurkashike
ク燐カシケ
表面
その上を
- 1301 a-uwampare kane
ア・ウワ營バレ カネ
我・調べる (程度)
見回して、
- 1302 haukeno
ハウケノ
緩やかに
妾らはか細い声で
- 1303 ukoitak^{*12} kane
ウコイタ燐 カネ
語り合う (程度)
話しました。
- 1304 hemanta kusu
ヘマンタ クス
何 (理由・目的)
『どうして
- 1305 oro ta
オロ タ
場所 (場所)
ここへ
- 1306 arki-an i ta an
ア燐キ・アニ タ アン
来る・我 こと これ ある
来たのでしょうか。
- 1307 somo oribak-an no
ソモ オリバ燐・アン ノ
(否定) 畏まる・我 (接続)
畏れもせず
- 1308 kamui kar nisei
カムイ カ燐 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖の
- 1309 tapkashike
タ燐カシケ
頂き
上に
- 1310 a-urekushte
ア・ウレク燐テ
我・通る
妾らは足を運んだ
- 1311 shiri an
シリ アン
様子 ある
のでしょう。
- 1312 nei ta tu sui
ネイ タ トウ スイ
何処 (場所) 二つの 回
どこかで二回、
- 1313 nei ta re sui
ネイ タ レ スイ
何処 (場所) 三つの 回
どこかで三回
- 1314 okai be tapne
オカイ ベ タ燐ネ
ある もの これである
あるものが
- 1315 tonoto ne wa
トノト ネ ワ
酒 (繫辞類) (接続)
飲酒でしょうか。
- 1316 tan anchikar ta
タン アンチカ燐 タ
この 晩 (場所)
今晚は
- 1317 uwenubetne-an
ウウェヌベ燐ネ・アン
喜ぶ・我
お互いに喜び、
- 1318 iku tuika ta
イク トウイカ タ
酒を飲む 上 (場所)
飲酒の最中に
- 1319 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
伯父が
- 1320 kamui ubashkuma
カムイ ウバ燐クマ
神 言い伝え
神の言い伝え、
- 1321 shinrit ubashkuma
シンリ燐 ウバ燐クマ
出自 言い伝え
先祖の言い伝えを
- 1322 ki wa
キ ワ
する (接続)
するのだから、
- 1323 a-nu kushki
ア・ヌ ク燐キ
我・聞く しようとする
それを聞きましよう。』
- 1324 ari ukoitak kane
アリ ウコイタ燐 カネ
(引用) 語り合う (程度)
妾らはそう言いながら、

*12 ukoitak-an という形式が期待されるが、原文のままとする。

- 1325 tane
タネ
今
今はもう
- 1326 sap-an kusu
サザン アン クス
下る・我ら (理由・目的)
下ろつと
- 1327 shikirpa-an
シキ燐バ・アン
振り向く・我ら
向きを変えました。
- 1328 koeramno
コエラ營ノ
同時に
それと同時に、
- 1329 nep a-ekambak ka
ネ職 ア・エカ營八燐 カ
何 我・予期する も
何も気づかなかった
- 1330 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
のですが、
- 1331 arekushkonna
アレク燕コンナ
突然
突然、
- 1332 toi ka wa ne ya
トイ カ ワ ネ ヤ
土 上 (起点) (繫辞類) (疑問)
土の上からであるのか、
- 1333 nish or wa ne ya
ニ職 オ燐 ワ ネ ヤ
雲 所 (起点) (繫辞類) (疑問)
空からであるのか、
- 1334 kanakat kor be
カナカ燐 コ燐 ベ
何 持つ もの
何者かが来ました。
- 1335 netobake ka
ネトバケ カ
体 上
その身体も
- 1336 ponno ka somo
ボンノ カ ソモ
少し も (否定)
少しも
- 1337 a-nukar no
ア・ヌカ燐 ノ
我・見る (接続)
見えず、
- 1338 tun a-ne
トゥン ア・ネ
二人 我・(繫辞類)
妾らは二人で
- 1339 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に、
- 1340 kamui kar nisei
カムイ カ燐 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖、
- 1341 nisei tapka wa
ニセイ タ燐カ ワ
崖 頂き (接続)
その崖の上に
- 1342 i-obentarpa-an
イ・オベンタ燐バ・アン
我・引っ繰り返される
引っ繰り返されました。
- p. 21*
- 1343 enepo
エネポ
このように
そして、先ほど
- 1344 a-ramu rok
ア・ラム ロ燐
我・思う (完了)
妾らが考えていた
- 1345 iotke ruwe
イオ燐ケ ルウェ
人を刺す 様子
ものを突き、
- 1346 ituye kuni
イトウイエ クニ
人を斬る するべき
ものを切るように
- 1347 koenchararke
コエンチャラ燐ケ
角立つ
突き立っている
- 1348 wen shiri
ウェン シリ
悪い 地面
険しい岩の
- 1349 kotor beka
コト燐 ベカ
平面 で
間で、
- 1350 tap korachi
タ燐 コラチ
これ ように
このように
- 1351 i-otke-an kane
イ・オ燐ケ・アン カネ
我・突かれる (程度)
突き刺され、
- 1352 i-tauki-an
イ・タウキ・アン
我・切られる
切り刻まれ、
- 1353 i-yashpa-an kane
イ・ヤシパ・アン カネ
我・破られる (程度)
衣装を破られたのです。
- 1354 tan rui
タン ルイ
この 激しい
そして、激しい
- 1355 kamui mau etok
カムイ マウ エト燐
神 風 前方
神風の先に
- 1356 a-ekarkarse^{*13} wa
ア・エカ燐カ燐セ ワ
我・転がる (接続)
転がり、
- 1357 rap-an aine
ラ燐・アン アイネ
降りる・私 (接続)
落ちて行き、
- 1358 shikari hattar
シカリ 八燐燐
丸い 淵
丸い淵、
- 1359 asam sak hattar
アサ營 サ燐 八燐燐
底 欠く 淵
底無しの淵、
- 1360 hattar kurka
八燐燐 ク燐カ
淵 上
その淵の上に
- 1361 a-i-y-eshitaikipa
ア・イ・イエシタイキパ
我・叩きつけられる
叩きつけられました。
- 1362 kurkashike
ク燐カシケ
表面
さらに、
- 1363 kanakat kor be
カナカ燐 コ燐 ベ
何 持つ もの
何者かが
- 1364 i-otamkote
イ・オタ營コテ
我・斬る
妾らに切りかかってきました。
- 1365 wenno boka
ウェンノ ボカ
悪く さえ
あまり良くはない
- 1366 semash ituren
セマ燐 イトゥレン
凡庸な 憑き神
並みの憑き神を
- 1367 korba p
コ燐バ 職
持つ もの
持つものが
- 1368 a-nepa kusu
ア・ネバ クス
我ら・である (理由・目的)
妾らですから、
- 1369 naanionko
ナアニホンコ
あやうく
もう少しのところ、
- 1370 bokna moshiri
ボ燐ナ モシリ
下方の 国土
あの世に
- 1371 a-i-kokirpa
ア・イ・コキ燐バ
我・向きを変えさせられる
追いやられる
- 1372 kush ne a koroka
ク燐 ネ ア コロカ
ク燐 ネ ア
ように (繫辞類) (完了) (逆接)
ところでした。しかし、
- 1373 koi tum beka
コイ トウ營 ベカ
波 中 で
波の中で
- 1374 otu ma kaikai
オトゥ マ カイカイ
二つの 泳ぐ さざ波
二つのさざ波、
- 1375 ore ma kaikai
オレ マ カイカイ
三つの 泳ぐ さざ波
三つのさざ波に

*13 a-i-y-ekarkarsere という形式が期待されるが原文のままとする。

- 1376 a-utashbare
ア・ウタ燕バレ
我・交わす
代わる代わる
- 1377 chiukoboiba-an kor
チウコボイバ・アン コ燻
互いに混ぜる・我 (同時)
巻き込まれながら
- 1378 shik bone ne
シ燻 ボネ ネ
目 骨 (繫辞類)
眼の骨で
- 1379 inkar-an ko
インカ燻・アン コ
見る・我 (条件)
見たところ、
- 1380 chiu tum wa
チウ トウ營 ワ
突く 中 (起点)
波の中に
- 1381 pon urar tapkop
ボン ウラ燻 タ燻コ燻
小さい 霧 小山
小さな霧の小山がありました。
- 1382 urar tum wa
ウラ燻 トウ營 ワ
霧 中 (起点)
霧の中には
- 1383 kani kosonte
カニ コソンテ
黄金 小袖
金の小袖
- 1384 chinki kese
チンキ ケセ
裾 末端
裾の端が
- 1385 a-wennukar ko
ア・ウェンヌカ燻 コ
我・よく見る (条件)
よく見えました。そして、
- 1386 kechaukar imi
ケチャウカ燻 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛の衣が見え、
- 1387 kurkashike
ク燻カシケ
表面
その表面では
- 1388 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 1389 eshimaka shiri
エシマカ シリ
輝く 様子
輝いている様子が
- 1390 ponno a-nukar
ボンノ ア・ヌカ燻
少し 我・見る
少し見えました。
- 1391 kechaukar shirika
ケチャウカ燻 シリカ
羽毛 表面
鳥の羽毛の鞘に
- 1392 kamui ranke tam
カムイ ランケ タ營
神 下ろす 刀
神受の刀があり、
- 1393 shirka kese
シ燻カ ケセ
鞘 末端
その鞘の端が
- 1394 ponno
ボンノ
少し
少しだけ
- 1395 a-nukar tek
ア・ヌカ燻 テ燻
我・見る ちょっとする
見えました。そして、
- 1396 toop kut tapka
トオ燻 ク燻 タ燻カ
ずっと遠く 帯 頂き
その者はずっと崖の上へ
- 1397 korikoshma
コリコ燻マ
飛び上がる
跳び上がった
- 1398 kotom no
コト營 ノ
ようである (接続)
ように
- 1399 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われました。
- 1400 tam be kusu
タ營 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 1401 inuburbakte p anakne
イヌフ燻バ燻テ 燻 アナ燻ネ
霊能力を競う もの は
霊能力を競った者は
- 1402 menoko somo ne
メノコ ソモ ネ
女 (否定) (繫辞類)
女性ではなく、
- 1403 okkayo ne i
オ燻カヨ ネ イ
男 (繫辞類) イト
男性であることが
- 1404 a-eraman
ア・エラマン
我・知る
わかった
- 1405 ruwe ne
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 1406 tapne kane
タ燻ネ カネ
これである (程度)
このような
- 1407 katkor kuni p
カ燻コ燻 クニ 燻
振舞う すべき もの
次第
- 1408 ne ko anakne
ネ コ アナ燻ネ
(繫辞類) (条件) は
ですから、
- 1409 shirun menoko
シルン メノコ
汚い 女
妾らは貧しい女、
- 1410 wem menoko utar
ウェ營 メノコ ウタ燻
悪い 女 人々
取るに足らぬ女
- 1411 a-ne wa
ア・ネ ワ
我・(繫辞類) (接続)
ですから、
- 1412 aokai utara
アオカイ ウタラ
汝 人々
皆さまが
- 1413 ramukoiki p
ラムコイキ 燻
心を痛める もの
心を悩ませることは
- 1414 somo ne kuni
ソモ ネ クニ
(否定) (繫辞類) すべき
無いであろうと
- 1415 a-ramu
ア・ラム
我・思う
思います。
- 1416 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄、
- 1417 kamui ne am be
カムイ ネ ア營 ベ
神 (繫辞類) ある もの
神である者よ、
- 1418 somo oyabe
ソモ オヤベ
(否定) よそ者
余所者が
- 1419 chishimemokka
チシメモ燻カ
挑発される
挑戦して
- p. 22
- 1420 ekarkar kuni p
エカ燻カ燻 クニ 燻
する すべき もの
きて、
- 1421 katkor shiri
カ燻コ燻 シリ
振舞う 様子
このような振る舞いを
- 1422 somo ne nankor
ソモ ネ ナンコ燻
(否定) (繫辞類) だるう
したのでは無いでしょう。
- 1423 hushkotoi wano
フ燻コトイ ワノ
以前 から
長い間、
- 1424 ikichi-an aine
イキチ・アン アイネ
する・我ら (接続)
妾らはそのようにしており、
- 1425 koi tum
コイ トウ營
波 中
波の中から
- 1426 tap korachi
タ燻 コラチ
これ ように
このように
- 1427 kira-an wa
キラ・アン ワ
逃げる・我 (接続)
逃げてきて、
- 1428 shino
シノ
まことに
まことに

- 1429 yashtoma-an koroka
ヤカトマ・アン コロカ
恥じる・我 (逆接)
恥ずかしいのですが、
- 1430 tapne ne i
タカネ ネ イ
これである (繫辞類) こと
このような次第を
- 1431 pon a-kor yubi
ボン ア・コカ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄に
- 1432 chikoasurbashte
チコアスアバカセ
知らせる
知らせることを
- 1433 a-ki
ア・キ
我・する
する
- 1434 hawe tap an na
ハウエ タカ アン ナ
声 これ ある ナ
のです。
- 1435 nekonka ne wa
ネコンカ ネ ワ
どうにか (繫辞類) (接続)
どうにかして、
- 1436 i-ruwokake
イ・ルウォカケ
我・道の後
妾らの亡くなった後に、
- 1437 tam omare wa
タマ オマレ ワ
刀 入れる (接続)
刀で成敗して
- 1438 i-kore kunak
イ・コレ クナカ
我・与える (引用)
ください
- 1439 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ませ。」
- 1440 ari haweokai
アリ ハウエオカイ
(引用) 言う
妹たちはこのように言った。
- 1441 orowa
オロワ
(始点)
それから
- 1442 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に、
- 1443 nittek kewe
ニテツケ ケウエ
硬い 身体
強張った身体を
- 1444 chishiturple
チシツアバカレ
自らを伸ばす
横たえた。
- 1445 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に
- 1446 inu ne wa
イヌ ネ ワ
聞く (繫辞類) (接続)
我は聞いただけ、
- 1447 inkan ne wa
インカン ネ ワ
見る (繫辞類) (接続)
見ただけ
- 1448 a-ki p ne koroka
ア・キ カネ ネ コロカ
我・する もの (繫辞類) (逆接)
ではあるが、
- 1449 tanto torino
タント トリノ
今日 一日中
今日一日中、
- 1450 a-chimoshiriko-
ア・チモシリコ・
我・国土と共に
天地が揺らされて
- 1451 suye kane
スイエ カネ
揺えられる (程度)
いるような
- 1452 semkorachi
セムコラチ
かのである
気がした。
- 1453 toat pon wa kusu
トアタカ ボン ワ クス
(不明) 小さい (接続) (理由・目的)
今日に限って、
- 1454 tanepo konna
タネボ コンナ
たった今こそ
今まさしく、
- 1455 nep ubashkuma
ネカ ウバカクマ
何 言い伝え
何かの言い伝えを
- 1456 a-nu rusui
ア・ヌ ルスイ
我・聞く (欲求)
我は聞くことを望み、
- 1457 ratchi kamuinomi
ラチチ カムイノミ
穏やかな 神へ祈る
穏やかな神への祈りを
- 1458 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
おこなって
- 1459 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
安心し、
- 1460 ikir kese ta
イキケセ タ
列 末端 (場所)
その後で
- 1461 uweneusar-an kuni
ウエネウサカネ・アン クニ
話しをする・我 するべき
世間話をするごと、
- 1462 ene hetapne
エネ ヘタカネ
このように これ
それを
- 1463 a-chipachipa
ア・チバチバ
我・望む
我は強く望み
- 1464 a-enubetne
ア・エヌベカネ
我・喜ぶ
喜んで
- 1465 humi okai
フミ オカイ
音 ある
いた
- 1466 rok awa
ロカ アワ
口燻 アワ
(完了) (展開)
のだが。
- 1467 ne kotan kor be
ネ コタン コカ ベ
何処 村 持つ もの
どこの村の者、
- 1468 ne moshir kor be
ネ モシカネ コカ ベ
何処 国土 持つ もの
どこの土地の者が
- 1469 hemanta tapne
ヘマンタ タカネ
何 これである
如何なる
- 1470 ikkewe ne kusu
イカケウエ ネ クス
元 (繫辞類) (理由・目的)
理由があるのか。
- 1471 rushka p an yakun
ルカカ カネ アン ヤクン
怒る もの ある (条件)
怒るにしても
- 1472 taban teta
タバタ テタ
この ところで
ここへ
- 1473 ek wa ye ka
エカ ワ イエ カ
来る (接続) 言う 上
来て言うことも
- 1474 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
せずに、
- 1475 katki ko
カチ コ
力燻 コ
振る舞う (条件)
とんでもないところへ
- 1476 a-tureshipo utar
ア・トゥレシボ ウタカ
我・妹 人々
我が妹たちを
- 1477 shikoette*¹⁴ wa
シコエカネ ワ
自ら来させる (接続)
呼び寄せて、
- 1478 katu chiwente
カトゥ チウエンテ
かたち 痛めつけられる
容姿を傷つける
- 1479 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤカカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
にしても

*¹⁴ shikoekte の k が t に同化した形で表記されている。

- 1480 orsaureko
オ燻サウレコ
とんでもなく
ただならぬことを
- 1481 ekarkar ruwe
エカ燻カ燻 ルウエ
する 様子
した
- 1482 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
のかと、
- 1483 irushka keutum
イル燻カ ケウトウ燻
怒る 心
我は怒りの心と
- 1484 ikemnu keutum
イケ燻ヌ ケウトウ燻
憐れむ 心
憐れみの心を
- 1485 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 1486 sonno hetapne
ソンノ ヘタ燻ネ
真に これ
本当のことであろうか。
- 1487 a-tureshutari
ア・トゥレシュタリ
我・妹たち
我が妹たちは
- 1488 ituren korba p
イトゥレン コ燻バ 燻
憑き神 持つ もの
憑き神を持つもの
- 1489 ne rok be kusu
ネ ロク ベ クス
(繫辞類) (完了) もの (理由・目的)
であるから、
- 1490 ene hetap ne
エネ ヘタ燻 ネ
このように これ (繫辞類)
このように
- 1491 chiwente ruwe
チウエンテ ルウエ
痛めつけられる 様子
傷つけられるにしても
- 1492 orsaureko
オ燻サウレコ
とんでもなく
ただならぬ様子
- p. 23
- 1493 okai be
オカイ ベ
ある もの
であるのに、
- 1494 koneike tapne
コネイケ タ燻ネ
どこ これである
一体どこに
- 1495 sambe kor kusu
サ燻ベ コ燻 クス
心臓 持つ (理由・目的)
心臓があって、
- 1496 tum kor kusu
トゥ燻 コ燻 クス
力 持つ (理由・目的)
生命を失わずに
- 1497 sap humi
サ燻 フミ
下る 音
降りて来たのか。
- 1498 orsaureko
オ燻サウレコ
とんでもなく
ただならぬこと
- 1499 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
であると、
- 1500 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ燻
驚く 心
我は驚きの気持ち
- 1501 a-yaikore kane
ア・ヤイコレ カネ
我・持つ (程度)
抱いた。
- 1502 tane anakne
タネ アナ燻ネ
今 は
今は、
- 1503 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹
- 1504 utar orke
ウタ燻 オ燻ケ
人々 所
たちが
- 1505 pirika shiri
ピリカ シリ
よい 様子
美しい様子を
- 1506 a-i-y-ekeshke
ア・イ・イエケ燻ケ
我・ひどい仕打ちをうける
嫉まれる
- 1507 ne yakka
ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (譲歩)
にしても、
- 1508 semkatune
セ燻カトゥネ
並でなく
尋常ではないことを
- 1509 a-ekarkar ruwe
ア・エカ燻カ燻 ルウエ
される 様子
された
- 1510 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
のだと、
- 1511 hese buira
ヘセ ブイラ
息をする 孔
我は息をする穴も
- 1512 a-i-koseshke
ア・イ・コセ燻ケ
我・塞がれる
塞がれたような気持になり、
- 1513 a-keutumkashi-
ア・ケウトウ燻カシ・
我・心の上
心の中で
- 1514 chishkot kane
チ燻コ燻 カネ
泣く (程度)
涙を
- 1515 yainu*¹⁵
ヤイヌ
考える
流した。
- 1516 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たち
- 1517 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 1518 somo i-echutkonno
ソモ イ・エチュ燻コソノ
(否定) 我・異なって
我と違わない
- 1519 yainu p
ヤイヌ 燻
考える もの
気持ち
- 1520 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燻ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 1521 kotom korkaiki
コト燻 コ燻カイク
ようである (逆接)
さもあるうが、
- 1522 arobittano
アロビ燻タノ
すべて
一人残らず、
- 1523 i-neno kane
イ・ネノ カネ
我・同じく (程度)
我と同じように
- 1524 yainuba p
ヤイヌバ 燻
考える もの
考えているもの
- 1525 kone p ne kusu
コネ 燻 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1526 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に
- 1527 irushka ibor
イル燻カ イボ燻
怒る 顔色
怒りの表情を
- 1528 eibottumu
エイボ燻トゥム
顔色
顔に
- 1529 koniunataru kane
コニウナタラ カネ
こわばらせている (程度)
みなぎらせた。
- 1530 tek tuika ta
テ燻 トウイカ タ
腕 上 (場所)
そして、腕の表面が

*¹⁵ yainu-an という形式が期待されるが原文のままとする。

- 1531 chibukrototpa kane
チブ燻口ト爛バ カネ
膨れ上がる (程度)
盛り上がった。
- 1532 yakka
ヤ燻カ
(譲歩)
しかし、
- 1533 arobbitano
アロビ爛タノ
すべて
一人残らず、
- 1534 chitomkokanu
チト嘗コカヌ
よく聞く
我の言うことを
- 1535 i-y-ekarkarba p
イ・イエカ燻カ燻バ 瀧 もの
我・する もの
聞くつもり
- 1536 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
であるので、
- 1537 tash kush kuni
タ燻 ク燻 クニ
息 通る するべき
息をつくことも
- 1538 mau kush kuni
マウ ク燻 クニ
風 通る するべき
息を漏らすことも
- 1539 yaikoseshkeba
ヤイコセ燻ケバ
自ら塞ぐ
せずに
- 1540 kane okai
カネ オカイ
(程度) ある
いた。
- 1541 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父は、
- 1542 oshserke hau
オシセ燻ケ ハウ
驚く 声
驚きの声を
- 1543 kari kane
カリ カネ
回す (程度)
発した。
- 1544 konep tap teta
コネ瀧 タ瀧 テタ
何 これ ここで
「何ということか。」
- 1545 ohana kusu
オハナ クス
まさか (理由・目的)
もしかして、
- 1546 a-utari
ア・ウタリ
我・人々
我が一族は
- 1547 rametok batek
ラメト燻 バテ燻
勇者 のみ
勇者ばかり、
- 1548 utarpa batek
ウタ燻バ バテ燻
首領 のみ
頭領ばかり、
- 1549 inneno
インネノ
たくさん
大勢
- 1550 a-kor awa
ア・コ燻 アワ
我・持つ (展開)
いるのに、
- 1551 shiknu ihoma p
シ燻ヌ イホマ 瀧
生きている 恐れる もの
死にたくて、
- 1552 tusa ihoma p
トゥサ イホマ 瀧
蘇生する 恐れる もの
あの世へ行きたくて
- 1553 kamui ewak i
カムイ エワ燻 イ
神 住む ところ
神の住まいに
- 1554 taa
タア
ここに
このように
- 1555 shimemokka p
シメモ燻カ 瀧 もの
試す もの
挑戦して、
- 1556 shikamuinere
シカムイネレ
自ら神となる
驕り
- 1557 shibitonere
シビトネレ
自ら貴人となる
高ぶっている
- 1558 hawe ne nankor
ハウエ ネ ナンコ燻
声 (繋辞類) だろう
のであろう。」
- 1559 ari tu bar re bar
アリ トゥ バ 燻 レ バ 燻
(引用) 二つの 口 三つの 口
伯父は二言、三言を
- 1560 chieushi
チエウシ
とどく
口にして、
- 1561 raibashrota
ライバ燻口タ
痛罵する
激しく罵り、
- 1562 irushka
イル燻カ
怒る
怒った。
- 1563 a-kor unarbe newa
ア・コ燻 ウナ燻ベ ネワ
我・持つ 伯母 と
我が叔母と
- 1564 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燻
我・人々 人々
我が一族の人々の
- 1565 chish hau konna
チ燻 ハウ コンナ
泣く 声 こそ
泣く声が
- 1566 bebunitara
ベブニタラ
騒がしい
周囲に響いた。
- 1567 konepkeukata
コネ瀧ケウカタ
何ということか
何ということか、
- 1568 konepkashita
コネ瀧カシタ
何としたことか
何としたことか。
- 1569 kushnabaunkuru
ク燻ナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 1570 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は、
- 1571 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繋辞類) (程度)
並大抵に
- p. 24
- 1572 tureshi oshkor be
トゥレシ オシコ燻 ベ
妹 惜しむ もの
妹を惜しむもの
- 1573 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燻ネ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (条件)
であるならば、
- 1574 kotom korkaiki
コト嘗 コ燻カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 1575 shisak rametok
シサ燻 ラメト燻
またとない 勇者
比類なき勇者が
- 1576 shisembirun wa
シセ嘗ビルン ワ
自分の後ろへ (起点)
みずからの陰へ
- 1577 shikirpa ko
シキ燻バ コ
振り向く (条件)
向きを変えて、
- 1578 tu kishnu nube
トゥ キ燻ヌ ヌベ
二つの 僅かな 涙
二つの僅かな涙、
- 1579 re kishnu nube
レ キ燻ヌ ヌベ
三つの 僅かな 涙
三つの僅かな涙を
- 1580 yaikorapte shiri
ヤイコラ瀧テ シリ
一人で流す 様子
流している様子である。

2.2 敵との戦い

- 1581 a-nukar chiki
ア・ヌカ燻 チキ
我・見る (条件)
我はそれを見て、
- 1582 boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
なお一層、

- 1583 turushno nepkor
トゥルシタノ ネ瀧コ燻
気が違つて (類似)
気が狂つたように
- 1584 a-eyaikutum-
ア・エヤイクトゥ營・
我・自らの心
激しい
- 1585 turushitara kane
トゥルシタラ カネ
激しく心に抱く (程度)
怒りにとらわれた。
- 1586 amset ka ta
ア營セ燻 カ タ
寝台 上 (場所)
寝台の上で
- 1587 a-matke humi
ア・マ燻ケ フミ
我・起きる 音
我が跳ね起きる音が
- 1588 shiukosanu
シウコサヌ
さつと音がする
さつと鳴つた。
- 1589 nochiu meru ne
ノチウ メル ネ
星 光る (繫辞類)
星の光のように、
- 1590 rikun sui kurka
リクン スイ クルカ
上にある 穴 上
我は天窓へ
- 1591 a-kotuikosanu
ア・コトゥイコサヌ
我・消える
向い、
- 1592 use kanto
ウセ カント
並の 天
天空へ
- 1593 a-kosoyoshma
ア・コソヨシマ
我・外に出る
跳び出した。
- 1594 inkar-an ko
インカ燻・アン コ
見る・我 (条件)
我は
- 1595 tanepo konna
タネポ コンナ
たつた今こそ
今始めて、
- 1596 a-ewak shiroro
ア・エワ燻 シロロ
我・住む 場所
我が住まいの
- 1597 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
周囲を
- 1598 a-yaiamkire
ア・ヤイア營キレ
我・知る
見知つた。
- 1599 ramno hene
ラノヘネ
低い土地でも
低地にでも
- 1600 i-respha-an
イ・レ燻バ・アン
我・育てられる
育てられた
- 1601 ruwe ne kuni
ルウェ ネ クニ
様子 (繫辞類) するべき
ものであると
- 1602 a-ramu rokwa
ア・ラム ロ燻ワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 1603 chibuni tapkop
チブニ タ瀧コ瀧
盛り上がる 小山
盛り上がった小山があり、
- 1604 chiekantoor-
チエカントオ燻・
天
天空を
- 1605 suiba kane
スイバ カネ
揺する (程度)
揺らすかようである。
- 1606 tapkop ka ta
タ瀧コ瀧 カ タ
小山 上 (場所)
小山の上に
- 1607 tam boro chise
タ營 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家、
- 1608 tam boro chashi
タ營 ボロ チャシ
この 大きい チャシ
大きな館が
- 1609 uworeroshki
ウウォレロ燻キ
重なつてそびえる
並んで建っている。
- 1610 nei upsoroho
ネイ ウスロホ
(繫辞類) 内部
その中で
- 1611 a-i-y-ereshpa
ア・イ・イエレ燻バ
我・育てられる
我は育てられた
- 1612 ruwe ne rokokai
ルウェ ネ ロコカイ
様子 (繫辞類) (判明)
のであつた。
- 1613 chibuni tapkop
チブニ タ瀧コ瀧
盛り上がる 小山
盛り上がった小山の
- 1614 noshki bakno
ノ燻キ バ燻ノ
真中 まで
真中まで、
- 1615 kunne urar
クンネ ウラ燻
黒い 霧
黒い霧が
- 1616 chikonoipa kane
チコノイバ カネ
たなびく (程度)
たなびいている。
- 1617 an-ewak shiror
アネワ燻 シロ燻
我・住む 場所
我が住まいの
- 1618 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
周囲の
- 1619 usa huihuike
ウサ フイフイク
(列挙) 隅々
どこかしこにも
- 1620 a-ekiroroan
ア・エキロロアン
我・喜ぶ
我は歓喜
- 1621 kotom ne
コト營 ネ
ようである (繫辞類)
した。
- 1622 kunne to ta
クンネ ト タ
夜 日 (場所)
夜中であり、
- 1623 kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 (場所)
暗い中
- 1624 iki korkaiki
イキ コ燻カイキ
する (逆接)
ではあるが、
- 1625 kimatek rui be
キマテ燻 ルイ ベ
慌てる 激しいもの
我は慌てている者、
- 1626 chikimattekka rui be
チキマ燻テ燻カ ルイ ベ
慌てる 激しいもの
慌てさせられている者
- 1627 a-ne p ne kusu
ア・ネ 瀧 ネ クス
我・(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1628 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外にある櫓、
- 1629 yakura wa
ヤクラ ワ
櫓 (起点)
その櫓から
- 1630 kamui nishka
カムイ ニ燻カ
神 上空
天空へ
- 1631 a-kohobuni
ア・コホブニ
我・立ち上がる
飛び上がった。
- 1632 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 1633 aba kari
アバ カリ
簾戸 回つて
戸口を回つて、
- 1634 kushnabaunkuru
ク燻ナバウクル
(人名)
クシナバウクル、
- 1635 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄が

- 1636 chisoyekatta
チソイエカ爛タ
飛び出す
外へ跳び出してきた。
- 1637 i-seturkashi
イ・セトウ夔カシ
我・背中
そして私の背の上へ
- 1638 yairarire
ヤイラリレ
いる
寄り添った。
- 1639 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 1640 konep kamuye
コネ瀧 カムイエ
何 神
如何なる神が
- 1641 i-turen rok wa
イ・トゥレン 口燧 ワ
我・憑く (完了) (接続)
我に憑いている
- 1642 humash nankor a
フマ燕 ナンコラ a
音がする だろう か
というのか。
- 1643 i-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
私の背中の上で
- 1644 yashkosanu
ヤ燕コサヌ
裂ける
爆音が鳴り、
- 1645 tu base kamui
トゥ バセ カムイ
二つの 重い 神
二柱の尊い神、
- 1646 re base kamui
レ バセ カムイ
三つの 重い 神
三柱の尊い神が
- 1647 kohumbushpa
コフメブ燕バ
爆発する
轟音を発した。
- 1648 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチの
- 1649 bet etoko
ベ爛 エトコ
川 前方
川の源流に
- 1650 a-koshirepa wa
ア・コシレバ ワ
我・到着する (接続)
我が到着して
- 1651 inkar-an ko
インカ燧・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 1652 sonnokaun
ソンノカウン
本当に
まことに、
- 1653 ene ene
エネ エネ
このように このように
このように
- 1654 a-tureshipo utar
ア・トゥレシポ ウタ燧
我・妹 人々
我が妹たちが
- 1655 haweokai rok i
ハウエオカイ 口燧 イ
言う (完了) こと
言っていた
- 1656 neino shiran
ネイノ シラン
ように 有様である
通りにあった。
- 1657 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ營
驚く 心
私は驚きの気持ちを
- 1658 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 1659 kamui kar nisei
カムイ カ燧 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖、
- 1660 nisei tapkashi
ニセイ タ瀧カシ
崖 頂き
その崖の上に
- 1661 a-i-y-eroshki
ア・イ・イエロ燕キ
我・立たされる
私は立った。
- 1662 kunnechupkamui
クンネチュ瀧カムイ
月の神
月の神の
- 1663 nubeki
ヌベキ
光
光は
- 1664 tokap shikush ne
トカ瀧 シク燕 ネ
昼 日差し (繫辞類)
真昼の陽光のようである。
- 1665 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチの
- 1666 kimun iwor
キムン イウォリ
山にある 奥地
山奥、
- 1667 iworso kashi
イウォ燧ソ カシ
山奥 上
その山奥の一带は
- 1668 nei ta bakno
ネイ タ バ燧ノ
何処 (場所) まで
どこまでも
- 1669 eemaknatara
エエマ燧ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 1670 ineap kusu
イネア瀧 クス
何と (理由・目的)
何と、
- 1671 a-kor kotan
ア・コ燧 コタン
我・持つ 村
我が村、
- 1672 kamui kar iwor
カムイ カ燧 イウォ燧
神 作る 奥地
神の造った奥地は
- 1673 nei ta bakno
ネイ タ バ燧ノ
何処 (場所) まで
どこまでも
- 1674 a-tomte ruwe
ア・ト營テ ルウェ
輝いている 様子
明るく
- 1675 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 様子
美しいこと
- 1676 okai nankor a
オカイ ナンコラ a
ある だろう か
であろうか。
- 1677 ri komni tai
リ コ營ニ タイ
高い 柏 林
高い柏の林、
- 1678 ram komni tai
ラ營 コ營ニ タイ
低い 柏 林
低い柏の林が
- 1679 nei ta bakno
ネイ タ バ燧ノ
何処 (場所) まで
どこまでも
- 1680 kurkashike
ク燧カシケ
表面
周囲に
- 1681 koteshnatara
コテ燕ナタラ
平らになっている
広がり、
- 1682 komaknatara
コマ燧ナタラ
輝いている
輝いている。
- 1683 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
私はそれを
- 1684 a-uwesuiba kane
ア・ウウエスイバ カネ
我・思う (程度)
好ましく思った。
- 1685 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
我らは二人で
- 1686 kurkashike
ク燧カシケ
表面
周囲を
- 1687 a-uwambare
ア・ウワ營バレ
我・調べる
眺め直し、
- 1688 kamui nishka
カムイ ニ燧カ
神 上空
天空を

- 1689 a-uwambare
ア・ウワ管バレ
我・調べる
眺め回した。
- 1690 ki p ne koroka
キ 瀧 ネ コロカ
するもの (繫辞類) (逆接)
しかし、
- 1691 nei ta kaiki
ネイ タ カイキ
何処 (場所) も
どこにも、
- 1692 konep chikap hene
コネ瀧 チカ瀧 ヘネ
何 鳥 も
何の鳥も、
- 1693 nishkur hene
ニシク 煇 ヘネ
雲 も
雲も、
- 1694 ponno hene
ボンノ ヘネ
少し も
少しも、
- 1695 a-oyamokte
ア・オヤモ煇テ
我・不思議に思う
不審に思われる
- 1696 kane okai be
カネ オカイ ベ
(程度) ある もの
ものは
- 1697 shinep ka isam
シネ瀧 カ イサ管
一つ も 無い
一つもなかった。
- 1698 kenashso kurka
ケナ燕ソ ク煇カ
木原 上
木原の一带、
- 1699 kenashso rabok
ケナ燕ソ ラボ煇
木原 間
木原の間も
- 1700 a-uwambare yakka
ア・ウワ管バレ ヤ煇カ
我・調べる (譲歩)
我らは眺め回したが、
- 1701 arukorachi
アルコラチ
同じく
同じように、
- 1702 ponno ka nep ka
ボンノ カ ネ瀧 カ
少し も 何 も
少しも何も、
- 1703 a-oyamokte p
ア・オヤモ煇テ 瀧
我・不思議に思う もの
不審なものは
- 1704 ponno ka
ボンノ カ
少し も
少しも
- 1705 somo a-nukar kane
ソモ ア・ヌカ煇 カネ
(否定) 我・見る (程度)
見つからなかった。
- 1706 ekeshne
エケ燕ネ
あちらこちら
我らが周囲を
- 1707 a-einkar kuni p
ア・エインカ煇 クニ 瀧
我・見る すべき もの
見る様子は、
- p. 26
- 1708 tu pon nochiu ne
トゥ ボン ノチウ ネ
二つの 小さい 星 (繫辞類)
二つの小さな星が
- 1709 uweutuisam-
ウウェウトウイサ管・
等間隔に
並んでいる
- 1710 unte kane
ウンテ カネ
あらしめる (程度)
ようである。
- 1711 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
我らは二人で
- 1712 roshki-an kane
ロシキ・アン カネ
立つ・我ら (程度)
立って
- 1713 okai-an awa
オカイ・アン アワ
いる・我ら (展開)
いたが、
- 1714 arekushkonna
アレクシュコンナ
突然
突然、
- 1715 nep a-ekambak ka
ネ瀧 ア・エカ管バ煇 カ
何 我・予期する も
何も気付くこと
- 1716 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
無しに、
- 1717 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
我らは二人とも、
- 1718 arukoeramno
アルコエラ管ノ
同時に
同時に、
- 1719 a-banchikiri
ア・バンチキリ
我・下脚
足の下部を
- 1720 an-obentari
アノベントリ
引っ繰り返される
引っ繰り返された。
- 1721 nea kamui kar
ネア カムイ カ煇
その 神 作る
そして、神が造った
- 1722 wen shiri tapka wa
ウェン シリ タヰカ ワ
悪い 地面 頂き (接続)
険しい岩の上に
- 1723 i-karkarsere-an
イ・カ煇カ煇セレ・アン
我・転がされる
転がされた。
- 1724 homatu ruiba p
ホマトウ ルイバ 瀧
驚く 激しい もの
我らはひどく慌てたもの
- 1725 a-ne p ne kusu
ア・ネ 瀧 ネ クス
我・(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1726 karkarse tuika ta
カ煇カ煇セ トウイカ タ
コロコロ転がる 上 (場所)
転がる途中で
- 1727 iotke shuma
イオツケ シュマ
人を刺す 石
もの刺す石
- 1728 chiyai chiyai
チヤイ チヤイ
串 串
その串の
- 1729 enkashi
エンカシ
離れた上
上で
- 1730 beken rera ne
ベケン レラ ネ
明るい 風 (繫辞類)
澄んだ風となって
- 1731 a-yaituresu
ア・ヤイテスレ
我・自ら反らす
身をかわし、
- 1732 shikari hattar
シカリ ハタタ煇
丸い 淵
丸い淵、
- 1733 hattar kurka
ハタタ煇 ク煇カ
淵 上
その淵の上へ
- 1734 a-i-y-eshitaikipa
ア・イ・イエシタイキパ
我ら・叩きつけられる
叩きつけられた。
- 1735 tattatche koisum
タタツチェ コイソ管
湧き出る 泡
湧き上がる泡、
- 1736 koiriri
コイリリ
波
淵の波に
- 1737 a-yaikoboye
ア・ヤイコボイエ
我・混ざる
我らは混ざった。
- 1738 be tum beka
ベ トウ管 ベカ
もの 中 で
滴の中で
- 1739 inkar-an ko
インカ煇・アン コ
見る・我 (条件)
我らが見ると、
- 1740 shikari hattar wa
シカリ ハタタ煇 ワ
丸い 淵 (起点)
丸い淵の上で
- 1741 kamui kar nisei
カムイ カ煇 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖、

- 1742 bira kotoro
ビラ コトロ
崖 斜面
その崖の斜面が
- 1743 chiukoterke
チウコテ燻ケ
共に跳ねる
跳ね上がり、
- 1744 koikoterke
コイコテ燻ケ
波と共に跳ねる
波と共に跳ねている。
- 1745 nei manaha
ネイ マナハ
(繫辞類) 飛沫
その飛沫が
- 1746 ubun chise ne
ウン チセ ネ
吹雪 家 (繫辞類)
吹雪のように、
- 1747 tu nishte urar ne
トゥ ニシテ ウラ燻 ネ
二つの かしい 霧 (繫辞類)
二つの強固な霧、
- 1748 re nishte urar ne
レ ニシテ ウラ燻 ネ
三つの かしい 霧 (繫辞類)
三つの強固な霧となって、
- 1749 kamui nishkashi
カムイ ニシカシ
神 空の上
天空に
- 1750 eetushnatki
エエトゥ燻ナ燻キ
満ちる
充滿している。
- 1751 urar tum wa
ウラ燻 トウ管 ワ
霧 中 (起点)
その霧の中から、
- 1752 kanakat kor be
カナカ燻 コ燻 ベ
何 持つ もの
何者かが
- 1753 tu nishte
トゥ ニシテ
二つの かしい
二つの強固な
- 1754 buyatek^{*16} urar
ブヤテ燻 ウラ燻
もやもやとする 霧
濃い霧に
- 1755 yaikoboye
ヤイコボイエ
自ら混ざる
混じって、
- 1756 i-otamkote
イ・オタ燻コテ
我・斬る
我らに斬りつけてきた。
- 1757 ki p ne koroka
キ 燻 ネ コロカ
する もの (繫辞類) (逆接)
そうではあるが、
- 1758 chiukoboike-an^{*17}
チウコボイケ・アン
互いに混ざる・我
我は波に混ざっており、
- 1759 i-haitahaita
イ・ハイタハイタ
我・失敗する
ねらいを外した。
- 1760 wen kinra ne
ウェン キンラ ネ
悪い 狂気 (繫辞類)
我は激しい狂気に
- 1761 i-kohetari
イ・コヘタリ
我・頭を上げる
とらわれた。
- 1762 shikari hattar
シカリ ハ燻夕燻
丸い 淵
丸い淵、
- 1763 hattar ka wa
ハ燻夕燻 カ ワ
淵 上 (起点)
その淵の上から
- 1764 kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
我らは天空へ
- 1765 a-korikoshma
ア・コリコ燻マ
我・飛び上がる
飛び上がった。
- 1766 iki-an awa
イキ・アン アワ
する・我 (展開)
すると、
- 1767 kanakat kor be
カナカ燻 コ燻 ベ
何 持つ もの
何者かは
- 1768 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
ひどく慌てたもの
- 1769 kone p ne kusu
コネ 燻 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 1770 kamui kar nisei
カムイ カ燻 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖、
- 1771 nisei tapkashi
ニセイ タ燻カシ
崖 頂き
その崖の上に
- 1772 chieranke
チエランケ
降りる
降り
- 1773 kush ne a koroka
ク燻 ネ ア コロカ
ように (繫辞類) (完了) (逆接)
ようにしたが、
- p. 27
- 1774 an-emontabi
アネモンタビ
我・忙しい
我らは敵を攻撃した。
- 1775 kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
すると、敵は天空へ
- 1776 korikoshma
コリコ燻マ
飛び上がる
飛び上がった。
- 1777 a-orauki kuni
ア・オラウキ クニ
我・逃す するべき
我らは逃しては
- 1778 wen hayaise
ウェン ハヤイセ
悪い 叫び声
なるものかと
- 1779 an-i-y-ekote
アニ・イエコテ
我・結びつけられる
思い、
- 1780 tu ruwetoko
トゥ ルウエトコ
二つの 行き先
二つの道の先、
- 1781 re ruwetoko
レ ルウエトコ
三つの 行き先
三つの道の先へ
- 1782 an-ewakewak
アネウケウ燻
我・立ち回る
立ち回った。
- 1783 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 1784 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
私の憑き神が
- 1785 tu base humi
トゥ バセ フミ
二つの 重い 音
二つの重々しい音、
- 1786 re base humi
レ バセ フミ
三つの 重い 音
三つの重々しい音を
- 1787 i-enka otte
イ・エンカ オ燻テ
我・上 あらしめる
我の上で鳴らした。
- 1788 sarekot mawe
サレコ燻 マウエ
尾が付いている 風
尾の付いたような風が
- 1789 tu shup ne rera
トゥ シュ燻 ネ レラ
二つの 渦 (繫辞類) 風
二つの旋風、
- 1790 re shup ne rera
レ シュ燻 ネ レラ
三つの 渦 (繫辞類) 風
三つの旋風となって
- 1791 iworso kurka
イウォ燻ソ ク燻カ
山奥 上
山奥に

*16 buyetek と書かれているが、校訂者によって buyatek に修正されている。

*17 chikoboikean と書かれているが、校訂者によって chiukoboikean に修正されている。

- 1792 chiesurure
チエスルレ
覆う
吹き荒れた。
- 1793 nitai kar be
ニタイ カ煖 ベ
林 当たる もの
林に当たる風は
- 1794 koshiushiwatki
コシウシワ燐キ
うなる
激しく鳴り、
- 1795 toyan kar be
トヤン カ煖 ベ
地面 当たる もの
地面に当たる風は
- 1796 koturimimse
コトゥリミ管セ
響き渡る
轟音を発した。
- 1797 kaino kuni p
カイン クニ 瀧 もの
折れやすい するべき
折れそうな樹木が
- 1798 kai hum konna
カイ フ管 コンナ
折れる 音 こそ
折れる音が
- 1799 chikaurototo
チカウロトト
鳴り響く
鳴った。
- 1800 kai niukesh be
カイ ニウケ燐 ベ
折れる しかねる もの
折れそうにない樹木は
- 1801 riten hash kunne
リテン ハ燐 クンネ
軟らかい 柴 ように
柔らかい枝のように、
- 1802 riten bunkan ne
リテン ブンカン ネ
軟らかい 蔓 (繫辞類)
柔らかい蔓のように
- 1803 amtoi kurka
ア管トイ ク煖カ
地面 上
地表へ
- 1804 chieshiturpa kane
チエシトゥ煖パ カネ
伸びている (程度)
折れ曲がり、
- 1805 hebitpa humi
ヘビ燐パ フミ
跳ね上がる 音
跳ね上がる音が
- 1806 koshiunataru
コシウナタラ
うなる
鳴った。
- 1807 amtoi kurka
ア管トイ ク煖カ
地面 上
地表は
- 1808 soshke baye
ソ燐ケ バイエ
剥かれる 行く
裂けつつあり、
- 1809 wen toyera
ウェン トイエラ
悪い 土ほこり
激しい土煙、
- 1810 wen munera
ウェン ムネラ
悪い 埃
激しい草のごみが
- 1811 kuttek nish ne
ク燐テ燐 ニ燐 ネ
黒い 雲 (繫辞類)
黒雲のように
- 1812 kamui nish ka ta
カムイ ニ燐 カ タ
神 雲 上 (場所)
天空に
- 1813 chiutasare
チウタサレ
入り乱れる
舞い上がった。
- 1814 nei tumuke beka
ネイ トゥムケ ベカ
(繫辞類) 中 で
その中で、
- 1815 kanakat kor be
カナカ燐 コ燐 ベ
何 持つ もの
何者かが、
- 1816 tek ush chikap ne
テ燐 ウ燐 チカ瀧 ネ
翼 ある 鳥 (繫辞類)
翼のある鳥のように、
- 1817 tek ush tori ne
テ燐 ウ燐 トリ ネ
翼 ある 鳥 (繫辞類)
羽毛のある鳥のように
- 1818 echararse
エチャラ燐セ
滑り落ちる
逃げていく。
- 1819 tu ruwetoko
トゥ ルウェトコ
二つの 行き先
我らは二つの道の先、
- 1820 re ruwetoko
レ ルウェトコ
三つの 行き先
三つの道の先へと
- 1821 a-ewakewak
ア・エワケワ燐
我・立ち回る
立ち回り、
- 1822 a-otamkote
ア・オタ管コテ
我・斬りつける
斬りつけた。
- 1823 ki p ne koroka
キ 瀧 ネ コロカ
する もの (繫辞類) (逆接)
しかし、
- 1824 ponno poka
ボンノ ボカ
少し さえ
少しも
- 1825 tum kere humi
トゥ管 ケレ フミ
中 触れる 音
身体に当たる音が
- 1826 oarar isam
オアラ煖 イサ管
全く 無い
しない。
- 1827 makanneko
マカンネコ
あるときには
しばらくすると
- 1828 kenashso kurka
ケナ燐ソ ク煖カ
木原 上
敵は林の上に
- 1829 chieranke
チエランケ
降るされる
降り、
- 1830 kenashso utur
ケナ燐ソ ウトゥ煖
木原 間
林の間に
- 1831 ehoyubu
エホユブ
飛ぶ
走り回った。
- 1832 ki p ne koroka
キ 瀧 ネ コロカ
する もの (繫辞類) (逆接)
そうではあるが、
- 1833 netobake
ネトバケ
体
我らはその身体を、
- 1834 ponno ka
ボンノ カ
少し も
少しも
- 1835 a-shikniukeshte
ア・シ燐ニウケ燐テ
我・目で捉え損なう
目で追うことができない。
- 1836 ouse
オウセ
ただ
ただ、
- 1837 pon urar tapkop
ボン ウラ煖 タ燐コ瀧
小さい 霧 小山
小さな霧の小山、
- 1838 urar tumu
ウラ煖 トウム
霧 中
その霧の中が
- 1839 shikaye kane
シカイエ カネ
光る (程度)
光り
- 1840 mike kane
ミケ カネ
輝く (程度)
輝いている。
- 1841 kira batek
キラ バテ燐
逃げる のみ
そして、逃げてばかり
- 1842 ki kane
キ カネ
する (程度)
いる。
- 1843 kushnabaunkur
ク燐ナパウungk煖
(人名)
クシナパウunkル、
- 1844 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は

- 1845 mi kosonte
ミ コソソテ
着る 小袖
着ている小袖が
- p. 28
- 1846 chibetpa shiri
チベ爛バ シリ
破れる 様子
裂けた様子である。
- 1847 anihi ne yakka
アニヒ ネ ヤ燾カ
彼 (繫辞類) (讓歩)
そして、自身も
- 1848 ikurkashike
イク燾カシケ
その上
敵の背後を
- 1849 yairarire
ヤイラリレ
いる
追いかけている。
- 1850 hemanta
ヘマンタ
何
如何なる
- 1851 kamiashi
カミアシ
化物
化け物であるのか。
- 1852 a-ukonoshpa koroka
ア・ウコノ燾バ コロカ
我ら・共に追う (逆接)
我らが追いかけても、
- 1853 a-kishma
ア・キ燾マ
抑えられる
捕まえることが
- 1854 koyaikush aine
コヤイク燾 アイネ
できない (接続)
できない。そして、
- 1855 arkamiashi
ア燾カミアシ
化物
化け物は
- 1856 tomisambechi
トミサ燾ベチ
(地名)
トミサンベチの
- 1857 bet esoro
ベ爛 エソロ
川 沿って
川に沿って
- 1858 bet besh rera
ベ爛 ベ燾 レラ
川 沿う 風
流れる風を
- 1859 yaiturare
ヤイトゥラレ
自ら伴わせる
伴い、
- 1860 san hum konna
サン フ燾 コンナ
くだる 音 こそ
下っていく音が
- 1861 keurototke
ケウロト爛ケ
響く
響いた。
- 1862 ikakashi
イカカシ
すぐ後に続いて
我らはその背後を
- 1863 a-yairarire
ア・ヤイラリレ
我・みずからを押しつける
追いかけた。
- 1864 tu shupne rera
トゥ シュ燾ネ レラ
二つの 渦になる 風
二つの旋風、
- 1865 re shupne rera
レ シュ燾ネ レラ
三つの 渦になる 風
三つの旋風を
- 1866 a-shikotchaaite
ア・シコ爛チャア爛テ
我・自らの前にあらしむ
我らは巻き起こした。
- 1867 rera etoko
レラ エトコ
風 前方
風の先に
- 1868 numushnu kaukau
ヌム燾ヌ カウカウ
大粒である 霰
粒のある霰、
- 1869 numushnu apto
ヌム燾ヌ アプト
大粒である 雨
粒のある雨が
- 1870 chieranke kane
チエランケ カネ
降りる (程度)
降り落ちた。
- 1871 arwem bito
ア燾ウェ營 ビト
極悪の 人
悪者の
- 1872 tu ru etoko
トゥ ル エトコ
二つの 道 前方
二つの道の先、
- 1873 re ru etoko
レ ル エトコ
三つの 道 前方
三つの道の先へ
- 1874 an-echararse kane
アネチャラ燾セ カネ
我・流れ下る (程度)
我らは先回りした。
- 1875 shinutapka ta
シヌタ燾カ タ
(地名) (場所)
シヌタプカが
- 1876 homaritara
ホマリタラ
かすかに
霞んで見える。
- 1877 urarihi
ウラリヒ
霧
敵の霧に
- 1878 a-tambekare
ア・タ燾ベカレ
我・刀を向ける
我は刀を向けて、
- 1879 yupke tam kuru
ユ燾ケ タ燾 クル
強い 刀 影
激しい太刀影を
- 1880 a-koterkere
ア・コテ燾ケレ
我・とばす
浴びせた。
- 1881 kanak an kuni p
カナ燾 アン クニ 燾
誰 ある するべき もの
何者かが
- 1882 a-ki wa rui be
ア・キ ワ ルイ ベ
我・する (接続) 激しい もの
我の激しい太刀筋、
- 1883 eem be notak
エエ營 ベ ノタ燾
鋭い もの 刃
鋭い刃を、
- 1884 beken rera ne
ベケン レラ ネ
明るい 風 (繫辞類)
澄んだ風となって
- 1885 echararse kane
エチャラ燾セ カネ
滑り落ちる (程度)
すり抜けていった。
- 1886 eem be mekkashi
エエ營 ベ メ燾カシ
鋭い もの 表面
そして、刃の表面を
- 1887 pirika ruika ne
ピリカ ルイカ ネ
よい 橋 (繫辞類)
美しい橋のように、
- 1888 i-koterke
イ・コテ燾ケ
我・跳ねる
我に浴びせてきた。
- 1889 i-kohobiye
イ・コホビエ
我・速い
我より速く走り、
- 1890 an-ekotboki-
アネコ爛ボキ・
我・下
我の手前で
- 1891 ewenitara
エウエニタラ
よくない
対抗してきた。
- 1892 turush kinra ne
トゥル燾 キンラ ネ
激しい 狂気 (繫辞類)
我は激しい怒りに
- 1893 i-kohetari
イ・コヘタリ
我・頭を上げる
とらわれた。
- 1894 rak kush tam kur
ラ燾 ク燾 タ燾 ク燾
低所 通る 刀 影
下を通る太刀影は
- 1895 hobuni nui ne
ホブニ ヌイ ネ
起き上がる 炎 (繫辞類)
燃え盛る火のように、
- 1896 rik kush tam kur
リ燾 ク燾 タ燾 ク燾
高所 通る 刀 影
上を通る太刀影は
- 1897 rapse nui ne
ラ燾セ ヌイ ネ
羽ばたく 炎 (繫辞類)
燃え跳ねる火のように、

- 1898 tam utur kush be
タ營 ウトゥ燵 ク燕 be
刀 間 通す ベ
我は素早く太刀を 物の
- 1899 a-tunashsuye
ア・トゥナ燵スイエ
我・早く揺らす
浴びせた。
- 1900 tane anakne
タネ アナ燵ネ
今 は
今は
- 1901 arkamiashi
ア燵カミアシ
化物
化け物に、
- 1902 shikiru nittom
シキル 二燵ト營
振り向く 隙間
向きを変える隙も、
- 1903 hekiru nittom
ヘキル 二燵ト營
振り向く 隙間
振り向く隙も
- 1904 an-enukeshte
アネニウク燵テ
我・できなくさせる
我らは与えて
- 1905 noine kane
ノイネ カネ
らしく (程度)
いないように
- 1906 iramu-an kane
イラム・アン カネ
思う・我 (程度)
思われた。
- 1907 kannaruino
カンナルイノ
再びまた
再びまた、
- 1908 homar kuri
ホマ燵 クリ
かすんでいる 影
霞んだ影に
- 1909 a-tambekare
ア・タ營ベカレ
我・刀を向ける
我は刀を向けた。
- 1910 chikap korachi
チカ燵 コラチ
鳥 ように
鳥のように
- 1911 tunash tam suye
トゥナ燵 タ營 スイエ
早い 刀 揺する
素早い太刀で、
- p. 29
- 1912 a-etembokkonna-
ア・エテ營ボ燵コンナ・
我・腕の下
私の腕が
- 1913 barkosanu
バ燵コサヌ
光る
さっと光った。
- 1914 iki-an awa
イキ・アン アワ
する・我 (展開)
すると、
- 1915 kamui eraman no
カムイ エラマン ノ
神 知る (接続)
神が知るように、
- 1916 ituye ser hum
イトウイエ セ燵 フ營
人斬る 半分 フ營
物を斬る 音
- 1917 serkosanu
セ燵コサヌ
抜き放たれる
鳴った。
- 1918 hontomo ta
ホントモ タ
途中 (場所)
その途中で、
- 1919 chashi teksam ta
チャシ テ燵サ營 タ
チャシ すくそば (場所)
館の側で、
- 1920 seenne nak sui
セエンネ ナ燵 スイ
(否定) (不明) (不明)
よもや
- 1921 shirki kuni*18
シ燵キ クニ
そうする するべき
そのようなことがあるとは
- 1922 a-ramu rok i
ア・ラム ロ燵 イ
我・思う (完了) こと
思わなかったが、
- 1923 nekona shiko p
ネコナ シコ 燵
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者が
- 1924 eshibopke p
エシボ燵ケ 燵
身に着ける もの
着ていた物
- 1925 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だるう か
であろうか。
- 1926 kechaukar
ケチャウカ燵
羽毛
鳥の羽毛、
- 1927 kani kosonte
カニ コゾンテ
黄金 小袖
金の小袖の
- 1928 arke
ア燵ケ
半分
片側と、
- 1929 kanak an kuni p
カナ燵 アン クニ 燵
誰 ある するべき もの
何者かの
- 1930 attapshutu tura
ア燵タ燵シュトゥ トウラ
片方の肩 ともに
片側の肩とが、
- 1931 chiraekatta
チラエカ燵タ
下にぶつかる
落ちてきた。
- 1932 ekoobi
エコオビ
別れる
そこから離れたところで、
- 1933 kanak an kuni p
カナ燵 アン クニ 燵
誰 ある するべき もの
何者かが、
- 1934 retar urar tu ne
レタ燵 ウラ燵 トウ ネ
白い 霧 筋 (繫辞類)
白い霧の筋となつて、
- 1935 kamui nishka
カムイ ニ燵カ
神 上空
天空へ
- 1936 kotuikosanu shiri
コトウイコサヌ シリ
消える 様子
立ち去る様子
- 1937 a-wennukar
ア・ウェンヌカ燵
我・よく見る
我らは見た。
- 1938 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 1939 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 1940 inne tobaha
インネ トバハ
大勢である 群れ
大勢で、
- 1941 turesh turanno
トゥレ燵 トウランノ
妹 とともに
妹と共に、
- 1942 utat turanno
ウタ燵 トウランノ
人々 とともに
人々と共に、
- 1943 i-sermak
イ・セ燵マ燵
我・背後
我らの背後を
- 1944 ush kusu
ウ燵 クス
ある (理由・目的)
支えるために
- 1945 inausan bake
イナウサン バケ
祭壇 先頭
幣棚の上手、
- 1946 inausan kese
イナウサン ケセ
祭壇 末端
幣棚の下手で
- 1947 euhorippare kane
エウホリ燵バレ カネ
互いに踊る (程度)
悪魔祓いの行進をしている。
- 1948 hokokse hawe
ホコ燵セ ハウエ
叫び声を出す 声
男性の声、

*18 kuni は後から書き加えられている (校訂者による修正と推測される)。

- 1949 mat rimimse hawe
マ爛 リミ營セ ハウエ
女 泣き叫ぶ 声
女性の声が
- 1950 uwobuk hawe
ウウォブ燻 ハウエ
混じり合う(不明) 声
混じる様子が
- 1951 bebunitara kane
ベブニタラ カネ
騒がしい(程度)
賑やかである。
- 1952 hawash chiki
ハワ燕 チキ
言われる(条件)
そして、
- 1953 terke tuika ta
テ燻ケ トウイカ タ
跳ねる上(場所)
跳躍しながら、
- 1954 a-kutsamkonna
ア・ク燻サ營コナ
我・喉元
私の喉元が
- 1955 uwetunuise
ウウェトウヌイセ
美しく響く
響き、
- 1956 itak-an hawe
イタ燻・アン ハウエ
言う・我 声
私が話すことは
- 1957 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のようであった。
- 1958 koninkar kusu
コニンカ燻 クス
さて(理由・目的)
「さてさて、
- 1959 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父、
- 1960 a-kor unarbe
ア・コ燻 ウナ燻ベ
我・持つ 伯母
我が伯母、
- 1961 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たち、
- 1962 a-tureshutari hene
ア・トゥレシュタリ ヘネ
我・妹たち も
我が妹たちも
- 1963 a-utari utar hene
ア・ウタリ ウタ燻 ヘネ
我・人々 人々 も
我が一族の人々も
- 1964 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列(繫辞類)
一斉に
- 1965 chise ot ta
チセ オ爛 タ
家 所(場所)
家の中へ
- 1966 ahup wa
アフ濺 ワ
入る(繫辞類)
入って、
- 1967 chikar tonoto
チカ燻 トノト
作られる 酒
醸された酒を
- 1968 arobittano
アロビ爛タノ
すべて
全員で
- 1969 ku wa
ク ワ
飲む(繫辞類)
飲み、
- 1970 chise chashnure
チセ チャ燻ヌレ
家 片付ける
家を片付けてほしい。
- 1971 orowa
オロワ
(始点)
それから、
- 1972 ushinnai ushinnai
ウシンナイ ウシンナイ
別に 別に
別々に、
- 1973 echi-ewak
エチ・エウ燻
汝ら・住む
汝らが住む
- 1974 ushike ta
ウシケ タ
ところ(場所)
ところへ
- 1975 hoshippa wa
ホシ濺バ ワ
帰る(繫辞類)
帰り、
- 1976 kamui koitak yan
カムイ コイタ燻 ヤン
神 話しかける(命令)
神に伝えてほしい。
- 1977 i-sermak ush yan
イ・セ燻マ燻 ウ燻 ヤン
我・背後 ある(命令)
我を支えてほしい。
- 1978 hembara bakno
ヘ營バラ バ燻ノ
いつ まで
いつまでも、
- 1979 tap korachi
タ濺 コラチ
これ ように
そのように
- 1980 soi ta
ソイ タ
家の外(場所)
汝らが外に
- 1981 echi-okai wa
エチ・オカイ ワ
汝ら・いる(繫辞類)
いて、
- p. 30
- 1982 echi-isermakush yakka
エチ・イセ燻マ燻 燻ヤ燻カ
汝ら・背後につく(譲歩)
支えてくれても、
- 1983 konep tap teta
コネ濺 タ濺 テタ
何 これ ここで
如何なることか。
- 1984 chikoramnukar
チコラ營ヌカ燻
挑戦すること
試みる
- 1985 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類)(繫辞類)(繫辞類)(譲歩)
にしても
- 1986 orsaureko
オ燻サウレコ
とんでもなく
ただならぬ
- 1987 i-y-ekarkar shiri
イ・イエカ燻カ燻 シリ
我・する 様子
仕打ちをされたの
- 1988 okai kusu
オカイ クス
ある(理由・目的)
であるから、
- 1989 taban tewano
タバ ン テワノ
この これから
これから、
- 1990 ikakashi
イカカシ
すぐ後に続いて
敵の背後を
- 1991 a-yairarire wa
ア・ヤイラリレ ワ
我・みずからを押しつける(繫辞類)
追いかけて、
- 1992 anno iki p
アンノ イキ 濺
ひどくするもの
敵方の
- 1993 kotani hene
コタニ ヘネ
村 も
村のことで、
- 1994 shinrichi hene
シンリチ ヘネ
先祖 も
先祖のことで
- 1995 a-eraman wa
ア・エラマン ワ
我・知る(繫辞類)
探って、
- 1996 pon chikoyayattasa
ボン チコヤヤ爛タサ
小さい 返礼する
少しばかりの返礼を
- 1997 a-ki
ア・キ
我・する
するつもりだ。
- 1998 orowa
オロワ
(始点)
それから
- 1999 hoshibi-an kushki
ホシビ・アン ク燻キ
戻る・我 しようとする
我は戻る
- 2000 ruwe tab an na
ルウェ タバ ン ナ
様子 これ ある ぞ
つもりだ。
- 2001 ouse
オウセ
ただ
ただ、

- 2002 kamuiotobush
カムイオトブ燕
(人名)
カムイオトブシ、
- 2003 ponyayepirika
ボンヤイエピリカ
(人名)
ボンヤイエピリカ、
- 2004 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちよ、
- 2005 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人で
- 2006 ainu oka ta
アイヌ オカ タ
人間 後 (場所)
人々が去った後で、
- 2007 chiseta turesh
チセタ トゥレ燕
家の 妹
家の妹と
- 2008 kushnabaummat
クシナバウマツ
(人名)
クシナバウマツ、
- 2009 a-tureshutari
ア・トゥレシュタリ
我・妹たち
我が妹たちを
- 2010 nekona kar wa*19
ネコナ カル ワ
どのように する (接続)
どうにか
- 2011 kamui nishukpa
カムイ ニシュ燐バ
神 頼る
救い、
- 2012 shiknure wa
シクヌレ ワ
生かす (接続)
命を助けて
- 2013 i-kore kunak
イ・コレ クナ燐
我・与える (引用)
くれ
- 2014 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ないか。」
- 2015 ari itak-an kane
アリ イタ燐・アン カネ
(引用) 言う・我 (程度)
我はそのように言い、
- 2016 kamui nishka
カムイ ニスカ
神 上空
天空へ
- 2017 a-kohobuni
ア・コホブニ
我・立ち上がる
飛び上がった。
- 2018 terke tuika ta
テケケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
跳躍しながら
- 2019 inkar-an ko
インカ燐・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 2020 ineap kusu
イネア燐 クス
何と (理由・目的)
何と
- 2021 a-utari
ア・ウタリ
我・人々
我が一族の
- 2022 utar orke
ウタ燐 オ燐ケ
人々 所
人々は
- 2023 uitaknu wa
ウイタ燐ヌ ワ
言うことを聞く (接続)
言うことを聞く
- 2024 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ ア
する だろう か
ものであるうか。
- 2025 toop
トオ燐
ずっと遠く
ずっと、
- 2026 ukoawokarpa shiri
ウコアウオカ燐バ シリ
共に家へ入る 様子
それぞれの家へ戻る様子を
- 2027 a-nukar kor
ア・ヌカ燐 コ燐
我・見る (同時)
我は見えて、
- 2028 kamui nishka
カムイ ニスカ
神 上空
天空を
- 2029 a-nukarnukar kane
ア・ヌカ燐ヌカ燐 カネ
我・よくよく見る (程度)
よく見まわした。
- 2030 a-tekririkur-
ア・テ燐リキク燐・
我・手を高く
我は手を高く
- 2031 buni kane
ブニ カネ
上げる (程度)
上げて、
- 2032 otu san ashke
オトゥ サン ア燐ケ
二つの くだる 手
二つの拝礼、
- 2033 ore san ashke
オレ サン ア燐ケ
三つの くだる 手
三つの拝礼を
- 2034 a-ukaenoye
ア・ウカエノイエ
我・摺り合わせる
繰り返した。
- 2035 kurkashike
クカシケ
表面
その上で、
- 2036 a-itakomare hawe
ア・イタコマレ ハウエ
我・言う 声
我が言うことは
- 2037 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のようであった。
- 2038 koninkar kusu
コニンカ燐 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 2039 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
我が憑き神
- 2040 utar orke
ウタ燐 オ燐ケ
人々 所
たちよ、
- 2041 itak-an chiki
イタ燐・アン チキ
言う・我 (条件)
話すから
- 2042 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
良く 聞く (接続)
よく聞いて
- 2043 i-kore kunak
イ・コレ クナ燐
我・与える (引用)
くれ
- 2044 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ないか。
- 2045 shinot boka
シノ燐 ボカ
遊び さえ
遊び事さえも
- 2046 eramishkare p
エラミ燐カレ プ
わからない もの
我は知らない
- p. 31*
- 2047 a-ne wa
ア・ネ ワ
我・(繫辞類) (接続)
者であるのに、
- 2048 ne kotan kor be
ネ コタン コ燐 ベ
何処 村 持つ もの
どこの村の者であるのか、
- 2049 ne moshiri koro be
ネ モシリ コロ ベ
何処 国土 持つ もの
どこの土地の者であるか。
- 2050 omotosakno
オモトサ燐ノ
理由もなく
理由なしに、
- 2051 oikkeusakno
オイ燐ケウサ燐ノ
わけもなく
道理なしに、
- 2052 chishimemokka
チシメモ燐カ
挑発される
我は挑戦

*19 wa は後から書き加えられている(校訂者による修正と推測される)。

- 2053 i-y-ekarkar
イ・イエカ煖カ煖
我・する
されたのだ。
- 2054 tam be kusu
タ營 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 2055 a-noshpa awa
ア・ノ燕バ アワ
我・追う (展開)
我が追いかけたのだが、
- 2056 a-tamoraukire
ア・タモラウキレ
我・斬り損なう
我が太刀をかわした。
- 2057 tam be kusu
タ營 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 2058 taban tewano
タバ テワノ
この これから
これから、
- 2059 tapne kane
タ灘ネ カネ
これである (程度)
このような
- 2060 katkor kuni p
カ燭コ燭 クニ p
振舞う するべき もの
次第であるから、
- 2061 tuima ruye
トゥイマ ルイエ
遠い 足取り
遠い足跡、
- 2062 hanke ruye
ハンケ ルイエ
近い 足取り
近い足跡を
- 2063 a-yaikarire
ア・ヤイカレレ
我・たどる
我は追いかける
- 2064 shiri tab an na
シリ タバ ナ
様子 これ ある ぞ
のだ。
- 2065 irukai ne na
イルカイ ネ ナ
しばらくの間 (繫辞類) ぞ
しばらくの間のことだ。
- 2066 chikohummore
チコフ營モレ
音を鎮める
音を沈めて
- 2067 i-y-ekarkar wa
イ・イエカ煖カ煖 ワ
我・する (接続)
くれ
- 2068 i-kore kunak
イ・コレ クナ燭
我・与える (引用)
ない
- 2069 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
だろうか。
- 2070 nep ka
ネ灘 カ
何 か
何かに
- 2071 a-ehomatpa
ア・エホマ燭バ
我・慌てる
我が驚き、
- 2072 i-koiki-an i ta
イ・コイキ・アニ タ ta
我・攻められる とき (場所)
攻撃された時に、
- 2073 oro ta
オロ タ
場所 (場所)
その場所です
- 2074 tapne
タ灘ネ
これである
このように
- 2075 chikohumyuppa
チコフ營コ灘バ
奮い立つ
音を強めて
- 2076 i-y-ekarkar wa
イ・イエカ煖カ煖 ワ
我・する (接続)
くれ
- 2077 i-kore kunak
イ・コレ クナ燭
我・与える (引用)
ない
- 2078 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
だろうか。」
- 2079 ari itak-an awa
アリ イタ燭・アン アワ
(引用) 言う・我 (展開)
このように我が言ったところ、
- 2080 ainu kusu
アイヌ クス
人間 (理由・目的)
人間であるから、
- 2081 uitaknu wa
ウイタ燭ヌ ワ
言うことを聞く (接続)
言うことを聞く
- 2082 humash nankor a
フマ燕 ナンコラ a
音がする だろう か
のであろうか。
- 2083 a-turen kamui
ア・トゥレン カムイ
我・憑く 神
我が憑き神
- 2084 utar orke
ウタ煖 オ燭ケ
人々 所
たちの
- 2085 hum etoko
フ營 エトコ
音 前方
音が
- 2086 koeninninke
コエニンニンケ
消える
消えた。
- 2087 nep humi ka
ネ灘 フミ カ
何 音 ち
何の音も
- 2088 isam
イサ營
無い
しなくなった。
- 2089 toop
トオ灘
ずっと遠く
遙か
- 2090 tuima shit ta
トゥイマ シ燭 タ
遠い 地面 (場所)
遠くで、
- 2091 kushnabaunkuru
ク燕ナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 2092 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燭 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄が
- 2093 i-oshi wa ek
イ・オシ ワ ek
我・後 (起点) 来る
我を追って来た
- 2094 kotomno
コト營ノ
ように
ように
- 2095 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われた。
- 2096 shietok un wa
シエト燭 ウン ワ
自分の行く手 (方向) (起点)
私の行く先を
- 2097 toikoyayinkar-
トイコヤインカ煖・
よく自ら見る
じっくりと
- 2098 pirikare-an wa
ピリカレ・アン ワ
良くする・我 (接続)
見定めて
- 2099 inkar-an ko
インカ煖・アン ko
見る・我 (条件)
みると、
- 2100 kamui nish ka ta
カムイ ニ燕 カ タ
神 空 上 (場所)
天空の上に
- 2101 retar ka tu bakno
レタ煖 カ トゥ バ燭ノ
白い 系 筋 まで
白い系筋まで、
- 2102 retar urar tu
レタ煖 ウラ煖 トゥ
白い 霧 筋
白い系筋が
- 2103 shituri ruwe
シトゥリ ルウエ
伸びる 様子
伸びている様子が
- 2104 a-eraman
ア・エラマン
我・知る
分かった。
- 2105 nei ambe
ネイ ア營ベ
(繫辞類) あること
それを

- 2106 a-yaibekare kane
ア・ヤイベカレ カネ
我・沿っていく (程度)
我は追いかけた。
- 2107 hauke rera
ハウケ レラ
弱い 風
弱い風、
- 2108 rera etoko
レラ エトコ
風 前方
その風の上に
- 2109 a-i-y-ekoshne-
ア・イ・イエコ燕ネ・
我・軽々と
我は軽く
- 2110 buni kane
ブニ カネ
上げる (程度)
持ち上げられた。
- 2111 an-ekisarsutu^{*20}
アネキサ燻ストウ・
我・耳元
私の耳元で
- 2112 maukururu
マウクルル
風が渦巻く
風が鳴った。
- 2113 oman-an aine
オマン・アン アイネ
行く・我 (接続)
我は進んで行き、
- 2114 konep kotani
コネ灘 コタニ
何 村
如何なる村
- 2115 ne nankor a
ネ ナンコラ a
(繋辞類) だろう か
であろうか。
- 2116 tam boro kotan
タ營 ボロ コタン
この 大きい 村
大きな村があり、
- 2117 kotan kankuri
コタン カンクリ
村 影
その村の影が
- p. 32*
- 2118 kuroma to ta
クロマ ト タ
暗い 日 (場所)
暗闇の中で、
- 2119 kunne to ta
クンネ ト タ
夜 日 (場所)
暗夜の中で
- 2120 iki korkaiki
イキ コ燻カイキ
する (逆接)
ではあるが、
- 2121 i-koyairikta
イ・コヤイリ燻タ
我・高く
我に高々と
- 2122 buni kane
ブニ カネ
上げる (程度)
せまってきた。

^{*20} sutu は後から書き加えられている (校訂者による修正と推測される)。

第3章 ニソル ンサンタ

3.1 敵の館

- 2123 tane
タネ
今
今や
- 2124 ehankeno
エハンケノ
近くに
近くまで
- 2125 oman-an wa
オマン・アン ワ
行く・我 (接続)
我は進んで行って
- 2126 inkar-an ko
インカ煖・アン コ
見る・我 (条件)
見たところ、
- 2127 tam boro bet
タ曇 ボロ ベ爛
この 大きい 川
大きな川があり、
- 2128 san ruwe konna
サン ルウェ コンナ
くだる 様子こそ
その流れ下る様子は
- 2129 maknatara
マ燻ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 2130 bet teksama
ベ爛 テ燻サマ
川 すぐそば
川のほとりに
- 2131 a-i-y-eranke
ア・イ・イエランケ
我・降ろされる
我は降ろされた。
- 2132 inkar-an ko
インカ煖・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 2133 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 2134 bet kashkamui
ベ爛 カ燻カムイ
川 守り神
川の守り神が
- 2135 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう か
いるのであろうか。
- 2136 tuima sam bet
トゥイマ サ曇 ベ爛
遠い 下る 川
遠くから流れ下る川
- 2137 kone p ne kusu
コネ 灘 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 2138 bet etoko
ベ爛 エトコ
川 前方
川の源流は
- 2139 chioraunakuru-
チオラウナクル・
下の方
彼方に低く
- 2140 rante kane
ランテ カネ
降ろす (程度)
沈んで見える。
- 2141 betosambutu
ベトサ曇フトウ
川の出口
川口は
- 2142 atuiso kashi
アトウイソ カシ
海面 上
海面の上で
- 2143 kobarachiwash-
コバラチワ燻・
広い波立ち
波立って
- 2144 sapte kane
サ燻テ カネ
出ず (程度)
いる。
- 2145 uren bet
ウレン ベ爛
両方の 川
二つの川の
- 2146 barurke
バル燻ケ
端の方
もう一方は、
- 2147 kunne kamaso
クンネ カマソ
黒い 磯の岩
黒い磯の岩、
- 2148 retar kamaso
レタ燻 カマソ
白い 磯の岩
白い磯の岩で
- 2149 chikoseshke
チコセ燻ケ
密集している
塞がれている。
- 2150 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 2151 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
好ましく思った。
- 2152 inkar-an ko
インカ煖・アン コ
見る・我 (条件)
我が見ると、
- 2153 inne kotan
インネ コタン
大勢である 村
多くの村、
- 2154 kotan kurkashi
コタン ク燻カシ
村 上
その村の一带は
- 2155 koteshnatara
コテ燻ナタラ
平らになっている
滑らかに広がっている。
- 2156 kotan bake
コタン バケ
村 先端
村の上手と
- 2157 kotan kese
コタン ケセ
村 末端
村の下手が
- 2158 homar kane
ホマ燻 カネ
かすんでいる (程度)
霞んでいる。
- 2159 ineap kusu
イネア燻 クス
何と (理由・目的)
何と
- 2160 kotan pirika wa
コタン ピリカ ワ
村 良い (接続)
村は美しい
- 2161 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう か
ことか。
- 2162 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 2163 mono kotan
モノ コタン
静かに 村
静かな村、
- 2164 ratchi kotan
ラ燻チ コタン
穏やかな 村
穏やかな村
- 2165 nei noine
ネイ ノイネ
(繫辞類) らしく
であるらしい
- 2166 shiran ruwe^{*21}
シラン ルウェ
有様である 様子
ことが
- 2167 a-noeraman kane
ア・ノエラマン カネ
我・よくわかる (程度)
我にはよく分かった。
- 2168 kotan kurkashi
コタン ク燻カシ
村 上
村の一带を

*21 ruwa と書かれているが ruwe と解釈する。

- 2169 a-uwambare
ア・ウワ營バレ
我・調べる
我は見渡した。
- 2170 kotan noshkike
コタン ノ燕キケ
村 真中
村の中央に
- 2171 chibuni tapkop
チブニ タ濺コ濺
盛り上がる 小山
盛り上がった小山が
- 2172 chieashi
チエアシ
立つ
聳えている。
- 2173 shiran chiki
シラン チキ
有様である (条件)
そして、
- 2174 kamaso ka wa
カマソ カワ
磯の岩 上 (接続)
我は磯の岩の上から
- 2175 chikap hobuni
チカ濺 ホブニ
鳥 起き上がる
鳥が飛び立つ
- 2176 a-shikobayar
ア・シコバヤ燠
我・見せかける
かのようにした。
- 2177 ohumsaknobo
オフ營サ燠ノボ
音を立てずに
そして、音を立てずに、
- 2178 ekaichish tapka un
エカイチ燕 タ濺カ ウン
頂上の平らな岩山 頂き (方向)
頭の折れた岩山の頂きへ
- 2179 chikap reu shiri
チカ濺 レウ シリ
鳥 止まる 様子
鳥が止まる
- 2180 a-shikobayar
ア・シコバヤ燠
我・見せかける
かのようにした。
- 2181 ekaichish ka ta
エカイチ燕 カ タ
頂上の平らな岩山 上 (場所)
頭の折れた岩山に
- 2182 tam boro chise
タ營 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家、
- 2183 tam boro chashi
タ營 ボロ チャシ
この 大きい チャシ
大きな館が
- p. 33
- 2184 uworeroshki kane
ウウォレロ燕キ カネ
重なってそびえる (程度)
並んでいる。
- 2185 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 檣
外にある檣、
- 2186 yakura kurka
ヤクラ ク畏カ
檣 上
その檣の上に
- 2187 orhabunno
オ燠ハブンノ
極めて静かに
我は静かに
- 2188 a-i-y-eranke
ア・イ・イエランケ
我・降ろされる
降ろされた。
- 2189 seenne ka sui
セエンネ カ スイ
(否定) (不明) (不明)
よもや
- 2190 oro ta
オロ タ
場所 (場所)
そこで
- 2191 abe a kuni
アベ ア クニ
火 座る するべき
火が燃えているとは
- 2192 a-ramu rok i
ア・ラム ロ燠 イ
我・思う (完了) こと
思わなかったが、
- 2193 chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚かれた火が
- 2194 soi ta barse
ソイ タ バ燠セ
家の外 (場所) 燃える
外で燃えさかる
- 2195 semkorachi
セ營コラチ
かのである
かのである。
- 2196 burai kari
ブライ カリ
窓 から
窓から、
- 2197 aba kari
アバ カリ
簾戸 から
戸口から、
- 2198 abe nubek
アベ ヌベ燠
火 光
火の光が
- 2199 maknatara kane
マ燠ナタラ カネ
輝いている (程度)
輝いている。
- 2200 shiran ko
シラン コ
有様である (条件)
そうではあるが、
- 2201 nep hawe ka
ネ濺 ハウエ カ
何 声 も
何の声も、
- 2202 nep humi ka
ネ濺 フミ カ
何 音 上
何の音も
- 2203 oarar isam
オアラ燠 イサ營
全く 無い
全くしない。
- 2204 shiran chiki
シラン チキ
有様である (条件)
そこで、
- 2205 chashi teksam ta
チャシ テ燠サ營 タ
チャシ すぐそば (場所)
館の側で
- 2206 humiash kuni p
フミア燕 クニ 濺
音を立てる するべき もの
音をたてるように、
- 2207 tu utur sama
トゥ ウトゥ燠 サマ
二つの 間 そば
二度、
- 2208 re utur sama
レ ウトゥ燠 サマ
三つの 間 そば
三度と
- 2209 a-ochimbuni
ア・オチ營ブニ
我・脚を上げる
我は脚を上げ、
- 2210 moire apkash
モイレ ア濺カ燕
遅い 歩く
緩やかな歩みで
- 2211 a-kourebentok-
ア・コウレベント燠・
我・足の先
足を
- 2212 kiru kane
キル カネ
向ける (程度)
運んだ。
- 2213 inkar-an ko
インカ燠・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 2214 oar anakne
オア燠 アナ燠ネ
全く は
全く、
- 2215 bashta okai be
バ燕タ オカイ ベ
格下の ある もの
身分の低い者の
- 2216 ewak ushike
エワ燠 ウシケ
住む ところ
住まい
- 2217 somo ne
ソモ ネ
(否定) (繫辞類)
ではない
- 2218 kotom no
コト營 ノ
ようである (接続)
ようであり、
- 2219 chise soinake
チセ ソイナケ
家 家の外
家の周囲、
- 2220 chashi soinake
チャシ ソイナケ
チャシ 家の外
館の周囲の
- 2221 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隅々 から
どこもかしこにも

- 2222 a-koomommomo*²²
ア・コオモ管モモ
我・詳述する
我は感嘆した。
- 2223 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どのように
- 2224 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる こと も
賞賛すること
- 2225 oarar isam
オアラ燵 イサ管
全く 無い
できないほど美しい。
- 2226 terke tuika ta
テ燵ケ トウイカ タ
跳ねる 上 (場所)
跳躍しながら、
- 2227 kimatek ka ta
キマテ燵 カ タ
慌てる 上 (場所)
慌てながらではあるが、
- 2228 a-ewak shiroro
ア・エワ燵 シロロ
我・住む 場所
我が住まいの
- 2229 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
周囲
- 2230 hemem
ヘメ管
も
も
- 2231 pirika noine
ピリカ ノイネ
よい らしく
美しい様子
- 2232 shiran awa
シラン アワ
有様である (展開)
であったが、
- 2233 eturbak kuni p
エトゥ燵バ燵 クニ p
並ぶ すべき もの
それと並び立つもの
- 2234 ne nankor a
ネ ナンコラ a
(繫辞類) だろう か
であろうか。
- 2235 sonno
ソノノ
真に
まことに
- 2236 kamui ewak i
カムイ エワ燵 イ
神 住む ところ
神の住まいに
- 2237 a-kotomka kane
ア・コト管カ カネ
似合う (程度)
ふさわしい。
- 2238 shireramasu-an kane
シレラマス・アン カネ
景色を好む・我 (程度)
我は好ましく思った。
- 2239 rorun burai ne
ロルン プライ ネ
上座の 窓 (繫辞類)
神窓に
- 2240 a-koyaitunashka
ア・コヤイトゥナ燕カ
我・急ぐ
我は急ぎ、
- 2241 ratki burai
ラ燵キ プライ
垂れ下がる 窓
垂れ下がった窓、
- 2242 burai chinki
プライ チンキ
窓 襦
その窓の端を
- 2243 a-kokkaechiu
ア・コ燵カエチウ
我・ひざまずく
膝で突いた。
- 2244 burai kurkashi
プライ ク燵カシ
窓 上
我は窓の表面に
- 2245 a-nankotukka
ア・ナンコトゥ燵カ
我・顔をつける
顔を付けた。
- 2246 sepka utur
セ燵カ ウトゥ燵
簾の隙間 間
簾の間に
- 2247 a-shikbosore wa
ア・シ燵ボソレ ワ
我・目を通す (接続)
目を通して
- 2248 inkar-an ko
インカ燵・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 2249 chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚かれた火、
- 2250 abe kurkashi
アベ ク燵カシ
火 上
その火は
- 2251 barse barse
バ燵セ バ燵セ
燃える 燃える
燃えさかっている。
- 2252 tam boro chise
タ管 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- p. 34
- 2253 upsoroho
ウ燵ソロホ
内部
内部は
- 2254 maknatara
マ燵ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 2255 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 2256 eboso kusu
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
道理で、
- 2257 soikehe sama
ソイケヘ サマ
家の外側 そば
家の外が
- 2258 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 様子
美しい様子、
- 2259 a-tomte ruwe
ア・ト管テ ルウェ
輝いている 様子
輝いている様子
- 2260 okai be ne kusu
オカイ ベ ネ クス
ある もの (繫辞類) (理由・目的)
であったのか。
- 2261 ne kotan kor be
ネ コタン コ燵 ベ
何処 村 持つ もの
どこに村を持つ者、
- 2262 ne moshiri kor be
ネ モシリ コ燵 ベ
何処 国土 持つ もの
どこに土地を持つ者が
- 2263 orsaureko
オ燵サウレコ
とんでもなく
ただならぬ有様で
- 2264 horarpa ruwe
ホラ燵バ ルウェ
住む 様子
住んでいる
- 2265 okai nankor a
オカイ ナンコラ a
ある だろう か
のか。
- 2266 tam boro chise
タ管 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 2267 aman emboki
アマン エ管ボキ
梁 下
梁の下は、
- 2268 chiibiyere
チイビイエレ
すきまなく
隙間なく
- 2269 kamui kor be
カムイ コ燵 ベ
神 持つ もの
神宝で
- 2270 a-etomtekar
ア・エト管テカ燵
飾り立てられる
飾られている。
- 2271 taban iyoikir
タバ ン イヨイキ燵
この 宝列
宝物壇、
- 2272 rorunso ba ta
ロルンソ バ タ
上座 上 (場所)
上座の上の

*²² akoomommomu と書かれているが akoomommomo と解釈する。

- 2273 boro ikiri
ボロ イキリ
大きい 列
大きな列は、
- 2274 chise barka
チセ バ煖カ
家 屋根裏
屋根裏で
- 2275 komeunataru kane
コメウナタラ カネ
きらびやかである (程度)
明るく輝いている。
- 2276 ikit tukari
イキ燭 トウカリ
列 手前
その列の手前に
- 2277 kani amset
カニ ア管セ燭
黄金 寝台
金の寝台が
- 2278 chieshiturire
チエシトゥリレ
伸びる
延べられている。
- 2279 amset ka ta
ア管セ燭 カ タ
寝台 上 (場所)
その寝台の上に、
- 2280 nekona shiko p
ネコナ シコ 瀧
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者、
- 2281 nekona baro p
ネコナ バロ 瀧
どのように 口がついている もの
如何なる育ちの者が
- 2282 ehotke kuni p
エホ燭ケ クニ 瀧
寝る すべき もの
寝るもの
- 2283 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だろう か
であろうか。
- 2284 hotke kosonte
ホ燭ケ コソント
寝る 小袖
夜着、
- 2285 ouse kosonte
オウセ コソント
ただ 小袖
だたの小袖
- 2286 iki korkaiki*²³
イキ コ煖カイキ
する (逆接)
ではあるが、
- 2287 kurkashike
ク煖カシケ
表面
その周囲で
- 2288 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 2289 eshimaka
エシマカ
輝く
輝いている。
- 2290 oha sotki
オハ ソ燭キ
空の 寝床
そして、空の寝床が
- 2291 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
延べられて
- 2292 kane shiran
カネ シラン
(程度) 有様である
いる。
- 2293 ruirui abe
ルイルイ アベ
強い 火
燃えさかる火、
- 2294 abe teksam ta
アベ テ燭サ管 タ
火 すぐそば (場所)
その火の側の
- 2295 oshisoun wa
オシソウン ワ
右座へ (起点)
右座に、
- 2296 pon urar tapkop
ボン ウラ燭 タ燭コ瀧
小さい 霧 小山
小さな霧の小山が
- 2297 chishireanu
チシレアヌ
おかれる
ある。
- 2298 hoka etok ta
ホカ エト燭 タ
炉 前方 (場所)
下座にも
- 2299 pon urar tapkop
ボン ウラ燭 タ燭コ瀧
小さい 霧 小山
小さな霧の小山が
- 2300 ehorari
エホラリ
居る
ある。
- 2301 nekon ne ruwe
ネコン ネ ルウエ
どのように (繫辞類) 様子
どうしたこと
- 2302 ne nankor a
ネ ナンコラ ア
(繫辞類) だろう か
であろうか。
- 2303 hoka etok ta am be
ホカ エト燭 タ ア管 ベ
炉 前方 (場所) ある もの
火の側にいる者の
- 2304 kurkashike
ク煖カシケ
表面
周囲は
- 2305 wen kem urar
ウェン ケ管 ウラ燭
悪い 血 霧
ひどい血の霧が
- 2306 rayochi reu ne
ラヨチ レウ ネ
虹 曲がる (繫辞類)
虹の曲がるように取り囲んでいる。
- 2307 kurkashike
ク煖カシケ
表面
そして、
- 2308 koekomomse kane
コエコモ管セ カネ
息を詰まらせる (程度)
苦し気な息をしている。
- 2309 oharkisoun
オハ煖キシソウン
左座から
左座に
- 2310 sarambe tumbu
サラ管ベ トウ管ブ
絹 部屋
絹の部屋が
- 2311 ash ruwe konna
ア燭 ルウエ コンナ
立つ 様子 こそ
立つ様子は
- 2312 maknatara
マ燭ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 2313 tumbu kitai
トウ管ブ キタイ
部屋 頂上
部屋の上部に
- 2314 okutchi urar
オク燭チ ウラ燭
たちこめる 霧
濃い霧が
- 2315 chikonoipa kane
チコノイパ カネ
たなびく (程度)
たなびいている。
- 2316 harki sam ta
ハ煖キ サ管 タ
左 側 (場所)
左座の
- 2317 abe teksam ta
アベ テ燭サ管 タ
火 すぐそば (場所)
火の側に
- 2318 pon urar tapkop
ボン ウラ燭 タ燭コ瀧
小さい 霧 小山
小さな霧の小山が

p. 35

- 2319 ehorari kane
エホラリ カネ
居る (程度)
ある。
- 2320 chise upsoroho
チセ ウ燭ソロホ
家 内部
家の内部の
- 2321 ebittano
エビ燭タノ
一面中
全てのものを
- 2322 a-uwampare wa
ア・ウワ管バレ ワ
我・調べる (接続)
我は調べて
- 2323 a-nukar okere
ア・ヌカ煖 オケレ
我・見る (終了)
見終えた。

*²³ 始め ikikorkaikaik と書かれているが ikikorkaiki に訂正されている。

- 2324 eashka
エア燕力
ほんとうに
まさしく、
- 2325 a-erayap aine
ア・エラヤ灘 アイネ
我・感心する (接続)
我は感嘆し、
- 2326 oshisoun wa am be
オシソウン ワ ア警 ベもの
右座へ (起点) ある 物の
右座にいる者を、
- 2327 hoshkiruino
ホシキルイノ
先に
先に、
- 2328 a-kourarchari aine
ア・コウラ燐チャリ アイネ
我・霧を散らす (接続)
霧を散らして
- 2329 inkar-an ko
インカ燐・アン コ
見る・我 (条件)
見ると、
- 2330 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 2331 boro shikup mat
ボロ シク灘 マ燐
大きい 成長する 女
立派に成長した婦人
- 2332 okai nankor a
オカイ ナンコラ ア
ある だろう か
であろうか。
- 2333 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐へ
我・持つ 伯母
我が伯母を
- 2334 pirika ari
ピリカ アリ
よい (引用)
美しいものと
- 2335 itak-an awa
イタ燐・アン アワ
言う・我 (展開)
言っていたが、
- 2336 eturpak kuni p
エトゥ燐バ燐 クニ 灘 物の
並ぶ するべき
それに並び立つ様子、
- 2337 ekasu kuni p
エカス クニ 灘 物の
越える するべき
それを凌ぐ様子
- 2338 okai nankor a
オカイ ナンコラ ア
ある だろう か
であろうか。
- 2339 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖、
- 2340 kani chikirbe
カニ チキ燐へ
黄金 刺繍衣
金の刺繍衣が
- 2341 urutkoboie kane
ウル燐コボイエ カネ
入り交じる (程度)
混ざっており、
- 2342 arutomechiu
アルトメチウ
身にまとう
それを着ている。
- 2343 attapkashi
ア燐タ灘カシ
片方の肩の上
片方の肩には
- 2344 shikush rayochi
シク燕 ラヨチ
日差し 虹
日光の虹、
- 2345 attapkashi
ア燐タ灘カシ
片方の肩の上
片方の肩には
- 2346 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
端の折れた 虹
頭の折れた虹が
- 2347 chieomare
チエオマレ
入る
ある。
- 2348 kimuikashi ta
キムイカシ タ
頭上 (場所)
それが頭上で
- 2349 unottasare kane
ウノ燐タサレ カネ
喉を交叉させる (程度)
交差している。
- 2350 kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
神髪は
- 2351 sarambe kunne
サラ警ベ クンネ
絹 ように
絹のように
- 2352 ekimuikashi
エキムイカシ
頭上
頭上を
- 2353 chiesurure
チエスルレ
覆う
覆っている。
- 2354 reuboki ta
レウボキ タ
下 (場所)
その下には
- 2355 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 2356 shikush toi kunne
シク燕 トイ クンネ
日差し 土 ように
陽光のように
- 2357 komaknatara
コマ燐ナタラ
輝いている
輝いている。
- 2358 tu okne ibor
トゥ オ燐ネ イボ燐
二つの 悲しむ 顔色
二つの悲しみの表情、
- 2359 re okne ibor
レ オ燐ネ イボ燐
三つの 悲しむ 顔色
三つの悲しみの表情を
- 2360 enuratkire kane
エヌラ燐キレ カネ
顔に浮かべる (程度)
顔に浮かべている。
- 2361 abe kurkashi
アベ ク燐カシ
火 上
そして、火の表面を
- 2362 shikomare
シコマレ
見つめる
見つめ
- 2363 kane okai
カネ オカイ
(程度) ある
ている。
- 2364 hoka etok ta am be
ホカ エト燐 タ ア警 ベもの
炉 前方 (場所) ある 物の
火の側にいる者を
- 2365 a-kourarchari
ア・コウラ燐チャリ
我・霧を散らす
我は霧を散らして見た。
- 2366 naani tu sui
ナアニ トウ スイ
まさに 二つの 回
二回、
- 2367 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三回と
- 2368 ainu kat ne
アイヌ カ燐 ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿を
- 2369 a-kar eaikap aine
ア・カ燐 エアイカ灘 アイネ
我・する できない (接続)
見定めることができなかった。
- 2370 urar tum ta
ウラ燐 トウ警 タ
霧 中 (場所)
霧の中に、
- 2371 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに、
- 2372 nei ta tu kotan ta
ネイ タ トウ コタン タ
何処 (場所) 二つの 村 (場所)
どこの二つの村に、
- 2373 nei ta re kotan ta
ネイ タ レ コタン タ
何処 (場所) 三つの 村 (場所)
どこの三つの村に、
- 2374 ene okai be
エネ オカイ ベもの
このように ある 物の
このような者が
- 2375 okai wa
オカイ ワ
ある (接続)
いて、
- 2376 oasurkeshta-
オアス燐ケ燕タ・
燐の端
燐にも

- 2377 kokishnu rokwa
コキ燕ヌ (口燻ワ)
静まる (展開)
ならない
- 2378 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう か
のであろうか。
- 2379 pon ainu pon kuru
ボン アイヌ ボン クル
小さい 人間 小さい 人
幼い少年、
- 2380 tam pa teta
タ替 バ テタ
この 年 ここで
今年あたりに
- 2381 ponno i-turkasuno
ボンノ イ・トゥイカスノ
少し 我・以上
少し我を越えて
- 2382 chishikupka^{*24}
チシク濺カ
成長する
成長した
- 2383 kotom no
コト替 ノ
ようである (接続)
ようにな
- 2384 a-ramu p
ア・ラム 濺
我・思う もの
思われる者である。
- p. 36*
- 2385 chitomtereshu p
チト替テレシユ 濺
美しく育てられる もの
美しく育てられた者、
- 2386 chiarashu p
チアラレシユ 濺
立派に養育される もの
立派に育てられた者
- 2387 sone kusu
ソネ クス
らしく (理由・目的)
であるらしく、
- 2388 kani kosonte
カニ コソソテ
黄金 小袖
金の小袖を
- 2389 nena imi ne
ネナ イミ ネ
(不明) 着物 (繫辞類)
無造作に
- 2390 arutomechiu
アルトメチウ
身にまとう
着ている。
- 2391 imi shirka ta
イミ シシカ タ
着物 表面 (場所)
着物の表面には
- 2392 kechaukar kosonte
ケチャウカ燠 コソソテ
羽毛 小袖
鳥の羽毛の小袖がある。
- 2393 kurkashike
クイカシケ
表面
その周囲で
- 2394 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュ濺キ
二つの 神 光
二つの神光、
- 2395 re kamui chupki
レ カムイ チュ濺キ
三つの 神 光
三つの神光が
- 2396 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
輝いている
- 2397 kane okai be
カネ オカイ ベ
(程度) ある もの
ものを
- 2398 mi awan ko
ミ アワン コ
着る (判明) (条件)
着ているが、
- 2399 oat tapsutu tura
オア燠 タ濺ストゥ トゥラ
片方の 肩 トゥラ
片方の肩と ともに
- 2400 kosonte arke tura
コソソテ ア燠ケ トゥラ
小袖 半分 とともに
小袖の半分が
- 2401 a-meshtekka awan
ア・メシテ燻カ アワン
剥ける (判明)
裂かれている。
- 2402 uwokkanikut
ウウォ燻カニク燠
金の帯
留め金付きの帯を
- 2403 tumamkosaiba
トゥマクサイバ
胴に巻く
胴に巻いている。
- 2404 kechaukar shirika eun
ケチャウカ燠 シリカ エウン
羽毛 鞆 (方向)
鳥の羽毛の鞆に
- 2405 kamui ranke tam
カムイ ランケ タ替
神 下ろす 刀
神受の刀が納まり、
- 2406 etembokonna-
エテ替ボ燻コソナ・
脇の下
それで腕の下が
- 2407 chashnatara
チャシナタラ
きらびやかである
美しい。
- 2408 kutbok echiu
ク燠ボ燻 エチウ
帯の下 差す
刀を帯に差し、
- 2409 kurkashike
クイカシケ
表面
その周囲で
- 2410 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 2411 eshimaka
エシマカ
輝く
輝いている。
- 2412 kechaukar kasa
ケチャウカ燠 カサ
羽毛 笠
鳥の羽毛の兜、
- 2413 kasa rantubep
カサ ラントゥベ濺
笠 垂れた紐
その兜の下げ紐を
- 2414 eyaisannankashi-
エヤイサンナンカシ・
自らの顔の上
顔の上で
- 2415 yupba kane
ユヅバ カネ
二濺バ カネ
締める (程度)
締めている。
- 2416 kasaso kashi
カサソ カシ
笠の表面 上
兜の表面で
- 2417 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神光が
- 2418 eshimaka
エシマカ
輝く
輝いている。
- 2419 kasa kepsam ta
カサ ケ濺サ替 タ
笠 端 (場所)
兜の端で
- 2420 pon ainu pon kuru
ボン アイヌ ボン クル
小さい 人間 小さい 人
幼い少年の
- 2421 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神のごとき顔が
- 2422 rikoma chup ne
リコマ チュ濺 ネ
高所にある 日 (繫辞類)
立ち昇る陽光のように
- 2423 i-nantasare
イ・ナンタサレ
我・返す
我に照り返す。
- 2424 rametok sone
ラメト燻 ソネ
勇者 らしく
勇者であるらしく、
- 2425 rametok ibor
ラメト燻 イボ燻
勇者 顔色
勇者の顔色で
- 2426 eibottumu-
エイボ燠トゥム・
顔色
表情が
- 2427 shinnai kane
シンナイ カネ
違う (程度)
異彩を放っている。

^{*24} 始め chikupka と書かれたが chishikupka に訂正されている。

- 2428 ki p ne koroka
キ 瀧 ネ コロカ
するもの (繫辞類) (逆接)
そうではあるが、
- 2429 shinki rui be
シンキ ルイ ベ
疲れる 激しいもの
ひどく疲れているもの
- 2430 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繫辞類)もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 2431 shinki ibor
シンキ イボ燐
疲れる 顔色
疲労で顔色が
- 2432 korennatara
コレンナタラ
沈む
沈んでいる。
- 2433 konubopbeta-
コヌボ瀧ベタ・
汗で
そして、涙を
- 2434 rikan kane
リカン カネ
湿っている (程度)
浮かべている。
- 2435 mashikinteta
マシキンテタ
ますます
ますます、
- 2436 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き表情であり、
- 2437 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どうにも
- 2438 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる こと も
賞賛しようがないほど
- 2439 oarar isam kane
オアラ燐 イサ營 カネ
全く 無い (程度)
美しい。
- 2440 tap nahun
タ瀧 ナフン
これ たった今
今さっき、
- 2441 ponno
ボンノ
少し
我より少し
- 2442 i-kotboki ta
イ・コ燐ボキ タ
我・前 (場所)
前に
- 2443 shireba p
シレバ 瀧
到着するもの
到着したものの
- 2444 ne kotomno
ネ コト營ノ
(繫辞類) ように
であるらしく、
- 2445 chikappo tashmak
チカ瀧ボ タ燐マ燐
小鳥 あえぐ
鳥のような息、
- p. 37
- 2446 chikappo hese
チカ瀧ボ ヘセ
小鳥 息をする
鳥のような呼吸を
- 2447 shikobayar
シコバヤ燐
さながらである
しているかのようである。
- 2448 iyunin ibor
イユニン イボ燐
苦痛を感じる 顔色
そして、傷付いた顔色で、
- 2449 eibottumu-
エイボ燐トゥム・
顔色
表情に
- 2450 koshumnatara kane
コシュ營ナタラ カネ
萎れている (程度)
元気がなく、
- 2451 yaihesere kor okai
ヤイヘセレ コ燐 オカイ
自ら息をする (同時) ある
息をしている。
- 2452 shineanipo
シネアニボ
一箇所
そして、一点を
- 2453 nantuyere kane
ナントウイエレ カネ
顔を向ける (程度)
見つめている。
- 2454 oharkisone
オハ燐キソネ
左座に
左座に
- 2455 ehorari p
エホラリ 瀧
居るもの
いる者の
- 2456 tu urar ikkeu
トゥ ウラ燐 イ燐ケウ
二つの 霧 元
二つの霧の中心、
- 2457 re urar ikkeu
レ ウラ燐 イ燐ケウ
三つの 霧 元
三つの霧の中心を
- 2458 a-kocharikar
ア・コチャリカ燐
我・散らす
我は目で散らして見た。
- 2459 ki p ne koroka
キ 瀧 ネ コロカ
するもの (繫辞類) (逆接)
そのようにしたが、
- 2460 naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
まさに 二つの 回
二回、
- 2461 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三回と
- 2462 ainu kat ne
アイヌ カ燐 ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿を
- 2463 a-kar eaikap
ア・カ燐 エアイカ燐
我・する できない
見定めることができなかった。
- 2464 hushkotoi wano
フ燐コトイ ワノ
以前 から
長い間
- 2465 a-kar aine
ア・カ燐 アイネ
我・する (接続)
そのようにしていると、
- 2466 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに
- 2467 a-shiketoko
ア・シゲトコ
我・目先
私の目の前が
- 2468 raikosanu
ライコサヌ
くらむ
さっと暗くなった。
- 2469 chiseta turesh
チセタ トウレ燐
家の 妹
家の妹と
- 2470 kushnabamma
ク燐ナバウ營マ燐
(人名)
クシナパウンマツ、
- 2471 a-tureshi utar
ア・トゥレシ ウタ燐
我・妹 人々
我が妹たちを
- 2472 pirika ari
ピリカ アリ
よい (引用)
美しいものと
- 2473 itak-an awa
イタ燐・アン アワ
言う・我 (展開)
言っていたが、
- 2474 konep ne rokwa
コネ瀧 ネ ロ燐ワ
何 (繫辞類) (展開)
如何なる者で
- 2475 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だるう か
あろうか。
- 2476 pom menoko
ポ營 メノコ
小さい 女
幼い少女であり、
- 2477 tam pa teta
タ營 パ テタ
この年 ここで
今年あたりに
- 2478 chiseta turesh
チセタ トウレ燐
家の 妹
家の妹
- 2479 bakno hene
バ燐ノ ヘネ
まで も
ほどに
- 2480 chishikupka kotomno
チシク瀧カ コト營ノ
成長する ように
成長したように

- 2481 a-ramu p
ア・ラム 灘
我・思う もの
思われる者である。
- 2482 chitomtereshu p
チト營テレシユ 灘
美しく育てられる もの
美しく育てられた者、
- 2483 chiarareshu p
チアラレシユ 灘
立派に養育される もの
立派に育てられた者
- 2484 sone kusu
ソネ クス
らしく（理由・目的）
であるらしく、
- 2485 kamui chikirbe
カムイ チキ燐ベ
神 刺繍衣
神の如き刺繍衣、
- 2486 kani chikirbe
カニ チキ燐ベ
黄金 刺繍衣
金の刺繍衣を
- 2487 arutomechiu
アルトメチウ
身にまとう
着ている。
- 2488 imi shirka ta
イミ シ燐カ タ
着物 表面（場所）
着物の表面に
- 2489 horkeu kebur
ホ燐ケウ ケブ燐
狼 毛の無い皮
狼の毛の無い皮、
- 2490 kani kebur
カニ ケブ燐
黄金 毛の無い皮
金の獣皮がある。
- 2491 kotbar ka ta
コ燐バ燐 カ タ
襟元 上（場所）
その袖口の上も、
- 2492 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上（場所）
裾の上も、
- 2493 sep birankani
セ燐 ビランカニ
幅広い 平金
幅広の平金で
- 2494 chiekarbare
チエカ燐バレ
取り囲む
取り巻かれている。
- 2495 birankani kurka
ビランカニ ク燐カ
平金 上
幅広の平金の表面には、
- 2496 ubushne etor
ウブ燐ネ エト燐
群をなす 木鈴
連なった木鈴が
- 2497 chiekotpakar
チエコ燐バカ燐
付き垂れている
取り付けられている。
- 2498 kurkashike
ク燐カシケ
表面
その周囲で
- 2499 kotununatki
コトウヌナ燐キ
鳴る
美しい音が響く。
- 2500 attapkashi
ア燐タ燐カシ
片方の肩の上
そして、片方の肩には
- 2501 shikush rayochi
シク燐 ラヨチ
日差し 虹
陽光の虹、
- 2502 attapkashi
ア燐タ燐カシ
片方の肩の上
片方の肩には
- 2503 ekai rayochi
エカイ ラヨチ
端の折れた 虹
頭の折れた虹が
- 2504 chieomare
チエオマレ
入る
ある。
- 2505 kimuika ta
キムイカ タ
頭上（場所）
それが頭上で
- 2506 unottasare
ウノ燐タサレ
喉を交叉させる
交叉している。
- 2507 kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
神髪は
- 2508 sarambe ka ne
サラ燐ベ カ ネ
絹 糸（繫辞類）
絹の糸のように
- p. 38
- 2509 ekimuikashi-
エキムイカシ・
頭上
頭を
- 2510 chiesurure
チエスルレ
覆う
覆っている。
- 2511 reuboki ta
レウボキ タ
下（場所）
その下で、
- 2512 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい顔が
- 2513 rikoma chup ne
リコマ チュ燐 ネ
高所にある 日（繫辞類）
立ち昇る陽光のように
- 2514 i-nantasure
イ・ナンタサレ
我・返す
我に照り返す。
- 2515 nubur be sone
ヌブ燐 ベ ソネ
濃い もの らしく
靈能力に優れた者であるらしく、
- 2516 nubutchannoye
ヌブ燐チャンノイエ
巫者の額
靈能力を
- 2517 eshirutomta-
エシルト燐タ・
自らの身体の中
身体の中に
- 2518 nuina kane
ヌイナ カネ
隠す（程度）
隠している。
- 2519 sara turem be
サラ トゥレ燐 ベ
姿を現す 憑く もの
姿を現している憑き神は
- 2520 kabap sai kunne
カバ燐 サイ クンネ
蝙蝠 輪 ように
蝙蝠の群れのようにであり、
- 2521 esermakkashi-
エセ燐マ燐カシ・
背後
背後で
- 2522 earutasa kane
エアルタサ カネ
交叉する（程度）
交叉している。
- 2523 mukke turem be
ム燐ケ トゥレ燐 ベ
姿を隠す 憑く もの
姿を隠している憑き神は
- 2524 nochiu kiyai ne
ノチウ キヤイ ネ
星 光（繫辞類）
星のきらめきのように、
- 2525 esermakkashi-
エセ燐マ燐カシ・
背後
背後で
- 2526 ekiyaioma
エキヤイオマ
またたく
光っている。
- 2527 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような者が
- 2528 ainu ne kusu
アイヌ ネ クス
人間（繫辞類）（理由・目的）
人間であろうか。
- 2529 toi ka
トイ カ
土 上
土の上を
- 2530 oterke p he okai
オテ燐ケ 燐 ヘ オカイ
着地する もの（疑問） ある
踏む者であろうか。
- 2531 isam korachi
イサ燐 コラチ
無い ように
そうではないようだ。
- 2532 rot ta am be hene
ロ燐 タ ア燐 ベ ヘネ
上座（場所） ある もの も
上座にいる者も
- 2533 boro shikup mat hene
ボロ シク燐 マ燐 ヘネ
大きい 成長する 女 も
成長した婦人も、

- 2534 tura
トゥラ
ともに
共に
- 2535 rachiu un ruwe
ラチウ ウン ルウェ
肩 ある 様子
肩や
- 2536 shikbui un ruwe
シクブイ ウン ルウェ
目つき ある 様子
目つきが
- 2537 horkasuipa
ホカスイバ
似ている
そっくり
- 2538 kane okai
カネ オカイ
(程度) ある
である。
- 2539 somo a-nu yakka
ソモ ア・ヌ ヤ燐カ
(否定) 我・聞く (譲歩)
我が尋ねなくとも、
- 2540 irbe ne noine
イ燐ベ ネ ノイネ
兄弟姉妹 (繫辞類) らしく
親族であるように
- 2541 a-ramupa
ア・ラムバ
我・思う
思われる。
- 3.2 敵方の伯母
- 2542 ponno
ボンノ
少し
暫く
- 2543 shiran tek ko
シラン テ燐 コ
時がたつ ちよっとする (条件)
すると、
- 2544 boro shikup mat
ボロ シク燐 マ燐
大きい 成長する 女
成長した婦人は
- 2545 hoka etok ta am be
ホカ エト燐 タ ア燐 ベ
炉 前方 (場所) ある もの
火の側にいる者に
- 2546 koshikebuni
コシケブニ
見上げる
目をやって、
- 2547 kutsamkonna-
ク燐サ燐コンナ・
喉の側
その喉元が
- 2548 uwetunuise
ウエトウヌイセ
美しく響く
響いた。
- 2549 itak hawe
イタ燐 ハウエ
言う 声
そして、話すことは
- 2550 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のようであった。
- 2551 koninkar kusu
コンニカ燐 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 2552 a-wenpoho
ア・ウェンボホ
我・悪い子供
妾の悪い息子、
- 2553 a-otuiike
ア・オトウイケ
我・尻の切れた者
下らない者よ、
- 2554 nei ta e-oman wa
ネイ タ エ・オマン ワ
何処 (場所) 汝・行く (接続)
どこに行つて
- 2555 nep e-ki aine
ネ燐 エ・キ アイネ
何 汝・する (接続)
何をして
- 2556 e-ek ruwe ta an
エ・エ燐 ルウェ タ アン
汝・来る 様子 これ ある
帰って来たのですか。
- 2557 nei ta e-oman ko
ネイ タ エ・オマン コ
何処 (場所) 汝・行く (条件)
汝がどこへ行つても、
- 2558 kamui hene
カムイ ヘネ
神 も
神々でも
- 2559 ainu hene
アイヌ ヘネ
人間 も
人間でも、
- 2560 oikkeusakno
オイ燐ケウサ燐ノ
わけもなく
理由なしに
- 2561 amrash bakno hene
ア燐ラ燐 バ燐ノ ヘネ
爪先 まで も
爪傷さえ
- 2562 e-biro hene ki
エ・ヒロ ヘネ キ
汝・傷付く も する
負うこと、
- 2563 e-iyuninka hene ki
エ・イユニンカ ヘネ キ
汝・傷を負わせる も する
傷付けられる
- 2564 kuni ka
クニ カ
するべき も
ことは
- 2565 somo a-ramu awa
ソモ ア・ラム アワ
(否定) 我・思う (展開)
ないと思っていました、
- 2566 nekona e-an ruwe
ネコナ エ・アン ルウェ
どのように 汝・ある 様子
どうしたのですか。
- 2567 tapta
タ燐タ
こそ
このように
- p. 39
- 2568 orsaureko
オ燐サウレコ
とんでもなく
ただならぬ、
- 2569 biro ne yakka
ヒロ ネ ヤ燐カ
傷がつく (繫辞類) (譲歩)
傷付けられるにしても
- 2570 semkatune
セ燐カトウネ
並でなく
並大抵ではなく、
- 2571 kamui shibopke p
カムイ シボ燐ケ 燐
神 身に着ける もの
神の装束
- 2572 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燐カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 2573 nekona ne kusu
ネコナ ネ クス
どのように (繫辞類) (理由・目的)
どうしたことが、
- 2574 oar serihi
オア燐 セリヒ
全く 半分
全く半分が
- 2575 isam apkoro
イサ燐 ア燐コ
無い ように
欠けているよう
- 2576 iramu-an ya
イラム・アン ヤ
思う・我 (疑問)
です。
- 2577 e-oatteke ne yakka
エ・オア燐テケ ネ ヤ燐カ
汝・片腕 (繫辞類) (譲歩)
汝の片腕も、
- 2578 nei ta
ネイ タ
何処 (場所)
どこに
- 2579 e-hachire wa
エ・ハチレ ワ
汝・落とす (接続)
落として
- 2580 isam ruwe ta an
イサ燐 ルウェ タ アン
無い 様子 これ ある
きたのですか。
- 2581 oyoyobota
オヨヨボタ
(感嘆)
恐ろしいことです。
- 2582 nekona a-ye wa
ネコナ ア・イエ ワ
どのように 言われる (接続)
どのように言い、
- 2583 nekona a-kar ko
ネコナ ア・カ燐 コ
どのように 我・する (条件)
どのようにしたら、
- 2584 a-etashituri
ア・エタシトゥリ
我・息を伸ばす
妾は安堵
- 2585 kuni p ta an
クニ 燐 タ アン
するべき もの これ ある
するのでしょうか。

- 2586 sonno hetap ne
ソノノ ヘタ瀧 ネ
真に これ (繋辞類)
まことに、
- 2587 umurek a-ne wa
ウムレ燻 ア・ネ ワ
夫婦 我・(繋辞類) (接続)
妾は夫婦として
- 2588 sambe etok ne
サ譽ベ エト燻 ネ
心臓 前方 (繋辞類)
心臓の前に
- 2589 echi-ramu-an
エチ・ラム・アン
汝ら・思う・我
汝らのことを思い、
- 2590 tu pirika kuni p
トゥ ビリカ クニ 瀧
二つの よい するべき もの
二つの良いこと、
- 2591 re pirika kuni p
レ ビリカ クニ 瀧
三つの よい するべき もの
三つの良いことを
- 2592 pon ram orwano
ボン ラ譽 オ燻ワノ
小さい 心 (始点)
幼少から
- 2593 echi-epakashnu-an awa
エチ・エパカ燕ヌ・アン アワ
汝ら・教える・我 (展開)
汝らに伝えて来たのですが。
- 2594 sone makan
ソネ マカン
まことに どのように
まことに
- 2595 pirika keutum
ビリカ ケウトウ譽
よい 心
良い心、
- 2596 kamui ash kanne
カムイ ア燕 カンネ
神 立つ (程度)
神々の立てた
- 2597 irenka e-kor a koroka
イレンカ エ・コ燻 ア コロカ
意図 汝・持つ (完了) (逆接)
掟を汝は守っていたのですが、
- 2598 hetap ne
ヘタ瀧 ネ
これ (繋辞類)
驚いたことに、
- 2599 kamui teksam ta
カムイ テ燻サ譽 タ
神 すぐそば (場所)
神々の側で
- 2600 katu chiwente
カトゥ チウエンテ
かたち 痛めつけられる
姿を傷めつけられる
- 2601 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繋辞類) (接続) (繋辞類) (譲歩)
にしても、
- 2602 orsaureko
オ燻サウレコ
とんでもなく
ただならぬことを
- 2603 e-ki ruwe
エ・キ ルウエ
汝・する 様子
汝はした
- 2604 am be ne ya
ア譽 ベ ネ ヤ
あるもの (繋辞類) (疑問)
のですか。
- 2605 oar oar
オア燻 オア燻
全く 全く
全く
- 2606 iyoyamokte-an
イヨヤモ燻テ・アン
不思議に思う・我
妾は不審に思います。
- 2607 naa echi-nokan
ナア エチ・ノカン
まだ 汝ら・幼い
まだ汝らは幼い者たちです。
- 2608 tam be kusu
タ譽 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 2609 nekon tapne
ネコン タ燻ネ
どのように これである
汝らは如何なる
- 2610 shinrit korba p
シンリ燻 コ燻バ 瀧
出自 持つ もの
先祖を持つ者たち
- 2611 echi-ne ya
エチ・ネ ヤ
汝ら・である (疑問)
であるのか、
- 2612 naa somo
ナア ソモ
まだ (否定)
まだ
- 2613 echi-bashkuma-an
エチ・バ燻クマ・アン
汝ら・言い伝える・我
伝えていませんでした。
- 2614 nisatta hene
ニサ燻タ ヘネ
明日 も
明日にでも、
- 2615 oyashim hene
オヤシ譽 ヘネ
明後日 も
明後日にでも、
- 2616 pon tonotopo
ボン トノトボ
小さい 酒
僅かな酒を
- 2617 a-shikupka wa
ア・シク燻カ ワ
我・醸す (接続)
醸して、
- 2618 pirika marapto
ビリカ マラ燻ト
よい 宴会
立派な酒宴を
- 2619 a-kar kane
ア・カ燻 カネ
我・する (程度)
おこない、
- 2620 kamuinomi-an
カムイノミ・アン
神に祈る・我
神へ祈り、
- 2621 shinurappa-an
シヌラ燻バ・アン
先祖を祭る・我
先祖供養も
- 2622 hemem ki kane
ヘメ譽 キ カネ
も する (程度)
して、
- 2623 nep upashkuma
ネ燻 ウパ燻クマ
何 言い伝え
何か言い伝えを
- 2624 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
話して
- 2625 echi-nure-an
エチ・ヌレ・アン
汝ら・聞かせる・我
聞かせよう
- 2626 kuni batek
クニ バテ燻
するべき のみ
とばかり
- 2627 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う (展開)
妾は思っていたのですが。
- 2628 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 2629 nei ta e-oman wa
ネイ タ エ・オマン ワ
何処 (場所) 汝・行く (接続)
汝はどこへ行って、
- 2630 ene katu pirikako
エネ カトゥ ビリカコ
このように かたち 良くなく
このような有様に
- 2631 e-an ruwe ta an
エ・アン ルウエ タ アン
汝・ある 様子 これ ある
なったのですか。
- 2632 tane anakne
タネ アナ燻ネ
今 は
今はもう、
- p. 40*
- 2633 somo e-ye yakka
ソモ エ・イエ ヤ燻カ
(否定) 汝・言う (譲歩)
汝が言わずとも、
- 2634 oro ta e-oman wa
オロ タ エ・オマン ワ
場所 (場所) 汝・行く (接続)
汝が出向いて
- 2635 e-wente-an
エ・ウエンテ・アン
汝・痛められる
傷つけられ、
- 2636 e-annokar-an
エ・アンノカ燻・アン
汝・打ち負かされる
ひどく痛めつけられた
- 2637 ushike
ウシケ
ところ
場所は、
- 2638 usetara
ウセタラ
はっきり
はっきりと

- 2639 a-eraman
ア・エラマン
我・知る
分かって
- 2640 ruwe ne
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
います。
- 2641 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2642 tanepo konna
タネポ コンナ
たった今こそ
今は
- 2643 echi-bashkuma-an
エチ・バ燕クマ・アン
汝ら・言い伝える・我
汝らに言い伝えを
- 2644 yakka
ヤ燻カ
(譲歩)
しても、
- 2645 nep ka raka ka
ネ瀧 カ ラカ カ
何 も 有益 も
何の意味も
- 2646 isam apkor
イサ營 ア瀧コ燻
無い かのよう
ないように
- 2647 yainu-an
ヤイヌ・アン
考える・我
思います。
- 2648 sonno
ソソノ
真に
妾はまことに
- 2649 irushka-an koroka
イルユカ・アン コロカ
怒る・我 (逆接)
怒っているのですが、
- 2650 ramma
ラ營マ
いつも
いつも
- 2651 a-ye kushki p
ア・イエ ク燕キ 瀧
我・言う しようとする もの
言おうとしていたこと
- 2652 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 2653 a-ye kusu ne
ア・イエ クス ネ
我・言う (理由・目的) (繫辞類)
話します。
- 2654 tane anakne
タネ アナ燻ネ
今 は
今は、
- 2655 e-ki wen keutum
エ・キ ウェン ケウトウ營
汝・する 悪い 心
汝の悪い心
- 2656 ari
アリ
(引用)
により、
- 2657 kamui chibanakte
カムイ チバナ燻テ
神 罰せられる
神の罰、
- 2658 toi chibanakte
トイ チバナ燻テ
激しい 罰せられる
激しい罰を
- 2659 e-ki
エ・キ
汝・する
汝は受けました。
- 2660 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2661 kamui ot ta
カムイ オ燻 タ
神 所 (場所)
神々のところに
- 2662 e-oman wa
エ・オマン ワ
汝・行く (接続)
汝が行ったと
- 2663 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
しても、
- 2664 iyorot
イヨロ燻
加わる
その集団に加わることは
- 2665 e-eikap nankor
エ・エアイカ瀧 ナンコ燻
汝・出来ない だろう
できないでしょう。
- 2666 toi rai wen rai
トイ ライ ウェン ライ
激しい 死ぬ 悪い 死ぬ
ひどい死に方を
- 2667 e-ki
エ・キ
汝・する
汝はする
- 2668 kusu ne a yakka
クス ネ ア ヤ燻カ
ように (繫辞類) (完了) (譲歩)
のですが、
- 2669 etoko ta
エトコ タ
前方 (場所)
その前に、
- 2670 e-bashkuma-an chiki
エ・バ燕クマ・アン チキ
汝・言い聞かせる・我 (条件)
言い伝えを話しますから
- 2671 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く (命令)
よく聞きなさい。
- 2672 a-matnepo
ア・マ燻ネポ
我・娘
妾の娘
- 2673 ne yakka
ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (譲歩)
も、
- 2674 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く (命令)
よく聞きなさい。
- 2675 tan a-kor kotan
タン ア・コ燻 コタン
この 我・持つ 村
我らの村の
- 2676 rei kor katu
レイ コ燻 カトゥ
名 持つ かたち
名は
- 2677 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ
- 2678 ne ruwe ne
ネ ルウェ ネ
(繫辞類) 様子 (繫辞類)
というのです。
- 2679 teeta kane
テエタ カネ
以前 (程度)
古い時代に、
- 2680 nisorunsantaunkuru
ニソルンサンタウンクル
(人名)
ニソルンサンタウンクルは、
- 2681 yayirwakikor
ヤイ燻ワキコ燻
自ら兄弟を持つ
兄弟がおらず、
- 2682 shine turesh ne
シネ トウレ燕 ネ
一つの 妹 (繫辞類)
一人の妹がいました。
- 2683 okkayo sama
オ燻カヨ サマ
男 そば
男性の方は、
- 2684 kon rametok
コン ラメト燻
持つ 勇気
その勇気、
- 2685 kor shiretok
コ燻 シレト燻
持つ 美貌
その容貌において、
- 2686 kamui ot ta hene
カムイ オ燻 タ ヘネ
神 所 (場所) も
神々のところにも、
- 2687 ainu ot ta hene
アイヌ オ燻 タ ヘネ
人間 所 (場所) も
人間の世界にも
- 2688 ebetturashi p
エベ燻トウラシ 瀧
匹敵する もの
匹敵する者が
- 2689 shinep ka isam
シネ瀧 カ イサ營
一つ も 無い
誰一人もおりませんでした。
- 2690 menoko sama
メノコ サマ
女 そば
女性の方
- 2691 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、

- 2692 kor shiretok
コ燭 シレット燭
持つ 美貌
その容貌、
- 2693 kot teketok
コ燭 テケト燭
持つ 手先の器用さ
その器用さには
- 2694 moshit tuika ta
モシ燭 トウイカ タ
国土 上 (場所)
国土の中で敵うものが
- 2695 isam
イサ營
無い
おりませんでした。
- 2696 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 (繫辞類) (接続)
二人とも、
- 2697 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 (繫辞類)
神々の噂に
- 2698 chihobunire kane
チホブニレ カネ
起きる (程度)
なりました。
- 2699 kotan kor wa
コタン コ燭 ワ
村 持つ (接続)
そして、村を持ち、
- 2700 okai ruwe ne
オカイ ルウェ ネ
ある 様子 (繫辞類)
暮らすようになりました。
- p. 41
- 2701 eepakita sui
エエパキタ スイ
次に 再び
その次にまた、
- 2702 tuima kane
トゥイマ カネ
遠い (程度)
遠くにある
- 2703 yaunkuru moshiri
ヤウンクル モシリ
内地人 国土
ヤウンクルの国土、
- 2704 moshiri noshki ta
モシリ ノ燭キ タ
国土 真中 (場所)
その国土の真中で
- 2705 rei koro kotan
レイ コロ コタン
名 持つ 村
名のある村が
- 2706 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 2707 shinutapka ne wa
シヌタ燭カ ネ ワ
(地名) (繫辞類) (接続)
シヌタプカです。そして、
- 2708 shinutapka ta
シヌタ燭カ タ
(地名) (場所)
シヌタプカでは
- 2709 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燭 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の妾の兄がおり、
- 2710 yayirwak ne wa
ヤイ燭ワ燭 ネ ワ
自らの兄弟 (繫辞類) (接続)
兄弟はおらず、
- 2711 shine turesh ne
シネ トウレ燭 ネ
一つの 妹 (繫辞類)
一人の妹がいました。
- 2712 nei menoko
ネイ メノコ
(繫辞類) 女
その女が
- 2713 aokai ne
アオカイ ネ
我 (繫辞類)
妾である
- 2714 ruwe ne
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 2715 kamui sashine
カムイ サシネ
神 末裔
妾は神の子孫
- 2716 a-ne p ne kusu
ア・ネ 燭 ネ クス
我・(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 2717 pon a-kor yubi hene
ボン ア・コ燭 ユビ ヘネ
小さい 我・持つ 兄 も
年少の兄も
- 2718 ainu bito
アイヌ ビト
人間 人
人間
- 2719 iki korkaiki
イキ コ燭カイキ
する (逆接)
ではありませんが、
- 2720 kor shiretok
コ燭 シレット燭
持つ 美貌
その容貌、
- 2721 kon rametok
コン ラメト燭
持つ 勇氣
その勇氣、
- 2722 kor bawetok
コ燭 バウエト燭
持つ 雄弁
その弁舌は、
- 2723 kamui ot ta hene
カムイ オ燭 タ ヘネ
神 所 (場所) も
神々のところでも、
- 2724 ainu ot ta hene
アイヌ オ燭 タ ヘネ
人間 所 (場所) も
人間のところでも、
- 2725 nitne kamui ot ta hene
ニ燭ネ カムイ オ燭 タ ヘネ
悪い 神 所 (場所)
強固な神々のところでも
- 2726 ariteksakka
アリテ燭サ燭カ
匹敵する者がいない
匹敵する者がおりません。
- 2727 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの 国土 越える
二つの国土を越えて、
- 2728 re moshiri kama
レ モシリ カマ
三つの 国土 越える
三つの国土を越えて、
- 2729 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 (繫辞類)
神々の噂が
- 2730 chihobunire
チホブニレ
起きる
立ちました。
- 2731 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燭カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我もまた、
- 2732 nep ne yakka
ネ燭 ネ ヤ燭カ
何 (繫辞類) (譲歩)
何でも、
- 2733 matainu kipa
マタイヌ キパ
女 する
女性のする
- 2734 kush ne p
クス ネ 燭
ように (繫辞類) もの
ことは、
- 2735 ainu kasu no
アイヌ カス ノ
人間 甚だしい (接続)
人間以上に
- 2736 a-eashkai
ア・エア燭カイ
我・できる
こなします。
- 2737 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2738 a-pirikaasuruhu
ア・ピリカアスルフ
我・良い噂
私の良い噂が
- 2739 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 (繫辞類)
神の噂と
- 2740 chihobunire
チホブニレ
起きる
なりました。
- 2741 neiam be kusu
ネイア營 ベ クス
その もの (理由・目的)
それで、
- 2742 i-neno ainu utar
イ・ネノ アイヌ ウタ燭
我・同じく 人間 人々
我と同じ人間である者たち、
- 2743 tuima okai be
トゥイマ オカイ ベ
遠い ある もの
遠くにいる者たち、
- 2744 hanke okai be
ハンケ オカイ ベ
近い ある もの
近くにいる者たちが

- 2745 chiukokeshke
チウコケ燕ケ
嫉まれる
妾らを嫉み
- 2746 chiukoebokpa
チウコエボ燐バ
嫉まれる
憎むことを
- 2747 a-i-y-ekarkarpa
ア・イ・イェカ燐カ燐バ
我ら・される
しました。
- 2748 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ
- 2749 shinutapka un
シヌタ灘カ ウン
(地名) (方向)
シヌタプカへ
- 2750 attumunchi
ア燐トゥムンチ
激しい戦闘
激しい戦い、
- 2751 anrorumbe
アンロル營ベ
激しい戦い
激しい戦闘を
- 2752 chioyanke
チオヤンケ
上陸させる
巻き起こそう
- 2753 kush ki ko
ク燕 キ コ
ように する (条件)
としました。そして、
- 2754 a-yaikomore p
ア・ヤイコモレ 灘
我・自ら治める もの
妾らが治めるものが
- 2755 shinrit kotan
シンリ燐 コタン
出自 村
先祖の村、
- 2756 totto kotan
ト燐ト コタン
母 村
母方の村
- 2757 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 2758 kotankikkar-an
コタンキ燐カ燐・アン
村を守る・我
村を守りました。
- 2759 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2760 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄と
- 2761 turanno
トゥランノ
ともに
共に、
- 2762 naa naa
ナア ナア
まだ まだ
まだまだ
- 2763 oar nokan-an shiri
オア燐 ノカン・アン
全く 幼い・我
妾らは幼いのに
- p. 42
- 2764 a-utari utar hene
ア・ウタリ ウタ燐 hene
我・人々 人々 ヘネ
一族も
- 2765 inneno
インネノ
たくさん
大勢、
- 2766 obittano
オビ燐タノ
皆
一人残らず
- 2767 taban tumunchi
タバノ トゥムンチ
この 戦争
その戦いに
- 2768 a-yaitunankare
ア・ヤイトゥナンカレ
我・立ち向かう
立ち向かいました。
- 2769 tu rur ekari
トゥ ル燐 エカリ
二つの 海水 回る
二つの海を巡って、
- 2770 re rur ekari no
レ ル燐 エカリ ノ
三つの 海水 回る (接続)
三つの海を巡って
- 2771 tumunchi batek
トゥムンチ バテ燐
戦争 のみ
戦いばかり、
- 2772 rorumbe batek
ロル營ベ バテ燐
戦闘 のみ
戦闘ばかりでした。
- 2773 senne saure no
センネ サウレ ノ
(否定) たやすい (接続)
激しい戦いの中で
- 2774 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
お互いに
- 2775 eritne shukup
エリ燐ネ シュク灘
つらい 成長する
苦勞の絶えない成長を
- 2776 a-ki rokiné
ア・キ ロキネ
我・する (接続)
して、
- 2777 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄
- 2778 kon rorumbe
コン ロル營ベ
持つ 戦闘
の戦いが、
- 2779 taban nisorunsanta
タバノ ニソルンサンタ
この (地名)
このニソルンサンタに
- 2780 chioette^{*25} i ta
チオエ燐テ イ タ
来る こと (場所)
やって来たときに、
- 2781 nisorunsantaunkuru
ニソルンサンタウンクル
(人名)
ニソルンサンタウンクルは、
- 2782 pon ram orwano
ボン ラ營 オ燐ワノ
小さい 心 (始点)
幼少の頃から
- 2783 tono irenka
トノ イレンカ
殿 意図
殿の定め、
- 2784 kamui irenka
カムイ イレンカ
神 意図
神の定めで
- 2785 eyaikotankamore
エヤイコタンカモレ
自ら村の上を治める
村を守って来た
- 2786 shisak bawetok
シサ燐 バウエト燐
またとない 雄弁
比類なき雄弁家
- 2787 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
でした。そして、
- 2788 ikkewe wem be
イクケウエ ウエ營 ベ
元 悪い もの
理由の正しくないことに
- 2789 eikurkashi-
エイク燐カシ・
その上
加担する
- 2790 tamomare kuni
タモマレ クニ
刀を向ける するべき
ことを
- 2791 niukesh
ニウケ燕
しかねる
拒絶しました。
- 2792 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2793 tumunchi niukesh
トゥムンチ ニウケ燕
戦争 しかねる
戦いを拒み、
- 2794 rorumbe niukesh
ロル營ベ ニウケ燕
戦闘 しかねる
戦闘を拒みました。
- 2795 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
それで、

*25 chioekte の k が t に同化した形で表記されている。

- 2796 turesh turanno
トゥレ燕 トゥランノ
妹 ともに
妹と共に、
- 2797 utat turanno
ウタ爛 トゥランノ
人々 ともに
一族と共に、
- 2798 pon a-kor yubi
ボン ア・コ爛 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄の
- 2799 kon rorunbe
コン ロルンベ
持つ 戦闘
戦い、
- 2800 rorumbe teksam
ロルンベ テ燐サ營
戦闘 すくそば
その戦いに
- 2801 oshiraipa wa
オシライパ ワ
自分をやる (接続)
加わり、
- 2802 shukup turashi
シュク濺 トゥラシ
成長する 沿って
成長の過程で、
- 2803 shine tumunchi
シネ トゥムンチ
一つの 戦争
同じ戦い、
- 2804 shine rorumbe
シネ ロルンベ
一つの 戦闘
同じ戦闘に
- 2805 euarkamka-
エウア燐カ營カ・
肉体の上
辛酸を
- 2806 otasashkepa rokine
オタサ燐ケパ ロキネ
辛酸を舐める (接続)
舐めました。そして、
- 2807 tumunchi utur
トゥムンチ ウトゥ燐
戦争 間
戦いの間の
- 2808 eshinipa i ta
エシニパ イ タ
休む とき (場所)
休戦の時に
- 2809 tumi ukoheboki
トゥミ ウコヘボキ
戦い 戦の礼
戦いの協力を感じ、
- 2810 rorumbe ukoheboki
ロルンベ ウコヘボキ
戦闘 戦の礼
戦闘の協力を感じ
- 2811 an kusu
アン クス
ある (理由・目的)
しました。そこで、
- 2812 nisorunsantaummat
ニソルンサントウ燐マ爛
(人名)
ニソルンサントウマツは
- 2813 kamui kor be
カムイ コ爛 ベ
神 持つ もの
神宝を
- 2814 okkeu kashi
オ燐ケウ カシ
首 上
頸の上に
- 2815 a-epirikare wa
ア・エビリカレ ワ
飾りつけられる (接続)
飾って、
- 2816 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 2817 shinutapka
シヌタ濺カ
(地名)
シヌタブカへ
- 2818 eitomnukar
エイト營ヌカ燐
結婚する
嫁いだ
- 2819 ruwe ne
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 2820 eepakita
エエパキタ
次に
その次に、
- 2821 otteeta
オ爛テエタ
大昔
古い話ですが、
- 2822 kanto or wa
カント オ爛 ワ
天 所 (起点)
天空から
- 2823 kamui a-kor totto
カムイ ア・コ爛 ト爛ト
神 我・持つ 母
神である妾の母と
- p. 43*
- 2824 a-kor ainu
ア・コ爛 アイヌ
我・持つ 父
妾の父が
- 2825 hekote kusu
ヘコテ クス
連れ添う (理由・目的)
一緒になるために
- 2826 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチに
- 2827 chioranke i ta
チオランケ イ タ
降りる とき (場所)
降りて来たときに、
- 2828 okkeu kashi
オ燐ケウ カシ
首 上
頸の上を
- 2829 a-epirikare wa
ア・エビリカレ ワ
飾りつけられる (接続)
飾って
- 2830 rap be
ラ濺 ベ
降りる もの
降りて来たものですが、
- 2831 etor kot imi hene
エト爛 コ爛 イミ ヘネ
木鈴 持つ 着物 も
木鈴の付いた着物も
- 2832 imut ot ta
イム爛 オ爛 タ
腰に差す 所 (場所)
太刀も
- 2833 kasa ot ta
カサ オ爛 タ
笠 所 (場所)
兜も
- 2834 koeun kane
コエウン カネ
存在する (程度)
揃っていました。
- 2835 orowa sui
オロワ スイ
(始点) 再び
それからまた、
- 2836 kechaukar kosonte
ケチャウカ燐 コソント
羽毛 小袖
鳥の羽毛の小袖の
- 2837 imut tura
イム爛 トウラ
腰に差す ともに
太刀も、
- 2838 kut tura
ク爛 トウラ
帯 ともに
帯も、
- 2839 kasa tura
カサ トウラ
笠 ともに
兜も、
- 2840 horkeu kebur hene
ホ燐ケウ ケブ燐 ヘネ
狼 毛の無い皮 も
狼の毛の無い皮も
- 2841 tup rep
トゥ濺 レ濺
二つ 三つ
二つ、三つ、
- 2842 machikor turanno
マチコ爛 トゥランノ
女物の ともに
女性の宝物と共に
- 2843 moshma ne yakka
モ燐マ ネ ヤ燐カ
ほか (繫辞類) (譲歩)
他の物も、
- 2844 kamui kor be
カムイ コ爛 ベ
神 持つ もの
神宝を
- 2845 boronno kor wa
ボロンノ コ爛 ワ
たくさん 持つ (接続)
たくさん持って
- 2846 ran ruwe ne
ラン ルウェ ネ
下がる 様子 (繫辞類)
降りてきたのです。
- 2847 pon a-kor yubi
ボン ア・コ爛 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 2848 shinep ne irwak ne
シネ濺 ネ イ燐ワ燐 ネ
一つ (繫辞類) 兄弟 (繫辞類)
親族として妾一人

- 2849 i-kor be ne kusu
イ・コ燻 ベ ネ クス
我・持つ もの (繫辞類) (理由・目的)
だけがいるのですから、
- 2850 eashka
エア燕力
ほんとうに
まさしく、
- 2851 hese attom
ヘセ ア燻ト營
息をする 中
息の只中、
- 2852 sambe attom
サ營ベ ア燻ト營
心臓 中
心臓の只中に
- 2853 i-ekote
イ・エコテ
我・結びつける
妾を入れるようにして、
- 2854 i-toikoomap be
イ・トイコオマ瀧 ベ
我・とても可愛がる もの
可愛がりました。
- 2855 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
それで、
- 2856 tuima nishpa moshiri
トゥイマ ニ燕バ モシリ
遠い 長者 国土
遠くの長者の国土、
- 2857 rametok kotan
ラメト燻 コタン
勇者 村
勇者の国土に
- 2858 ikkewe am be
イ燻ケウエ ア營 ベ
元 ある もの
理由がある
- 2859 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
ものですから、
- 2860 i-eitomnukare ko
イ・エイト營ヌカレ コ
我・結婚させる (条件)
妾を嫁がせました。そして、
- 2861 saure^{*26} kane
サウレ カネ
たやすい (程度)
妾の後ろ楯が脆弱
- 2862 i-sermakkore ko
イ・セ燻マ燻コレ コ
我・守護される (条件)
になることを
- 2863 wen ari yainu p
ウエン アリ ヤイヌ 瀧
悪い (引用) 考える もの
良くないと考えた
- 2864 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ので、
- 2865 tapokai kamui kor be
タボカイ カムイ コ燻 ベ
これである 神 持つ もの
これらの神宝で
- 2866 a-okkeukurka
ア・オ燻ケウク燻力
我・頸の上
妾の頸の上を
- 2867 a-epirikare wa
ア・エピリカレ ワ
飾りつけられる (接続)
美しく飾り、
- 2868 nisorunsanta upsoro
ニソルンサンタ ウ瀧ソロ
(地名) 内部
ニソルンサンタの中へ
- 2869 a-eitomnukar wa
ア・エイト營ヌカ燻 ワ
我・嫁ぐ (接続)
妾は嫁ぎました。そして、
- 2870 echi-kor ainu
エチ・コ燻 アイヌ
汝ら・持つ 父
汝らの父親、
- 2871 shisak rametok
シサ燻 ラメト燻
またとない 勇者
比類なき勇者に
- 2872 a-hekote hine
ア・ヘコテ ヒネ
我・連れ添う (接続)
連れ添い、
- 2873 eashka
エア燕力
ほんとうに
まさしく、
- 2874 uwepirka-an
ウウエビ燻力・アン
互いに良い・我ら
良い暮らしをした
- 2875 ruwe ne
ルウエ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 2876 eani newa
エアニ ネワ
汝 と
汝と
- 2877 e-tureshi tura
エ・トゥレシ トウラ
汝・妹 ともに
汝の妹と共に
- 2878 ouse tun
オウセ トウン
ただ 二人
汝ら
- 2879 echi-ne hine
エチ・ネ ヒネ
汝ら・である (接続)
ただ二人を
- 2880 a-yaikosapte
ア・ヤイコサ燻テ
我・自ら出す
産んだ
- 2881 ruwe ne
ルウエ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 2882 shino
シノ
まことに
まことに、
- 2883 nubetne no
ヌベ燻ネ ノ
喜ぶ (接続)
喜びと共に、
- 2884 shisak chireshu
シサ燻 チレシュ
またとない 養育
比類なき養育、
- 2885 kamui chireshu
カムイ チレシュ
神 養育
神の如き養育を
- p. 44
- 2886 echi-ekarkar-an
エチ・エカ燻力燻・アン
汝らに・する・我
妾は汝らに施しました。
- 2887 kamui kor be
カムイ コ燻 ベ
神 持つ もの
神宝も
- 2888 eusa eusa
エウサ エウサ
それぞれ それぞれ
それぞれに、
- 2889 echi-ereshpa-an wa
エチ・エレ燻バ・アン ワ
汝ら・育てる・我 (接続)
妾はそれで汝らを育て、
- 2890 tam be bakno
タ營 ベ バ燻ノ
この もの まで
今まで、
- 2891 nisashnu shikup
ニサ燻ヌ シク瀧
元気である 成長する
汝らは健やかな成長、
- 2892 pirika shikup
ピリカ シク瀧
よい 成長する
立派な成長を
- 2893 echi-ki
エチ・キ
汝ら・する
した
- 2894 ruwe ne
ルウエ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 2895 eepaki ta
エエバキ タ
次 (場所)
その次に、
- 2896 kanto ot ta
カント オ燻 タ
天 所 (場所)
天空には
- 2897 horkeu kamui
ホ燻ケウ カムイ
狼 神
狼の神がおり、
- 2898 yayirwakikor
ヤイ燻ワキコ燻
自らの兄弟を持つ
兄弟はおらず、
- 2899 tu turesh ne wa
トゥ トウレ燻 ネ ワ
二つの 妹 (繫辞類) (接続)
二人の妹が

*26 reの前にsaと書かれているが線で抹消されている。

- 2900 okai ruwe ne
オカイ ルウェ ネ
ある 様子 (繫辞類)
おりました。
- 2901 iyotta pom menoko
イヨ爛タ ポ管 メノコ
最も 小さい 女
その最も若い少女が
- 2902 tomisambechi
トミサ管ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 2903 shinutapka ta
シヌタ濺力 タ
(地名) (場所)
シヌタプカの
- 2904 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燗 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄を
- 2905 koyairamotari
コヤイラモタリ
恋する
気に入りました。
- 2906 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燗 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄の
- 2907 kor shiretok
コ燗 シレト燗
持つ 美貌
容貌に
- 2908 arkatetokomare
ア燗カテトコマレ
気に入る
惚れ
- 2909 oshikote
オシコテ
惚れる
込みました。
- 2910 tam be kusu
タ管 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2911 kamui ot ta
カムイ オ爛 タ
神 所 (場所)
神々のところで
- 2912 a-ukoramu-
ア・ウコラム・
我・互いの心
了承
- 2913 oshma hine
オシマ ヒネ
ぶつかる (接続)
され、
- 2914 base
バセ
重い
尊い
- 2915 kamui menoko
カムイ メノコ
神 女
神である女性は
- 2916 ikot tura
イコ爛 トウラ
宝物 とともに
神宝と共に、
- 2917 chise tura
チセ トウラ
家 とともに
家と共に、
- 2918 tomisambechi
トミサ管ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 2919 shinutapka
シヌタ濺力
(地名)
シヌタプカに
- 2920 chieranke wa
チエランケ ワ
降りる (接続)
降りてきて、
- 2921 pon a-kor yubi ot ta
ボン ア・コ燗 ユビ オ爛 タ
小さい 我・持つ 兄 所 (場所)
年少の兄のところで
- 2922 itush ruwe ne
イトウ燗 ルウェ ネ
妻 様子 (繫辞類)
妻となったのです。
- 2923 nisetokummat
ニセトク管マ爛
(人名)
ニセトクンマツ、
- 2924 echi-kor unarbe
エチ・コ燗 ウナ燗ベ
汝ら・持つ 伯母
汝らの伯母は
- 2925 hoshkino
ホシキノ
先に
先に
- 2926 itomnukar be
イト管ヌカ燗 ベ
結婚する もの
嫁入りしていたもの
- 2927 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 2928 kamuiotobush newa
カムイオトブ燗 ネワ
(人名) と
カムイオトブシと
- 2929 ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 2930 a-karku utari
ア・カ燗ク ウタリ
我・甥 人々
妾の甥たちを
- 2931 shiko ruwe ne
シコ ルウェ ネ
生まれる 様子 (繫辞類)
産みました。
- 2932 kamui menoko oro wa
カムイ メノコ オロ ワ
神 女 場所 (接続)
神である女性からも、
- 2933 kamui a-karku
カムイ ア・カ燗ク
神 我・甥
神の如き妾の甥と
- 2934 turesh turanno
トゥレ燗 トウランノ
妹 とともに
その妹が
- 2935 shikoba ruwe ne
シコバ ルウェ ネ
生まれる 様子 (繫辞類)
産みました。
- 2936 naa obittano
ナア オビ爛タノ
まだ 皆
まだ一人残らず、
- 2937 uwesamanno
ウウェサマンノ
いっしょに
お互いに
- 2938 nokan rok i
ノカン ロ燗 イ
幼い (完了) とき
幼いときに、
- 2939 ne pon a-kor yubi
ネ ボン ア・コ燗 ユビ
(繫辞類) 小さい 我・持つ 兄
年少の兄と
- 2940 umurek utar
ウムレ燗 ウタ燗
夫婦 人々
その妻たちは
- 2941 mashkino
マ燗キノ
あまりに
あまりにも
- 2942 a-ukokeshke
ア・ウコケ燗ケ
皆に妬まれる
嫉まれました。
- 2943 tam be kusu
タ管 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 2944 ohonno
オホンノ
しばらく
暫く
- 2945 ainu moshit ta
アイヌ モシ爛 タ
人間 国土 (場所)
人間の世界で
- 2946 ramushinne no
ラムシンネ ノ
安心する (接続)
安心して
- 2947 okai eikap
オカイ エアイカ濺
ある できない
暮らすことができず、
- 2948 hotashnu batek
ホタ燗ヌ バテ燗
びくびくする のみ
恐ればかり、
- p. 45
- 2949 inkush batek
インク燗 バテ燗
危険な予感がする
心配ばかりを
のみ
- 2950 kipa
キパ
する
していました。
- 2951 ramubekamam wa
ラムベカマ管 ワ
つらい思いをする (接続)
それを我慢して、
- 2952 kamui ot ta
カムイ オ爛 タ
神 所 (場所)
神々のところに

- 2953 baye wa
バイエ ワ
行く (接続)
立ち去り、
- 2954 shino ukor
シノ ウコ燐
まことに 結婚
まことの結婚、
- 2955 sonno ukor
ソンノ ウコ燐
真に 結婚
真の結婚を
- 2956 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
して
- 2957 ramushinne-an
ラムシンネ・アン
安心する・我
安心
- 2958 rusui ari
ルスイ アリ
(欲求) (引用)
したいと、
- 2959 haweokai koro
ハウエオカイ コロ
言う (同時)
言い、
- 2960 chashipaunkuru
チャシパウンクル
(人名)
チャシパウンクル、
- 2961 boro a-yubi umurek
ボロ ア・ユビ ウムレ燐
大きい 我・兄 夫婦
年上の兄に
- 2962 koitaknuipa
コイタクヌイパ
遺言する
言い残しました。
- 2963 kamui ewak i
カムイ エワ燐 イ
神 住む ところ
そして、神の住まいに
- 2964 eahupte wa
エアフ燐テ ワ
入る (接続)
入れました。そして、
- 2965 a-karku utari
ア・カルク ウタリ
我・甥 人々
妾の甥、
- 2966 a-matkarku
ア・マカルク
我・姪
妾の姪は
- 2967 chitomtereshpa
チト燐テレ燐バ
美しく養育される
美しく育てられ、
- 2968 kamui chireshpa
カムイ チレ燐バ
神 育てる
神の如き養育を
- 2969 ekarkarpa hawe
エカカルクハウェ
エカ燐カ燐バ ハウエ
する 声
されている様子が
- 2970 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの 国土 越える
二つの国土を越えて、
- 2971 re moshiri kama
レ モシリ カマ
三つの 国土 越える
三つの国土を越えて
- 2972 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 (繫辞類)
神々の噂と
- 2973 chihobunire hawe
チホブニレ ハウエ
起きる 声
なっていることを
- 2974 a-nu chiki
ア・ヌ チキ
我・聞く (条件)
妾は聞いて、
- 2975 eashka
エア燐カ
ほんとうに
まさしく、
- 2976 a-enubetne
ア・エヌベ燐ネ
我・喜ぶ
妾は喜び、
- 2977 a-eyairikta-
ア・エヤイリ燐タ・
我・自らの上
手を高く
- 2978 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (程度)
かざして
- 2979 an-an ruwe ne
アナン ルウェ ネ
いる・我 様子 (繫辞類)
いました。
- 2980 eepaki ta
エエパキ タ
次 (場所)
その次に、
- 2981 chihoppa itak
チホ燐パ イタ燐
残される 言う
残された言葉は
- 2982 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このようでした。
- 2983 iyotta
イヨ燐タ
最も
最も
- 2984 pon a-karku
ポン ア・カルク
小さい 我・甥
幼い妾の甥は
- 2985 kamui tutanu p
カムイ トウタヌ プ
神 次ぐ 燐 もの
神に次ぐ者
- 2986 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 2987 taban a-matnepo
タバン ア・マ燐ネボ
この 我・娘
妾の娘と
- 2988 oma yarbe
オマ ヤ燐ベ
ある おしめ
赤子の布、
- 2989 yarbe emko
ヤ燐ベ エ燐コ
おしめ 半分
その布を分け合って
- 2990 a-ereshukar wa
ア・エレシユカ燐 ワ
育てられる (接続)
育てて、
- 2991 rupne chiki
ル燐ネ チキ
大きい (条件)
成長したら、
- 2992 a-uhetokpare wa
ア・ウヘコ燐パレ ワ
我・結婚させる (接続)
結婚させて、
- 2993 tomisambechi
トミサ燐ベチ
(地名)
トミサンパチ、
- 2994 shinutapka
シヌタ燐カ
(地名)
シヌタプカの
- 2995 kamui ewak i
カムイ 燐 イ
神 住む ところ
神の住まいの
- 2996 benkirechiu
ベンキレチウ
上流を治める
上流を治め、
- 2997 bankirechiu
バンキレチウ
下流を治める
下流を治め
- 2998 ki kusu ne ari
キ クス ネ アリ
する (理由・目的) (繫辞類) (引用)
させなさいというのです。
- 2999 tam be kusu
タ燐 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 3000 boo
ボオ
なおさら
なお一層、
- 3001 a-matnepo
ア・マ燐ネボ
我・娘
妾の娘、
- 3002 kamui a-karku
カムイ ア・カルク
神 我・甥
神である妾の甥の
- 3003 sempir kashi
セ燐ピ燐 カシ
陰 上
陰を
- 3004 a-etursakka wa
ア・エトゥサカ燐カ ワ
我・清潔に保つ (接続)
清潔に保ち、
- 3005 chitomtereshu
チト燐テレシユ
美しく育てられる
美しい養育、

- 3006 **chiarareshu**
チアラレシユ
立派に養育される
立派な養育を
- 3007 **a-ekarkar**
ア・エカ煖カ煖
我・する
施した
- 3008 **ruwe ne**
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
のです。
- 3009 **echi-kor ainu**
エチ・コ燻 アイヌ
汝ら・持つ 父
汝らの父
- 3010 **ne yakka**
ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (譲歩)
も、
- 3011 **ikkewe am be**
イ燻ケウエ ア營 ベ
元 ある もの
理由が
- 3012 **kusu**
クス
(理由・目的)
あって、
- 3013 **hoshkino**
ホ燻キノ
先に
先に
- 3014 **kamui or un**
カムイ オ燻 ウン
神 所 (方向)
神々のところへ
- 3015 **oman wa isam**
オマン ワ イサ營
行く (接続) 無い
立ち去りました。
- 3016 **okake ta**
オカケ タ
後 (場所)
その後で、
- p. 46*
- 3017 **naa naa**
ナア ナア
まだ まだ
まだまだ、
- 3018 **echi-nokan**
エチ・ノカン
汝ら・幼い
汝らは幼い
- 3019 **hemem ki**
ヘメ營 キ
も する
ものであり、
- 3020 **echi-hobinupka-an**
エチ・ホビヌ燻カ・アン
汝ら・憐れむ・我
妾は憐れに思いました。
- 3021 **naa naa**
ナア ナア
まだ まだ
まだまだ、
- 3022 **echi-tura**
エチ・トゥラ
汝ら・連れる
汝らと共に
- 3023 **an-an rui**
アナン ルイ
いる・我 激しい
いるのが
- 3024 **moiretara**
モイレタラ
遅い
長かったです。
- 3025 **irkur unukar**
イ燻ク煖 ウヌカ煖
親族 会见
親族の再会、
- 3026 **ratchi unukar**
ラ燻チ ウヌカ煖
穏やかな 会见
穏やかな再会、
- 3027 **pirika unukar**
ピリカ ウヌカ煖
よい 会见
良い再会を
- 3028 **echi-ki kuni i batek**
エチ・キ クニ イ バテ燻
汝ら・する するべき こと のみ
汝らはするものとばかり、
- 3029 **keshto ramma**
ケ燻ト ラ營マ
毎日 いつも
毎日いつも
- 3030 **a-chibachiba**
ア・チバチバ
我・望む
期待して
- 3031 **kane an-an**
カネ アン
(程度) いる・我
いました。
- 3032 **naa ouse**
ナア オウセ
まだ ただ
まだ
- 3033 **irukai ari**
イルカイ アリ
しばらくの間 (引用)
暫くしたらと
- 3034 **yainu-an**
ヤイヌ・アン
考える・我
考えていました。
- 3035 **raboki ta**
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 3036 **nei ta e-oman**
ネイ タ エ・オマン
何処 (場所) 汝・行く
汝はどこへ
- 3037 **ruwe ta an**
ルウェ タ アン
様子 これ ある
行ったのですか。
- 3038 **hetak ye**
ヘタ燻 イエ
さあ 言う
早く言いなさい。
- 3039 **hemanta**
ヘマンタ
何か
何か
- 3040 **tumi ikkeu ne**
トゥミ イ燻ケウ ネ
戦い 元 (繫辞類)
戦いの理由、
- 3041 **ukoiki ikkeu ne**
ウコイキ イ燻ケウ ネ
相争う 元 (繫辞類)
争いの理由が
- 3042 **e-kor wa**
エ・コ燻 ワ
汝・持つ (接続)
あって、
- 3043 **rayaikeko**
ラヤイケコ
穏やかならざる
穏やかならぬ
- 3044 **e-iyunin ruwe an**
エ・イユニン ルウェ アン
汝・傷を負う 様子 ある
傷を負ったのですか。」
- 3045 **ari boro shikup mat**
アリ ボロ シク燻 マ燻
(引用) 大きい 成長する 女
このように、成長した婦人は
- 3046 **irushka itak**
イル燻カ イタ燻
怒る 言う
怒りの言葉を
- 3047 **baronna wa**
バロンナ ワ
口の中 (起点)
口の中で
- 3048 **chibitabita**
チビタバタ
ほどかれる
発し、
- 3049 **ye wa okere**
イエ ワ オケレ
言う (接続) (終了)
言い終えた。
- 3050 **hoka etok ta am be**
ホカ エト燻 タ ア營 ベ
炉 前方 (場所) ある もの
火の側にいる者は
- 3051 **inu rok be**
イヌ ロ燻 ベ
聞く (完了) もの
それを聞いて、
- 3052 **katu ne kane**
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
あたりまえに
- 3053 **homatu rui be**
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
驚くもの
- 3054 **ne wa ne yakne**
ネ ワ ネ ヤ燻ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 3055 **kotom korkaiki**
コト營 コ燻カイキ
ようである (逆接)
さもあるうが、
- 3056 **hottur ka ta**
ホ燻トウ燻 カ タ
前額 上 (場所)
前額が
- 3057 **kotususatki**
コトウスサ燻キ
震える
ふるえている。
- 3058 **tane anakne**
タネ アナ燻ネ
今 は
今は、

- 3059 sonno
ソノノ
真に
まことに
- 3060 rayibor oma
ライボ燐 オマ
死相 ある
死にそうな顔色である。
- 3061 shirki chiki
シ燐キ チキ
そうする (条件)
すると、
- 3062 boro shikup mat
ボロ シク燐 マ燐
大きい 成長する 女
成長した婦人は
- 3063 kannaruino
カンナルイノ
再びまた
再び、
- 3064 ene itak i
エネ イタキ i
このように 言う こと
このように言った。
- 3065 sonno boka
ソノノ ボカ
真に さえ
「まことに、
- 3066 a-wempoho
ア・ウエ營がホ
我・悪い息子
妾の悪い息子、
- 3067 a-otuike
ア・オトゥイケ
我・下らぬ者
下らぬ者よ、
- 3068 chihoiyore awan
チホイヨレ アワン
乱心する (判明)
乱心したのですか。
- 3069 seenne nebeka
セエンネ ネベカ
(否定) なんとまあ
まさか、
- 3070 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 3071 shinutapka ta
シヌタ燐カ タ
(地名) (場所)
シヌタブカの、
- 3072 tapne tapne
タ燐ネ タ燐ネ
これである これである
このように
- 3073 asuru ash be
アスル ア燐 ベ
噂 立つ もの
名の知れた者
- 3074 utar orke
ウタ燐 オ燐ケ
人々 所 (場所)
たちを、
- 3075 konep oyabe
コネ燐 オヤベ
何 よそ者
何かの余所者、
- 3076 konep anuni
コネ燐 アヌニ
何 よそ者
何かの他人
- 3077 ne kuni
ネ クニ
(繫辞類) するべき
であると
- 3078 e-ramu kusu
エ・ラム クス
汝・思う (理由・目的)
考えたのですか。
- 3079 irara keutum
イララ ケウトウ營
悪戯する 心
悪戯する心、
- 3080 tumu an keutum
トゥム アン ケウトウ營
力 ある 心
強引な心を
- 3081 e-kor wa
エ・コ燐 ワ
汝・持つ (接続)
持って
- 3082 yaunkur kotan
ヤウンク燐 コタン
内陸の人 村
ヤウンクルの村に
- 3083 e-oyan wa
エ・オヤン ワ
汝・上陸する (接続)
汝は上陸し、
- p. 47
- 3084 nekona an
ネコナ アン
どのように ある
如何なる
- 3085 ioshimemokka
イオシメモ燐カ
試す
挑戦を
- 3086 e-ki ruwe he an
エ・キ ルウエ ヘ アン
汝・する 様子 (疑問) ある
したのですか。
- 3087 sonno
ソノノ
真に
まことに、
- 3088 neino
ネイノ
ように
そのように
- 3089 e-iki a chiki
エ・イキ ア チキ
汝・する (完了) (条件)
汝がしたのならば、
- 3090 somo
ソモ
(否定)
妾が
- 3091 a-nukar yakka
ア・ヌカ燐 ヤ燐カ
我・見る (譲歩)
見ずとも、
- 3092 buri kashi
ブリ カシ
行い 上
その振る舞いは
- 3093 a-eanasap be
ア・エアナサ燐 ベ
人々・持てあます もの
手が付けられないもの、
- 3094 a-shitoma kuni p
ア・シトマ クニ 燐
恐ろしい するべき もの
恐ろしいものです。
- 3095 kamui a-karku
カムイ ア・カ燐ク
神 我・甥
神である妾の甥
- 3096 ne nankor be
ネ ナンコ燐 ベ
(繫辞類) だろう もの
なのでしょう。
- 3097 nekonaka an
ネコナカ アン
何とか ある
どのような
- 3098 irara
イララ
悪戯する
悪戯、
- 3099 ishimemokka
イシメモ燐カ
挑発する
挑戦を
- 3100 e-ki wa
エ・キ ワ
汝・する (接続)
汝がして、
- 3101 tapne e-an ko
タ燐ネ エ・アン コ
これである 汝・ある (条件)
このような有様で、
- 3102 kamui a-karku
カムイ ア・カ燐ク
神 我・甥
神である甥が
- 3103 e-okattuima kuni
エ・オカ燐トゥイマ クニ
汝・後を遠く追う するべき
遠からず追ってくと
- 3104 e-ramu ruwe he an
エ・ラム ルウエ ヘ アン
汝・思う 様子 (疑問) ある
思わないのですか。
- 3105 hushkotoi wano
フ燐コトイ ワノ
以前 から
古い時代から、
- 3106 kamui orwano
カムイ オ燐ワノ
神 (始点)
神から
- 3107 a-more kotan
ア・モレ コタン
治められる 村
守護されていた村、
- 3108 a-eyam kotan
ア・エヤ營 コタン
大事にされる 村
大切にされていた村、
- 3109 e-kor ainu
エ・コ燐 アイヌ
汝・持つ 父
汝の父が
- 3110 tekkamure p
テ燐カムレ 燐
手を覆う もの
守護していたものが、
- 3111 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ

- 3112 ne rok awa
ネ 口燻 アワ
(繫辞類) (完了) (展開)
なのです。しかし、
- 3113 e-wenrenkabi
エ・ウェンレンカビ
汝・悪心
汝の悪い見の
- 3114 an kusu
アン クス
ある (理由・目的)
ために、
- 3115 kamui a-karku
カムイ ア・カルク
神 我・甥
神である甥が
- 3116 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタの
- 3117 kotan upsoro
コタン ウズソロ
村 内部
村の中へ
- 3118 koyaitekani wa
コヤイテカニ ワ
討ちに来る (接続)
攻撃に
- 3119 ne wa ne chiki*²⁷
ネ ワ ネ チキ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
来たら、
- 3120 kotan turanno
コタン トウランノ
村 とともに
村と共に、
- 3121 ukokushishpa
ウコクシシパ
ともに
お互いに
- 3122 konep shiknu
コネシ シクヌ
何 シ燻ヌ
何 生きている
如何なる延命、
- 3123 konep tusa
コネシ トウサ
何 トウサ
何 蘇生する
如何なる蘇生を
- 3124 a-ki p ta an
ア・キ シ タ アン
我・するもの これ ある
妾らはするのでしょうか。」
- 3125 ari hawash a yakka
アリ ハワシ ア ヤカ
(引用) 言われる (完了) (譲歩)
婦人はこのように言ったが、
- 3126 kechaukar imi
ケチャウカ 伊ミ
羽毛 着物
鳥の羽毛の衣を持つ者は、
- 3127 tash kush kuni
タシ クシ クニ
息 通る するべき
息をすることも、

- 3128 mau kush kuni
マウ クシ クニ
風 通る するべき
呼吸をすることも
- 3129 yaikoseshke kane
ヤイコセシケ カネ
自ら息を詰める (程度)
みずから塞ぐ様子である。

3.3 敵方の妹

- 3130 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 3131 harkisotta
ハルクシソタ
左座に ある
左座で
- 3132 shineanipo
シネアニポ
一箇所
一点を
- 3133 nantui pare kane
ナントウイパレ カネ
顔を向ける (程度)
見つめており、
- 3134 somo setakno*²⁸
ソモ セタクノ
(否定) 短時間に
長い間
- 3135 ikokanu wa okai rok*²⁹
イコカヌ ワ オカイ ロク
聞く (接続) ある (完了)
話を聞いていた
- 3136 pom menoko
ポム メノコ
小さい 女
少女は、
- 3137 hoka etok ta am be
ホカ エトク タ アム ベ
炉 前方 (場所) ある もの
火の側にいる者に
- 3138 kohebuni
コヘブニ
頭を上げる
顔を向けた。
- 3139 ibor kor ruwe
イボルク コルク ルウェ
顔色 持つ 様子
そして、顔は
- 3140 pirika rok be
ピリカ ロク ベ
よい (完了) もの
美しいのに、
- 3141 kor wem buri
コルク ウエム ブリ
持つ 悪い 行い
怒りの表情を
- 3142 enantui kashi-
エナントウイカシ
顔の上
顔に

- 3143 chibarsere
チババセレ
広がる
みなぎらせて、
- 3144 tan arka itak
タン アрка イタク
この 痛い 言う
痛罵の言葉で
- 3145 ehautumkonna-
エハウトゥムコンナ
声の中心
喉が
- 3146 tuninitara hawe
トゥニニタラ ハウエ
響く 声
響き、
- 3147 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のように言った。
- 3148 achikarata
アチカラタ
いやなことだ
「なんと汚らわしい、
- p. 48
- 3149 ayakannata
アヤカンナタ
るくでもないことだ
嫌なことを。
- 3150 pon a-wenyubi
ボン ア・ウェンユビ
小さい 我・悪い兄
年少の妾の兄、
- 3151 an-otuiike
アノトウイイケ
我・尻の切れた者
下らぬ者、
- 3152 somo yashtoma
ソモ ヤシトマ
(否定) 恥ずかしい
恥ずかしくないのですか。
- 3153 hemanta tapne
ヘマンタ タプネ
何 タプネ
何 これである
如何なる
- 3154 unin kusu
ウニン クス
傷を負う (理由・目的)
傷を負い、
- 3155 katkor ruwe
カトコルク ルウェ
振舞う 様子
このような振る舞いを
- 3156 okai be ne ya
オカイ ベ ネ ヤ
ある もの (繫辞類) (疑問)
するのでしょうか。
- 3157 koninkar kusu
コンインカルク クス
さて (理由・目的)
さて、
- 3158 a-kot tutto
ア・コト トウト
我・持つ 母
妾の母よ、

*²⁷ 始め neachiki と書かれたが newanechikini に訂正されている。

*²⁸ 始め semosekno と書かれたが somosetakno に訂正されている。

*²⁹ 始め okrok と書かれたが okairok に訂正されている。

- 3159 itak-an chiki
イタ燻・アン チキ
言う・我 (条件)
話しますから
- 3160 pirikano nu wa
ピリカノヌ ワ
良く聞く (接続)
よく聞いて
- 3161 i-kore kunak
イ・コレ クナ燻
我・与える (引用)
ください
- 3162 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ませ。
- 3163 pon ram orwano
ボン ラ營 オ燻ワノ
小さい心 (始点)
幼少の頃から、
- 3164 ochiu tusubo
オチウ トゥシュボ
姦通 巫術
下らぬ巫術、
- 3165 kinin tushupo
キニン トゥシュボ
淫乱 巫術
つまらない巫術で
- 3166 eyaishikkashima p
エヤイシ燻カシマ プ
身を守る もの
妾はみずから守って
- 3167 a-ne koroka
ア・ネ コロカ
我・(繫辞類) (逆接)
きたのですが、
- 3168 neun ka
ネウン カ
どのようにも
どうにも、
- 3169 tuimano ka
トゥイマノ カ
遠くも
遠くを
- 3170 inkar-an ka
インカ燻・アン カ
見る・我 も
見ること
- 3171 somo ki
ソモ キ
(否定) する
できません。
- 3172 a-kor tutto
ア・コ燻 ト燻ト
我・持つ 母
我が母が
- 3173 ye i korachi
イエ イ コラチ
言う こと ように
言うように、
- 3174 pon ram orwano
ボン ラ營 オ燻ワノ
小さい心 (始点)
幼少の頃から、
- 3175 yaunkuru moshiri
ヤウンクル モシリ
内地人 国土
ヤウンクルの国土、
- 3176 moshiri noshki ta
モシリ ノ燻キ タ
国土 真中 (場所)
その国土の真中の
- 3177 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 3178 shinutapka un
シヌタ燻カ ウン
(地名) ある
シヌタプカの
- 3179 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 (繫辞類) ある もの
神の如き者の
- 3180 pirika asuru
ピリカ アスル
よい 噂
良い噂は、
- 3181 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの村 越える
二つの国土を越えて、
- 3182 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの村 越える
三つの国土を越えて
- 3183 a-nu chiki
ア・ヌ チキ
我・聞く (条件)
聞こえてきました。そして、
- 3184 konep anuni
コネ燻 アヌニ
何 よそ者
如何なる余所者
- 3185 ne yakka
ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (譲歩)
であっても、
- 3186 shino sonno
シノ ソンノ
まことに 真に
まことに、
- 3187 a-ekiroroan
ア・エキロロアン
我・喜ぶ
妾は嬉しく思い、
- 3188 a-erayap koro
ア・エラヤ燻 コロ
我・感心する (同時)
感嘆しながら
- 3189 shikup-an koro
シク燻・アン コロ
育つ・我 (同時)
成長して
- 3190 an-an
アナン
いる・我
きたのです。
- 3191 pon a-wen yubi batek
ボン ア・ウェン ユビ バテ燻
小さい 我・悪い 兄 のみ
年少の妾の兄ばかり、
- 3192 kat shiri
カ燻 シリ
姿 様子
その様子、
- 3193 katun shiri
カトウン シリ
形をとる 様子
その振る舞いを
- 3194 ponno
ボンノ
少し
少し
- 3195 a-oyamokte kane
ア・オヤモ燻テ カネ
我・不思議に思う (程度)
妾は不審に思いながら
- 3196 shikup-an a koroka
シク燻・アン ア コロカ
育つ・我 (完了) (逆接)
成長してきたのですが、
- 3197 nekonka
ネコンカ
どうにか
どのように
- 3198 a-ramu ka
ア・ラム カ
我・思う も
思うことも
- 3199 somo ki kane
ソモ キ カネ
(否定) する (程度)
ありませんでした。
- 3200 tane bakno
タネ バ燻ノ
今 まで
今まで
- 3201 shikup-an
シク燻・アン
成長する・我
妾は成長して
- 3202 ruwe ne awa
ルウェ ネ アワ
様子 (繫辞類) (展開)
きたのですが、
- 3203 a-wenyubi
ア・ウェンユビ
我・悪い兄
妾の悪い兄は
- 3204 neun oman
ネウン オマン
どこに 行く
どこへ行った
- 3205 ruwe ne ya
ルウェ ネ ヤ
様子 (繫辞類) (疑問)
のでしょうか。
- 3206 a-koeramunin awa
ア・コエラムニン アワ
我・気付かない (展開)
妾には分からないのですが、
- 3207 tapne kane
タ燻ネ カネ
これである (程度)
このように
- 3208 rai shiri ne
ライ シリ ネ
死ぬ 様子 (繫辞類)
死んだような様子で
- 3209 hoshibi
ホシビ
帰る
帰ってきました。
- 3210 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 3211 tanebo konna
タネボ コンナ
今 こそ
今まさしく、

- 3212 a-kot tutto
ア・コ爛 ト爛ト
我・持つ 母
妾の母が
- 3213 ubashkuma wa
ウバ燕クマ ワ
言い伝える (接続)
言い伝えを話し、
- 3214 pirikano a-nu
ピリカノ ア・ヌ
良く 我・聞く
妾はよく聞きました。
- 3215 pirikano
ピリカノ
良く
妾はしっかりと、
- 3216 a-shinritorke
ア・シンリト爛ケ
我・先祖たち
先祖のことを
- 3217 a-eraman
ア・エラマン
我・知る
理解しました。
- 3218 konep anuni
コネ濼 アヌニ
何 よそ者
何の余所者、
- 3219 konep oyabe
コネ濼 オヤベ
何 よそ者
何の他人の
- 3220 asuru ash
アスル ア燕
噂 立つ
噂がたつ
- 3221 hawe okai i
ハウエ オカイ イ
声 ある こと
のかと思って
- 3222 ne yakka
ネ ヤ爛カ
(繫辞類) (讓歩)
いましたが、
- 3223 tapne ene
タ濼ネ エネ
これである このように
これは
- 3224 ene hetap ne
エネ ヘタ濼 ネ
このように これ (繫辞類)
驚きました。
- 3225 a-erayap humi
ア・エラヤ濼 フミ
我・感心する 気配
妾が感嘆していた
- 3226 okai rok be
オカイ ロ燻 ベ
ある (完了) もの
人々は、
- 3227 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 3228 tantebota
タンテボタ
たった今
まさしく、
- 3229 a-irwaki
ア・イ燻ワキ
我・親族
妾の親族の
- 3230 utar orke
ウタ燻 オ爛ケ
人々 所
人々
- 3231 ne rokokai
ネ ロコカイ
(繫辞類) (判明)
であったのですね。
- 3232 tap eashiri
タ濼 エアシリ
これ それこそ
まさしく、
- 3233 heru ram ari
ヘル ラ營 アリ
ただの 心 で
心で
- 3234 inkar-an awa
インカ爛・アン アワ
見る・我 (展開)
見通すと、
- 3235 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
よもや、
- 3236 pon a-wenyubi
ボン ア・ウェンユビ
小さい 我・悪い兄
年少の妾の兄、
- 3237 a-otuiike
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
下らぬ者よ、
- 3238 pon ram orwano
ボン ラ營 オ爛ワノ
小さい 心 (始点)
幼少の頃から、
- 3239 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 3240 shinutapka un
シヌタ濼カ ウン
(地名) ある
シヌタブカにいる
- 3241 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たち、
- 3242 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 (繫辞類) ある もの
神の如き者の
- 3243 asuru
アスル
噂
噂が
- 3244 chihobunire ko
チホブニレ コ
起きる (条件)
たつと、
- 3245 eashka
エア燕カ
ほんとうに
まさしく、
- 3246 keutum oshi wano
ケウトウ營 オシ ワノ
心 底 から
心の底から
- 3247 rushka kor an awa
ル燕カ コ爛 アン アワ
怒る (同時) ある (展開)
怒りを覚えていたのですか。
- 3248 aokai ka
アオカイ カ
汝 上
汝は
- 3249 tapne
タ濼ネ
これである
そのように
- 3250 a-asuru ka
ア・アスル カ
汝・噂 も
噂も
- 3251 isam ko
イサ營 コ
無い (条件)
無く、
- 3252 nekona shiko p
ネコナ シコ 濼
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者、
- 3253 nekona baro p
ネコナ バロ 濼
どのように 口がついている もの
如何なる育ちの者が、
- 3254 onramkasu
オンラ營カス
余りに
あまりにも、
- 3255 shiasurashte hawe
シアスラ燕テ ハウエ
名高き者となる 声
名の高いことに
- 3256 iramshitnere
イラ營シ爛ネレ
妬む
妬みを覚えて
- 3257 okai
オカイ
ある
いたのですか。
- 3258 hetak ta usa
ヘタ燻 タ ウサ
さあ (強調) (讓歩)
さあ早く、
- 3259 okkai bakno
オ燻カイ バ燻ノ
男 まで
一人前の男性にまで
- 3260 shikup-an yakne
シク濼・アン ヤ燻ネ
育つ・汝 (条件)
汝が成長したら、
- 3261 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 3262 shinutapka
シヌタ濼カ
(地名)
シヌタブカに
- 3263 a-oyan wa
ア・オヤン ワ
汝・上陸する (接続)
上陸して、
- 3264 pon irarapo
ボン イララポ
小さい 悪戯
少しの悪戯、

- 3265 pon ishimemokka
ボン イシメモ燐カ
小さい 挑発する
少しの挑戦を
- 3266 a-ki wa
ア・キ ワ
汝・する (接続)
して、
- 3267 ponyaambe
ボンヤウ營ベ
小さな本土人
ポイヤウンベが
- 3268 irushka hine
イル燐カ ヒネ
怒る (接続)
怒ったら、
- 3269 utasaroshki
ウタサロ燐キ
相共に立つ
立ち合いを
- 3270 a-ki wa
ア・キ ワ
汝・する (接続)
して、
- 3271 a-usambeka-
ア・ウサ營ベカ・
汝・心臓の上
度胸
- 3272 uwante wa
ウワンテ ワ
見て調べる (接続)
試しをして、
- 3273 inan kuru
イナン クル
どの人
どちらが
- 3274 tapne iyotta
タ燐ネ イヨ燐タ
これである 最も
最も
- 3275 rametokkoro
ラメト燐コロ
勇敢な
勇敢である
- 3276 nankor a
ナンコラ ア
だろう か
のか、
- 3277 aokai tashi
アオカイ タシ
我 (強調)
我こそ
- 3278 rametokkor-an
ラメト燐コ燐・アン
勇気を持つ・我
勇敢である
- 3279 nankon ne
ナンコン ネ
だろう (繫辞類)
のだ、
- 3280 ari okai
アリ オカイ
(引用)
ある
という
- 3281 bashta yainu
バ燐タ ヤイス
楮下の 考える
下らぬ考えを
- 3282 ki koro shikup
キ コロ シク燐
する (同時) 成長する
持ちながら成長
- p. 50*
- 3283 ruwe ne awan
ルウェ ネ アワン
様子 (繫辞類) (判明)
したのですか。
- 3284 tap nahun
タ燐 ナフン
これ たった今
今まさに、
- 3285 chashibaunkuru
チャシパウンクル
(人名)
チャシパウンクル、
- 3286 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
妾の伯父が
- 3287 tanebo konna
タネボ コンナ
今 コンナ
今や
- 3288 reshpa karku
レ燐バ カ燐ク
育てる 甥
育てた甥
- 3289 utari hene
ウタリ ヘネ
人々 も
たちや
- 3290 utari utar
ウタリ ウタ燐
人々 人々
その親族の人々を
- 3291 arobittano
アロビ燐タノ
すべて
一人残らず
- 3292 uwekarire wa
ウウエカリレ ワ
互いに集める (接続)
集めて、
- 3293 shinrit ubashkuma
シンリ燐 ウバ燐クマ
出自 言い伝え
先祖の言い伝えを
- 3294 ki kusu
キ クス
する (理由・目的)
話すために、
- 3295 sake kar awa
サケ カ燐 アワ
酒 作る (展開)
酒を醸して、
- 3296 tanebo
タネボ
今
今は、
- 3297 a-ekamuinomi kusu
ア・エカムイノミ クス
我・神に祈る (理由・目的)
それで神への祈りをするために、
- 3298 utar uwesopki
ウタ燐 ウウエソ燐キ
人々 着座する
人々は着座しています。
- 3299 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 3300 tapne tapne kane
タ燐ネ タ燐ネ カネ
これである これである (程度)
このように、
- 3301 pon a-wenyubi
ボン ア・ウエンユビ
小さい 我・悪い兄
年少の妾の悪い兄が
- 3302 ene yainu i
エネ ヤイス イ
このように 考える こと
このように考えたの
- 3303 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 3304 tapne kane an
タ燐ネ カネ アン
これである (程度) ある
このように、
- 3305 kamui kush kuni
カムイ ク燐 クニ
神 通る するべき
神々が立ち寄ることも
- 3306 ainu kush kuni
アイヌ ク燐 クニ
人間 通る するべき
人間が立ち寄ることも
- 3307 a-eaikap
ア・エアイカ燐
我・出来ない
できません。
- 3308 kamui kar nisei
カムイ カ燐 ニセイ
神 作る 崖
神の造った崖、
- 3309 shikari hattar ot ta
シカリ ハ燐タ燐 オ燐 タ
丸い 淵 所 (場所)
丸い淵のところへ
- 3310 oman wa
オマン ワ
行く (接続)
行って、
- 3311 shikamuinere wa
シカムイネレ ワ
自ら神となる (接続)
神のふりをして
- 3312 irara
イララ
悪戯する
悪戯、
- 3313 ishimemokka aine
イシメモ燐カ アイネ
挑発する (接続)
挑戦をしたあげく、
- 3314 ki rusui kusu
キ ルスイ クス
する (欲求) (理由・目的)
そのようにしたくて、
- 3315 ene katkor i
エネ カ燐コ燐 イ
このように 振舞う こと
このような振る舞いをしたの
- 3316 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ですから、
- 3317 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の妾の兄は

- 3318 kamui ne am be
カムイ ネ ア營 ベ
神 (繫辞類) ある もの
神の如き者
- 3319 orowa
オロワ
(始点)
から、
- 3320 a-toikonoshba
ア・トイコノ燕ハ
激しく追われる
ひどく追いかけられました。
- 3321 a-tuimasaikar
ア・トゥイマサイカ燠
遠く掴まれる
遠くつかまれ、
- 3322 a-hankesaikar aine
ア・ハンケサイカ燠 アイネ
近く掴まれる (接続)
近くつかまれたあげく、
- 3323 tap korachi
タ瀧 コラチ
これ ように
このように、
- 3324 a-yaiwenukare
ア・ヤイウェヌカレ
酷い目にあう
酷い目にあったのです。
- 3325 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どのように
- 3326 iki i ka
イキ イ カ
すること も
することも
- 3327 isam aine
イサ營 アイネ
無い (接続)
できずに、
- 3328 ohabesakno
オハベサ燠ノ
物も言わずに
物も言わずに
- 3329 nuinak wa
ヌイナ燠 ワ
隠れる (接続)
隠れて、
- 3330 teta kira wa
テタ キラ ワ
ここで 逃げる (接続)
ここへ逃げて
- 3331 ek ruwe ne
エ燠 ルウェ ネ
来る 様子 (繫辞類)
来たのです。
- 3332 tapne kane
タ瀧ネ カネ
これである (程度)
このように
- 3333 teta e-kira wa
テタ エ・キラ ワ
ここで 汝・逃げる (接続)
汝がここへ逃げて
- 3334 e-ek kokusui
エ・エ燠 コクスイ
汝・来る たとえしても
来たとしても、
- 3335 e-okake ta
エ・オカケ タ
汝・後 (場所)
汝の後には
- 3336 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燠 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄が
- 3337 an kane
アン カネ
ある (程度)
いるの
- 3338 am be he an
ア營 ベ ヘ アン
ある もの (疑問) ある
ではないですか。
- 3339 too
トオ
ずっと遠くへ
ずっと、
- 3340 eshiri wano
エシリ ワノ
先程 (始点)
先程から、
- 3341 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燠 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄は
- 3342 rorunburai
ロルンブライ
神窓
神窓の
- 3343 choroboke ta
チョロボケ タ
下 (場所)
下に
- 3344 ek wa
エ燠 ワ
来る (接続)
来て、
- 3345 hushkotoi wano
フ燠コトイ ワノ
以前 から
長い間、
- p. 51*
- 3346 chiyaïnukare
チヤイヌカレ
自ら見る
妾らを見つめて
- 3347 i-y-ekarkar
イ・イエカ燠カ燠
我・する
います。
- 3348 ene hawash i
エネ ハワシ イ
このように 言われる こと
このような次第を
- 3349 obittano
オビ燠タノ
皆
すべて
- 3350 nu okere
ヌ オケレ
聞く (終了)
聞いてしまった
- 3351 ruwe tab an na
ルウェ タバン アン ナ
様子 これ ある ぞ
のです。
- 3352 konepkeukata
コネ燠ケウカタ
何ということか
何ということでしょうか。
- 3353 konepkashita
コネ燠カシタ
何としたことか
何としたことでしょうか。
- 3354 a-yaikomore p
ア・ヤイコモレ 瀧
我・自ら治める もの
妾らが治めていたものが
- 3355 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 3356 base kotan
バセ コタン
重い 村
尊い村
- 3357 ne rok awa
ネ ロ燠 アワ
(繫辞類) (完了) (展開)
であったのですが、
- 3358 e-wenrenkabi
エ・ウェンレンカビ
汝・悪心
汝の悪い見が
- 3359 okai rok kusu
オカイ ロ燠 クス
ある (完了) (理由・目的)
あったために、
- 3360 tane anakne
タネ アナ燠ネ
今 は
今は、
- 3361 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燠 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の兄が
- 3362 kotan upsoro
コタン ウ瀧ソロ
村 内部
村の中へ
- 3363 koyaitekani
コヤイテカニ
討ちに来る
攻撃をかけて
- 3364 ruwe ne ko anakne
ルウェ ネ コ アン
様子 (繫辞類) (条件) は
きたならば、
- 3365 ramma tashi
ラ營マ タシ
いつも (強調)
まったく、
- 3366 ukokushishpa
ウコクシ燠ハ
ともに
揃って、
- 3367 konep tusa
コネ燠 トウサ
何 蘇生する
如何なる蘇生、
- 3368 konep shiknu
コネ燠 シ燠ヌ
何 生きている
如何なる延命を
- 3369 a-ki p ta an
ア・キ 瀧 タ アン
我・する もの これ ある
するというのでしょうか。

- 3370 eani ne yakka
エアニ ネ ヤ燐カ
汝も、 (繫辞類) (讓歩)
- 3371 e-ki rusui kusu
エ・キ ルスイ クス
汝・する (欲求) (理由・目的)
汝がしたくて
- 3372 e-iki p ne kusu
エ・イキ 瀧 ネ クス
汝・するもの (繫辞類) (理由・目的)
おこなったことですから、
- 3373 taap korachi
タア瀧 コラチ
これ ように
このように、
- 3374 e-arke
エ・ア燐ケ
汝・片側
汝の片方の腕は
- 3375 isam kane
イサ營 カネ
無い (程度)
失われました。
- 3376 e-shiknu a p kusu
エ・シ燐ヌ ア 瀧 クス
汝・生きる (完了)もの (理由・目的)
汝が生きていても、
- 3377 konep raka
コネ瀧 ラカ
何 有益
何の意味が
- 3378 am be ta an
ア營 ベ タ アン
あるもの これ ある
あるでしょうか。
- 3379 ramma tashi
ラ營マ タシ
いつも (強調)
まさしく、
- 3380 e-ekot kuni p
エ・エコ燐 クニ 瀧
汝・死ぬ するべきもの
汝は倒れる者
- 3381 ne ruwe ne
ネ ルウェ ネ
(繫辞類) 様子 (繫辞類)
となります。
- 3382 tam be kusu
タ營 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 3383 aramkobashtep
アラ營コバ燐テ瀧
宝刀
刀の
- 3384 notak kurkashi
ノタ燐 ク燐カシ
刃 上
刃の上に
- 3385 e-yaiturare
エ・ヤイトゥラレ
汝・自ら連れる
汝が斬らた
- 3386 ki wa ne yakne
キ ワ ネ ヤ燐ネ
する (接続) (繫辞類) (条件)
ならば、
- 3387 tam be boka
タ營 ベ ボカ
このもの さえ
それだけでも、
- 3388 anrai orwa
アンライ オ燐ワ
ひどく死ぬ (始点)
死んでから
- 3389 pirika itukap ne
ピリカ イトゥカ瀧 ネ
よい 死霊 (繫辞類)
良い死霊と
- 3390 kor wa
コ燐 ワ
持つ (接続)
なって、
- 3391 yaikotuwashi
ヤイコトゥワシ
自ら満足する
満足
- 3392 kunak ramu yan
クナ燐 ラム ヤン
(引用) 思う (命令)
しなさい。」
- 3393 ari itak tek yak
アリ イタ燐 テ燐 ヤ燐
(引用) 言う ちよっとする (条件)
- 3394 a-ramu
ア・ラム
我・思う
ように思われた。
- 3395 pom menoko
ポ營 メノコ
小さい 女
少女が
- 3396 upsor tami
ウ燐ソ燐 タミ
内部 刀
懐中の刀を
- 3397 shituri humi
シトゥリ フミ
伸びる 音
伸ばす音が
- 3398 serkosanu
セ燐コサヌ
抜き放たれる
さっと鳴った。
- 3399 hontomo ta
ホントモ タ
途中 (場所)
その途中で、
- 3400 kechaukar imi
ケチャウカ燐 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者は
- 3401 ohau not charke
オハウ ノ燐 チャ燐ケ
おつゆ 一口分 散らばる
汁の実が散らばる
- 3402 ekannayukar
エカンナユカ燐
かのである
かのようになった。
- 3403 tui rukhumi
トゥイ ル燐フミ
切れる 断片
切れた残骸が
- 3404 chiusatchari
チウサ燐チャリ
散らばる
散らばった。
- 3405 kamui inotor
カムイ イノト燐
神 死霊
神霊が
- 3406 hobuni humi
ホブニ フミ
起き上がる 音
立ち昇る音が
- 3407 keurototke
ケウロト燐ケ
響く
鳴り響いた。
- 3408 moshiri umake
モシリ ウマケ
国土 崩れる
国土が崩れ、
- 3409 kotan umake
コタン ウマケ
村 崩れる
村が崩れ、
- p. 52
- 3410 kotan umake
コタン ウマケ
村 崩れる
村が崩れる
- 3411 semkorachi
セ營コラチ
かのである
かのである。
- 3412 humash aine
フマ燐 アイネ
音がする (接続)
そのような音がして、
- 3413 anrai bito
アンライ ビト
ひどく死ぬ 人
死人が
- 3414 shitchupbok ne
シ燐チュ燐ボ燐 ネ
西 (繫辞類)
西の方へ
- 3415 kohumerauta-
コフメラウタ・
音で下方
音を低く
- 3416 rorpa kane
ロ燐パ カネ
沈む (程度)
響かせながら去った
- 3417 kohumokake
コフモカケ
音の後
その後で、
- 3418 chakkosamba
チャ燐コサ營パ
静まる
周囲は静まり返った。

3.4 婚姻

- 3419 tata ot ta
タタ オ燐 タ
ここ 所 (場所)
ここでもやく、
- 3420 boro shikup mat
ボロ シク燐 マ燐
大きい 成長する 女
成長した婦人と
- 3421 pom menoko
ポ營 メノコ
小さい 女
少女が

- 3422 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列 (繫辞類)
一斉に
- 3423 chish hau konna
チ燕 ハウ コンナ
泣く 声
泣く声が
- 3424 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いた。
- 3425 inu hetap ne
イヌ ヘタ瀧 ネ
聞く これ (繫辞類)
聞いただけ、
- 3426 inkar hetap ne
インカ燠 ヘタ瀧 ネ
見る これ (繫辞類)
見ただけ
- 3427 a-ki humi
ア・キ フミ
我・する 音
では
- 3428 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
あるが、
- 3429 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ營
驚く 心
我は驚きの気持ち、
- 3430 ihoma keutum
イホマ ケウトウ營
恐れる 心
恐ろしい気持ちを
- 3431 a-yaikore kane
ア・ヤイコレ カネ
我・持つ (程度)
抱いた。
- 3432 anun hetap ne
アヌン ヘタ瀧 ネ
よその これ (繫辞類)
余所者であって、
- 3433 chikoramnukar
チコラ營ヌカ燠
挑戦すること
挑戦をする
- 3434 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燠カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
にしても、
- 3435 orsaureko
オ燠サウレコ
とんでもなく
ただならぬ
- 3436 i-y-ekarkar shiri
イ・イエカ燠カ燠 シリ
我・する 様子
仕打ちをすることを
- 3437 a-rushka humi
ア・ル燕力 フミ
我・怒る 気配
我は怒っていた
- 3438 okai rok awa
オカイ ロ燠 アワ
ある (完了) (展開)
のだが、
- 3439 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
よもや、
- 3440 tapne tapne
タ瀧ネ タ瀧ネ
これである
このように、
- 3441 ukoshinritkor be
ウコシンリ燠コ燠 ベ
共に先祖を持つ もの
同じ先祖を
- 3442 a-ne rokokai
ア・ネ ロココイ
我・(繫辞類) (判明)
持つ者であったのだ。
- 3443 taban ushike ta
タバン ウシケ タ
この ところ (場所)
この場所
- 3444 ek-an
エ燠・アン
来る・我
来た
- 3445 kushkeraibo
ク燠ケライボ
おかげで
おかげで、
- 3446 tapne kane ne i
タ瀧ネ カネ ネ イ
これである (程度) (繫辞類) こと
これまでの次第を
- 3447 arobittano
アロビ燠タノ
すべて
すべて
- 3448 a-toikoeraman
ア・トイコエラマン
我・よく理解する
我はよく理解した。
- 3449 konep anuni
コネ瀧 アヌニ
何 よそ者
如何なる余所者、
- 3450 konep oyabe
コネ瀧 オヤベ
何 よそ者
如何なる他人が
- 3451 horarpa ruwe
ホラ燠バ ルウエ
住む 様子
いるの
- 3452 ne yakka
ネ ヤ燠カ
(繫辞類) (譲歩)
であって、
- 3453 tapne ene
タ瀧ネ エネ
これである このように
このように
- 3454 a-erayap humi
ア・エラヤ瀧 フミ
我・感心する 気配
我は感嘆したもの
- 3455 okai rok awa
オカイ ロ燠 アワ
ある (完了) (展開)
であるが、
- 3456 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 3457 tantebota
タンテボタ
たった今
まさしく、
- 3458 a-kor unarbe
ア・コ燠 ウナ燠ベ
我・持つ 伯母
我が伯母で、
- 3459 senne saure
センネ サウレ
(否定) たやすい
近い
- 3460 chiirwakkore
チイ燠ワ燠コレ
親族を持つ
親族、
- 3461 chiutarkore
チウタ燠コレ
親族を持つ
一族
- 3462 i-y-ekarkar
イ・イエカ燠カ燠
我・する
であった
- 3463 rokokai ko
ロココイ コ
(判明) (条件)
のだ。そして、
- 3464 kechaukar imi
ケチャウカ燠 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者、
- 3465 pon a-wenyubi
ボン ア・ウェンユビ
小さい 我・悪い兄
年少の悪い兄、
- 3466 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
そのような神、
- 3467 ene am bito
エネ ア營 ビト
このように ある 人
そのような者が
- 3468 konep kamuye
コネ瀧 カムイエ
何 神
如何なる神に
- 3469 shikatkar kusu
シカ燠カレ クス
化かす (理由・目的)
惑わされて
- 3470 chianunkoba
チアヌンコバ
混同する
我を余所者と
- 3471 i-y-ekarkar
イ・イエカ燠カ燠
我・する
混同し、
- p. 53
- 3472 emko sama
エ燠コ サマ
半分 そば
そのために、
- 3473 ohaine kane
オハイネ カネ
なるほど (程度)
なるほど、
- 3474 ki rusui kusu
キ ルスイ クス
する (欲求) (理由・目的)
そうしたくて、

- 3475 katkor kuni p
カ燭コ燭 クニ 瀧
振舞う するべきもの
そのような振る舞いを
- 3476 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
したのであるから、
- 3477 chituye hene
チトウイエ ヘネ
切れた も
斬られるにしも
- 3478 orsaureko
オ燭サウレコ
とんでもなく
ただならぬことを
- 3479 a-ekarkar
ア・エカ燭カ燭
される
された
- 3480 ruwe okai
ルウェ オカイ
様子 ある
のか。
- 3481 nei kashike un
ネイ カシケ ウン
(繋辞類) 上 (方向)
その上に、
- 3482 tane anakne
タネ アナ燭ネ
今 は
今は、
- 3483 shisak rametok
シサ燭 ラメト燭
またとない 勇者
比類なき勇者は
- 3484 chishirunraike
チシルンライケ
無残に殺される
無残に
- 3485 a-ekarkar
ア・エカ燭カ燭
される
殺された
- 3486 humi okai chiki
フミ オカイ チキ
音 ある (条件)
のであるから、
- 3487 aratteke ta
アラ燭テケ タ
片方 (場所)
片腕で
- 3488 chituyashkarap
チトウヤ燭カラ瀧
憐れむこと
可哀想
- 3489 a-ekarkar koroka
ア・エカ燭カ燭 コロカ
我・する (逆接)
ではあるが、
- 3490 tane anakne
タネ アナ燭ネ
今 は
今は
- 3491 ene a-ye i
エネ ア・イエ イ
このように 言われる こと
どのように言うことも
- 3492 ene a-kar i
エネ ア・カ燭 イ
このように 我・する こと
どのようにすることも
- 3493 isam kane
イサ營 カネ
無い (程度)
できない。
- 3494 eebaki ta
エエバキ タ
次 (場所)
その次に、
- 3495 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 3496 pom matkachi
ポ營 マ燭カチ
小さい 少女
幼い少女は
- 3497 ituren hetap ne
イトウレン ヘタ瀧 ネ
憑き神 これ (繋辞類)
憑き神のためか、
- 3498 konep tap teta
コネ瀧 タタ
何 これ ここで
何という
- 3499 kiba hawe
キバ ハウエ
する 声
ことであろうか。
- 3500 tane
タネ
今
今は、
- 3501 taban ushike ta
タバン ウシケ タ
この ところ (場所)
この場所に
- 3502 an-an katu hene
アナン カトウ ヘネ
いる・我 かたち も
我がいることも、
- 3503 ukaebita hawe
ウカエビタ ハウエ
解きほくす 声
言い解いたことに
- 3504 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ營
驚く 心
驚きの気持ち、
- 3505 yayikush keutum
ヤイク燭 ケウトウ營
悔しい 心
恥ずかしい気持ちを
- 3506 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
私は抱いた。
- 3507 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神、
- 3508 ene am bito
エネ ア營 ビト
このように ある 人
このような貴人が
- 3509 konep tap rehe^{*30}
コネ瀧 タ瀧 レヘ
何 これ 名
一体何故
- 3510 mat ne ki wa
マ燭 ネ キ ワ
女 (繋辞類) する (接続)
女性であるのか。
- 3511 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 3512 shinta ka wano
シンタ カ ワノ
揺りかご 上 (始点)
ゆりかごの上で
- 3513 a-i-korespha rokokai
ア・イ・コレ燭パ ロコカイ
我・育てられる (判明)
我は育てられたのだ。
- 3514 eashka
エア燭カ
ほんとうに
まさしく、
- 3515 a-enubetne kane
ア・エヌベ燭ネ カネ
我・喜ぶ (程度)
我は喜んだ。
- 3516 eepaki ta
エエバキ タ
次 (場所)
その次に、
- 3517 nekona shiko p
ネコナ シコ 瀧
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者、
- 3518 nekona baro p
ネコナ バロ 瀧
どのように 口がついている もの
如何なる育ちの者が
- 3519 tapne a-kor ainu
タ瀧ネ ア・コ燭 アイヌ
これである 我・持つ 父
我が父、
- 3520 a-kor tutto utar
ア・コ燭 ト燭ト ウタ燭
我・持つ 母 人々
我が母たち
- 3521 ne wa
ネ ワ
(繋辞類) (接続)
であるのか。
- 3522 heru ainu
ヘル アイヌ
ただの 人間
ただの人間
- 3523 orowa
オロワ
(始点)
から
- 3524 a-ukokeshke kusu
ア・ウコケ燭ケ クス
皆に妬まれる (理由・目的)
嫉まれて、
- 3525 ohonno
オホンノ
しばらく
暫くの間は

*30 rehe と書かれているが rehe と解釈する。

- 3526 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間の国土で
- 3527 koiraukituipa
コイラウキトゥイパ
仕事をする
仕事をするのが
- 3528 eaikap wa
エアイカ 瀧 ワ
できない (接続)
出来ず、
- 3529 ponno poka
ボンノ ポカ
少し さえ
少しも
- 3530 a-eshikarun
ア・エシカルン
我・思い出す
我は思い出さず
- 3531 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
に、
- 3532 kamui or un
カムイ オ 燻 ウン
神 所 (方向)
神々のところへ
- 3533 baye hawe
バイエ ハウエ
行く 声
立ち去った
- 3534 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
というので、
- 3535 a-keutumkashi
ア・ケウトウケカシ
我・心の上
我は心の中で
- 3536 chishkot kane
チシコト カネ
泣く (程度)
涙を流した。
- 3537 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 3538 a-kor unarbe ne wa
ア・コ 燻 ウナ 燻 ベ ネ ワ
我・持つ 伯母 (繫辞類) (接続)
我が伯母は
- p. 54
- 3539 otu chish wem be
オトゥ チシ ウエ 燻 ベ
二つの 泣く 悪い もの
二つの泣きの涙、
- 3540 ore chish wem be
オレ チシ ウエ 燻 ベ
三つの 泣く 悪い もの
三つの泣きの涙を
- 3541 yayekotpa
ヤイエコトパ
自ら結び付ける
流した。
- 3542 tane chishekot
タネ チシエコト
今 泣いて倒れる
いまは、泣き倒れて
- 3543 anke ikichi
アンケ イキチ
しようとする する
しまいそうである。
- 3544 ihoma keutum
イホマ ケウトウ 燻
恐れる 心
憐れみの心、
- 3545 ibashte rampo
イバシテ ラ 燻 ポ
気付く 心
親愛の心を
- 3546 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
我は抱いた。
- 3547 tanepo ek be
タネポ エ 燻 ベ
たった今 来る もの
我は今さっき来た者
- 3548 a-shikobayar
ア・シコバヤ 燻
我・見せかける
であるかのように、
- 3549 burai reubok wa
ブライ レウボ 燻 ワ
窓 下 (起点)
窓の下から
- 3550 chep shikiru
チェ 瀧 シキル
魚 振り向く
魚が向きを変える
- 3551 a-ekannayukar
ア・エカンナユカ 燻
我・それらしくする
かのようにした。
- 3552 chise sam ka ta
チセ サ 燻 カ タ
家 側 上 (場所)
家の側の上で、
- 3553 niwen chinikan
ニウエン チニカン
猛々しい 足踏み
我は激しい足取りを
- 3554 a-tuimaturi
ア・トゥイマトゥリ
我・遠く伸ばす
遠く伸ばした。
- 3555 a-tumpa maikan
ア・トゥ 燻 パ マイカン
我・鏝 音
我の鏝の音が
- 3556 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
美しく響いた。
- 3557 mosem tuyor
モセ 燻 トウヨ 燻
玄関納屋 中
我は玄関の納屋へ
- 3558 a-eshikuru
ア・エシキル
我・回る
回った。
- 3559 iyaynumare
イヤイヌマレ
驚嘆する
驚いたことに、
- 3560 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
神々の匂い、
- 3561 tomi hura
トミ フラ
財宝 匂い
神宝の匂いが
- 3562 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 (繫辞類)
激しい風となって、
- 3563 i-emaknakur-
イ・エマクナク 燻
我・奥
我を背後へ
- 3564 raipa kane
ライパ カネ
移動させる (程度)
押しやった。
- 3565 taban chikutkesh
タバ ン チク 燻 ケ 燻
この 咳払い
咳払い、
- 3566 beure chikutkesh
ベウレ チク 燻 ケ 燻
若い 咳払い
若々しい咳払いを
- 3567 a-maknaraye
ア・マクナライエ
我・奥にやる
我は奥に響かせた。
- 3568 chiokanimai-
チオカニマイ
金属の響き
金の音が
- 3569 kotekote kane
コテコテ カネ
結び付ける (程度)
響くようである。
- 3570 kani aba ush be
カニ アバ ウ 燻 ベ
黄金 簾戸 ある もの
金の簾戸が
- 3571 ratki ruwe konna
ラチキ ルウエ コンナ
垂れ下がる 様子
垂れ下がる様子は
- 3572 tonnatara
トンナタラ
光っている
光り輝いている。
- 3573 a-kotekturi
ア・コテ 燻 トゥリ
我・手を伸ばす
我はそれに手を伸ばし、
- 3574 a-moirechaka
ア・モイレチャカ
我・ゆっくり開ける
ゆっくりと開けた。
- 3575 mintar ka ta
ミンタ 燻 カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に、
- 3576 imeru tura
イメル トゥラ
光 とともに
光と共に、
- 3577 urar tura
ウラ 燻 トゥラ
霧 とともに
霧と共に
- 3578 a-rutkosanu
ア・ルコサヌ
我・押し入る
我は押し入った。

- 3579 harkiso ne
八燠キソ ネ
左座 (繫辞類)
左座の
- 3580 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹の
- 3581 oshmake
オ燠マケ
その背後
背後に
- 3582 a-urekushte kusu
ア・ウレク燠テ クス
我・通る (理由・目的)
我は足を通そうと、
- 3583 renne kema
レンネ ケマ
だるい 足
ゆったりと足を
- 3584 a-tuimaturi awa
ア・トゥイマトゥリ アワ
我・遠く伸ばす (展開)
遠く伸ばすと、
- 3585 hemakashi wa
ヘマカシ ワ
奥へ (起点)
妹は背後へ
- 3586 hoshishibi
ホシ燠シビ
帰る
戻った。
- 3587 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
そこで、
- 3588 kotchake
コ燠チャケ
前
妹の前へ
- 3589 a-urekushte
ア・ウレク燠テ
我・通る
我は足を通し、
- 3590 hoka etok ta
ホカ エト燠 タ
炉 前方 (場所)
火の側へ
- 3591 a-an humi
ア・アン フミ
座る・我 音
我が座る音が
- 3592 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いた。
- 3593 a-an i moire
ア・アニ モイレ
座る・我 こと 遅い
我が座るとすぐに、
- 3594 a-kor unarbe
ア・コ燠 ウナ燠ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は、
- 3595 tu urar ikkeu
トゥ ウラ燠 イ燠ケウ
二つの 霧 元
二つの霧の根元、
- 3596 re urar ikkeu
レ ウラ燠 イ燠ケウ
三つの 霧 元
三つの霧の根元を
- 3597 i-kocharikar
イ・コチャリカ燠
我・払う
我に対して散らした。
- 3598 naani tu sui
ナアニ トゥ スイ
まさに 二つの 回
二回、
- 3599 naani re sui
ナアニ レ スイ
まさに 三つの 回
三回と、
- p. 55
- 3600 ainu kat ne
アイヌ カ燠 ネ
人間 姿 (繫辞類)
人間の姿として
- 3601 i-kar eaikap
イ・カ燠 エアイカ燠
我・する できない
我を見定めることができない。
- 3602 hushkotoi wano
フ燠コトイ ワノ
以前 から
長い間
- 3603 i-kar aine
イ・カ燠 アイネ
我・する (接続)
そのようにしており、
- 3604 tanebo konna
タネボ コンナ
今 こそ
今は
- 3605 a-annankurka
ア・アンナク燠カ
我・片顔の上
私の横顔の上を
- 3606 koshikraiba
コシ燠ライバ
目撃する
目撃した。
- 3607 kanibor ka ta
カニボ燠 カ タ
顔色 上 (場所)
そして、顔色が
- 3608 koraikosampa
コライコサ燠パ
蒼ざめる
蒼ざめた。
- 3609 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
このような神、
- 3610 ene am bito
エネ ア燠 ビト
このように ある 人
このような貴人が、
- 3611 hem shiehose
ヘ燠 シエホセ
(否定) 自分をさしおく
みずからを差し置いて、
- 3612 konep kamuye
コネ燠 カムイエ
何 神
如何なる神、
- 3613 konep bito
コネ燠 ビト
何 人
如何なる貴人に
- 3614 erayap kuni p
エラヤ燠 クニ 燠
感心する するべき もの
感嘆するものである。
- 3615 huihuina wano
フイフイナ ワノ
隔々 (始点)
隔々まで
- 3616 i-uwambare
イ・ウワ燠バレ
我・調べる
我を眺め直し、
- 3617 i-tukaripo
イ・トゥカリポ
我・手前
我的手前へ
- 3618 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を
- 3619 atte kane
ア燠テ カネ
たたせる (程度)
落とした。
- 3620 neino sui
ネイノ スイ
ように 再び
それと同じように、
- 3621 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹も
- 3622 tu urar ikkeu
トゥ ウラ燠 イ燠ケウ
二つの 霧 元
二つの霧の根元、
- 3623 re urar ikkeu
レ ウラ燠 イ燠ケウ
三つの 霧 元
三つの霧の根元を
- 3624 i-kocharikar
イ・コチャリカ燠
我・払う
我に対して散らした。
- 3625 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
並大抵に
- 3626 i-reka kuni p
イ・レカ クニ 燠
我・ほめる するべき もの
我を賞賛するもの、
- 3627 i-erayap kuni p
イ・エラヤ燠 クニ 燠
我・感心する するべき もの
我に感嘆するもの
- 3628 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燠ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 3629 kotom korkaiki
コト燠 コ燠カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 3630 arukorachi
アルコラチ
同じく
同じように、
- 3631 kanibor ka ta
カニボ燠 カ タ
顔色 上 (場所)
顔色が

- 3632 koraikosamba^{*31}
コライコサ管バ
蒼ざめる
蒼ざめた。
- 3633 i-tukaribebo
イ・トゥカリケボ
我・前
そして、我的手前へ
- 3634 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
視線を低く
- 3635 atte kane
ア爛テ カネ
たたせる (程度)
落とした。
- 3636 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は、
- 3637 karkupo sambe
カ燐クボ サ管ベ
甥 心臓
甥よ、心臓よ、
- 3638 ari chish turanno
アリ チシ トゥランノ
(引用) 泣く とともに
と泣きながら
- 3639 itak kane
イタ燐 カネ
言う (程度)
言った。
- 3640 i-kobak un wa
イ・コバ燐 ウン ワ
我・方向 (方向) (起点)
そして、我の方へ
- 3641 shinu shinu
シヌ シヌ
膝行する 膝行する
這いよってきた。
- 3642 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
すると、
- 3643 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 3644 a-sambekashi
ア・サ管ベカン
我・心臓の上
心臓の中で、
- 3645 a-keutumkashi
ア・ケウトウ管カシ
我・心の上
心の中で
- 3646 chishkot kane
チシコ燐 カネ
泣く (程度)
涙を流した。
- 3647 hese buira
ヘセ ブイラ
息をする 孔
息をする穴も
- 3648 a-i-koseshke kane
ア・イ・コセ燐ケ カネ
我・塞がれる (程度)
塞がれたようである。
- 3649 unarbe ari
ウナ燐ベ アリ
伯母 (引用)
伯母よ、と
- 3650 itak-an kane
イタ燐・アン カネ
言う・我 (程度)
我は言い、
- 3651 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母の
- 3652 temkoroho
テ管コロホ
腕の中
腕の中へ
- 3653 a-osabaturiri
ア・オサバトゥリリ
我・頭を伸ばす
頭を伸ばした。
- 3654 iki-an chiki
イキ・アン チキ
する・我 (条件)
我がそうすると、
- 3655 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
並大抵に
- 3656 enubetne kuni p
エヌベ燐ネ クニ 瀧
喜ぶ するべき もの
喜ぶもの
- 3657 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燐ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 3658 kotom korkaiki
コト管 コ燐カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 3659 eramubo-
エラムボ・
心
伯母は
- 3660 bashkosampa
バ燐コサ管バ
さっと走る
歓喜した。
- 3661 kasa reubok un
カサ レウボ燐 ウン
笠 下 ある
そして、兜の下の
- 3662 a-kimuikashi
ア・キムイカン
我・頭上
私の頭上に
- 3663 kotekturi
コテ燐トゥリ
手を伸ばす
手を伸ばし、
- 3664 i-shikoruye
イ・シコルイエ
我・抱き寄せる
我を抱きしめた。
- p. 56
- 3665 a-santekka ta
ア・サンテ燐カ タ
我・前腕の上 (場所)
そして、私の腕や
- 3666 a-sankokkasapa^{*32}
ア・サンコ燐カサバ
我・膝頭
膝を
- 3667 i-koruiruye
イ・コルイルイエ
我・撫でる
撫でさすった。
- 3668 kurkashike
ク燐カシケ
表面
その上で、
- 3669 chish turanno
チシ トゥランノ
泣く とともに
泣きながら
- 3670 itak omare
イタ燐 オマレ
言う 入れる
話すことは
- 3671 hawe ene okai i
ハウエ エネ オカイ イ
声 このように ある こと
次のようであった。
- 3672 seenne ka tap
セエンネ カ タ燐
(否定) (不明) これ
「よもや、
- 3673 tan anchikat ta
タン アンチカ燐 タ
この 夜 (場所)
今晚、
- 3674 e-nukar-an kuni
エ・ヌカ燐・アン クニ
汝・見る・我 するべき
汝に会うとは
- 3675 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う (展開)
思いませんでした、
- 3676 e-nukar-an
エ・ヌカ燐・アン
汝・見る・我
ようやく会えた
- 3677 shiri an
シリ アン
様子 ある
のですね。
- 3678 ene somun
エネ ソムン
このように (不明)
まさか本当たとは。
- 3679 e-an kuni
エ・アン クニ
汝・ある するべき
汝がいると
- 3680 a-ramu i
ア・ラム イ
我・思う こと
妾は思っていた
- 3681 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
ので、

*31 korkosamba と書かれているが koraikosamba と解釈する。

*32 asankokkasapa と書かれているが asankokkasapa と解釈する。

- 3682 e-benubur be
エ・ベヌブ燐 ベ
汝・靈力に優れるもの
汝は靈能力に優れた者
- 3683 e-ne a p kusu
エ・ネ ア 瀧 クス
汝・(繫辞類) (完了) もの (理由・目的)
であるから、
- 3684 teeta kane
テエタ カネ
以前 (程度)
古い時代に、
- 3685 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の妾の兄が
- 3686 an a i korachi
アン ア イ コラチ
ある (完了) とき ように
いたときのように、
- 3687 neike huike
ネイケ フイケ
どこに 隅
どこもかしこにも
- 3688 e-hoppa ruwe
エ・ホ瀧バ ルウェ
汝・去る 様子
汝が立ち去った様子は
- 3689 oarar isam
オアラ燐 イサ營
全く 無い
全くありませんでした。
- 3690 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
汝は年少の妾の兄を
- 3691 arke chiyasa
ア燐ケ チャサ
半分 裂かれる
半分に裂き、
- 3692 arke chiponte
ア燐ケ チボンテ
半分 小さくする
半ば小さくした
- 3693 tap korachi
タ瀧 コラチ
これ ように
ような
- 3694 e-an ruwe an
エ・アン ルウェ アン
汝・ある 様子 ある
姿なのですね。
- 3695 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このようなものが
- 3696 ainu ne kusu
アイヌ ネ クス
人間 (繫辞類) (理由・目的)
人間なのでしょうか。
- 3697 toi ka oterke p
トイ カ オテ燐ケ 瀧
土 上 着地する もの
土の上を踏む者
- 3698 hetap ne okai
ヘタ瀧 ネ オカイ
これ (繫辞類) ある
なのでしょうか。
- 3699 tap eashiri
タ瀧 エアシリ
これ それこそ
まさしく、
- 3700 chinomi kamui
チノミ カムイ
祭られる 神
祀られる神が
- 3701 toi ka oran yakne
トイ カ オラン ヤ燐ネ
土 上 降りる (条件)
地面に降りてきたら、
- 3702 a-koememba p^{*33}
ア・コエメ營バ 瀧
似合う もの
このような姿
- 3703 ene ruwe an
エネ ルウェ アン
このように 様子 ある
なのでしょうか。」
- 3704 ari itak kane
アリ イタ燐 カネ
(引用) 言う (程度)
伯母はこのように言い、
- 3705 otu sui konna
オトゥ スイ コンナ
二つの 回 こそ
二度、
- 3706 ore sui konna
オレ スイ コンナ
三つの 回 こそ
三度と
- 3707 i-shikoruye
イ・シコルイェ
我・抱き寄せる
我を抱きしめた。
- 3708 okkeu kurkan
オ燐ケウ ク燐カン
首 上
頸の上も
- 3709 isam kane
イサ營 カネ
無い (程度)
無くなるほど、
- 3710 otu henkuror
オトゥ ヘンク口燐
二つの うなずくこと
二つのうなずき、
- 3711 ore henkuror
オレ ヘンク口燐
三つの うなずくこと
三つのうなずきを
- 3712 i-koanukar
イ・コアナ燐
我・置く
我におこなった。
- 3713 pon teinap shin ne
ボン テイネ瀧 シン ネ
小さい 赤子 様子 (繫辞類)
幼い赤子のように、
- 3714 hekachi shin ne
ヘカチ シン ネ
子供 様子 (繫辞類)
子供のように、
- 3715 i-henkotpa
イ・ヘンコ燐バ
我・うなずく
我をあやすようにした。
- 3716 konepkeukata
コネ瀧ケウカタ
何ということか
「何ということでしょうか、
- 3717 konepkashita
コネ瀧カシタ
何としたことか
何としたことでしょうか。
- 3718 moire tunash
モイレ トゥナ燐
遅い 早い
遅かれ早かれ、
- 3719 iki a yakka
イキ ア ヤ燐カ
する か (譲歩)
ではありますが、
- 3720 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
お互いに、
- 3721 ratchi unukar
ラ燐チ ウヌカ燐
穏やかな 会見
穏やかな再会、
- 3722 pirika unukar
ピリカ ウヌカ燐
よい 会見
良い再会を
- 3723 a-ki kuni i
ア・キ クニ イ
我・する するべき こと
妾はすることを
- 3724 a-chibachiba awa
ア・チバチバ アワ
我・望む (展開)
望んでいましたが、
- 3725 a-wempoho
ア・ウェ營ボホ
我・悪い息子
妾の悪い息子、
- p. 57
- 3726 a-otuiike
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
下らぬ者の
- 3727 wen renkabi
ウェン レンカビ
悪い 意図
悪い了見が
- 3728 okai rok kusu
オカイ 口燐 クス
ある (完了) (理由・目的)
あったために、
- 3729 tane anakne
タネ アナ燐ネ
今 は
今は、
- 3730 chinankapsakka
チナンカ瀧サ燐カ
顔の皮を無くす
会わせる顔も
- 3731 a-i-y-ekarkar
ア・イ・イエカ燐カ燐
我・される
ない
- 3732 shiri okai ko
シリ オカイ コ
様子 ある (条件)
のです。そして、

*33 始め akoenepumbap と書かれたが akoenembap に訂正されている。

- 3733 a-neike shiko wa
ア・ネイケ シコ ワ
我・どこに 目が付く、(接続)
妾はどこに目が付き、
- 3734 a-neike baro wa
ア・ネイケ バロ ワ
我・どこに 口が付く、(接続)
どこに口が付く者でしょうか。
- 3735 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 3736 shinutapka ta hene
シヌタ瀧カ タ ヘネ
(地名) (場所) も
シヌタブカに
- 3737 moshma
モ燕マ
ほか
他の
- 3738 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燠
我・人々 人々
親族の人々、
- 3739 a-karku utar
ア・カ燠ク ウタ燠
我・甥 人々
甥たち、
- 3740 a-matkarku utar
ア・マ燠カ燠ク ウタ燠
我・姪 人々
姪たちが
- 3741 uwatte yak
ウワ燠テ ヤ燠
集まる (条件)
集まっていると
- 3742 a-ye awa
ア・イエ アワ
言われる (展開)
言われても、
- 3743 oar
オア燠
全く
全く
- 3744 a-nukar eaikap
ア・ヌカ燠 エアイカ瀧
我・見る できない
会うことはできない
- 3745 nankor
ナンコ燠
だろう
でしょう。」
- 3746 ari a-kor unarbe
アリ ア・コ燠 ウナ燠ベ
(引用) 我・持つ 伯母
我の伯母は
- 3747 itak kane
イタ燠 カネ
言う (程度)
このように言い、
- 3748 otu chish wem be
オトゥ チ燕 ウエ營
二つの 泣く 悪い もの
二つの泣きの涙、
- 3749 ore chish wem be
オレ チ燕 ウエ營
三つの 泣く 悪い もの
三つの泣きの涙を
- 3750 yayekote
ヤイエコテ
自分に結びつける
みずから流した。
- 3751 hawash chiki
ハワ燕 チキ
言われる (条件)
伯母がそう言うと、
- 3752 a-kutsamkonna
ア・ク燠サ營コナ
我・喉元
我の喉元が
- 3753 uwetunuisse
ウウエトウヌイセ
美しく響く
響き、
- 3754 itak-an^{*34} hawe
イタ燠・アン ハウエ
言う・我 声
我が言うことは
- 3755 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のようであった。
- 3756 koninkar kusu
コニンカ燠 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 3757 a-kor unarbe
ア・コ燠 ウナ燠ベ
我・持つ 伯母
我が伯母よ、
- 3758 itak-an chiki
イタ燠・アン チキ
言う・我 (条件)
話すから
- 3759 pirikano
ピリカノ
良く
よく
- 3760 nu wa
ヌ ワ
聞く (接続)
聞いて
- 3761 i-kore kunak
イ・コレ クナ燠
我・与える (引用)
くれ
- 3762 ramu yan
ラム ヤン
思う (命令)
ませんか。
- 3763 kechaukar imi
ケチャウカ燠 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者、
- 3764 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燠 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄が、
- 3765 naa tunashno
ナア トゥナ燕ノ
まだ 早く
まだ早くに、
- 3766 pon ram orowano hene
ボン ラ營 オロワノ ヘネ
小さい 心 (始点) も
幼少の頃からでも、
- 3767 tapne kane
タ瀧ネ カネ
これである (程度)
このように、
- 3768 ukoshinrit korba p
ウコシンリ燠 コ燠バ 瀧
共に先祖 持つ もの
我らはお互いに先祖をもつ者
- 3769 a-ne katu
ア・ネ カトゥ
我・(繫辞類) かたち
であることを
- 3770 eramam a chiki
エラマン ア チキ
知る (完了) (条件)
理解していたならば、
- 3771 somoun
ソモウン
よもや
よもや
- 3772 neino an wem buri
ネイノ アン ウエ營 ブリ
ように ある 悪い 行い
このような悪行は
- 3773 somo ki p he an
ソモ キ 瀧 ヘ アン
(否定) する もの (疑問) ある
おこなわなかったであろう
- 3774 ari yainu-an chiki
アリ ヤイヌ・アン チキ
(引用) 考える・我 (条件)
と思う。そして、
- 3775 aratteke ta
アラ燠テケ タ
片腕 (場所)
片方の腕で、
- 3776 chituyashkarap
チトゥヤ燕カラ瀧
憐れむこと
我は憐れみを
- 3777 a-ekarkar kane
ア・エカ燠カ燠 カネ
我・する (程度)
覚えて
- 3778 yainu-an
ヤイヌ・アン
考える・我
いる
- 3779 ruwe tab an
ルウエ タバン アン
様子 これ ある
のだ。
- 3780 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燠カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我もまた、
- 3781 nubur sak kuni p
ヌブ燠 サ燠 クニ 瀧
濃い 欠く するべき もの
霊能力のない者、
- 3782 tusu sak kuni p
トゥス サ燠 クニ 瀧
霊能力 欠く するべき もの
巫術の力のない者
- 3783 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・(繫辞類) (理由・目的)
であるから、

*34 始め itakak と書かれたが itakan に訂正されている。

- 3784 konep anuni
コネ瀧 アヌニ
何 よそ者
どこの余所者、
- 3785 konep oyabe
コネ瀧 オヤベ
何 よそ者
どこの他人が
- 3786 katkatkoro
カ爛カ爛コロ
振る舞う
このような振る舞いを
- 3787 shiri ne kuni
シリ ネ クニ
様子 (繫辞類) するべき
したのかと
- 3788 batek a-ramu
バテ燐 ア・ラム
のみ 我・思う
ばかり思っていた。
- p. 58
- 3789 teta ek-an
テタ エ燐・アン
ここで 来る・我
我がここに来て
- 3790 orowa
オロワ
(始点)
から、
- 3791 eashiri
エアシリ
それこそ
はじめて、
- 3792 tapne tapne
タ瀧ネ タ瀧ネ
これである これである
このように
- 3793 utar kor kuni p
ウタ燐 コ燐 クニ 瀧
人々 持つ するべき もの
我は親族を持つもの
- 3794 a-ne i
ア・ネ イ
我・(繫辞類) こと
であることを、
- 3795 arobitano
アロビ爛タノ
すべて
一つ残らず
- 3796 a-eraman
ア・エラマン
我・知る
理解した
- 3797 ruwe ne
ルウェ ネ
様子 (繫辞類)
のだ。
- 3798 kechaukar imi
ケチャウカ燐 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者、
- 3799 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄、
- 3800 ene an kamui
エネ アン カムイ
このように ある 神
そのような神、
- 3801 ene am bito
エネ ア燐 ビト
このように ある 人
そのような貴人が
- 3802 itekki
イテ燐キ
決して
決して
- 3803 neino an wem buri
ネイノ アン ウエ燐 ブリ
ように ある 悪い 行い
あのような悪行を
- 3804 kor wa ne yakne
コ燐 ワ ネ ヤ燐ネ
持つ (接続) (繫辞類) (条件)
おこなわなければ、
- 3805 rametok enishte
ラメト燐 エニ燐テ
勇者 強固になる
我は勇者を抱えて心強く
- 3806 a-ki kusu ne
ア・キ クス ネ
我・する (理由・目的) (繫辞類)
思うことであった
- 3807 awam be
アワ燐 ベ
(判明) もの
に違いない。
- 3808 kechaukar imi
ケチャウカ燐 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者、
- 3809 pon a-wenyubi
ボン ア・ウェンユビ
小さい 我・悪い兄
我が年少の悪兄が
- 3810 ouse
オウセ
ただ
ただ
- 3811 shinen ne wa
シネン ネ ワ
一人 (繫辞類) (接続)
一人で
- 3812 ki hoiyo
キ ホイヨ
する 乱心する
抱いた乱心であり、
- 3813 a-kor unarbe hemem
ア・コ燐 ウナ燐ベ ヘメ燐
我・持つ 伯母 も
我が伯母も、
- 3814 a-tureshipo hene
ア・トゥレシポ ヘネ
我・妹 も
我が妹も、
- 3815 ponno ka
ボンノ カ
少し も
少しも
- 3816 eiyokamkir ka
エイヨカ燐キ燐 カ
知っている も
知らずに
- 3817 somo ki p
ソモ キ 瀧
(否定) する もの
いたのだ。
- 3818 ne wa am be
ネ ワ ア燐 ベ
(繫辞類) (接続) ある もの
そのことを、
- 3819 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母よ、
- 3820 itekki neino
イテ燐キ ネイノ
決して ように
決してそのように、
- 3821 yaisambekoiki
ヤイサ燐ベコイキ
自ら心を痛める
みずからを責めないでほしい。
- 3822 itekki
イテ燐キ
決して
決して、
- 3823 ramusarak yan
ラムサラ燐 ヤン
心配する (命令)
心配しないでほしい。
- 3824 tan tewano
タン テワノ
この これから
これから、
- 3825 aokai tapne
アオカイ タ瀧ネ
我 これである
我はこのように、
- 3826 pirika chinunuke
ピリカ チヌヌケ
よい 大事にする
よき孝行を
- 3827 totto shiri ne
ト爛ト シリ ネ
母 様子 (繫辞類)
母のように、
- 3828 e-karkar-an
エ・カ燐カ燐・アン
汝・する・我
汝にする
- 3829 kush ki na
ク燐 キ ナ
ように する ぞ
つもりだ。」
- 3830 ari
アリ
(引用)
我がこのように
- 3831 tu pirka itak
トゥ ビ燐カ イタ燐
二つの よい 言う
二つの良い言葉、
- 3832 re pirika itak
レ ビリカ イタ燐
三つの よい 言う
三つの良い言葉を
- 3833 a-koturi awa
ア・コトゥリ アワ
我・伸ばす (展開)
かけると、
- 3834 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 3835 inu rok be
イヌ ロ燐 ベ
聞く (完了) もの
それを聞いて、
- 3836 kannaruino
カンナルイノ
再びまた
再び

- 3837 i-shikoruye kane
イ・シコルイエ カネ
我・抱き寄せる (程度)
我を抱きしめた。
- 3838 chish hau konna
チ燕 ハウ コンナ
泣く 声 こそ
そして、泣く声が
- 3839 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いた。
- 3840 oyoioyoi
オヨイオヨイ
(感嘆)
「何ということでしょう。」
- 3841 rametok e-ne
ラメト燐 エ・ネ
勇者 汝・(繫辞類)
汝は勇者ですね。
- 3842 utarpa e-ne kusu
ウタ燐バ エ・ネ クス
首領 汝・(繫辞類) (理由・目的)
汝は頭領ですから、
- 3843 kamui irenka
カムイ イレンカ
神 意図
神の意志、
- 3844 utarpa irenka
ウタ燐バ イレンカ
首領 意図
頭領の意志を示すことが
- 3845 e-cashkai hawe
エ・エア燐カイ ハウエ
汝・上手にする 声
できるのですね。
- 3846 irayapka
イラヤ燐カ
人を感じさせる
感嘆しました。
- 3847 e-ki hawe
エ・キ ハウエ
汝・する 声
汝の言うことを
- 3848 iramasure-an hawe
イラ燐マスレ・アン ハウエ
好む・我 声
妾は好ましく
- 3849 tap korachi an
タ燐 コラチ アン
これ ように ある
思います。
- 3850 pirika keutum
ピリカ ケウトゥ燐
よい 心
良い心を
- 3851 e-kor hawe
エ・コ燐 ハウエ
汝・持つ 声
汝は持って
- 3852 ne ko anakne
ネ コ アナ燐ネ
(繫辞類) (条件) は
いるのですから、
- p. 59
- 3853 kamui or pakno
カムイ オ燐 バ燐ノ
神 所 まで
神々のところまで、
- 3854 e-asurash
エ・アスラ燐
汝・噂がたつ
汝は噂がたつのですね。
- 3855 e-ram a-ye
エ・ラ燐 ア・イエ
汝・心 我・言う
感謝
- 3856 ruwe tab an na
ルウエ タバン ナ
様子 これ ある ぞ
します。
- 3857 tane anakne
タネ アナ燐ネ
今 は
今は、
- 3858 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 3859 a-more kotan
ア・モレ コタン
我・治める 村
妾らが治めていた村を
- 3860 wen toi kan toi
ウエン トイ カン トイ
悪い 土 上 土
地表ごと、
- 3861 e-kokiru kuni batek
エ・コキル クニ バテ燐
汝・引っ繰り返す するべき のみ
汝は引っ繰り返すものばかり
- 3862 a-ehonkese
ア・エホンクセ
我・腹の端
腹の中で
- 3863 kapne kane
カ燐ネ カネ
皮になる (程度)
身も細る思いで
- 3864 yaikouwebeker-an awa
ヤイクウエベケ燐・アン アワ
考え込む・我 (展開)
心配していたのですが、
- 3865 sone p he an
ソネ 燐 ヘ アン
まことの もの (疑問) ある
まことのことなのですか、
- 3866 am be he an
ア燐 ベ ヘ アン
ある もの (疑問) ある
本当のことなのですか。
- 3867 kamui
カムイ
神
神である
- 3868 a-karku tono
ア・カ燐ク トノ
我・甥 殿
妾の甥よ、
- 3869 ratchi irenka
ラ燐チ イレンカ
穏やかな 意図
穏やかな意志を
- 3870 e-kor hawe
エ・コ燐 ハウエ
汝・持つ 声
汝が持つことに、
- 3871 sonno
ソンノ
真に
まことに
- 3872 e-ram a-ye
エ・ラ燐 ア・イエ
汝・心 我・言う
我は感謝し、
- 3873 yayiraike-an
ヤイライケ・アン
ありがたく思う・我
礼を述べます。
- 3874 sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 3875 nubetne-an na
ヌベ燐ネ・アン ナ
喜ぶ・我 我・ぞ
妾は嬉しく思います。」
- 3876 ari itak kane
アリ イタ燐 カネ
(引用) 言う (程度)
伯母はこう言って、
- 3877 i-ruiruye
イ・ルイルイエ
我・撫でる
我を撫でさすった。
- 3878 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹
- 3879 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燐カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 3880 eashka shino
エア燐カ シノ
ほんとうに まことに
まさしく、
- 3881 nubetne kuni p
ヌベ燐ネ クニ 燐
喜ぶ するべき もの
喜ぶもの
- 3882 kone p ne kusu
コネ 燐 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 3883 oar yainita
オア燐 ヤイニタ
全く 自ら我慢する
我慢することが
- 3884 eaikap be
エアイカ燐 ベ
できない もの
全く出来ない
- 3885 nei kotom no
ネイ コト燐 ノ
(繫辞類) ようである (接続)
ようであり、
- 3886 i-hekota wa
イ・ヘコタ ワ
我・向かって (起点)
我の方へ
- 3887 shinu shinu
シヌ シヌ
膝行する 膝行する
這いよってきた。
- 3888 chish turanno
チ燕 トゥランノ
泣く とともに
そして、泣きながら、

- 3889 yuppo ari
コ織ボ アリ
兄 (引用)
兄よ、と
- 3890 itak kane
イタ燵 カネ
言う (程度)
言い、
- 3891 oribak tura
オリバ燵 トウラ
畏まる ともに
畏まりながら、
- 3892 a-chinki kese
ア・チンキ ケセ
我・着物の裾 末端
我の裾の端を
- 3893 oukoraipa
オウコライバ
掴む
つかんだ。
- 3894 a-santekka ta
ア・サンテ燵カ タ
我・前腕の上 (場所)
そして、我の腕や
- 3895 a-sankokkasaba
ア・サンコ燵カサバ
我・膝頭
膝頭を
- 3896 i-koruiruye
イ・コルイルイェ
我・撫でる
撫でさすった。
- 3897 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である (条件)
すると、
- 3898 an-erampo
アネラ管ボ
我・心
我は歓喜
- 3899 bashkosampa
バ燵コサ管バ
さっと走る
した。
- 3900 tureshpo ari
トゥレ燵ボ アリ
妹 (引用)
妹よ、と言い、
- 3901 sambe ari
サ管ベ アリ
心臓 (引用)
心臓よ、と
- 3902 itak-an kane
イタ燵・アン カネ
言う・我 (程度)
我は言いながら、
- 3903 kimuikashike
キムイカシケ
頭上
妹の頭上へ
- 3904 a-kotekturi
ア・コテ燵トゥリ
我・手を伸ばす
手を伸ばし、
- 3905 a-shikoruye
ア・シコルイェ
我・抱き寄せる
抱きしめた。
- 3906 tap shisam un
タ燵 シサ管 ウン
これ 自分の側 (方向)
そして、側で
- 3907 a-nukar be
ア・ヌカ燵 ベ
我・見る もの
妹を見たところ、
- 3908 mashkin
マ燵キン
ますます
ますます、
- 3909 riwak kamui
リワ燵 カムイ
帰る 神
帰天する神のように、
- 3910 ene wa boka
エネ ワ ボカ
このように (接続) さえ
どのように
- 3911 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる こと も
賞賛することも
- 3912 isam
イサ管
無い
出来ないほど美しい。
- 3913 tu pirika itak
トゥ ビリカ イタ燵
二つの よい 言う
二つの良い言葉、
- 3914 re pirika itak
レ ビリカ イタ燵
三つの よい 言う
三つの良い言葉を
- 3915 a-koturikar chiki
ア・コトゥリカ燵 チキ
我・伸ばす (条件)
我がかげると、
- 3916 eashka
エア燵カ
ほんとうに
まさしく、
- 3917 nubetne ruwe
ヌベ燵ネ ルウェ
喜ぶ 様子
妹が喜ぶ様子が
- p. 60*
- 3918 a-noeraman kane
ア・ノエラマン カネ
我・よくわかる (程度)
我にもよく分かった。
- 3919 uwekap-an
ウウェカ燵・アン
挨拶する・我
我らは挨拶を
- 3920 okere chiki
オケレ チキ
(終了) (条件)
済ませて、
- 3921 a-kor unarbe
ア・コ燵 ウナ燵ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は、
- 3922 shino
シノ
まことに
まことに、
- 3923 nubetne tura
ヌベ燵ネ トウラ
喜ぶ ともに
喜びながら、
- 3924 ene itak i
エネ イタキ イ
このように 言う こと
次のように言った。
- 3925 hokure hokure
ホクレ ホクレ
早く 早く
「さあ早く、
- 3926 a-matnepo
ア・マ燵ネボ
我・娘
妾の娘よ、
- 3927 pon e-kor yubi
ボン エ・コ燵 ユビ
小さい 汝・持つ 兄
年少の兄の
- 3928 baro oshuke yan
バロ オシュケ ヤン
口 炊事する (命令)
食事の用意をなさい。
- 3929 ibe-an chiki
イベ・アン チキ
食事する・我 (条件)
妾らが食事を済ませたら、
- 3930 orotunashno
オロトゥナ燵ノ
一刻も早く
一刻も早く、
- 3931 tomisambechi
トミサ管ベチ
(地名)
トミサンパチ、
- 3932 shinutapka un
シヌタ燵カ ウン
(地名) (方向)
シヌタプカへ
- 3933 utura wa baye
ウトウラ ワ バイェ
いっしょに (接続) 行く
一緒に行き
- 3934 kunak ramu yan
クナ燵 ラム ヤン
(引用) 思う (命令)
ますよ。
- 3935 ramma tashi
ラ管マ タシ
いつも (強調)
これからは、
- 3936 ubaroshuke kuni p
ウバロシュケ クニ 燵
互いに煮炊きをする するべき もの
汝らと共に
- 3937 echi-ne ruwe ne
エチ・ネ ルウェ ネ
汝ら・である 様子 (繫辞類)
暮らすのです。
- 3938 tam be kusu
タ管 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで
- 3939 tane
タネ
今
今、
- 3940 echi-unukar i ta
エチ・ウヌカ燵 イ タ
汝ら・再会する とき (場所)
汝らが出会ったときに、
- 3941 nani
ナニ
すぐに
すぐに、

- 3942 echi-utara wa
エチ・ウトウラ ワ
汝ら・共になる (接続)
汝らが一緒に
- 3943 echi-yap yakka
エチ・ヤ瀧 ヤ燐力
汝ら・上陸する (譲歩)
上陸しても、
- 3944 pirika ruwe ne
ピリカ ルウェ ネ
よい 様子 (繫辞類)
問題ありません。
- 3945 a-karku tono hene
ア・カ燐ク トノ ヘネ
我・甥 殿 も
妾の甥も、
- 3946 konep moshiri
コネ瀧 モシリ
何 国土
如何なる国土、
- 3947 konep kotani
コネ瀧 コタニ
何 村
如何なる村へ
- 3948 a-eshinoshbare
ア・エシノ燐バレ
追われる
追いかけてきた
- 3949 ruwe ne ya
ルウェ ネ ヤ
様子 (繫辞類) (疑問)
のか、
- 3950 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燐
我・人々 人々
親族の人々も
- 3951 arobittano
アロピ燐タノ
すべて
一人残らず、
- 3952 shino
シノ
まことに
まことに
- 3953 nisomap kor
ニソマ瀧 コ燐
心配する (同時)
心配して
- 3954 okai nankor
オカイ ナンコ燐
ある だろう
いるでしょう。
- 3955 usa
ウサ
(譲歩)
妾が
- 3956 a-enisomap be
ア・エニソマ瀧 ベ
我・心配する もの
心配している者
- 3957 ne yakka
ネ ヤ燐力
(繫辞類) (譲歩)
も、
- 3958 okai yak
オカイ ヤ燐
ある (条件)
生きていますと
- 3959 a-ye awa
ア・イエ アワ
言われる (展開)
言われても、
- 3960 nekon ne
ネコン ネ
どのように (繫辞類)
どのようなである
- 3961 ruwe ta an
ルウェ タ アン
様子 これ ある
のでしょうか。
- 3962 chiseta turesh
チセタ トウレ燐
家の 妹
家の妹、
- 3963 kamui
カムイ
神
神である
- 3964 a-matkarku newa
ア・マ燐力燐ク ネワ
我・姪 と
妾の姪と
- 3965 kushnabaummat
ク燐ナパウ燐マ燐
(人名)
クシナパウンマツ、
- 3966 a-matkarku tura
ア・マ燐力燐ク トウラ
我・姪 とともに
妾の姪とが、
- 3967 naa somo
ナア ソモ
まだ (否定)
生きて
- 3968 shiknu chiki
シ燐ヌ チキ
生きている (条件)
いないのであれば、
- 3969 orotunashno
オロトウナ燐ノ
一刻も早く
一刻も早く、
- 3970 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
汝が蘇生
- 3971 e-ki kush ne na
エ・キ ク燐 ネ ナ
汝・する ように (繫辞類)
させてください。」
- 3972 ari hawash chiki
アリ ハワ燐 チキ
(引用) 言われる (条件)
伯母がこのように言うと、
- 3973 ineap kusu
イネア瀧 クス
何と (理由・目的)
何と、
- 3974 a-enubetne wa
ア・エヌベ燐ネ ワ
我・喜ぶ (接続)
私は嬉しく
- p. 61
- 3975 humash nankor a
フマ燐 ナンコラ ア
心配がする だろう か
思ふことか。
- 3976 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹に、
- 3977 ene hetap ne
エネ ヘタ瀧 ネ
このように これ (繫辞類)
このように、
- 3978 a-ramu humi
ア・ラム フミ
我・思う 気配
我は想いを寄せ、
- 3979 a-oshiknuka
ア・オシ燐ヌカ
我・愛する
恋慕の情を抱いた
- 3980 humi okai be
フミ オカイ ベ
気配 ある もの
のだ。
- 3981 ekoobi
エコオビ
別れる
その者と離れて、
- 3982 shinen a-ne wa
シネン ア・ネ ワ
一人 我・(繫辞類) (接続)
我は一人で
- 3983 a-kor kotan un
ア・コ燐 コタン ウン
我・持つ 村 (方向)
我の村へ
- 3984 hoshihi-an wa
ホシビ・アン ワ
戻る・我 (接続)
帰り、
- 3985 shine to hene
シネ ト ヘネ
一つの 日 も
一日も
- 3986 tutko hene
トゥ燐コ ヘネ
二日 も
二日も
- 3987 somo
ソモ
(否定)
会うこと
- 3988 a-nukar chiki
ア・ヌカ燐 チキ
我・見る (条件)
なしに
- 3989 a-eboso kuni p he an
ア・エボソ クニ 瀧 ヘ アン
我・通り抜ける するべき もの (疑問) ある
過ごすのかと、
- 3990 ari yainu-an awa
アリ ヤイヌ・アン アワ
(引用) 考える・我 (展開)
我は思っていた。しかし、
- 3991 pirika kunine
ピリカ クニネ
よい ように
良い具合に、
- 3992 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母の
- 3993 irenka pirika
イレнка ピリカ
意図 よい
意向が良い
- 3994 hawe okai chiki
ハウエ オカイ チキ
声 ある (条件)
ので、

- 3995 eashka
エア燕カ
ほんとうに
まさしく、
- 3996 ramoshi wano
ラモシ ワノ
心の底 (始点)
心の底から、
- 3997 keutum oshi wano
ケウトウ營 オシ ワノ
心 底 (始点)
心底から、
- 3998 toikonubetne-an
トイコヌベ爛ネ・アン
激しく喜ぶ・我
我は嬉しく思い、
- 3999 yaikobuntek-an
ヤイコブンテ燐・アン
自ら喜ぶ・我
喜んだ。
- 4000 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹
- 4001 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燐カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (讓歩)
も、
- 4002 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
並大抵に
- 4003 enubetne kuni p
エヌベ爛ネ クニ 濺
喜ぶ するべき もの
喜ぶもの、
- 4004 eyaikobuntek kuni p
エヤイコブンテ燐 クニ 濺
喜ぶ するべき もの
歡喜するもの
- 4005 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燐ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 4006 kotom korkaiki
コト營 コ燐カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 4007 eyaisembir-
エヤイセ營燐・
自らの陰
陰で
- 4008 omina kane
オミナ カネ
笑う (程度)
笑みを浮かべている。
- 4009 itak etoko
イタク エトコ
言う 前方
妹は言葉を聞いてすぐに
- 4010 ehobuni
エホブン
起き上がる
立ち上がり、
- 4011 utut ta oman
ウトウ爛 タ オマン
火尻座 (場所) 行く
下座へ行った。
- 4012 monak pirika p
モナ燐 ビリカ 濺
そうでなくても よい もの
そうでなくても美しいのに、
- 4013 sui
スイ
再び
また、
- 4014 otu bet chir be
オトゥ ベ爛 チ燐 ベ
二つの 水 滴る もの
二つの水滴、
- 4015 ore bet chir be
オレ ベ爛 チ燐 ベ
三つの 水 滴る もの
三つの水滴を
- 4016 yaikarbare
ヤイカ燐バレ
清める
用いて、
- 4017 pirika pon shu
ピリカ ボン シュ
よい 小さい 鍋
美しい小鍋の
- 4018 komsutna wano
コ營ス爛ナ ワノ
鍋の耳 (始点)
弦をかけるところから
- 4019 obekarpare
オベカ燐バレ
水を通す
水を通した。
- 4020 oro wakka o wa
オロ ワ燐カ オ ワ
場所 水 あらしめる (接続)
そして、中に水を入れ、
- 4021 hoka tuikashi
ホカ トウイカシ
炉 上
火に
- 4022 eterkere
エテ燐ケレ
跳ねとばす
かけた。
- 4023 otu ni temkor
オトゥ ニ テ燐コ燐
二つの 木 腕で抱える
二つの抱えた木、
- 4024 ore ni temkor
オレ ニ テ營コ燐
三つの 木 腕で抱える
三つの抱えた木を
- 4025 ukaerura
ウカエルラ
積みあげて運ぶ
運び、
- 4026 shu chorbok
シュ チョ燐ボ燐
鍋 下
鍋の下で
- 4027 eush eush
エウ燕 エウ燕
顔を付ける 顔を付ける
立ち回って
- 4028 abe are
アベ アレ
火 置く
火を燃やした。
- 4029 taban pon shu bop
タバン ボン シュ ボ濺
この 小さい 鍋 煮立つ
鍋が煮え、
- 4030 birkan
ビ燐カン
良く
よく
- 4031 hokushitara
ホクシタラ
沸き返る
煮立った。
- p. 62
- 4032 umso birkep
ウ營ソ ビ燐ケ濺
貯えられた 脱穀された穀物
妹は精白した穀物を
- 4033 shu onna wa
シュ オンナ ワ
鍋 中 (起点)
鍋の中へ
- 4034 echobopo
エチヨボボ
注ぎ入れる
注ぎ入れた。
- 4035 shu ya ta
シュ ヤ タ
鍋 陸 (場所)
鍋から離れて、
- 4036 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は、
- 4037 baniki tui ka
バニキ トウイ カ
(不明) 切れる も
淀み
- 4038 somo ki no
ソモ キ ノ
(否定) する (接続)
なく、
- 4039 hushkotoi wano
フ燐コトイ ワノ
以前 から
昔のことから、
- 4040 shukup tuika ta
シュク濺 トウイカ タ
成長する 上 (場所)
成長した身の上を、
- 4041 ene ene
エネ エネ
このように このように
そのように、
- 4042 usa orushbe
ウサ オル燐ベ
(列挙) 話
様々な話
- 4043 okai katu
オカイ カトゥ
ある かたち
があることを、
- 4044 pirika p hene
ピリカ 濺 ヘネ
よい もの も
良いことも
- 4045 wem be hene
ウェ營 ベ ヘネ
悪い もの も
悪いことも、
- 4046 arukobishki
アルコビ燐キ
共に数える
一つ残らず
- 4047 ye wa
イエ ワ
言う (接続)
我に話して

- 4048 i-nure chiki
イ・ヌレ チキ
我・聞かせる (条件)
聞かせた。そして、
- 4049 ineap kusu
イネア 瀧 クス
何と (理由・目的)
何と
- 4050 an-erayap wa
アネラヤ 瀧 ワ
我・感心する (接続)
我は感嘆し、
- 4051 a-enubetne wa
ア・エヌベ 爛ネ ワ
我・喜ぶ (接続)
嬉しく思う
- 4052 humash nankor a
フマ 燕 ナンコラ a
音がする だろう か
ことであるうか。
- 4053 a-iyehetche-
ア・イイエハ 爛チエ・
我・相槌
われは相槌を打ち
- 4054 echiu kane
エチウ カネ
打つ (程度)
ながら聞いた。
- 4055 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹は、
- 4056 ineap kusu
イネア 瀧 クス
何と (理由・目的)
何と
- 4057 shuke eashkai wa
シュケ エア 燕カイ ワ
炊事する できる (接続)
煮炊きが上手で
- 4058 ikichi nankor a
イキチ ナンコラ a
する だろう か
あることか。
- 4059 pirika meshi
ピリカ メシ
よい 飯
良い飯を
- 4060 bera kokiru
ベラ コキル
籠 荒らす
籠で混ぜた。
- 4061 ne i korachi
ネ イ コラチ
(繋辞類) こと ように
それと同時に、
- 4062 pirika meshi
ピリカ メシ
よい 飯
良い飯は
- 4063 bera tuika ta
ベラ トウイカ タ
籠 上 (場所)
籠の上で、
- 4064 mau chimimi
マウ チミミ
風 かき分ける
湯気が分かれ、
- 4065 mau samama kane
マウ サママ カネ
風 横になる (程度)
湯気がたなびいた。
- 4066 buta unu wa
ブタ ウヌ ワ
蓋 はめる (接続)
妹は蓋をして、
- 4067 rik oraipa
リ 糺 オライパ
高所 移動させる
火の上にかけて。
- 4068 ponno
ボンノ
少し
暫く
- 4069 shiran tek ko
シラン テ 燻 コ
時がたつ ちよっとする (条件)
すると、
- 4070 shu yapte
シュ ヤ 瀧 テ
鍋 上陸させる
鍋を下ろした。
- 4071 kabarbe ochike
カバ 燻ベ オチケ
薄造りの物 膳
妹は薄造りの御膳、
- 4072 kabarbe itanki
カバ 燻ベ イタンキ
薄造りの物 御椀
薄造りの御椀を
- 4073 sanasapte
サナサ 瀧 テ
取り出す
取り出し、
- 4074 uwororoshki
ウウオロシ 燕キ
重ねる
積み重ねた。
- 4075 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
高盛りの飯は、
- 4076 herashi iyoi
ヘラシ イヨイ
下へ 盛り付け
下の方へ盛ったものは
- 4077 pon kane
ボン カネ
小さい (程度)
小さく、
- 4078 herikashi iyoi
ヘリカシ イヨイ
上へ 盛り付け
上の方へ盛ったものは
- 4079 boro kane
ボロ カネ
大きい (程度)
大きくなっている。
- 4080 hoshkiruino
ホシキルイノ
先に
妹は先に、
- 4081 shikankitai-
シカンキタイ・
自らの頭の上
頭上へ
- 4082 eimekani
エイメカニ
御膳をもつ
高かかかげ、
- 4083 i-koibuni
イ・コイブニ
我・食事を出す
我に御膳を差し出した。
- 4084 a-uina wa
ア・ウイナ ワ
我・取る (接続)
我は受け取って
- 4085 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高くかざす
高くかざし、
- 4086 a-raunruke
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
低くかざし、
- 4087 a-koonkami
ア・コオンカミ
我・拝礼する
拝礼した。
- 4088 ibepo mashkin
イベポ マ 燕キン
空腹 ますます
我は空腹で
- 4089 a-ekot noine
ア・エコ 爛 ノイネ
我・死ぬ らしく
倒れそうに
- 4090 yainu-am be
ヤイヌ・ア 營 ベ
考える・我 もの
思っていた
- 4091 ne kusu
ネ クス
(繋辞類) (理由・目的)
ので、
- 4092 pirika aep
ピリカ ア 瀧
よい 食物
良い食物に
- 4093 a-basuibuni
ア・バスイェブニ
我・箸を上げる
箸を向けた。
- 4094 moire ibe
モイレ イベ
遅い 食事する
我はゆったりとした

p. 63

- 4101 a-sambe pa wa
ア・サ營ベ バ ワ
我・心臓 上手 (起点)
我は心臓の上手から、
- 4102 a-sambe kesh wa
ア・サ營ベ ケ 燕 ワ
我・心臓 末端 (起点)
心臓の下手まで
- 4103 koshituriri
コシトゥリリ
のびのびとする
伸び伸びした気持ちになった。
- 4104 eashka
エア 燕力
ほんとうに
まさしく、
- 4105 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
暫くして、
- 4106 shino
シノ
まことに
我はまことに
- 4107 sambeshhuri-an
サ營ベ 燕 トゥリ・アン
心臓が伸びる
落ち着き、
- 4108 tumashnu-an
トゥマ 燕ヌ・アン
元気になる・我
元気になった。
- 4109 a-kon ram konna
ア・コン ラ 營 コンナ
我・持つ 心 こそ
我が心は
- 4110 koyuknatara
コユクナタラ
快復する
力強くなった。
- 4111 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
食事の最中
- 4112 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤカカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
ではあるが、
- 4113 a-kor unarbe tura
ア・コ 燐 ウナ 燐ベ トウラ
我・持つ 伯母 とともに
我が伯母と共に
- 4114 uweneusar-an kane
ウエネウサ 燐・アン カネ
話しをする・我 (程度)
我は話をした。
- 4115 imek arke
イメ 燐 ア 燐ケ
御馳走 半分
我は御馳走の半分を
- 4116 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
妹に
- 4117 a-koturiri
ア・コトゥリリ
我・差し出す
差し出した。
- 4118 iki-an chiki
イキ・アン チキ
する・我 (条件)
すると、
- 4119 ikkeu noshki
イ 燐ケウ ノ 燐キ
元 真中
妹は腰の真中を
- 4120 komkosampa
コ 營 コサ 營 バ
折り曲げる
折り曲げるようにして、
- 4121 oribak tura
オリバ 燐 トウラ
畏まる とともに
畏まりながら
- 4122 uina wa
ウイナ ワ
取る (接続)
受け取り、
- 4123 rikunruke
リクンルケ
高くかざす
高くかざし、
- 4124 raunruke
ラウンルケ
低くかざす
低くかざして
- 4125 koonkami
コオンガミ
拝礼する
拝礼した。
- 4126 moire ibe
モイレ イベ
遅い 食事する
そして、ゆったりとした
- 4127 koyaikurka-
コヤイク 燐カ・
自らの上
食事を
- 4128 oma kane
オマ カネ
ある (程度)
おこなった。
- 4129 ibe ruoka
イベ ルオカ
食事する 跡
食事は
- 4130 chiobashbare
チオバ 燐バレ
終了する
終了した。
- 4131 tap orowa
タ 燐 オロワ
夕 燐 オロワ
これ (始点)
それから、
- 4132 tane
タネ
今
今や
- 4133 yap-an kuni
ヤ 燐・アン クニ
上陸する・我 するべき
上陸しようと
- 4134 a-ye kane
ア・イエ カネ
我・言う (程度)
我は言った。
- 4135 usa okai be
ウサ オカイ ベ
(列挙) ある もの
様々なことに
- 4136 an-eramushinne i ta
アネラムシンネ イ タ
我・安心する とき (場所)
我が安心したときに、
- 4137 orotunashno
オロトゥナ 燐ノ
一刻も早く
一刻も早く、
- 4138 a-kor unarbe
ア・コ 燐 ウナ 燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母が
- 4139 chihotanukar
チホタヌカ 燐
訪ねる
訪問して
- 4140 a-ekarkar kuni
ア・エカ 燐カ 燐 クニ
される するべき
くれるようにと、
- 4141 a-ekoitaknuye kane
ア・エコイタ 燐ヌイエ カネ
我・遺言する (程度)
我は言い残した。
- 4142 a-kor unarbe
ア・コ 燐 ウナ 燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母
- 4143 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤカカ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 4144 tu pirika kuni p
トゥ ビリカ クニ 燐
二つの よい するべき もの
二つの良いこと、
- 4145 re pirika kuni p
レ ビリカ クニ 燐
三つの よい するべき もの
三つの良いことを
- 4146 i-ebakashnu kane
イ・エバカ 燐ヌ カネ
我・教える (程度)
我に教えた。
- 4147 uwekoppa-an
ウエコ 燐バ・アン
別れる・我ら
我らは別れた。

第4章 帰還

4.1 巫術

- 4148 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は、
- 4149 i-seturkashi
イ・セトゥクアシ
我・背中
私の背中の上に
- 4150 yairarire
ヤイラリレ
いる
寄り添った。
- 4151 soyumpa-an ko
ソユンパ・アン コ
外に出る・我ら (条件)
我らは外に出ると、
- 4152 a-kor unarbe
ア・コラウナ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 4153 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繫辞類) (接続)
我ら二人の
- 4154 i-kurkashike
イ・クルクアシケ
我・上
方へ
- 4155 shikomare
シコマレ
見つめる
目を向け、
- p. 64*
- 4156 kosanchakata-
コサンチャカタ・
口元で
口元に
- 4157 mina kane
ミナ カネ
笑う (程度)
笑みを浮かべた。
- 4158 soiwasamwa
ソイワサマワ
家の外へ
我らは
- 4159 a-oshairaipa
ア・オシライパ
我ら・移動する
外へ出て、
- 4160 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外にある櫓、
- 4161 yakura ka wa
ヤクラ カ ワ
櫓 上 (起点)
その櫓の上から
- 4162 kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
天空へ
- 4163 a-kohobumpa kor
ア・コホブumpa コ
我・飛び上がる (同時)
飛び上がった。すると、
- 4164 kanantano kane
カナントノ カネ
変に (程度)
なんとなく妙に、
- 4165 a-hemshiksama
ア・ヘムシクサマ
我・目の側
私の目の側に
- 4166 chiikurure
チイクルレ
届く
寄って来るものがある。
- 4167 tam be kusu
タム ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 4168 kamui ekaichish
カムイ エカイチシ
神 頂上の平らな岩山
神の如き頭の折れた岩山の
- 4169 oushke ta
オウシケ タ
根元 (場所)
麓で、
- 4170 seenne ka sui
セエンネ カ スイ
(否定) (不明) (不明)
よもや
- 4171 shiriki kuni
シリキ クニ
そのような有様である するべき
そのようなことがあるとは
- 4172 a-ramu rok i
ア・ラム ロク イ
我・思う (完了) こと
思わなかったが、
- 4173 konepkeukata
コネケウカタ
何ということか
何ということか、
- 4174 konepkashita
コネカシタ
何としたことか
何としたことか。
- 4175 kushnabaunkuru
クシナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 4176 pon a-kor yubi
ポン ア・コラ ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄がおり、
- 4177 kurkashike
クルクアシケ
表面
その表面には
- 4178 wen kem urar
ウェン ケム ウラ
悪い 血 霧
ひどい血の霧がある。
- 4179 koekomomse
コエコモムセ
息を詰まらせる
苦しい息をしており、
- 4180 kashike un
カシケ ウン
上 (方向)
その上に、
- 4181 mi kosonte
ミ コソント
着る 小袖
着ている小袖も
- 4182 betetke shiri
ベテケ シリ
破れる 様子
破れ、
- 4183 chiyashpa shiri
チヤシパ シリ
裂かれる 様子
裂けており、
- 4184 eorabiprabip kane
エオラビラビラカネ
幾重にも垂れ下がる (程度)
垂れ下がっている。
- 4185 ekaichish turashi
エカイチシ トウラシ
頂上の平らな岩山 沿って
そして、岩山に沿って
- 4186 hemesu
ヘメス
登る
登ろう
- 4187 kusu ne ko
クス ネ コ
ように (繫辞類) (条件)
とすると、
- 4188 ekaichish tapka wa
エカイチシ タпка ワ
頂上の平らな岩山 頂き (起点)
岩山の頂きから
- 4189 yupke kamui mau
ユプケ カムイ マウ
強い 神 風
激しい神風が
- 4190 chiranaranke ko
チラナランケ コ
降りてくる (条件)
吹き降りてくる。そして、
- 4191 ne i korachi
ネ イ コラチ
(繫辞類) こと ように
それと同時に、
- 4192 ekaichish hontom
エカイチシ ホントム
頂上の平らな岩山 途中
岩山の中腹は
- 4193 koshirkokaptek ranke
コシクカカテランケ
地表が窪む (回復)
何度も窪んだようになる。
- 4194 oika
オイカ
越える
それ越えて、
- 4195 kamui chiranaranke
カムイ チラナランケ
神 降りてくる
神々が降りて来る。
- 4196 makanneko
マカンネコ
あるときには
あるときには、

- 4197 kamui mau etok
カムイ マウ エト燻
神 風 前方
兄は神風の先で
- 4198 echararse
エチャラ燻セ
滑り落ちる
滑り、
- 4199 ekaichish chorbok
エカイチ燕 チョ燻が燻
頂上の平らな岩山 下
岩山の下に
- 4200 chieshitaiki ranke
チエシタイキ ランケ
打ちつけられる (反復)
叩きつけられている。
- 4201 ene okai be
エネ オカイ ベ
このように ある もの
このような者が、
- 4202 koneike tapne
コネイケ タ湍ネ
どこ これである
一体どこに
- 4203 sambe kor kusu
サ燻ベ コ燻 クス
心臓 持つ (理由・目的)
心臓があるというのか。
- 4204 naa tasano
ナア タサノ
まだ 交替して
兄はまだ再び、
- 4205 matkosampa
マ燻コサ燻バ
跳び起きる
跳ね起きた。
- 4206 sui hemesu
スイ ヘメス
再び 登る
そして、再び登り、
- 4207 reye reye
レイエ レイエ
這う 這う
這っている。
- 4208 ibot tum konna
イボ燻 トウ燻 konna
顔色 中 コンナ
その顔色は
- 4209 koshumnatarā
コシュ燻ナタラ
萎れている
衰れており、
- 4210 konubopbeta-
コヌボ燻ベタ・
汗で
汗で
- 4211 rikan kane
リカン カネ
湿っている (程度)
湿っている。
- 4212 inkan ne wa
インカン ネ ワ
見る (繫辞類) (接続)
我は見ただけ
- 4213 a-ki p ne koroka
ア・キ 湍 ネ コロカ
我・する もの (繫辞類) (逆接)
ではあるが、
- 4214 inunukashiki
イヌヌカシキ
可哀想に
憐れに思った。
- 4215 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄の
- 4216 tumsak shiri
トゥ燻サ燻 シリ
元気がない 様子
力の無い様子、
- 4217 nikap shiri
ニカ燻 シリ
苦しむ 様子
苦しむ様子、
- 4218 i-oshi ek humi
イ・オシ エ燻 フミ
我・後から 来る 音
我の後から来る音を
- 4219 a-nu a koroka
ア・ヌ ア コロカ
我・聞く (完了) (逆接)
聞いていたのだが、
- 4220 tumunchi kinra
トゥムンチ キンラ
戦争 狂気
戦いの狂気、
- p. 65
- 4221 rorumbe kinra
ロル燻ベ キンラ
戦闘 狂気
戦闘の狂気に
- 4222 eyaitushtekka p
エヤイトウ燻テ燻カ 湍
沈黙する もの
とらわれていたもの
- 4223 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4224 oar oar
オア燻 オア燻
全く 全く
全く
- 4225 a-oirā awan ko
ア・オイラ アワン コ
我・忘れる (判明) (条件)
忘れていた。そして、
- 4226 orsetakko
オ燻セタ燻コ
長い間
長い間、
- 4227 tane bakno
タネ バ燻ノ
今 まで
今まで、
- 4228 tam be neino
タ燻 ベ ネイノ
この もの ように
このように、
- 4229 ouse
オウセ
ただ
ただ
- 4230 yayeramushitne
ヤイエラムシ燻ネ
心を悩ませる
悩むこと、
- 4231 yaishinkire takubi
ヤイシンキレ タクビ
疲れる だけ
疲労することのみを
- 4232 kipa shiri
キパ シリ
する 様子
していた様子を
- 4233 a-nukar chiki
ア・ヌカ燻 チキ
我・見る (条件)
我は見て、
- 4234 eashka
エア燻カ
ほんとうに
まさしく、
- 4235 a-eramuhayaise
ア・エラムハヤイセ
我・心が急ぐ
我は焦りを覚えた。
- 4236 shinen ne batek
シネン ネ バテ燻
一人 (繫辞類) のみ
我は一人だけ
- 4237 pirika ibe
ピリカ イベ
よい 食事する
良い食事を
- 4238 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する (接続)
して、
- 4239 tumashnu-an
トゥマ燻ヌ・アン
元気になる・我
元気に
- 4240 humi an ko
フミ アン コ
気配 ある (条件)
なった。しかし、
- 4241 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に
- 4242 katkor shiri
カ燻コ燻 シリ
振舞う 様子
このような事態が
- 4243 a-nukar chiki
ア・ヌカ燻 チキ
我・見る (条件)
あったのを見て、
- 4244 rametok rak be
ラメト燻 ラ燻 ベ
勇者 未裔 もの
我は勇者の端くれ、
- 4245 utarpa rak be
ウタ燻バ ラ燻 ベ
首領 未裔 もの
頭領の端くれ
- 4246 a-ne a koroka
ア・ネ ア コロカ
我・(繫辞類) (完了) (逆接)
であるが、
- 4247 sui hese buira
スイ ヘセ ブイラ
再び 息をする 孔
再び息をする穴も
- 4248 a-i-koseshke
ア・イ・コセ燻ケ
我・塞がれる
塞がれたようになった。
- 4249 a-shikshutkashi
ア・シ燻シュ燻カシ
我・目の端の上
我の目の端に

- 4250 ekobuyuise kane
エコブユイセ カネ
湿る (程度)
涙が浮かんだ。
- 4251 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹も、
- 4252 inkan rok be
インカン ロ燻 ベ
見る (完了) もの
それを見て、
- 4253 eashka
エア燻カ
ほんとうに
まさしく
- 4254 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
驚き慌て、
- 4255 inkan ruwe konna
インカン ルウェ コンナ
見る 様子こそ
目を見開いて
- 4256 chainatara
チャイナタラ
目を見開いている
いる。
- 4257 shisak nubur mat
シサ燻 ヌブ燻 マ燻
またとない 濃い 女
比類な霊能力を持つ女性
- 4258 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4259 tunash ram ka ta
トゥナ燻 ラ燻 カ タ
早い 心 上 (場所)
早々と心の中で、
- 4260 nep ne yakka
ネ燻 ネ ヤ燻カ
何 (繫辞類) (譲歩)
如何なることも、
- 4261 ikkewehe
イ燻ケウエヘ
理由
その原因を
- 4262 noeraman
ノエラマン
よく理解する
理解した
- 4263 kotom no
コト燻 ノ
ようである (接続)
ようであり、
- 4264 kamui nishka wa
カムイ ニ燻カ ワ
神 上空 (起点)
天空から
- 4265 sanchar kashi
サンチャ燻 カシ
口先 上
その口先が
- 4266 koshiunatara
コシウナタラ
うなる
響いた。
- 4267 ne i korachi
ネ イ コラチ
(繫辞類) こと ように
それと同時に、
- 4268 taban husha
タバン フ燻サ
この 息吹き
抜い声が
- 4269 yupke
ユ燻ケ
強い
激しい
- 4270 kamui mau ne
カムイ マウ ネ
神 風 (繫辞類)
神風となつて
- 4271 ran hum konna
ラン フ燻 コンナ
下がる 音こそ
降りて来る音が
- 4272 humumatki
フムマ燻キ
音が鳴る
鳴った。
- 4273 husha etok
フ燻サ エト燻
息吹き 前方
抜い声の先で、
- 4274 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は
- 4275 eshikarimpa
エシカリ燻バ
回る
転がり回った。
- 4276 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
暫くすると、
- 4277 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は、
- 4278 neoro tapne
ネオロ タ燻ネ
どこ これである
どこに
- 4279 biro rok wa
ビロ ロ燻 ワ
傷がつく (完了) (接続)
傷があるのか。
- 4280 teeta kam ka
テエタ カ燻 カ
以前 肉 も
以前あった肉も
- 4281 iyeunu
イイエウヌ
つく
元通りであり、
- 4282 shibopke ot ta
シボ燻ケ オ燻 タ
着る物 所 (場所)
装束も、
- 4283 imi ot ta
イミ オ燻 タ
着物 所 (場所)
着る物も、
- 4284 ashir ikin ne
アシ燻 イキン ネ
新しい 列 (繫辞類)
新しく
- 4285 a-kokarkar
ア・コカ燻カ燻
される
なっている。
- 4286 ekaichish chorbok
エカイチ燻 チョ燻ボク
頂上の平らな岩山 下
兄は岩山の下に
- 4287 chieashi
チエアシ
立つ
立った。
- 4288 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
驚き慌て、
- 4289 iyoyamokte rui be
イヨヤモ燻テ ルイ ベ
不思議に思う 激しい もの
不審に思うもの
- p. 66
- 4290 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4291 ekeshne
エケ燻ネ
あちらこちら
周囲を
- 4292 shikkankari
シ燻カンカリ
見回す
見回し、
- 4293 yaitumkashi-
ヤイトウ燻カシ・
自らの身体の上
みずからの身体を
- 4294 uwambare kane
ウワ燻バレ カネ
見て調べる (程度)
調べている。
- 4295 inkan ne wa
インカン ネ ワ
見る (繫辞類) (接続)
我は見ただけ
- 4296 a-ki p ne koroka
ア・キ 瀧 ネ コロカ
我・する もの (繫辞類) (逆接)
ではあるが、
- 4297 sonno hetap ne
ソンノ ヘタ燻 ネ
真に これ (繫辞類)
まことに驚いた。
- 4298 pon matkachi
ボン マ燻カチ
小さい 少女
幼い少女
- 4299 neino a-ramu p
ネイノ ア・ラム 瀧
ように 我・思う もの
のように思っていた
- 4300 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ燻マ燻
(人名)
ニソルンサンタウンマツ、
- 4301 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は、
- 4302 ituren hetap
イトウレン ヘタ燻
憑き神 これ
憑き神のためか、

- 4303 konep tap teta
コネ瀧 タ瀧 テタ
何 これ ここで
驚くべきことを
- 4304 kipa shiri
キバ シリ
する 様子
する様子
- 4305 okai chiki
オカイ チキ
ある (条件)
である。そこで、
- 4306 eashka
エア燕力
ほんとうに
まさしく、
- 4307 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ營
驚く 心
我は驚きの気持ちを
- 4308 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 4309 a-sancha ot ta
ア・サンチャ オ爛 タ
我・口元 所 (場所)
我は口元で
- 4310 mina-an kane
ミナ・アン カネ
笑う・我 (程度)
笑みを浮かべた。
- 4311 kamui nishka wa
カムイ ニ燕力 ワ
神 上空 (起点)
天空から
- 4312 a-kutsamkonna
ア・ク爛サ營コナ
我・喉元
私の喉元が
- 4313 uwetunuisse
ウウェトウスイセ
美しく響く
響き、
- 4314 itak hawe
イタ燐 ハウェ
言う 声
言うことは
- 4315 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
次のようであった。
- 4316 koninkar kusu
コニンカ燐 クス
さて (理由・目的)
「さてさて、
- 4317 kushnabaunkuru
クシナパウンクル
(人名)
クシナパウンクル、
- 4318 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄、
- 4319 itak-an chiki
イタ燐・アン チキ
言う・我 (条件)
話すから
- 4320 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く (命令)
よく聞きなさい。
- 4321 tapne tapne
タ瀧ネ タ瀧ネ
これである これである
このような次第
- 4322 ne wa
ネ ワ
(繫辞類) (接続)
で、
- 4323 anun hetap ne
アヌン ヘタ瀧 ネ
よそ者 これ (繫辞類)
余所者にでも
- 4324 chiramkoikipa
チラ營コイキパ
心を悩ます
悩み苦しめ
- 4325 i-y-ekarkar
イ・イエカ燐カ燐
我・する
られた
- 4326 shiri ne kuni
シリ ネ クニ
様子 (繫辞類) するべき
のだと
- 4327 a-ramu rokwa
ア・ラム ロ燐ワ
我・思う (展開)
思っていたが、
- 4328 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 4329 tapne tapne
タ瀧ネ タ瀧ネ
これである これである
このように、
- 4330 ukoshinritkor be
ウコシンリ燐コ燐 ベ
共に先祖を持つ もの
我らは先祖を共有するもの
- 4331 a-ne i hene
ア・ネ イ ヘネ
我・(繫辞類) こと も
であることも、
- 4332 arobitano
アロビ燐タノ
すべて
一つ残らず、
- 4333 a-eraman ruwe ne
ア・エラマン ルウェ ネ
我・知る 様子 (繫辞類)
理解した。
- 4334 tane
タネ
今
今、
- 4335 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
汝を蘇生
- 4336 e-karkar be anakne
エ・カ燐カ燐 ベ アナ燐ネ
汝・する もの は
させた者は
- 4337 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ營マ燐
(人名)
ニソルンサンタウンマッ、
- 4338 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹
- 4339 ne ruwe ne
ネ ルウェ ネ
(繫辞類) 様子 (繫辞類)
なのだ。
- 4340 tane tunashno
タネ トウナ燕ノ
今 早く
今は早く、
- 4341 tomisambechi
トミサ營ベチ
(地名)
トミサンベチ、
- 4342 shinutapka un
シヌタ瀧カ ウン
(地名) (方向)
シヌタプカへ、
- 4343 nisomap kuni p
ニソマ瀧 クニ 瀧
心配する するべき もの
我は心配するもの
- 4344 a-ne p ne kusu
ア・ネ 瀧 ネ クス
我・(繫辞類) もの (繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4345 chikimattekka-an wa
チキマ燐テ燐カ・アン ワ
慌てる・我 (接続)
急いで
- 4346 yap-an shiri
ヤ瀧・アン シリ
上陸する・我 様子
上陸する
- 4347 tap an na
タ瀧 アン ナ
これ ある ぞ
のだ。
- 4348 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄、
- 4349 eani anakne
エアニ アナ燐ネ
汝 は
汝は
- 4350 tan tewano
タン テワノ
この これから
これから
- 4351 earmatkino
エア燐マ燐キノ
真直ぐに
まっすぐに、
- 4352 e-kor kotan un
エ・コ燐 コタン ウン
汝・持つ 村 (方向)
汝の村へ
- 4353 e-hoshihi yakka
エ・ホシヒ ヤ燐カ
汝・帰る (譲歩)
帰っても
- 4354 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 様子
よい

- 4356 okake ta sui
オカケ タ スイ
あと (場所) 再び
その後でまた、
- 4357 ashiri ikiri ne
アシリ イキン ネ
新しい 列 (繋辞類)
新たに、
- 4358 tomisambechi
トミサ警ベチ
(地名)
トミサンペチ、
- 4359 shinutapka ta
シヌタ瀧カ タ
(地名) (場所)
シヌタブカで
- 4360 pon tonotopo
ボン トノトポ
小さい 酒
僅かな酒を
- 4361 a-kar kusu ne
ア・カ燻 クス ネ
我・作る (理由・目的) (繋辞類)
醸そうではないか。
- 4362 nei ta anakne
ネイ タ アナ燻ネ
何処 (場所) は
どこかで、
- 4363 sui a-obittano
スイ ア・オビ燻タノ
再び 我ら・全て
また我らは皆、
- 4364 unukar kuni p
ウヌカ燻 クニ 瀧
会見 するべき もの
再会するもの
- 4365 a-ne
ア・ネ
我・(繋辞類)
である
- 4366 ruwe tab an
ルウェ タバン アン
様子 これ ある
のだ。」
- 4367 ari itak-an awa
アリ イタ燻・アン アワ
(引用) 言う・我 (展開)
我がこのように言うと、
- 4368 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄は、
- 4369 kannaruino
カンナルイノ
再びまた
再び、
- 4370 shino
シノ
まことに
まことに
- 4371 homatu rui be
ホマトウ ルイ ベ
驚く 激しい もの
驚き慌て、
- 4372 kamui nishka un
カムイ ニスカ ウン
神 上空 (方向)
天空へ、
- 4373 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・(繋辞類) (接続)
我ら二人に
- 4374 i-kohebuni
イ・コヘブニ
我・頭を上げる
顔を向けた。
- 4375 ouse
オウセ
ただ
ただ、
- 4376 a-urari batek
ア・ウラリ バテ燻
我・露 のみ
我らの露ばかりを
- 4377 wen nukar
ウェン ヌカ燻
悪い 見る
よく見ている
- 4378 kotom no
コト管 ノ
ようである (接続)
ように
- 4379 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われた。
- 4380 kamui nishka
カムイ ニスカ
神 上空
兄は天空へ
- 4381 korikoshma
コリコ燻マ
飛び上がる
飛び上がった。
- 4382 nei kotboki
ネイ コ燻ボキ
(繋辞類) 前
その直前に
- 4383 a-eshikirpa
ア・エシキ燻パ
我ら・振り向く
我らは向きを変え、
- 4384 bash kamui mau
バ燻 カムイ マウ
走る 神 風
疾走する神風、
- 4385 kamui mau etok^{*35}
カムイ マウ エト燻
神 風 前方
その神風の先に
- 4386 a-i-y-ekoshne-
ア・イ・イエコ燻ネ・
我・軽々と
我らは軽々と
- 4387 bumpa kane
ブ管バ カネ
上げられる (程度)
持ち上げられた。
- 4388 an-ekisarshut-
アネキサ燻シユ燻・
我・耳の先
我らの耳元で
- 4389 komaukururu
コマウクルル
風が渦巻く
風が鳴った。
- 4390 yap-an humi
ヤ瀧・アン フミ
上陸する・我 音
我らが上陸する音が
- 4391 keurototke
ケウロト燻ケ
響く
鳴り響いた。
- 4392 yap-an aine
ヤ瀧・アン アイネ
上陸する・我 (接続)
我らは上陸して、
- 4393 tane anakne
タネ アナ燻ネ
今 は
今は、
- 4394 yaunmoshiri
ヤウンモシリ
内陸の土地
ヤウンモシリが
- 4395 i-koyairikikta-
イ・コヤイリキ燻タ・
我・高く
我らに対して
- 4396 bumpa kane
ブ管バ カネ
上げる (程度)
高まってきた。
- 4397 i-oshi wa
イ・オシ ワ
我・後から (起点)
我らの後から、
- 4398 kushnabaunkuru
ク燻ナバウンクル
(人名)
クシナバウンクル、
- 4399 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燻 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄が
- 4400 ek hum konna
エ燻 フ管 コンナ
来る 音 こそ
やって来る音が
- 4401 keurototke aine
ケウロト燻ケ アイネ
響く (接続)
響き、
- 4402 toop
トオ瀧
ずっと遠く
ずっと、
- 4403 kushnaba kotan
ク燻ナバ コタン
(地名) 村
クシナバの村、
- 4404 kotan tapkashi
コタン タ燻カシ
村 頂き
その村の上で
- 4405 kohumterkere
コフ管テ燻ケレ
音を走らせる
音を鳴らした。

4.2 悪戯

*35 etok の前に m と書かれているが線で抹消されている。

- 4406 hum okake
フ營 オカケ
音 後
その音の後で、
- 4407 chakkosanu
チャ燭コサヌ
静まり返る
周囲は静かになった。
- 4408 inkar-an ko
インカ燭・アン コ
見る・我 (条件)
我が見ると、
- 4409 an-ewak shiror
アネワ燭 シロ燭
我・住む 場所
我が住まいの
- 4410 kamui ekaichish
カムイ エカイチ燭
神 頂上の平らな岩山
神の如き頭の折れた岩山が
- 4411 kamui nishka
カムイ ニ燭カ
神 上空
天空へ、
- 4412 kotaprikikur-
コタ瀧リキク燭・
頂きを高く
その頂きを
- 4413 bumpa kane
ブ營バ カネ
上げる (程度)
伸ばしている。
- 4414 noshki bakno
ノ燭キ バ燭ノ
真中 まで
その中腹まで、
- 4415 kunne urar
クンネ ウラ燭
黒い 霧
黒い霧、
- 4416 buyatek urar
ブヤテ燭 ウラ燭
もやもやとする 霧
濃い霧が
- 4417 chikonoipa kane
チコノイバ カネ
たなびく (程度)
たなびいている。
- 4418 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹は、
- 4419 i-seturkashi
イ・セトウ燭カシ
我・背中
私の背の上に
- 4420 yairarire
ヤイラリレ
いる
寄り添っている。
- 4421 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- p. 68
- 4422 tane anakne
タネ アナ燭ネ
今 は
今は
- 4423 shiyantokesh
シヤントケ燭
真昼
真昼を
- 4424 oman kane
オマン カネ
行く (程度)
過ぎて、
- 4425 an-ewak^{*36} shiror
アネワ燭 シロ燭
我・住む 場所
我が住まいの
- 4426 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 檜
外にある檜、
- 4427 yakura kurka
ヤクラ ク燭カ
檜 上
その檜の上に
- 4428 an-i-y-erapte
アニ・イエラ燭テ
我ら・降ろされる
我らは降ろされた。
- 4429 tanebo konna
タネボ コンナ
今こそ
今こそは、
- 4430 an-ewak shiroro
アネワ燭 シロ口
我・住む 場所
我が住まいの
- 4431 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
周囲を、
- 4432 tokap ushi ta
トカ燭 ウシ タ
昼 ところ (場所)
明るいときに、
- 4433 beket to ot ta
ベケ燭 ト オ燭 タ
明るい 日 所 (場所)
昼の間に
- 4434 a-nukar
ア・ヌカ燭
我・見る
我は見た。
- 4435 ineap kusu
イネア燭 クス
何と (理由・目的)
何と、
- 4436 usa huinake
ウサ フイナケ
(列挙) 隅々
どこもかしこも
- 4437 a-tomte kashpa wa
ア・ト營テ カ燭バ ワ
輝いている 甚だしい (接続)
ひどく輝いて
- 4438 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう か
いることであろうか。
- 4439 tam boro chise
タ營 ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の
- 4440 rikun kibibi
リクン キビビ
上にある 段
上の段葺き屋根、
- 4441 ranke kibibi
ランケ キビビ
下ろす 段
下の段葺き屋根は
- 4442 sep birankani
セ瀧 ビランカニ
幅広い 平金
幅広いの平金で
- 4443 chiekarpare
チエカ燭バシ
巻かれる
取り巻かれている。
- 4444 birankani kurka
ビランカニ ク燭カ
平金 上
平金の表面には、
- 4445 ubush ne etor
ウブ燭 ネ エト燭
群 (繫辞類)
連なった木鈴、
- 4446 ubush ne tumshi
ウブ燭 ネ トウ營シ
群 (繫辞類)
連なった木房が
- 4447 chiekotpakar
チエコ燭バカ燭
付き垂れている
付いている。
- 4448 eton rek hawe
エトン レ燭 ハウエ
木鈴 鳴る 声
木鈴が鳴る音は
- 4449 mat kan hau ne
マ燭 カン ハウ ネ
女 上 声 (繫辞類)
奥方の声のように
- 4450 ronroratki
ロンロラ燭キ
色々な音が入り交じる
美しく響く。
- 4451 tumshi rek hawe
トウ營シ レ燭 ハウエ
鎖環 鳴る 声
木房が鳴る音は
- 4452 hoku kan hau ne
ホク カン ハウ ネ
夫 上 声 (繫辞類)
主人の声のように
- 4453 bebunitara
ベブニタラ
騒がしい
響く。
- 4454 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 4455 a-uweshuye
ア・ウエシユエイ
我・共に揺らす
好ましく思った。
- 4456 taban boro chashi
タバ ン ボロ チャシ
この 大きい 家
大きな館の

*36 anewan と書かれているが anewak と解釈する。

- 4457 tanne rashu
タンネ ラシュ
長い 柵木
長い柵木は
- 4458 kamui nishkashi
カムイ ニスカシ
神 空の上
天空へ
- 4459 koraoshmakakur-
コラオシマカクウ・
下方
振り返るように
- 4460 teshpa kane
テシパ カネ
反らせる (程度)
伸びている。
- 4461 takne rashu
タクネ ラシュ
短い 柵木
短い柵木は、
- 4462 rashu tum ta
ラシュ トウタ
柵木 中 (場所)
柵木の列の中で
- 4463 nuina kane
ヌイナ カネ
隠す (程度)
隠れている。
- 4464 tanne sakma
タンネ サクマ
長い 横木
長い横木は
- 4465 chirashkoreupa
チラシコレウバ
割木と共に曲がる
柵木にそって曲がり、
- 4466 takne sakma
タクネ サクマ
短い 横木
短い横木は
- 4467 chitoikoreupa
チトイコレウバ
曲がる
ひどく曲がっている。
- 4468 rikun opbuye
リクン オブイェ
上にある 杭の孔
柵木の上の横穴、
- 4469 ranke opbuye
ランケ オブイェ
下ろす 杭の孔
下の横穴は、
- 4470 chikappo shui ne
チカシポ シュイ ネ
小鳥 穴 (繫辞類)
鳥の巢穴となって
- 4471 chiubekare
チウベカレ
向かい合う
向かい合っている。
- 4472 opbui kar be
オブイ カル ベ
杭の孔 当たる もの
横穴に当たる風が
- 4473 koshiushiwatki
コシウシワツキ
うなる
鳴り響く。
- 4474 chashi kar be
チャシ カル ベ
チャシ 当たる もの
館に当たる風は
- 4475 kosebebatki
コセベバツキ
鳴る
ばたばたと鳴る。
- 4476 toyan kar be
トヤン カル ベ
地面 当たる もの
地面に当たる風は
- 4477 koturimimse kane
コトゥリミセ カネ
響き渡る (程度)
鳴り響く。
- 4478 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ
驚く 心
我は驚きの気持ちを
- 4479 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 4480 konep atanan ainu
コネツ アタナン アイヌ
何 ただの 人間
如何なるただの人間が
- 4481 ewak ushikehe
エワク ウシケヘ
住む ところ
住む場所であって、
- p. 69*
- 4482 ene irayapka
エネ イラヤツカ
このように 人を感じさせる
感心なことに、
- 4483 chitomte kashpa
チトツテ カシパ
輝いている 甚だしい
ひどく美しく飾られて
- 4484 ruwe ta okai
ルウェ タ オカイ
様子 (場所) ある
いるのか。
- 4485 tap eashiri
タツ エアシリ
これ それこそ
まさしく、
- 4486 kamui ewak i
カムイ エワク イ
神 住む ところ
神の住まいを
- 4487 an-ekasure
アネカスレ
凌ぐ
凌いでいる。
- 4488 chiashi nusa
チアシ ヌサ
立てられた 幣柵
立てられた幣柵、
- 4489 nusa tapkashi
ヌサ タツカシ
幣柵 頂き
その幣柵の上には
- 4490 kamui marapto
カムイ マラツト
熊 頭骨
熊の頭骨、
- 4491 yuk marapto
ユク マラツト
鹿 頭骨
鹿の頭骨が
- 4492 nitai ash ruwe
ニタイ アシ ルウェ
林 立つ 様子
木々が並ぶかのように
- 4493 shikobayar
シコバヤウ
さながらである
置かれている。
- 4494 nusa pa wano
ヌサ パ ワノ
幣柵 上手 (始点)
幣柵の上手から、
- 4495 ekaichish tapka wa
エカイチシ タツカ ワ
頂上の平らな岩山 頂き (起点)
頭の折れた岩山から
- 4496 ebisun san ru
エビスン サン ル
浜へ くだる 道
浜へ下る道は、
- 4497 otu ru shittok
オトゥ ル シツトク
二つの 道 肘
二つのつづら折りの道、
- 4498 ore ru shittok
オレ ル シツトク
三つの 道 肘
三つのつづら折りの道
- 4499 kaipa kane
カイパ カネ
折る (程度)
として折れ曲がっている。
- 4500 nusa kesh wano
ヌサ ケシ ワノ
幣柵 末端 (始点)
幣柵の下手から、
- 4501 ekimne toyabir kan
エキムネ トヤビル カン
山に行く 土の獣道 上
山へ向かう踏み跡は
- 4502 kokunnatara
コクンナタラ
黒々としている
黒々としている。
- 4503 tomisambechi
トミサンベチ
(地名)
トミサンベチが
- 4504 san ruwe konna
サン ルウェ コンナ
くだる 様子 こそ
流れる様子は
- 4505 komaknatara
コマツナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 4506 betosambutu
ベトサツブトゥ
河の出口
河口は
- 4507 atuiso kurka
アツイソ クルカ
海面 上
海面の上で
- 4508 kobarachiwash-
コバラチワシ
広い流れ
幅広い波を

- 4509 chiure kane
チウレ カネ
突かせる (程度)
立てている。
- 4510 kamui kar atui
カムイ カ煖 アトウイ
神 作る 海
神の造った海、
- 4511 atuiso kurka
アトウイソ ク煖カ
海面 上
その海の表面は
- 4512 komaknatara
コマ燐ナタラ
輝いている
明るく輝いている。
- 4513 atui ba bakno
アトウイ バ バ燐ノ
海 上 まで
海の東から
- 4514 atui kesh bakno
アトウイ ケ燐 バ燐ノ
海 末端 まで
海の西までは
- 4515 rakrak baye
ラ燐ラ燐 バイエ
滑らかである 行く
滑らかに伸びている。
- 4516 atui bake
アトウイ バケ
海 先端
海の東は
- 4517 homar kane
ホマ燐 カネ
かすんでいる (程度)
霞んでおり、
- 4518 atui kese
アトウイ ケセ
海 末端
海の西も
- 4519 homar kane
ホマ燐 カネ
かすんでいる (程度)
霞んでいる。
- 4520 pirika neto
ピリカ ネット
よい 風
良い風、
- 4521 neto kurkashi
ネット ク煖カシ
風 上
その風は
- 4522 koteshnatara
コテ燐ナタラ
平らになっている
滑らかに広がっている。
- 4523 neto kor chikap
ネット コ煖 チカ燐
風 持つ 鳥
風を持つ鳥
- 4524 neto kor tori
ネット コ煖 トリ
風 持つ 鳥
海の鳥が
- 4525 raribe hawe
ラリベ ハウエ
潜って餌をあさる 声
餌をあさる声、
- 4526 oroneambe
オロネア燐ベ
はなはだしく
その声が
- 4527 bebunitara
ベブニタラ
騒がしい
響いている。
- 4528 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
我はそれを
- 4529 an-uwesuye
アヌウェスイエ
我・揺する
好ましく思った。
- 4530 eboso kusu
エボソ クス
突き抜ける (理由・目的)
なるほど、
- 4531 nekona shiko p
ネコナ シコ 燐
どのように 生まれる もの
如何なる生まれの者、
- 4532 nekona baro p
ネコナ バロ 燐
どのように 口が付く もの
如何なる育ちの者が
- 4533 tapne
タ燐ネ
これである
このように、
- 4534 a-kor ainu
ア・コ燐 アイヌ
我・持つ 父
我が父と
- 4535 a-kot tutto
ア・コ燐 ト燐ト
我・持つ 母
我が母
- 4536 ne wa
ネ ワ
(繫辞類) (接続)
であり、
- 4537 a-ekeshke
ア・エケ燐ケ
ねたまれる
嫉まれた
- 4538 hawe okai i
ハウエ オカイ イ
声 ある こと
という
- 4539 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
のか。
- 4540 pirika wa
ピリカ ワ
よい (接続)
周囲の美しい
- 4541 shiran chiki
シラン チキ
有様である (条件)
様子を見て、
- 4542 eashka
エア燐カ
ほんどうに
まさしく、
- 4543 a-erayap kashpa
ア・エラヤ燐 カ燐バ
我・感心する 甚だしい
我は大いに感嘆した。
- 4544 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 4545 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹は、
- 4546 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
並大抵に
- 4547 rayap kashba p
ラヤ燐 カ燐バ 燐
感嘆する 甚だしい もの
大いに感嘆するもの
- p. 70
- 4548 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燐ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 4549 kotom korkaiki
コト燐 コ燐カイキ
ようである (逆接)
さもあるうが、
- 4550 mintar kurka
ミンタ燐 ク煖カ
土間 上
庭の上に
- 4551 ehorarpa
エホラ燐バ
居る
座り、
- 4552 otop chinki
オト燐 チンキ
髪 裾
髪を裾を
- 4553 eshitchiure kane
エシ燐チウレ カネ
地面に付ける (程度)
地面に付けて、
- 4554 oribak wa okai
オリバ燐 ワ オカイ
畏まる (接続) ある
畏まっている。
- 4555 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 4556 kamui ewak i
カムイ エワ燐 イ
神 住む とこる
神の住まいの
- 4557 upsoroho un
ウ燐ソロホ ウン
内部 (方向)
中から、
- 4558 hemanta hawe
ヘマンタ ハウエ
何 声
何かの音が
- 4559 roise apkor
ロイセ ア燐コ煖
騒ぐ かのよう
響いたかのように
- 4560 inu-an
イヌ・アン
聞く・我
思われた。
- 4561 oro ta
オロ タ
場所 (場所)
そこで、

- 4562 eashiri
エアシリ
それこそ
まさしく、
- 4563 chiseta turesh newa
チセタ トゥレ燕 ネワ
家の 妹 と
我は家の妹と
- 4564 kushnabaummat
ク燕ナパウ營マ燭
(人名)
クシナパウマツを
- 4565 a-eshikarun
ア・エシカルン
我・思い出す
思い出した。
- 4566 a-ewak shiroro
ア・エウ燭 シロロ
我・住む 場所
我が住まいの
- 4567 pirika kashpa
ピリカ カ燕バ
よい 甚だしい
ひどく美しいこと、
- 4568 a-tomte
ア・ト營テ
輝いている
大いに飾られて
- 4569 kashpa ruwe
カ燕バ ルウェ
甚だしい 様子
いることを
- 4570 a-ekiroran kasui
ア・エキロラン カスイ
我・喜ぶ 甚だしい
我は喜び過ぎ、
- 4571 a-erayap kasui
ア・エラヤ燭 カスイ
我・感心する 甚だしい
感嘆しすぎた。
- 4572 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 4573 inkarkotushtek-an
インカ燭コトウ燕テ燭・アン
沈黙して見る
見ることに夢中に
- 4574 kasui aine
カスイ アイネ
甚だしい (接続)
なりすぎて、
- 4575 oar
オア燭
全く
まったく
- 4576 iyoira-an
イヨイラ・アン
忘れる・我
忘れていた。
- 4577 eashka
エア燭カ
ほんとうに
まさしく、
- 4578 yayikataikap-an kor
ヤイカタイカ燭・アン コ燭
氣の毒に思う・我 (同時)
我は氣の毒に思い、
- 4579 nisapno
ニサ燭ノ
急に
急いで
- 4580 chikimattekka-an
チキマ燭テ燭カ・アン
慌てる・我
慌てて駆けつけた。
- 4581 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ營マ燭
(人名)
ニソルンサンタウンマツ、
- 4582 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹も、
- 4583 a-yaikoshiren chiki
ア・ヤイコシレン チキ
我・自ら誘う (条件)
我に寄り添い、
- 4584 oribak rui be
オリバ燭 ルイ ベ
畏まる 激しい もの
畏まって、
- 4585 kurka konna
ク燭カ コンナ
上 こそ
表情が
- 4586 uyanitara kane
ウヤニタラ カネ
もじもじしている (程度)
硬くなった。
- 4587 chise sam ka ta
チセ サ營 カ タ
家 側 上 (場所)
家の側の上で、
- 4588 a-tumpa mai kan
ア・トゥ營バ マイ カン
我・鏢 音 上
我の鏢の音が
- 4589 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いた。
- 4590 niwen chini kan
ニウエン チニ カン
猛々しい 脚 上
我は激しい足取りを
- 4591 a-tuimaturi
ア・トゥイマトゥリ
我・遠く伸ばす
遠く伸ばした。
- 4592 mosem tuyor
モセ營 トゥヨ燭
玄關納屋 中
我は玄關の納屋へ
- 4593 an-eshikuru
アネシクル
我・回る
回った。
- 4594 isenram kusu
イセンラ營 クス
通常 (理由・目的)
いつものように、
- 4595 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
神々の匂い、
- 4596 tomi hura
トミ フラ
財宝 匂い
神宝の匂いが
- 4597 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 (繫辞類)
激しい風となって
- 4598 i-emaknakur-
イ・エマ燭ナク燭・
我・奥
我を背後へ
- 4599 raipa kane
ライバ カネ
移動させる (程度)
押しやった。
- 4600 aramkobashtep
アラ營コバ燕テ燭
宝刀
刀の
- 4601 seppa rar kan
セ燭バ ラ燭 カン
鏢 縁 上
鏢の縁が
- 4602 a-kik hum konna
ア・キ燭 hum コンナ
叩かれる 音 こそ
ぶつかる音が
- 4603 naikosampa
ナイコサ營バ
鳴る
鳴った。
- 4604 ratki aba
ラ燭キ アバ
垂れ下がる 簾戸
垂れ下がった戸に
- 4605 a-kotekturi
ア・コテ燭トゥリ
我・手を伸ばす
我は手を伸ばし、
- 4606 a-moirechaka
ア・モイレチャカ
我・ゆっくり開ける
ゆっくりと開けた。
- 4607 mintar ka ta
ミンタ燭 カ タ
土間 上 (場所)
土間の上に
- 4608 urar tura
ウラ燭 トゥラ
霧 とともに
霧と共に、
- 4609 imeru tura
イメル トゥラ
光 とともに
光と共に、
- 4610 a-rutkosanu
ア・ル燭コサヌ
我・押し入る
我は押し入った。
- 4611 inkar-an awa
インカ燭・アン アワ
見る・我 (展開)
我が見ると、
- p. 71
- 4612 konepkeukata
コネ燭ケウカ
何とということか
何とということか、
- 4613 konepkashita
コネ燭カシタ
何としたことか
何としたことか。
- 4614 ramma
ラ營マ
いつも
まさに、

- 4615 chiseta turesh
チセタ トゥレ燕
家の妹
家の妹は
- 4616 oshisoun wa
オシソウン ワ
右座へ (起点)
右座で
- 4617 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
伸びている。
- 4618 kurkashike
ク奨カシケ
表面
その表面は
- 4619 wen kem urar
ウェン ケ管 ウラ燠
悪い 血 霧
ひどい血の霧で
- 4620 chikampare
チカ管バレ
覆われる
覆われている。
- 4621 harkisotta
ハ燠キソ爛タ
左座に
左座では
- 4622 kushnabaummat
ク燠ナバウ管マ爛
(人名)
クシナバウンマツの
- 4623 anrai kewe^{*37}
アンライ ケウエ
ひどく死ぬ 身体
死んだ骸が
- 4624 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
伸びている。
- 4625 arukorachi
アルコラチ
同じく
そして、同じように
- 4626 kurkashike
ク奨カシケ
表面
身体の表面には
- 4627 wen kem urar
ウェン ケ管 ウラ燠
悪い 血 霧
ひどい血の霧が
- 4628 chikonoipa kane
チコノイバ カネ
たなびく (程度)
たなびいている。
- 4629 kamuiotobush
カムイオトブ燠
(人名)
カムイオトブシと
- 4630 ponyayepirika
ポンヤイエピリカ
(人名)
ポンヤイエピリカ、
- 4631 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは、
- 4632 tu kamui shinrit
トゥ カムイ シンリ爛
二つの 神 出自
二柱の神の出自、
- 4633 re kamui shinrit
レ カムイ シンリ爛
三つの 神 出自
三柱の神の出自を
- 4634 obentari
オベンタリ
ひっくり返す
何度も引っ繰り返し
- 4635 obentari kane
オベンタリ カネ
ひっくり返す (程度)
ながら、
- 4636 kamui koitak
カムイ コイタ燠
神 話しかける
神に祈っている
- 4637 hawe ne rokokai
ハウエ ネ ロココイ
声 (繫辞類) (判明)
様子である。
- 4638 eashka
エア燠カ
ほんとうに
まさしく、
- 4639 iyokunnure
イヨクヌレ
驚く
驚いた。
- 4640 rorunso kurka
ロルンソ ク奨カ
上座 上
上座の上に
- 4641 a-i-y-eashi
ア・イ・イエアシ
我・立たせられる
我は立ち、
- 4642 a-tureshi utar
ア・トゥレシ ウタ燠
我・妹 人々
我が妹たちの
- 4643 kurkashike
ク奨カシケ
表面
表面を
- 4644 a-shikomare
ア・シコマレ
我・目をやる
見回した。
- 4645 a-sambe pake
ア・サ管ベ パケ
我・心臓 上手
我的心臓の上、
- 4646 a-sambe kese
ア・サ管ベ ケセ
我・心臓 下手
心臓の下は
- 4647 ekobuyuisse
エコブユイセ
湿る
溢れそうな気持である。
- 4648 a-shikshutonna
ア・シ燠シュ爛コンナ
我・目の端
私の目の端から
- 4649 koebuyuisse
コエブユイセ
湿る
涙が出た。
- 4650 sonno hetap ne
ソンノ ヘタ燠 ネ
真に これ (繫辞類)
本当のことであろうか。
- 4651 orsetakko
オ燠セタ燠コ
長い間
暫くの間、
- 4652 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちが
- 4653 kamui nishuk yakka
カムイ ニシュ燠 ヤ燠カ
神 頼る (繫辞類)
神の如き救助をしても、
- 4654 shine kamui boka
シネ カムイ ボカ
一つの 神 ボカ
一柱の神も さえ
- 4655 hosarpa
ホサ燠バ
振り向く
振り向く
- 4656 somo ki wa
ソモ キ ワ
(否定) する (接続)
ことは無く、
- 4657 tane anakne
タネ アナ燠ネ
今 は
今は、
- 4658 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹
- 4659 utar orke
ウタ燠 オ燠ケ
人々 所
たちは
- 4660 pirika shiri
ピリカ シリ
よい 様子
美しい様子を
- 4661 a-i-y-ekeshke kusu
ア・イ・イエケ燠ケ クス
我・ひどい仕打ちをうける (理由・目的)
嫉まれたのか。
- 4662 shiran chiki
シラン チキ
有様である (条件)
そこで、
- 4663 tu ok keutum ne
トゥ オ燠 ケウトウ管 ネ
二つの 嘆く 心 (繫辞類)
二つの暗い心、
- 4664 re ok keutum ne
レ オ燠 ケウトウ管 ネ
三つの 嘆く 心 (繫辞類)
三つの暗い心で、
- 4665 a-keutumkashi
ア・ケウトウ管カシ
我・心の上
我は心の中で

*37 この語の前に arkewehe と書かれているが線で抹消されている。

- 4666 nube kush kane
ヌベ ク燕 カネ
涙 通る (程度)
涙を流した。
- 4667 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 4668 senne ka sui
センネ カ スイ
(否定) (不明) (不明)
よもや
- 4669 shiriki kuni
シリキ クニ
そのような有様である するべき
そのようなことが
- 4670 hawash kuni
ハワ燕 クニ
言われる するべき
あるとは
- 4671 a-ramu rok i
ア・ラム 口燭 イ
我・思う (完了) こと
思わなかったが、
- 4672 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
我が悪妹
- 4673 utar orke
ウタ燭 オ燭ケ
人々 所
たちは、
- 4674 sonno
ソンノ
真に
まことに、
- 4675 arukoeramno
アルコエラ警ノ
同時に
同時に
- 4676 matkosampa
マ燭コサ警バ
跳び起きる
跳び起きた。
- 4677 pirika mina
ピリカ ミナ
よい 笑う
そして美しく笑い、
- 4678 kotekutomkur-
コテクト警ク燭・
手の中
手を
- 4679 eshitaikipa
エシタイキバ
叩きつける
叩き、
- 4680 shine itak
シネ イタ燭
一つの 言う
同じ言葉を
- 4681 eubaemko-
エウバエ警コ・
口の半分
半ば口を
- p. 72
- 4682 uina kane
ウイナ カネ
取る (程度)
揃えて言った。
- 4683 usaine tap sui
ウサイネ タ燭 スイ
(呼びかけ) これ 再び
「これはこれは、
- 4684 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちよ、
- 4685 hemanta
ヘマンタ
何
何故
- 4686 a-ekot wa kusu
ア・エコ燭 ワ クス
我・死ぬ (接続) (理由・目的)
妾らが死んだというのですか。
- 4687 pirika mokor
ピリカ モコ燭
よい 眠る
妾らは良い眠りを
- 4688 a-ki kush ne ko
ア・キ ク燕 ネ コ
我・する ように (繫辞類) (条件)
しようとする、
- 4689 kunne tokap
クンネ トカ燭
夜 昼
夜も昼も、
- 4690 chiramshitnere
チラ警シ燭ネレ
苦しめられる
悩まされて
- 4691 i-y-ekarkar
イ・イエカ燭カ燭
我・する
いた
- 4692 hawe okai be
ハウエ オカイ ベ
声 ある もの
の
- 4693 ne ya
ネ ヤ
(繫辞類) (疑問)
ですか。」
- 4694 ari haweokai
アリ ハウエオカイ
(引用) 言う
妹たちはこう言った。
- 4695 inkar-an ko
インカ燭・アン コ
見る・我 (条件)
我が見ると、
- 4696 neike tapne
ネイケ タ燭ネ
どこに これである
一体どうしたことが。
- 4697 biro apkoro
ピロ ア燭コロ
傷がつく ように
傷があり、
- 4698 miba p hene
ミバ 燭 ヘネ
着る もの も
着る物も
- 4699 bechibechi hene
ベチベチ ヘネ
幾つも破れる も
破れて
- 4700 okai apkoro
オカイ ア燭コロ
ある ように
いたように
- 4701 a-nukar rokwa
ア・ヌカ燭 口燭ワ
我・見る (展開)
見えたが、
- 4702 arobitta
アロピ燭タ
すべて
まったく、
- 4703 hoshkino an pirika
ホ燕キノ アン ピリカ
先に ある よい
以前と変わらぬ美しさであり、
- 4704 poombepo ne
ポオ警ベポ ネ
ほんの少し (繫辞類)
なお一層、
- 4705 tane am pirika
タネ ア警 ピリカ
今 ある よい
今の美しさは
- 4706 shiarwenrui
シア燭ウエンルイ
物凄い
物凄い。
- 4707 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如き様子で
- 4708 okai wa
オカイ ワ
ある (接続)
おり、
- 4709 eutomkotpa
エウト警コ燭バ
(不明)
二人とも
- 4710 chisoyokuta
チソヨクタ
外に飛び出す
外へ出た。
- 4711 hontomo ta
ホントモ タ
途中 (場所)
その途中で、
- 4712 chashi teksam un
チャシ テ燭サ警 ウン
チャシ すぐそば (方向)
館の側で、
- 4713 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 4714 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹と
- 4715 ukochishkar hawe
ウコチ燕カ燭 ハウエ
皆で泣く 声
一緒に泣く声が
- 4716 roise kane
ロイセ カネ
騒ぐ (程度)
響いた。
- 4717 inkana^{*38} ne wa
インカン ネ ワ
見る (繫辞類) (接続)
我は見ただけ、

- 4718 inu ne wa
イヌ ネ ワ
聞く (繫辞類) (接続)
聞いただけ
- 4719 a-ki p ne koroka
ア・キ 灘 ネ コロカ
我・するもの (繫辞類) (逆接)
ではあるが、
- 4720 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウ營
驚く 心
驚きの気持ち、
- 4721 yayikush keutum
ヤイク燕 ケウトウ營
悔しい 心
悔しい気持ちを
- 4722 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・持つ
抱いた。
- 4723 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに、
- 4724 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
我が悪妹
- 4725 utar orke
ウタ燠 オ燠ケ
人々 所
たちは、
- 4726 shisak nubur mat
シサ燠 ヌブ燠 マ燠
またとない 濃い 女
比類なき霊能力を持つ女性
- 4727 nechi kusu
ネチ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4728 nep ne yakka
ネ灘 ネ ヤ燠力
何 (繫辞類) (譲歩)
如何なることでも、
- 4729 ikkewe
イ燠ケウエ
元
その理由を
- 4730 eramokai
エラモカイ
知る
理解しているのだ。
- 4731 tam be kusu
タ營 ベ クス
このもの (理由・目的)
そこで、
- 4732 ukosai hine
ウコサイ ヒネ
団結する (接続)
集まって、
- 4733 orsetakko
オ燠セタ燠コ
長い間
暫くの間、
- 4734 ene
エネ
このように
このように、
- 4735 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
我が兄たちも、
- 4736 aokai hene
アオカイ ヘネ
我 も
我も、
- 4737 chiramokka i
チラモ燠力 イ
気にかかる こと
からかわれたの
- 4738 nei katu
ネイ カトゥ
(繫辞類) かたち
であることを、
- 4739 a-noeraman
ア・ノエラマン
我・よくわかる
我はよく理解した。
- 4740 wen yayikush
ウェン ヤイク燕
悪い 悔しい
我はひどく悔しく、
- 4741 toi yayikush
トイ ヤイク燕
激しい 悔しい
とても悔しく
- 4742 a-ki kane
ア・キ カネ
我・する (程度)
思った。
- 4743 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たち
- 4744 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燠力
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 4745 shino
シノ
まことに
まことに
- 4746 homatpa rui be
ホマ燠パ ルイ ベ
驚く 激しい もの
驚き慌て、
- 4747 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列 (繫辞類)
一斉に
- p. 73
- 4748 inkan ruwe konna
インカン ルウエ コнна
見る 様子
目を見開いて
- 4749 chainatarapa
チャイナタラパ
見開く
眺めた。
- 4750 shine itak
シネ イタ燠
一つの 言う
そして、同じ言葉を
- 4751 eubaemko-
エウバエ營コ・
口の半分
半ば口を
- 4752 uina kane
ウイナ カネ
取る (程度)
揃えて言った。
- 4753 oyoyobota
オヨヨボタ
(感嘆)
「何と
- 4754 oyoyobota
オヨヨボタ
(感嘆)
何と、
- 4755 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
我らが悪妹
- 4756 utar orke
ウタ燠 オ燠ケ
人々 所
たちよ、
- 4757 chiwenokbare
チウェノ燠バレ
悲しませる
不孝をする
- 4758 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燠力
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
にしても
- 4759 semkatune
セ營カトゥネ
並でなく
並大抵ではない
- 4760 i-y-ekarkar
イ・イエカ燠力燠
我・する
ことを
- 4761 shiri okai be
シリ オカイ ベ
様子 ある もの
した
- 4762 ne ya
ネ ヤ
(繫辞類) (疑問)
のか。
- 4763 nep kusu
ネ灘 クス
何 (理由・目的)
何故、
- 4764 ene eashiri
エネ エアシリ
このように それこそ
このように、
- 4765 shirum menoko
シル營 メノコ
汚い 女
下らぬ女、
- 4766 wem menoko utar
ウエ營 メノコ ウタ燠
悪い 女 人々
悪い女たちに
- 4767 chiramkoiki
チラ營コイキ
悩む
悩み苦しめ
- 4768 i-y-ekarkar i ta okai
イ・イエカ燠力燠 イ タ オカイ
我・する こと これ ある
られたのか。

*38 この語の前に i と書かれているが線で抹消されている。

- 4769 oyoyobota
オヨヨボタ
(感嘆)
忌々しい。
- 4770 a-toikoronnu hene
ア・トイコロンヌ ヘネ
我・惨殺する も
我らがひどく殺すことも
- 4771 eashkai be hene
エア燕カイ ベ ヘネ
できる もの も
できる
- 4772 ne rok yakne
ネ 口燻 ヤ燻ネ
(繫辞類) (完了) (条件)
のであれば、
- 4773 a-toikoronnu hene
ア・トイコロンヌ ヘネ
我・惨殺する も
ひどく殺して
- 4774 ki noine
キ ノイネ
する らしく
やりたい
- 4775 okai be
オカイ ベ
ある もの
ものだ。」
- 4776 ari ukoormam kane
アリ ウコオ燻マ燻 カネ
(引用) 怒る (程度)
兄たちは怒り、
- 4777 i-bishkanike
イ・ビ燻カニケ
我・周囲
私の周囲で
- 4778 turimechiu
トゥリメチウ
足踏みをする
足を踏み鳴らした。
- 4779 i-opteshpare
イ・オ燻テ燻バレ
我・槍を反らす
兄たちは我に対して槍を反らし、
- 4780 i-tamteshpare kane
イ・タ燻テ燻バレ カネ
我・刀を反らす (程度)
我に対して刀を反らし、
- 4781 i-keuhumshupa
イ・ケウフ燻シュバ
我・無事をねぎらう
私の無事を祝った。
- 4782 ne kotan kor be
ネ コタン コ燻 ベ
何処 村 持つ もの
「どこの村の者、
- 4783 ne^{*39} moshiri kor be
ネ モシリ コ燻 ベ
何処 国土 持つ もの
どこの国土の者が、
- 4784 chishimemokka
チシメモ燻カ
挑発される
挑戦する
- 4785 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
にしても、
- 4786 semkatune
セ燻カトゥネ
並でなく
ただならぬことを
- 4787 i-y-ekarkar
イ・イエカ燻カ燻
我・する
我らにして
- 4788 shiri okai
シリ オカイ
様子 ある
きた
- 4789 rok awa
口燻 アワ
(完了) (展開)
のか。
- 4790 nekon ne a
ネコン ネ ア
どのように (繫辞類) (完了)
どのようにであった
- 4791 ruwe ta an
ルウェ タ アン
様子 これ ある
のか。」
- 4792 ari haweokai
アリ ハウエオカイ
(引用) 言う
兄たちはこのように言った。
- 4793 tam be kusu
タ燻 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 4794 tapne tapne
タ燻ネ タ燻ネ
これである これである
そのような
- 4795 nei katu
ネイ カトゥ
(繫辞類) かたち
次第であったことを、
- 4796 arobittano
アロビ燻タノ
すべて
我は一つ残らず
- 4797 a-ukaebita
ア・ウカエビタ
我・言い解く
言い聞かせた。
- 4798 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 4799 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹を
- 4800 a-tura wa
ア・トゥラ ワ
我・連れる (接続)
連れて
- 4801 ek-an katu
エ燻・アン カトゥ
来る・我 かたち
来たことを
- 4802 a-ye chiki
ア・イエ チキ
我・言う (条件)
言うと、
- 4803 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは、
- 4804 shietuuina
シエトゥウイナ
自ら鼻を押さえる
みずから鼻を押さえ、
- 4805 shibaruiina kane
シバルイナ カネ
自ら口を押さえる (程度)
口を押さえた。
- 4806 eashka
エア燻カ
ほんとうに
まさしく、
- 4807 ukoiyokunurpa kane
ウコイヨクヌ髪バ カネ
互いに驚く (程度)
一緒に驚いた。
- 4808 hoka etok ta
ホカ エト燻 タ
炉 前方 (場所)
そして、火の側に
- 4809 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 (繫辞類)
神の如く、
- 4810 ukirsamerok
ウキ燻サメ口燻
膝を並べて座る
膝を並べて座った。
- 4811 kushnabuummat
ク燻ナパウ燻マ燻
(人名)
クシナパウンマツは
- 4812 too
トオ
ずっと遠くへ
ずっと
- 4813 osoyun wano
オソユン ワノ
外から (始点)
外から、
- 4814 kamui nishka
カムイ ニシカ
神 上空
天空へ
- 4815 korikoshma
コリコ燻マ
飛び上がる
飛び上がった。
- 4816 kushnaba kotan
ク燻ナバ コタン
(地名) 村
そして、クシナバの村へ
- 4817 kohumterkere
コフ燻テ燻ケレ
音を走らせる
音を立てて去った
- 4818 humash
フマ燻
音がする
ようである。

p. 74

- 4819 chiseta turesh
チセタ トゥレ燻
家の妹
家の妹は

*39 この語の前に nekotu と書かれているが線で抹消されている。

- 4820 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ營マ爛
(人名)
ニソルンサンタウンマツ、
- 4821 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹の
- 4822 santekepo
サンテケボ
前腕
手を
- 4823 amba kane
ア營バ カネ
持つ (程度)
取り、
- 4824 shiaworaipa
シアウオリイバ
家の中に入る
中へ入ってきた。
- 4825 harkiso ne
ハ喫キノ ネ
左座 (繫辞類)
そして、左座へ
- 4826 earekar
エアレカ喫
座らせる
座らせた。
- 4827 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
かたち (繫辞類) (程度)
並大抵に
- 4828 oribak kuni p
オリバ燻 クニ 瀧
畏まる するべき もの
畏まるもの
- 4829 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤ燻ネ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (条件)
であるならば、
- 4830 kotom korkaiki
コト營 コ燻カイキ
ようである (逆接)
さもあろうが、
- 4831 hebuni poka
ヘブニ ボカ
顔を上げる さえ
顔を上げることも
- 4832 yaikoniukesh
ヤイコニウケ燕
自らしかねる
出来ず、
- 4833 otop chinki
オト瀧 チンキ
髪 裾
髪の裾を
- 4834 eshitchiure
エシチウレ
地面に付ける
床に着けており、
- 4835 kurka konna
ク燻カ コンナ
上 こそ
表情が
- 4836 uyanitara
ウヤニタラ
もじもじしている
硬くなっている。
- 4837 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 4838 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 (繫辞類)
一斉に
- 4839 uhobumpare
ウホブ營バレ
立ち上がる
立ち上がり、
- 4840 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹と
- 4841 ukoekap
ウコエカ瀧
互いに挨拶する
挨拶を交わし、
- 4842 ukoruiruipa kane
ウコルイルイバ カネ
共に撫でる (程度)
お互いに撫でさすった。
- 4843 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は、
- 4844 eashka
エア燻カ
ほんとうに
まさしく、
- 4845 usa yaikataikap
ウサ ヤイカタイカ瀧
(列挙) 気の毒に思う
気後れし、
- 4846 usa oribak
ウサ オリバ燻
(列挙) 畏まる
畏まって
- 4847 ki kane
キ カネ
する (程度)
いる。
- 4848 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
そして、我が兄たちの
- 4849 chinki kese
チンキ ケセ
裾 末端
裾の端を
- 4850 oukoraipa
オウコライバ
掴む
涙と共に
- 4851 chish turanno ki
チ燻 トゥランノ キ
泣く ともに する
つかんだ。
- 4852 raboki ta
ラボキ タ
間 (場所)
その間に、
- 4853 amset kurka
ア營セ燻 ク燻カ
寝台 上
我は寝台の上へ
- 4854 a-erikin
ア・エリキン
我・上がる
上り、
- 4855 shiraraye-an
シラライエ・アン
着替える
着替えた。
- 4856 amset kurka
ア營セ燻 ク燻カ
寝台 上
我は寝台の上に
- 4857 an-ehorari
アネホラリ
我・居る
いた。
- 4858 chiseta turesh
チセタ トゥレ燕
家の 妹
家の妹、
- 4859 a-wentureshi
ア・ウェントゥレシ
我・悪い妹
我が悪妹は
- 4860 nubetne tura
ヌベツネ トゥラ
喜ぶ ともに
喜びながら、
- 4861 otu bet chir be
オトゥ ベ燻 チ燻 ベ
二つの 水 滴る もの
二つの水滴、
- 4862 ore bet chir be
オレ ベ燻 チ燻 ベ
三つの 水 滴る もの
三つの水滴を
- 4863 yaikarpare wa
ヤイカ喫バレ ワ
自ら用いる (接続)
用い、
- 4864 pirika shuke
ピリカ シュケ
よい 炊事する
良い煮炊きを
- 4865 koyairikta-
コヤイリ燻タ・
自らより高く
懸命に
- 4866 ante kane
アンテ カネ
あらしめる (程度)
おこなった。
- 4867 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 (繫辞類) (条件)
暫くすると、
- 4868 shu chi wa yanke
シュ チ ワ ヤンケ
鍋 煮える (接続) 上陸させる
鍋が煮え、それを下ろした。
- 4869 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
そして、高盛りの飯を
- 4870 i-kobuni
イ・コブニ
我・捧げる
我に差し出した。
- 4871 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは、

- 4872 shino irushka
シノ イル燕力
まことに 怒る
まことに怒っている
- 4873 kotom no
コト營 ノ
ようである (接続)
ようでは
- 4874 okai koroka
オカイ コロカ
ある (逆接)
あるが、
- 4875 iberusuiba p
イベルスイバ 瀧
空腹であるもの
空腹であるもの
- 4876 kone p ne kusu
コネ 瀧 ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4877 imek uina wa
イメ燐 ウイナ ワ
御馳走 取る (接続)
御馳走を受け取って
- 4878 ibe kor okai
イベ コ燐 オカイ
食事する (同時) ある
食べている。
- 4879 nisorunsanta
ニソルンサンタ
(地名)
ニソルンサンタ、
- 4880 a-tureshpo
ア・トゥレシポ
我・妹
我が妹
- 4881 ne yakka
ネ ヤ燐力
(繋辞類) (譲歩)
も、
- 4882 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
高盛りの飯が
- 4883 a-kobuni wa
ア・コブニ ワ
捧げられる (接続)
差し出されると、
- 4884 shino nubetne
シノ ヌベ燐ネ
まことに 喜ぶ
まことに喜びの
- 4885 ibor kor kane
イボ燐 コ燐 カネ
顔色 持つ (程度)
表情を浮かべ、
- 4886 ibe kor okai
イベ コ燐 オカイ
食事する (同時) ある
食べている。
- 4887 chiseta turesh
チセタ トゥレシ
家の 妹
家の妹、
- p. 75
- 4888 a-wentureshi
ア・ウェントゥレシ
我・悪い妹
我が悪妹
- 4889 ne yakka
ネ ヤ燐力
(繋辞類) (譲歩)
も、
- 4890 shino
シノ
まことに
まことに、
- 4891 iberusui kuni p
イベルスイ クニ 瀧
空腹である すべき もの
空腹であるもの
- 4892 ne p ne kusu
ネ 瀧 ネ クス
(繋辞類) もの (繋辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4893 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛の椀
大きな高盛りの飯を
- 4894 yaikobuni wa
ヤイコブニ ワ
自ら用意する (接続)
みずから用意した。
- 4895 ibe uturu ta
イベ ウトゥル タ
食事する 間 (場所)
食事の合間に、
- 4896 irara rok i
イララ ロ燐 イ
悪戯する (完了) こと
悪戯をしたことを
- 4897 eyaikoshiramse wa
エヤイコシラ營セ ワ
自ら思う (接続)
思い出して、
- 4898 emina rusui wa
エミナ ルスイ ワ
笑う (欲求) (接続)
笑いをこらえている
- 4899 ne kotom no
ネ コト營 ノ
(繋辞類) ようである (接続)
ようであり、
- 4900 shisembirun wa
シセ營ビルン ワ
自分の後ろへ (起点)
蔭へ
- 4901 shikirpa ko
シキ燐バ コ
振り向く (条件)
向きを変えて、
- 4902 bituntunke
ビットゥントゥンケ
何度も微かに笑う
微かな笑い、
- 4903 bikitkitche
ビキ燐キ燐チエ
何度も密かに笑う
忍び笑いをして
- 4904 kotom no
コト營 ノ
ようである (接続)
いるように
- 4905 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われた。
- 4906 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐力
我 (繋辞類) (譲歩)
我も、
- 4907 orsetakko
オ燐セタ燐コ
長い間
長い間、
- 4908 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちが
- 4909 yayeramushitne wa
ヤイェラムシ燐ネ ワ
心を悩ませる (接続)
心を悩ませて、
- 4910 eoha
エオハ
空である
無駄な
- 4911 kamui koitak rokiné
カムイ コイタ燐 ロキネ
神 話しかける (接続)
神への祈りをして、
- 4912 ikir keseke
イキ燐 ケセケ
列 端の所
列の端で
- 4913 wen irushka
ウェン イル燕力
悪い 怒る
ひどく怒り、
- 4914 toi irushka
トイ イル燕力
激しい 怒る
激しく怒った
- 4915 kiba hawe
キバ ハウェ
する 声
ことを
- 4916 a-eshikarun chiki
ア・エシカルン チキ
我・思い出す (条件)
思い出すと、
- 4917 rauki mina
ラウキ ミナ
密かに 笑う
密かな笑い、
- 4918 rauki sapse
ラウキ サ燐セ
密かに 笑う
密かな笑みを
- 4919 a-uwesuye koroka
ア・ウウェスイエ コロカ
我・共に揺らす (逆接)
浮かべたが、
- 4920 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐力
我 (繋辞類) (譲歩)
我もまた、
- 4921 a-wentureshi utar
ア・ウェントゥレシ ウタ燐
我・悪い妹 人々
- 4922 katkor ruwe
カ燐コ燐 ルウェ
振り舞う 様子
振り舞いが
- 4923 sonno ne kuni
ソンノ ネ クニ
真に (繋辞類) すべき
本当のことであると
- 4924 a-ramu kusu
ア・ラム クス
我・思う (理由・目的)
思い、

- 4925 nube tura
ヌベ トウラ
涙 とともに
涙と共に
- 4926 a-tuyashkarap rok i
ア・トゥヤ燕カラ瀧 口燻 イ
我・憐れむ (完了) こと
憐れんだことを
- 4927 a-eyaiko-
ア・エヤイコ・
我・自ら
思い
- 4928 shiramse ko
シラ營セ コ
思う (条件)
返すと、
- 4929 toi yayashish
トイ ヤヤシ燕
激しい 悔しい
ひどく悔しく、
- 4930 wen yayikush
ウェン ヤイク燕
悪い 悔しい
大いに悔しく
- 4931 a-ki kane
ア・キ カネ
我・する (程度)
思った。
- 4932 nekona tapne
ネコナ タ瀧ネ
どのように これである
どのように、
- 4933 tane bak i ta
タネ バ燻 イ タ
今 まで こと (場所)
今では、
- 4934 kushnabaummat
ク燕ナパウ營マ燻
(人名)
クシナパウンマツ、
- 4935 a-wentureshi
ア・ウェントウレシ
我・悪い妹
我が妹
- 4936 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤ燻カ
(繫辞類) (接続) (繫辞類) (譲歩)
も、
- 4937 irara shiri
イララ シリ
悪戯する 様子
悪戯を
- 4938 eyaiko-
エヤイコ・
自ら
思い返して
- 4939 shiramse ko
シラ營セ コ
思う (条件)
いるだろうか。そして、
- 4940 chiseta turesh
チセタ トウレ燕
家の 妹
家の妹の
- 4941 katkor shiri
カ燻コ燻 シリ
振舞う 様子
振る舞いと
- 4942 neino nesun
ネイノ ネスン
ように こそ
同じように、
- 4943 emina rusui kor
エミナ ルスイ コ燻
笑う (欲求) 持つ
笑いをこらえているに
- 4944 nesun an ne
ネスン アン ネ
こそ ある (繫辞類)
違いな
- 4945 ari a-yainu chiki
アリ ア・ヤイヌ チキ
(引用) 我・考える (条件)
と思うと、
- 4946 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燻カ
我 (繫辞類) (譲歩)
我も
- 4947 minarusui-an kane
ミナルスイ・アン カネ
笑いたくなる・我 (程度)
笑いそうになった。
- 4948 keran aep
ケラン アエ瀧
おいしい 食物
我らは美味しい食物を
- 4949 a-e kane
ア・エ カネ
我・食べる (程度)
食べた。
- p. 76
- 4950 a-keushutu
ア・ケウシュトゥ
我・伯父
我が伯父、
- 4951 a-kor unarbe
ア・コ燻 ウナ燻ベ
我・持つ 伯母
我が伯母は
- 4952 orsetakko
オ燻セタ燻コ
長い間
長い間、
- 4953 chashi ba chashi
チャシ バ チャシ
チャシ 上手 チャシ
この館の上手の館を
- 4954 ohashinnere
オハシンネレ
留守にさせる
留守にしていた。
- 4955 tam be kusu
タ營 ベ クス
この もの (理由・目的)
そこで、
- 4956 tanebo konna
タネボ コンナ
今 こそ
今は
- 4957 shubuya
シュブヤ
煙
煙を
- 4958 atte kusu
ア燻テ クス
立たせる (理由・目的)
立たせるために、
- 4959 chashi ba chashi
チャシ バ チャシ
チャシ 上手 チャシ
この館の上手の館の
- 4960 kamui upsoro
カムイ ウ瀧ソロ
神 内部
神の中に
- 4961 oahup
オアフ瀧
入る
入った
- 4962 kotom no
コト營 ノ
ようである (接続)
ように
- 4963 iramu-an
イラム・アン
思う・我
思われた。
- 4964 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 (場所)
食事の最中に、
- 4965 usa okai be
ウサ オカイ ベ
(列挙) ある もの
様々なことを
- 4966 tup ne rep ne
トゥ瀧 ネ レ瀧 ネ
二つ (繫辞類) 三つ (繫辞類)
二つ、三つと
- 4967 a-eyaiko-
ア・エヤイコ・
我・自ら
我は思い
- 4968 shiramse
シラ營セ
思う
返した。
- 4969 orotunashno
オロトゥッナ燕ノ
一刻も早く
一刻も早く、
- 4970 sui pon tonotopo
スイ ボン トノトボ
再び 小さい 酒
再び僅かな酒を
- 4971 a-shikupka wa
ア・シク燻カ ワ
我・醸す (接続)
醸して、
- 4972 ashit chikoikip hemem
アシ燻 チコイキ燻 ヘメ營
新しい 獲物 も
新しい獲物でも、
- 4973 iso a-kor wa
イソ ア・コ燻 ワ
獲物 我・持つ (接続)
捕えて、
- 4974 kannaruino
カンナルイノ
再びまた
再び、
- 4975 a-utari utar
ア・ウタリ ウタ燻
我・人々 人々
我が親族の人々を
- 4976 a-uwekarire hine
ア・ウウェカリレ ヒネ
我・集める (接続)
集め、
- 4977 ainu buri
アイヌ プリ
人間 行い
人間のおこない、

- 4978 kamui buri
カムイ ブリ
神 行い
神のおこないは、
- 4979 ene okai i
エネ オカイ イ
このように ある こと
このようにあるもの
- 4980 ne kusu
ネ クス
(繫辞類) (理由・目的)
であるから、
- 4981 ukor kush ne utar
ウコ燐 ク燐 ネ ウタ燐
結婚 ように (繫辞類) 人々
結婚しようとする者たちは
- 4982 tunashno
トゥナ燐ノ
早く
早く
- 4983 a-ukore
ア・ウコレ
我・結婚させる
結婚させたい。
- 4984 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐力
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 4985 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ燐マ燐
(人名)
ニソルンサンタウンマッ、
- 4986 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹と
- 4987 tunashno
トゥナ燐ノ
早く
早く
- 4988 a-hekote wa
ア・ヘコテ ワ
我・連れ添う (接続)
一緒になって、
- 4989 kamui ewak i
カムイ エウ燐 イ
神 住む ところ
神の住まいで
- 4990 an-ehorarpa wa
アネホラ燐バ ワ
我ら・居る (接続)
暮らし、
- 4991 nisorunsanta^{*40} un
ニソルンサンタ ウン
(地名) ある
ニソルンサンタの
- 4992 a-kor unarbe
ア・コ燐 ウナ燐ベ
我・持つ 伯母
我が伯母に
- 4993 a-nunuke kuni
ア・ヌヌケ クニ
我・大事にする するべき
孝行したいと、
- 4994 keutum ot ta
ケウトウ燐 オ燐 タ
心 所 (場所)
心の中で
- 4995 a-ehumse kane
ア・エフ燐セ カネ
我・声を出す (程度)
決意した。
- 4996 a-eyaisembir-
ア・エヤイセ燐ビ燐・
我・自らの陰
我は陰で
- 4997 omina kane
オミナ カネ
笑う (程度)
笑みを浮かべた。
- 4998 kechaukar imi
ケチャウカ燐 イミ
羽毛 着物
鳥の羽毛を着た者、
- 4999 pon a-kor yubi
ボン ア・コ燐 ユビ
小さい 我・持つ 兄
年少の我が兄が、
- 5000 iteki neino an
イテキ ネイノ アン
決して ように ある
決してあのような
- 5001 wem buri
ウェ燐 ブリ
悪い 行い
悪行を
- 5002 ki a yakne
キ ア ヤ燐ネ
する (完了) (条件)
しなければ、
- 5003 tantebota
タンテボタ
たった今
今こそは、
- 5004 a-yubi korachi
ア・ユビ コラチ
我・兄 ように
我が兄のように
- 5005 a-ramu
ア・ラム
我・思う
思い、
- 5006 rametokenishte
ラメトケニ燐テ
勇者で心強い
勇者で心強く、
- 5007 utarpaenishte
ウタ燐バエニ燐テ
首領で心強い
頭領で心強く
- 5008 a-ki noine am be
ア・キ ノイネ ア燐 ベ
我・する らしく ある もの
思うのであろうが、
- 5009 ari a-yainu chiki
アリ ア・ヤイヌ チキ
(引用) 我・考える (条件)
と我は思い、
- 5010 tu ok keutum ne
トゥ オ燐 ケウトウ燐 ネ
二つの 嘆く 心 (繫辞類)
二つの暗い心、
- 5011 re ok keutum ne
レ オ燐 ケウトウ燐 ネ
三つの 嘆く 心 (繫辞類)
三つの暗い心を
- 5012 a-yaikore kane
ア・ヤイコレ カネ
我・持つ (程度)
抱いた。
- 5013 ibe ruoka
イベ ルオカ
食事する 跡
食事が
- 5014 chiobashpare
チオバ燐バシ
終了する
終了し、
- 5015 ponno
ボンノ
少し
暫く
- 5016 shiran tek ko
シラン テ燐 コ
時がたつ ちよっとする (条件)
すると、
- 5017 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
我が兄たちは
- 5018 pirika sotki
ピリカ ソ燐キ
よい 寝床
良い寝床を
- 5019 yaikokarkarpa
ヤイコカ燐カ燐バ
自らする
用意して、
- 5020 hotke
ホ燐ケ
寝る
横になった。
- 5021 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燐力
我 (繫辞類) (譲歩)
我も、
- 5022 tanepo konna
タネボ コンナ
たった今 こそ
今は、
- 5023 mokonno sotki
モコンノ ソ燐キ
よく眠る 寝床
寝床、
- 5024 sotki upsor
ソ燐キ ウ燐ソ燐
寝床 内部
その寝床の中へ
- 5025 a-eshituri
ア・エシトゥリ
我・伸びる
身体を伸ばした。
- 5026 hotke kosonte
ホ燐ケ コソント
寝る 小袖
我は夜着の小袖の
- 5027 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 (場所)
裾の上を
- 5028 a-urekonoye kane
ア・ウレコノイエ カネ
我・足で捻る (程度)
足でねじり、

*40 この語の前に nisetokun と書かれているが線で抹消されている。

- 5029 kotbar ka ta
コ燭バ燭 カ タ
襟元 上 (場所)
袖口の上を
- 5030 an-ebatchiure kane
アネバ燭チウレ カネ
我・頭にかぶる (程度)
頭にかぶせた。
- 5031 chiseta turesh
チセタ トウレ燕
家の 妹
家の妹は、
- 5032 kamui chikirbe
カムイ チキ燭ベ
神 刺繡衣
神の如き刺繡衣、
- 5033 hotke kosonte
ホ燭ケ コゾンテ
寝る 小袖
夜着の小袖の
- 5034 boro konniki
ボロ コンニキ
大きい 畳んだもの
畳んであるものを
- 5035 ukoamba kane
ウコア燭バ カネ
互いに抱む (程度)
取り出した。
- 5036 harkisotta
ハ燭キノ燭タ
左座に
そして、左座に
- 5037 pirika sotki
ピリカ ソ燭キ
よい 寝床
良い寝床を
- 5038 tomtekar wa
ト燭テカ燭 ワ
輝かす (接続)
美しく用意して、
- 5039 oro ta
オロ タ
場所 (場所)
そこに、
- 5040 nisorunsantaummat
ニソルンサンタウ燭マ燭
(人名)
ニソルンサンタウンマッ、
- 5041 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹を
- 5042 hotkere
ホ燭ケレ
寝かせる
寝かせた。
- 5043 shiso un kachenchai
シソ ウン カケンチャイ
右座 ある 掛け竿
右座の掛け竿の
- 5044 chorobok ta
チヨロボ燭 タ
下 (場所)
下で、
- 5045 chiseta turesh
チセタ トウレ燕
家の 妹
家の妹、
- 5046 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
我が妹は
- 5047 kani mukru
カニ ム燭ル
黄金 枕
金の枕、
- 5048 mukru kurkashi
ム燭ル ク燭カシ
枕 上
その枕を用意して
- 5049 ehotke
エホ燭ケ
寝る
横になった。
- 5050 a-obittano
ア・オビ燭タノ
我・全て
我らは一人残らず
- 5051 shinki ruiba p
シンキ ルイバ 燭
疲れる 激しい もの
ひどく疲れているもの
- 5052 a-nechi kusu
ア・ネチ クス
我ら・である (理由・目的)
であるから、
- 5053 inne utar
インネ ウタ燭
大勢である 人々
大勢で、
- 5054 etoro hawe
エトロ ハウエ
いびき 声
鼾をかく声が
- 5055 bebunitara
ベブニタラ
騒がしい
響く
- 5056 semkorachi
セ燭コラチ
かのような
かのようなである。
- 5057 a-yubutari newa
ア・ユブタリ ネワ
我・兄たち と
我が兄たちと
- 5058 a-tureshipo utar
ア・トゥレシボ ウタ燭
我・妹 人々
我が妹たちは、
- 5059 etoro tanne
エトロ タンネ
いびき 長い
鼾を長く
- 5060 shuipa kane
シュイパ カネ
揺らす (程度)
続けている。
- 5061 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤ燭カ
我 (繫辞類) (讓歩)
我も、
- 5062 tanebo konna
タネボ コンナ
今 こそ
今こそは、
- 5063 mokonno sotki
モコンノ ソ燭キ
よく眠る 寝床
寝床の
- 5064 upsoro
ウ燭ソロ
内部
中で、
- 5065 ratchi mokor
ラ燭チ モコ燭
穏やかな 眠る
穏やかな眠り、
- 5066 pirika mokoro
ピリカ モコロ
よい 眠る
良い眠りに
- 5067 i-annoyekara
イ・アンノイエカラ
我・からみつく
包まれた。
- 5068 ari bakno
アリ バ燭ノ
(引用) まで
ここまで。